

平成二十九年三月  
津山郷土博物館紀要第二十九号

文化二年（一八〇五）

津山松平藩町奉行日記 二十三

津山郷土博物館

津山松平藩町奉行日記 二十三



# 凡例

一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫から、「町奉行日記」文化二年正月〜十二月を収録した。  
一、本文の表現は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。

1 平出・欠字は、省略した。

2 漢字は、原則として常用漢字（人名用漢字を含む）に改めたが、他は正字体とした。

3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。

4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

てい 体 扣 ひかえ 暖 あつかう 歟 か 喧嘩 けんか 音物 いんぶつ 稠敷 ちゆうしき 又候 またさう 風 ふう 風 おろし 駢 せがれ 籠 そ 持 かせぐ 糶 こうし 綺 いろろ 与得 与とくと

5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）及び片仮名のニは、小活字で示した。

か（より）、メ（しめ）、ノ（して）、ㇿ（とも）は、例外として残した。

6 訂正・削除がある場合、消された文字の左側に見消記号（々）を付し、右側に訂正の文字を記した。

また、消された文字が不明の場合はその文字を■で示した。

7 虫損・破損などで読解できない文字は、字数を推定して「」で括り虫損・破損によらない場合は、右傍らに（不詳）と注記した。

8 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。

9 日記の天の小口には小見出しの付箋が貼られており、はがれて各丁の綴じ目に挟んでも多いが、元の場所に残っていない文字を記してあるものは、その箇所にも○として示した。

10 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。

一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま揚げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

一、本書の翻刻・編集は小島徹が担当した。



文化二乙 丑年

町奉行御用日記

五十八 江口勘太夫

(表紙)

文化二乙 丑年正月 戌寅 小

月番

御家老 安藤丹後殿

御年寄 大橋十大夫殿

大目附 黒田忠三郎

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

正月 丙戌 元旦 快晴

一 今朝五時前麻上下着用登城

一 御年限中<sub>ニ</sub>而<sub>茂</sub>御目見可被仰付候所御不例<sub>ニ</sub>付御目見不被仰付候

一 旨前以大目付より通用有之候旨類役分通達有之

一 類役一統御用所<sub>江</sub>罷出御家老中<sub>江</sub>左之通謁申上候

大守様益御機嫌能御超歳被遊恐悦奉存候年頭御祝義申上候旨

筆頭当役申上候御用番御家老中可申上旨御申畢<sub>而</sub>各様<sub>(平也)</sub>弥御勇

健御越年被成目出度奉存候旨申述候処御同意<sub>ニ</sub>て御挨拶有之

一 御用所退座懸ケ大目付所<sub>ニ</sub>而年頭之挨拶申述

一 御奏者番以下三奉行一同七間廊下<sub>ニ</sub>而<sub>御前様</sub><sub>(平也)</sub>江年始御祝義御小性

頭<sub>江</sub>謁申上候

一 今朝出仕前組之もの共一同罷出候<sub>ニ</sub>而年始之嘉儀申出候仍<sub>而</sub>熨斗

三方指出置小頭より一統及対謁

一 登城退出懸内山下辺廻勤

但御年限中<sub>ニ</sub>付草り取計<sub>ニ</sub>而組之者供<sub>ニ</sub>不及<sub>一</sub>兼<sub>而</sub>伺出候

<sub>ニ</sub>付申達置ケ

正月二日 快晴

一 今朝月番大年寄斎藤孫右衛門罷出町方御静謐之段申出承置

一 御用初<sub>ニ</sub>付麻上下着用四つ時登城

一 大目付分差図有之当役初勘定奉行郡代御藏奉行御金奉行一統御用

所<sub>江</sub>罷出御用初之御祝義申上候旨申述候処御家老中御同意目出度

旨御挨拶有之畢<sub>而</sub>御用番御年寄<sub>江</sub>町方御静謐之旨申述退座大目付

役所<sub>江</sub>茂御用初之御祝義申述候処夫々相応挨拶有之

一 西川永岡順左衛門大谷代藏今年始<sub>ニ</sub>付祝書到来則及返書

一 御藏米五拾式匁五分 町米四拾八匁五分

正月三日 雨

一 上紺屋町伊勢屋十藏組合共博奕一件<sub>ニ</sub>付手鎖追込申付置候処昨日

迄十日<sub>ニ</sub>相成候<sub>ニ</sub>付今朝手錠追込指免大年寄孫右衛門宅<sub>ニ</sub>而申渡

立合之面々左之通

小頭和右衛門 部屋目付栄治 出番幸治源藏

右申渡取計相濟候段届出候ニ付其段御用番十大夫殿大目付忠三郎江相届候

一伊勢屋十藏組合共へ十歳致出奔候ニ付百日尋申付置ク

一昨年中銭相場書大年寄今指出

一西今町松田屋佐助二ノ宮村儀兵衛江懸り大坂木屋与兵衛今旅籠代滞銀之義先達願「」出候ニ付長沢清左衛門今相廻候其節濟方可申付候所松田屋佐助義致他行及延引旧臘濟「」申付置候処右銀子兩役所江指出候ニ付今便兩役連名ニ而長沢清左衛門江相廻ス

(正月二日〜五日の見開きに挟み込まれていた紙)

一 大年寄札諸吟味御用達町人共中ノ口例席ニ而年始御祝義御奏者番江 謁申上候

一 町医師之面々虎之間御縁座敷ニ而御祝義御奏者番江 謁申上候  
都而 当役取計之侍座等先規之通

正月四日 晴風

一 明日五ツ半時御供揃ニ而深信院様泰安寺妙法寺 御参詣被仰出候段種村登門より申来候ニ付其段小頭并大年寄江申達ス

一 昨年中銭相場書大坂御代官重田又兵衛殿手代より取ニ来候ニ付則相場書添返書遣ス

一 院庄土橋昨夜出水ニ而相流候由尤未渡舟も難相成往来留り候旨郡

代所今申来其段大年寄江申達置ク

正月五日 晴

一 今五ツ時揃ニ而大年寄札元久山勘八諸吟味宮田喜左衛門謁候尤当番麻上下ニ而鬘斗三方持出之立合下役新左衛門小頭和右衛門

一 五半時御供揃ニ而深信院様御仏参被成御先弘藤四郎栄治差出無滞相濟候段届出

一 御用日ニ付登城着服裏付上下

一 先玉置源五兵衛江懸り堺町丸亀屋勘次義五ヶ年以前酉年銀札都合四貫五百匁跡もつれニ相成候ニ付勘次今及御箱訴候処右訴状は取揚不被成指戻候処右銀札四貫五百匁其節引もつれ上納及遲滞候ニ付惣油屋証文ニ而妹尾平兵衛致調達候尤惣油屋江者丸亀屋今家屋敷諸道具等書入証文取居候由ニ候得共右引もつれ之事故平兵衛江

返弁不相濟候而追々及出訴候得共彼是入組候義ニ付檉野屋茂市高雄屋藤介取嘍候得共全体大「」之銀札空物ニ相成候事故甚六ヶ敷毎々嘍破談ニおよび候処今般内済及熟談候旨大年寄より届出候ニ付右之段御用番十大夫殿江及御沙汰置候

正月六日 晴

一 今五ツ時揃ニ而年始并当役初ニ付御年限中昨年も相止居申候得共御蔵元初町役上席之もの町年寄初而謁尤鬘斗三方ハ脇付右畢而玄関ニ而人馬問屋敷台ニ而大保頭下座敷ニ而目明共謁候詰合之面々

下役新左衛門小頭和右衛門部屋目付藤四郎  
一 御蔵米五拾匁五分 町米四拾七匁五分

一 今昼後組中牢番三軒屋番并大年寄江為年礼罷越若堂和四郎罷出且

一 茂渡庄右衛門義年来出入之ものニ付為年礼罷越

一 先例之通今日より町廻り組之者指出

一 今昼後夕院庄川舟渡相始候段郡代より申来大年寄<sub>江</sub>申遣ス

一 盗人忠藏万吉盗取候品々町家引合之もの共右品々取揚郡代所<sub>江</sub>相廻候処右請取書今日相廻候

正月七日 昼後曇

一 坪井佐藤五兵衛今年始祝書指越即刻返書指遣ス

一 勝山藤付助右衛門榊原九郎左衛門今年始書状差越即時及返書

一 宮脇町広瀬屋安治義皿村滯銀之義ニ付添簡相願弓削役所<sub>江</sub>致出訴候然ル処内濟申付候由<sub>ニ</sub>而旧年向方今三人之もの共罷越正月廿日迄<sub>ニ</sub>濟方可致<sub>一</sub> 〔出ル

一 林田町門屋久右衛門義倅又七去ル十月相願候<sub>而</sub>栗田辰右衛門供<sub>ニ</sub>而大坂<sub>江</sub>罷越候処今朝罷帰候旨届書を以届出承置ク

一 明日<sub>著</sub>御仏參御延引被仰出候段中奥目付藤堂融四郎今申来夫々<sub>江</sub>申達ス

一 例年之通左義長之触書役指出大年寄<sub>江</sub>相達ス

正月八日 晴

一 御用日ニ付登城今日今平服

一 先達<sub>而</sub>指出置候西新町瓜生原屋新兵衛養子吉三郎行状書右行状書之通<sub>ニ</sub>而「<sub>一</sub>」之奇特もの<sub>ニ</sub>も無之候<sub>ニ</sub>付御褒美被下置候義如何之段被仰出候<sub>ニ</sub>付追々行状相札候<sub>而</sub>可申上候間以後弥奇特之義も相募候ハ、其節御賞被成下候様申上候<sub>而</sub>右行状書差戻置ク以来弥町役組合共心付候様大年寄<sub>江</sub>申達置ク

一 元魚町豊嶋屋伝治義所持之旅人宿屋株当丑年<sub>ケ</sub>年之間林田町福

吉屋安<sub>一</sub>」方へ預ケ申度左候得<sub>著</sub>当年中当人方<sub>ニ</sub>而宿商売不仕候段願書指出承届

一 堺町針屋惣十郎義昨七日之夜七つ時分横丁路次戸を打破盗賊入込売酒銀札百匁計<sub>一</sub>」拾壹余代<sub>ニ</sub>して八拾匁余右品被盜取候段届出候<sub>ニ</sub>付右之段<sub>一</sub>」届指合触流之義申<sub>一</sub>候処大目付<sub>江</sub>右触流指出候様被相達候 同廿一日無之旨申出

一 来十四日梅香院様五十回御忌<sub>ニ</sub>付十三日晚今十四日泰安寺<sub>ニ</sub>而御法事御執行被遊候段大目付より廻状到来例之通組中牢屋三軒屋番へ触相届尤町触も指出町々自分番指出可申亦十四日左義長難義申間敷夫々触書町中<sub>江</sub>相触候様大年寄相達ス

一 祇園三位御札例年之通指上度藏合孫左衛門今申出候<sub>ニ</sub>付大目付<sub>江</sub>申達ス

一 梅香院様御年回<sub>ニ</sub>付座頭共<sub>江</sub>御布施被下之配當場より願出候<sub>ニ</sub>付今日御用番中<sub>江</sub>申上置ク尤先年御儉約中<sub>ニ</sub>茂座頭共へ被下有之候段御噂申上置ク

正月九日 雪折々

一 玉置源五兵衛妻義出産男子出生仍<sub>而</sub>血忌七日引込之段月番大年寄今相届候

一 牢舎<sub>(ツ・ヤ・寄)</sub> 義不快<sub>ニ</sub>付医師之義牢番より申出中村益庵<sub>江</sub>申付候処難捨置様躰<sub>ニ</sub>付薬指遣候旨届出候段大年寄今相届

正月十日 晴

一 山本三右衛門娘今曉致病死候尤七歳未滿<sub>ニ</sub>付今日今三日遠慮引込

候旨大年寄分相届

一本郷村嘉惣治出牢帰村申付候間立合指出候様郡代より申来栄治罷  
出出牢取計候段届出ル

正月十一日 快晴

一御用日ニ付登城

一来十四日梅香院様御法事ニ付座頭警女<sub>江</sub>御布施被下之義伺之通被  
下置候□御用番十大夫殿今申来候ニ付其段大年寄<sub>江</sub>申達ス

一惣舟持共五拾四人拜借年賦元銀札壹貫八拾匁但壹艘ニ付式拾匁つ  
、去ル未歳拜借候位去子ノ暮迄上納相济候ニ付又々前之通拜借被  
仰付被下候様願書指出勘定奉行<sub>江</sub>引合御用所<sub>江</sub>指出候処伺之通御  
触届相济其段大年寄<sub>江</sub>申達ス

一東新町久野屋吉兵衛義昨九日夜表戸口押明盜賊入込品数拾三被盜  
取候段□書を以届出候ニ付御用所<sub>江</sub>触流申上候処大目付今町触取  
計候様被申聴則町触指出同廿三日無之段届出ル

一来十四日御法事ニ付御機嫌伺有之候間麻上下着用四つ時罷出候様  
大目付忠三郎より被申聴其段類役<sub>江</sub>茂及通用

正月十二日 快晴

一今日無別条之

正月十三日 晴

一深信院様明十四日九つ時御供揃<sub>ニ</sub>而泰安寺<sub>江</sub>御參詣被仰出候旨種  
村登門今通用有之其段夫々<sub>江</sub>申達ス

正月十四日 曇

一御法事ニ付四つ時麻上下着用登城例之通御奏者番以下一統七間廊

下<sub>ニ</sub>而御機嫌伺御小性頭<sub>江</sub>謁申上候

一御法事詰出番栄治藤四郎罷出御法事相济候<sub>而</sub>引取候段相届  
一九つ時深信院様御仏參ニ付御先弘文蔵和四郎罷出候処無滞相济候  
旨届出ル

一配當場御布施被下銀札五百匁請取証文指出奥印例之通取計指遣ス  
一配當場喜美分御布施被下候ニ付請取書指出御用所<sub>江</sub>指出

正月十五日 快晴

一御用日ニ付登城麻上下着用  
一当日御祝義例之通七間廊下<sub>ニ</sub>而御奏者番以下一統御小性頭<sub>江</sub>謁申  
上候

一西今町松田屋佐助二ノ宮村儀兵衛<sub>江</sub>懸り旅籠代滞銀之義大坂木屋  
与兵衛今願書指出候ニ付旧臘濟方申付候処右銀子両役所<sub>江</sub>相納候  
ニ付早春御便之節長沢清左衛門<sub>江</sub>相廻候処受取与兵衛<sub>江</sub>相渡候旨  
返書来并与兵衛請取書市郷兩人今入置候証文差戻候ニ付御用所<sub>江</sub>  
指出□一件相济候旨申上候

一牢舎栄蔵病氣ニ付中村益庵療治申付置候処快方ニ付休葉為致候旨  
牢番并大年寄分も相届

一大年寄孫右衛門罷出勝間田町佐伯屋八十次居宅裏<sub>ニ</sub>少シ之建物有  
之候処今昼後灰より火付候間少々煙立候得共早速消留候旨届出候  
ニ付御用所大目付<sub>江</sub>茂及御沙汰尤為指義<sub>ニ</sub>も無之早速家内<sub>ニ</sub>て消  
留候<sub>ニ</sub>付答等<sub>ニ</sub>者及不申候段申述

一西今町塩屋庄助義二階町山手屋和兵衛所持之他国受酒株去申正月  
相願借□候処「」当丑正月分来午ノ正月迄丸五ヶ年之間借請商売

仕度旨願書指出承届

正月十六日 小雨夜雪少

一五ツ時登城麻上下着用

一御具足御祝ニ付七間廊下ニ而御奏者番以下一統罷出御小頭(程六分)江御祝

儀謁申上候

一焼火之間ニ群居竹之間ニ而席順罷出御餅頂戴御使番中奥目付等指  
図有之

一右頂戴御札猶亦七間廊下ニ而御小性頭江御札謁申上候

一御奏者番江悴頂戴之御札申上候

一林田村善八後家被盜もの着物三品外ニ銀札拾五匁小札式匁錢六分  
六厘着物三品代として四拾七匁位

一同村伝助被盜もの着物三品腰指老腰代ニノ百匁位

一同村喜平次被盜もの腰指老腰代ニして式拾匁位銀札拾四五匁位

右三ヶ所共去ル六日夕盗人入込被盜取候ニ付例之通触流取計  
候様大目付中被申聽候ニ付町触指出 同廿五日無之段申出候

正月十七日 風

一明十八日植月鳥羽野ニ而富興行有之候ニ付目明指出候様小頭江申  
付尤郡代よりも同様指出

正月十八日

(マ・マ・天候記載無し)

一今日自分具足祝ニ付組之もの共五ツ時呼出右祝ひ具足餅遣畢ニ而  
役後未盃事不致候ニ付組中牢番三軒屋番不殘盃遣ヌ尤御年限中無  
之先例ニ候得共初ニ而付右之通取計

一御用日ニ付登城

一明日御仏參御延引被仰出候旨中奥目付寛良助申聽小頭并大年寄江  
申達ス

一久世御廻米積切ニ相成候旨今津屋より届出ル

一御手廻り被召抱候ニ付町触指出候様大目付中被申聽仍ニ而望之もの  
も有之候ハ、来「」迄中間小頭江申出候様町触指出

一林田町山形屋六治郎義借屋ニ居申候小嶋屋勇吉義妻子共去ル五日  
不斗行方相知不申所々相尋候得共一向不申候ニ付届出候ニ付例之  
通百日尋申付

一去子年中人別増減左之通書付指出

一他所引越百五拾人 内男七拾壹人女七拾九人

一出生百七拾四人 内男子八拾五人女子八拾九人

一他所引越百三拾壹人 内男八拾六人女四拾五人

一死疾百八拾五人 内男九拾八人女八拾七人

差引八人増

一四拾五人去々亥年産残 一式百人懷妊

マ式百四拾五人

内百七拾四人生 一人無離牀病死 残ニ而七拾人産残り

右之通ニ御座候以上 月日

右書付指出候ニ付人別出入并出生死疾差引書ニ相認郡代申談候

而御用所江指出

正月十九日

(マ・マ・天候記載無し)

一鉄砲町広原分紺屋左七下人新七と申もの所々ニ而盜相働候由ニ付  
召捕候旨目明孫兵衛申出候尤紺屋よりは暇指遣し候旨新七請人は

八出ニ鉄砂流稼候独身もの、由ニ付鉄方引請伏見屋茂七野田屋引請ものニ付彼等兩人江預置今日其段取計候様大年寄申達ス右新七義は□□□非人共預置

正月廿日

(イ・イ・天候記載無シ)

一目明孫兵衛召出候而大信寺弟子右新七引合之ものニ付召捕置候如何可仕哉之段申出候依之出番壱人目明指添候而大信寺江指戻右引合之ものニ候間預ケ置候旨口上ニ而申遣候処与耽御預申候段返答申越尤右之段社取次三浦十郎左衛門江茂及通用

一鍛冶町鍛冶長八後家組合共今届書指出候趣左之通

一鍛冶長八後家はる当丑六拾式才一昨夜与風罷出候ニ付所々相尋候得共相知不申然ル処八出村河中ニ溺死仕流懸り居申候ニ付其段相届候旨届書指出

付其段相届候旨届書指出

一右ニ付郡代所支配場所ニ付申談之上立合見分指出尤右届書を以御用番并大目付江申遣立合見分指出候段相届

正月廿一日 晴

一御用日ニ付登城

一昨夜及深更流死見分部屋目付藤四郎罷帰見分一札并取捨願書等持參指出右両通共御用番十大夫殿江指出取捨之義相伺候処何之通被仰出其段大年寄江申達ス

一久世村原方和助西今町永田屋喜七出入一件大村屋源右衛門種屋伊助取嘍ニて内濟熟談仕候旨届書指出候ニ付御用番十大夫殿江相伺候処承届候様被仰渡候ニ付明四ツ時右之ものとも指出候様大年寄

江申達ス

一鍛冶長八後家死骸取片付之義村方申談候而愛染寺送り引導を以八出村字「」与申処ニ取葬相濟候段大年寄今相届候

正月廿二日 晴

一今四ツ時左之もの共呼出一心相糺候而内濟願出候趣承届候段申付ル尤久世手代江返書指遣候間持參候様和助申付并西今町年寄江永田屋預居申候道具江封印申付置候処今般右一件及内濟候ニ付開封申付ル

訴訟人

久世村原方

和助

相手方

西今町

永田屋喜七

取嘍人

京町

大村屋源右衛門

東新町

種屋伊助

右立合之面々左之通

下役新右衛門 小頭和右衛門 部屋目付栄治 出番庄藏源藏

大年寄孫右衛門 諸吟味喜左衛門

一目明孫兵衛召捕候盗人広原分紺屋佐助下人ニ付郡代所江引渡可申兼而申談候処請取可申ニ付組之者兩人目明壱人指添郡代江相渡

一右盗人請人林兵衛と申者鉄砂流ニ付右懸り野田屋六大夫伏見屋茂七江相預置候然ル処鉄砲町使組福井小左衛門長屋住ニ付同人方江引渡候様勘定奉行今申聴候ニ付右小左衛門江引渡候旨大年寄今届出候

一今朝郡代江引渡候盗人新七入牢申付候間立合指出候様十郎左衛門今申来庄藏罷出入牢取計候旨届出尤郡代入牢手形相廻候ニ付認替指遣ス且入牢申付候ニ付請として牢番罷出

一 盗人新七所持之品目明孫兵衛方ニ有之候間指出候様可申付旨郡代より申越候ニ付則孫兵衛申付指出候段相届ル

一 堺町三津屋久兵衛義当月十四日之夕新魚町風呂屋伊助宅ニ紙入沓つ被盜取内ニ左之品有之候旨届出承置ク

一 銀札拾貳匁 一 小札貳匁計 一 小書付類

一 西今町岩本屋多吉義去ル十一月廿三日朝家内近辺ニ罷出帰り見候処こりニ入置候紙入沓つ致失紛候段尤内ニ左之品有之候旨届出承置ク

一 紙入表小倉裏共

但内ニ銀札拾匁計さすか沓本千まい通し沓本ごろ半多り

沓つ

一 坪井町岡本屋七郎兵衛義去子十一月十五日之夕福渡町重助方へ風呂ニ入居申候紙入之内ニ入置候銀札百拾四匁計并さすか沓本紛失仕候ニ付色々相尋候得共相知不申右彼是仕候ニ届ニ延引候「」届出承置ク

一 橋本町作人ニ蔵義去子十二月十日頃土蔵ニ長持入置候処当月廿日入用もの有之ニ土蔵ニ取ニ参り候処所持拾九品代ニして貳百五拾五匁位之品被盜取候段届出候ニ付御用番中ニ指出候処大目付分例之通触流取計候様被申達町触指出 二月六日無之段申出

正月廿三日 晴風

一 新職人町松野屋重右衛門義備中郡都早嶋金田屋伝藏手代栄八(字次)申もの沓人例年之通雲斎紋羽足袋卸売ニ昨日参り候ニ付逗留為仕度宿切手指出十二月廿一日帰届

正月廿四日 快晴

一 坪井町浜屋源右衛門義妹継去子年三月御領分和田村伊伝治悻伊八郎妻ニ指遣置候処此度離縁仕罷帰候ニ付町内人別差加へ候様願書指出承届

一 堺町大花屋松之介義備前津高郡江与味村七三郎娘とよ当丑三十四才同人子直藏五才此度私悻妻子ニ引請申度尤向方旦那寺村役人別昏指越候旨願書指出伺之上聞届申達ス

一 堺町和泉屋三郎助義土井大炊頭殿御領分当国之内下弓削村河原猪右衛門娘から当丑廿四才此度妻ニ引請申度住宅之義願書尤向方旦那寺村役人より別昏指越候旨願書指出伺之上聞届申達ス

一 三丁目備前屋加兵衛義脇坂中務大輔殿御預り所福渡村義左衛門娘ふき当丑貳拾三才此度借屋ニ居申候常屋直吉妻ニ引請申度住宅之義願書尤向方旦那寺村役人別昏指越候旨願書指出伺之上聞届申達ス 同廿八日住宅証文指出ス

一 新魚町森本屋新吉義役介こと義当丑三十三才此度備前岡山西大寺町ときや藤助妻ニ差遣度人別離れ願書指出伺之上聞届申達ス

一 右町同竹島屋豊五郎義借屋ニ居申候魚屋五百介義売溜銀札有之候処去四日之夕銀札三拾貳匁三分紛失仕候旨辺々致吟味候得共無之猶亦其後も、引沓つ紛失仕候ニ付弥盜被取候ニ相違無之候段届書を以届出候ニ付承置ク

一 昨年大工一件之節職留申付置候左之もの共外商売得不仕候而甚難洪ニ付何卒職留御免御座候様町棟梁分願書指出御用所江相伺置 二月朔日御聴届相済

中之町 大工 新兵衛

材木町 同 喜兵衛

同 同 彦右衛門

同 同 惣兵衛

細工町 同 新六

正月廿七日 雨

一 福渡町森原屋卯兵衛義悻重吉当丑廿四才此もの兼而不所存ものニ

而親類組合異見を加候得共相用不申其上去ル廿二日之夕宿出いた

し所々相尋候得共相知不申右躰不所存ものニ候ニ付義絶勘当仕度

旨親類并組合連印ニ願書指出伺之上聞届申達ス

右親類安岡町洪屋茂吉 桶屋町平吉

一 坪井町福吉屋吉之介所持之家屋敷表口六間裏行拾七間御役老軒半

役右之家屋敷此度相談之上代銀札壹貫八百匁ニ相極町内畑屋弁藏

へ壳渡申度願書指出承届 二月七日壹券出

一 西今町中屋右衛門義同町小島屋孫市所持之他国受酒株去ル亥年閏

正月相願当丑正月迄借請商売仕罷在候処猶亦当丑ノ二月分来ル卯

正月迄借請商売仕度願書指出承届

一 戸川町浜屋源五郎家守藤木良全義此度妻召連候而京都猪熊通り仏

光寺上ル処法橋場杉玄堂老方江罷越医学修行仕度当丑二月十一日

出立来ル巳ノ年迄五ヶ年之間逗留仕罷帰申度願書指出承届 文化

六己年十二月今五ヶ年願次差出ス

一 堺町三津屋平右衛門義所持之他国受酒株去ル子三月相願元魚町吉

屋口蔵方へ貸置候処相方口付取戻申度以後吉屋方ニ商売不仕

候旨届書を以届口承置

正月廿八日 雨

一 御用日ニ付登城麻上下着用

一 大村屋源右衛門種屋伊助義久世村口助永田屋喜七懸り合一件取暖

出情ニ付内濟致熟談候仍而源右衛門江銀札拾五匁伊助江同七匁五

一 鍛冶町鍛冶長八後家先頃溺死仕候旨取計万端相済候然ル処独身も

のニて親類も無之仍而鍛冶新右衛門元夫長八師家ニ付万端迄迄新

右衛門世話致居候ニ付右家屋敷家財不残引請追々人物相糺養子取

計家名相続為仕度組合共願書指出承届

一 組勇藏義妻夜前出産女子出生之旨小頭分届出候ニ付血忌引込中助

之義并例之通出産御手当之義大目付忠三郎江申達置ク廿五日之分

正月廿五日 快晴

一 勝間田町海田屋かね義去廿三日之夕居宅裏戸口開キ盗人入込追散

候得共手箱ニ有之候銀札六匁取帰り候旨届出及御沙汰置

正月廿六日 快晴

一 牢舎盗人嘉兵衛吉之介久米藏呼出吟味ニ付立合願出候様郡代より

申来候ニ付申達源藏罷出候而出入取計候旨届出ル

一 今日使組分助として寺坂兵治罷出候ニ付申合相勤候様当番江申達

置ク

一 大坂淀屋橋筋梶木町河内屋甚七与申者忝人刃々壳ニ罷越候ニ付逗

留為仕度旨中之町甲屋幸助宿切手指出 二月十日帰御届

一 勸農所之もの怪我いたし候ニ付跡見春鷗へ療治申付度旨三浦子分

申来則大年寄へ申付勸農所へ同人罷越候様申達置

分差遣申度且亦並屋右兵衛播磨屋惣十郎へ内分取暖出情<sup>(マツ)</sup>付賞申  
渡度大年寄<sup>ニ</sup>申出候<sup>ニ</sup>付勝手次第取計可申段申達候<sup>ニ</sup>今日申渡候  
旨相届

一 上田邑村北三四郎被盜もの拾式品代<sup>ニ</sup>ノ五拾九匁八分外<sup>ニ</sup>銀札拾  
四匁例之通觸渡取計可申段大目付中<sup>ニ</sup>申立則町触指出二月六日無  
之段申出

一 元魚町吉野屋喜兵衛義中ノ町玉置卯左衛門所持之他国受酒株当丑  
ノ二月分来ル辰ノ正月迄丸三ヶ年之間借受商売仕度願書指出承届  
一 大村屋源右衛門義先年掛米買入方被仰付候<sup>而</sup>勘定所<sup>ノ</sup>元入銀拜借  
仕度候<sup>ニ</sup>右榎売<sup>等</sup>彼是損失<sup>ニ</sup>相成右拜借銀及遲滞候然ル<sup>ニ</sup>今般  
数納<sup>(マツ)</sup>も被仰付候ハ、年々急度相納可申旨<sup>ニ</sup>付右歎書指出勘定奉  
行<sup>江</sup>申談候<sup>ニ</sup>歎書之通可被仰付旨後年無遲滞相納尤宮田喜左衛門  
よりも万一当人及遲滞候ハ、弁相納可申様取計呉候様申度<sup>ニ</sup>付大  
年寄場より為申達置候<sup>ニ</sup>尤榎野屋吉田屋引請候<sup>ニ</sup>付加判致候旨申出  
當時上納殘四貫五百匁此度六百匁相納殘<sup>而</sup>三貫九百匁<sup>ケ</sup>年三百  
匁ツ、数納<sup>(マツ)</sup>聽届相濟証文指出候様申達置<sup>ケ</sup>

一 公儀より分銅後藤之外不相用候様御触有之候旨市郷可相触旨大目  
付忠三郎<sup>ノ</sup>御書付被相渡候<sup>ニ</sup>付町触指出郡代<sup>江茂</sup>及通用

正月廿九日 晴

一 堺町佐伯屋藤兵衛後家借屋もの久仁屋儀兵衛役介宗治郎<sup>与</sup>申者三  
ヶ年以前大橋十太夫殿<sup>江</sup>住込奉公<sup>ニ</sup>罷出候<sup>ニ</sup>此度暇出候<sup>ニ</sup>付町内  
人別人願書指出承届

一 東新町岩屋文藏居宅裏堀<sup>ニ</sup>式間階子差懸有之致吟味候<sup>ニ</sup>紛失もの

は無之候旨届出候段大年寄<sup>ノ</sup>申出承置<sup>ケ</sup>

一 小性町芦田屋佐助義郡代下代木村伝平妹りへ当丑廿才此度悴儀  
三郎妻<sup>ニ</sup>引請申度人別人願書指出承置

一 新魚町塩田屋伊三郎妻子八月分懐胎之旨相届候<sup>ニ</sup>六月キ振<sup>而</sup>出  
産<sup>ニ</sup>付月取間違候段例之通大年寄場<sup>ニ</sup>而叱申渡候旨相届

一 右同町丸龜屋龜吉下女去暮懐胎月取間違候段届出有之<sup>ニ</sup>是又先日  
出産<sup>ニ</sup>付同様叱申渡候段大年寄<sup>ノ</sup>相届

一 山本三郎左衛門<sup>ノ</sup>要<sup>□</sup>付大坂大川町和泉屋六兵衛方へ罷越申度  
御許容被成下候<sup>ハ</sup>、来二月罷立往来日数三十日計逗留仕度願書指  
出候<sup>ニ</sup>上承届申達<sup>ス</sup>

二月<sup>己</sup> 卯大

御家老 山田主膳殿

御年寄 大熊鞠負殿

大目付 赤見類助

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

二月<sup>乙</sup> 卯旦

一 御用日<sup>ニ</sup>付登城

一 七間廊下<sup>ニ</sup>而当日御祝儀御奏者番以下例之通御小性頭<sup>江</sup>謁申上ル

一先達<sup>而</sup>町方御仕置条目今般致改正相伺置候処伺之通宜取計候様鞞負殿被仰渡

一町棟梁兩人<sup>今</sup>昨年大工一件<sup>ニ</sup>付職留大工五人<sup>之</sup>もの共御免被成下候様歎書指出候処今日御聽届相濟候<sup>ニ</sup>付町役組合町棟梁差添候<sup>而</sup>職留五人<sup>之</sup>もの共明日四つ時罷出候様大年寄へ申達ス

一生野御代官布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏より去年中錢相場書相廻呉様申来候<sup>ニ</sup>付例之通書役相認させ候<sup>而</sup>返書指遣ス

一齋藤孫右衛門義館座明和八卯年<sup>今</sup>元魚町玉島屋音右衛門店<sup>ニ</sup>而商売仕候処今度勝手<sup>ニ</sup>付当月<sup>今</sup>三町目南屋和兵衛店<sup>ニ</sup>而商売仕度旨願書指出承届

(42)

二月二日

(マ・マ・天候記載)

一牢舎人四人<sup>之</sup>もの共呼出候間立合指出候様郡代より申来庄藏罷出出入取計候旨相届

一戸川町作人喜作義立願<sup>ニ</sup>付高野山<sup>江</sup>来十一日出立往来廿日計之逗留<sup>ニ</sup>て罷帰申度旨願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出同廿六日帰ル届

二月三日 快晴

一牢舎盗人<sup>口</sup>之介新<sup>口</sup>呼出吟味致候<sup>ニ</sup>付立合指出候様郡代より申来候<sup>而</sup>源藏罷出出入取計候段届出

一盗人久米藏嘉平兩人<sup>之</sup>口書郡代所<sup>今</sup>相廻候間町方引合<sup>之</sup>もの共有之候<sup>ニ</sup>付相札候<sup>而</sup>口書指出候様大年寄<sup>江</sup>申達置ク

一桶屋町清水友三後家家守菊屋和兵衛義役介庄吉義当丑十八才<sup>ニ</sup>罷

成候此度御廨中間<sup>ニ</sup>住込<sup>ニ</sup>而町内人別離願書指出北島唯七<sup>江</sup>引合之上聽届申達ス

一中ノ町福茂屋武兵衛義五<sup>ヶ</sup>年以前相願橋本町塚角屋新八所持之旅籠屋株借受候処、尚亦当年より来ル已ノ歳まで五<sup>ヶ</sup>年之間借受渡世仕度願書指出承届

一大村屋源右衛門義新代上納相滞候<sup>ニ</sup>付今般<sup>マ</sup>數納<sup>マ</sup>ニ相願候処其通<sup>ニ</sup>相成候右証文如例檉野屋茂一郎吉田屋喜八郎奥印宮田喜左衛門<sup>ニ</sup>而指出勘定奉行<sup>江</sup>相廻ス

一伏見町小田屋伊平次義商用<sup>ニ</sup>付大坂大川町和泉屋六兵衛方<sup>江</sup>罷越申度往来三十日計逗留仕度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出

二月四日 晴

一揚屋扶持四<sup>ヶ</sup>月仕切証文銀札三百拾六匁五分三厘五毛<sup>并</sup>牢舎扶持米拾壹俵<sup>斗</sup>式升証文例之通小頭<sup>今</sup>指出奥印取計指遣

一明後六日五つ時条目中渡候間町々年寄不殘指出候様大年寄<sup>江</sup>差替指出尤例格之通大年寄不殘立合候様申達ス

二月五日 曇夜中雨

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一宮脇町広瀬屋安治義旧冬相願候貸付銀滞之義<sup>ニ</sup>付弓削役所<sup>江</sup>添簡を以致出訴候処其節相手方不殘呼出吟味候処相違之義も無之<sup>ニ</sup>付内濟熟談致候様申付候旨申来右安治義罷帰申候処其後内濟嚶正月

中濟方可有之候処先月中<sup>ニ</sup>も相濟不申尚亦懸合候得共不埒之挨拶共<sup>ニ</sup>付難捨置候<sup>ニ</sup>付再訴仕度猶又添翰之義願出候<sup>ニ</sup>付右願書并添簡下案共相伺候処伺之通取計候様被仰出其段承届候旨達ス尤添簡

相認させ大年寄<sup>江</sup>相渡ス

一京町大村屋源右衛門義持三津屋平右衛門所持之他国受酒株当二月  
月分來寅十二月迄借受商売仕度願書指出承届

一東新町玉屋伊右衛門義所持之自国受酒株去子十二月分当丑六月迄  
京町大村屋源右衛門へ貸置候処此度双方勝手ニ付取戻申度願書指  
出承届

一小座村下分榮治被盜物メ六品并同村庄八被盜物メ七品去ル正月廿  
二日夕被盜取「」觸流指出候様大目付中被申聽例之通町觸指出

一草加部村弥四郎被盜ものメ四品代四拾壹分四厘届<sup>者</sup>去月廿三日玉  
林天太郎戸口ニて馬つなきくらニ付置候処被盜取候由例之通町觸  
指出

一今日雨天ニ付明日条目申渡延引之旨大年寄<sup>江</sup>申達ス

二月六日 快晴昼後風

一宮脇町広瀬屋安治義弓削役所<sup>江</sup>添簡を以出訴今日出立候段大年寄  
分相届

一因州鳥取鹿野海道橋詰円城院弟子休意<sup>与</sup>申僧大庭郡久世村<sup>ニ</sup>而病  
氣付歩行不相叶送り來候ニ付村継承届候旨郡代より申來大年寄<sup>江</sup>  
達置候処昨夜及深更送り來候ニ付例之通取計候段相届

二月七日 晴

一明八日御仏參御延引被仰出候旨中興目付出九太夫分申來夫々<sup>江</sup>申  
達ス

一新魚町野田屋孫三郎義借屋<sup>ニ</sup>居申候三つ巴初五郎去ル戊七月於祝  
河原博奕參会之場分出奔仕行衛相知不申同月六日百日尋<sup>ニ</sup>而方々

相尋候得共行衛相知不申其後離帳<sup>ニ</sup>相成候処昨六日夕右初五郎不  
斗罷帰先非悔恐入候旨届出候ニ付組合預ケ申付置候段右届書を以  
相届ル

一茅町岡島屋茂兵衛義持分家屋敷表口式間半裏行六間御役三步右屋  
敷南詰<sup>ニ</sup>而東西式間半南北式間四尺御役壹歩付代銀札四拾匁<sup>ニ</sup>相  
極安岡町大坂屋鉄五郎<sup>江</sup>売渡申度願書指出承届二月十五日売券状  
出

一坪井町ひの屋五助義兄日野屋久五郎京都祇園南町罷在候処用事御  
座候間先月中旬罷越早速用事相済罷帰可申処以今用事相済不申候  
ニ付八十日計滞留為仕度尤是迄逗留相願不申恐入候旨願書指出候  
ニ付届延引之段叱置候<sup>而</sup>願書承届

二月八日 天氣

一御用日ニ付登城

一新魚町野田屋孫三郎届出候三巴初五郎罷帰候段今日届書を以御用  
所<sup>江</sup>申上候処宜取計候様被仰出候ニ付明五つ時町役元組合召連罷  
出候様大年寄<sup>江</sup>申達ス

一明九日五つ時条目申渡候間先日申達置候通取計候旨大年寄<sup>江</sup>申達  
ス尤立合之面々<sup>江</sup>も夫々申達ス

二月九日 昼後雪

一惣町年寄不殘大年寄召連罷出候ニ付今般改正之条目申渡候旨申達  
書役「」之

立合之面々左之通

下役新左衛門 小頭和太郎 部屋目付榮助 出番源藏和四郎

大年寄不残 諸吟味

一 白砂<sup>江</sup> 蕙甘指程敷之候間旁以右 所<sup>江</sup> 年寄共不残指出相揃候上<sup>ニ</sup>

而 召出候 而 今般相改候条目申渡候旨申渡候 而 書役読渡之畢 而 裏隠

居之もの共も可申渡旨申達別段<sup>ニ</sup> 町々不正之商内又は無家業之も

の等へは町役組合兼 而 相調可申出追 而 相糺候義も可有之候間其旨

可相心得旨申渡ス

一新魚町三巴初五郎義呼出一応相糺候処四ヶ年以前戌年視河原<sup>ニ</sup> 而

博奕参会之帰所より逃去候旨及白状候<sup>ニ</sup> 付手鎖差組合預ケ申付置

ク

一 □□村穢多清兵衛出牢申付候<sup>ニ</sup> 付右手形郡代より相廻例之通認置

源藏立合罷出

一 牢舎盗人嘉平吉之助久米蔵呼出候間立合指出候様申来源藏出牢立

合相勤和四郎入牢立合罷出

一 牢番清右衛門今日出牢申付候<sup>ニ</sup> 付為請罷出ル

一 林田町上田屋久平義心願<sup>ニ</sup> 付伊勢大神宮へ参詣仕度往来三十日逗

留<sup>ニ</sup> 而 十日出立仕度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出二月廿

七日帰ル届

二月十日 晴

一 橋本町山形屋喜八義用事有之大坂大川町和泉屋六郎兵衛方<sup>江</sup> 罷越

申度明十一日出立廿五日計逗留仕度留主中林田町年寄<sup>江</sup> 相願置候

旨願書指出承届二月廿七日帰届

二月十一日 晴

一 御用日<sup>ニ</sup> 付登城

一 吹屋町吹屋和兵衛義三浦志摩守殿御領分当国之内下方村六右衛門

俸卯之介当丑三拾九才此もの役介<sup>ニ</sup> 引請申度住宅之義願出尤向方

村役人別昏相越候 而 願出伺之上聞届申達ス

一 安岡町三倉屋平兵衛義所持之家屋敷表口五間裏行十七間御役壹軒

役右家屋敷同町久米や弥市取次<sup>ニ</sup> 而 質物<sup>ニ</sup> 書入銀札貳貫百匁借請

十月切利足壹ヶ月壹歩半<sup>ニ</sup> 相極借用申度願書指出承届同廿九日質

入証文出ス 文化七<sup>庚</sup> 午 六月二日元利返済いたし候段届出ル

一 吹屋町河元屋清七義役介三之介当丑廿三才此もの往来中間<sup>ニ</sup> 被召

抱候<sup>ニ</sup> 付町内人別差除候様願書指出承届

一 桶屋町吉田屋平助義役介喜兵衛当丑四十五才然ル処当月二日不斗

罷出候<sup>ニ</sup> 付所々相尋候得共相知れ不申候<sup>ニ</sup> 付出奔之旨届書を以届

出候<sup>ニ</sup> 付例之通百日尋申付候

二月十二日 朝曇昼晴

一 三巴初五郎呼出同町年寄家主組合猶亦一応相糺口書読聞七候処相

違無之候旨<sup>ニ</sup> 付当人并町役組合印形為致畢 而 入牢申付候

右立合之面々左之通

下役新右衛門 小頭和右衛門 部屋目付藤四郎 出番茶治源藏

大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

右入牢申付候段御用番中并大目付<sup>江</sup> 相届候

一 備前邑久郡牛窓大工五郎左衛門六兵衛喜左衛門半兵衛善介小作以

上六人昨日参り候<sup>ニ</sup> 付逗留為仕度新職人町松野屋七右衛門宿切手

指出又同十二月廿一日帰ル

一 西今町永田屋喜兵衛義買用<sup>ニ</sup> 而 大坂淀屋橋筋大河町綿屋儀兵衛方

へ罷越申度往来廿日計逗留仕度尤来十四日出立仕候旨願書指出大  
年寄承届候旨当人願書指出ス同廿八日帰ル届

一備前岡山小畑町鼠屋甚八悴清兵衛手代文十郎与申者例年之通元結  
卸売ニ昨日参り候仍而逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手  
指出十二月廿八日帰ル届

一西今町永田屋喜兵衛義買用ニ而大坂淀屋橋筋大河町綿屋喜兵衛方  
へ罷越申度往来廿日計逗留来ル十四日出立仕度願書大年寄承届候  
旨当人願書指出二月廿八日帰ル

一備前岡山小畑町鼠屋甚八悴清兵衛手代文十郎与申者式人例年之通  
元結卸売ニ昨日参候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋重右衛門宿切  
手指出ス

二月十三日 晴

一牢舎三巴初五郎義口書取極候ニ付御裁許書指添候而鞞負殿へ指出  
ス尤御裁許出牢帰町夫役五十日被仰付可然旨伺書指出ス

一御蔵米貳百五拾俵 落札 瓜生原屋平吉  
代正銀五拾壹匁三分 町米准之

一細工町作人和助義伴登平次当丑廿三才去ル亥年往来中間ニ被召抱  
候処病身ニ而番代相願和助方へ引請候仍之町内人別ニ差加候様願  
書指出承届

一西今町野々口屋七郎右衛門義伴八重郎撰州能勢妙沙見宮へ明後十  
四日出立日数廿日計逗留為仕度願書指出承届同廿六日帰ル

一福渡町阿賀屋助五郎家守万五郎借屋ニ居申候藤十郎当丑八十才  
此もの近来手足不叶候而是迄者彼是取統候得共最早渴命ニ及候ニ

付何卒孤独扶持被下置候様家守組合一同願書指出何之上聽届申達  
ス

二月十四日 晴

一組之者勇藏義先達而妻縁仕候処不縁ニ而此度離縁仕候段小頭分相  
届承置ク

一旧年馬持共年賦拜借之義相願候旨御聽濟証文指出候処来暮分可相  
納善之処子暮より返納可仕旨書損ニ有之候得共何方ニも不心付  
候ニ付証文仕替勘定奉行江指出申談候而是迄指出有之候証文江張  
紙致候而可然旨申談其段相達ス

二月十五日 晴風

一御用日ニ付登城

一当日御祝義例之通七間廊下ニ而御奏者番以下一同御小性頭江謁申  
上ル

一大村屋源右衛門義先年薪置場木藏之内地面拜借致居申候処最早不  
用ニ付指戻度断書を以申出勘定奉行へ申談候而御作事方へ被相返  
候様取計相濟

一御蔵元熊野屋文五郎義近来病身ニ相成候ニ付悴鶴吉へ名代被仰付  
御蔵元へ折々為相勤申度願書指出候ニ付勘定奉行へ申談候而御用  
所江指出候処同役も有之候事為指手問欠ケ候義茂有之間敷候間先  
つ願書指戻候様大目付分被申聽則願書指戻ス

一西新町仲屋庄助義娘きさ当丑廿才此度備前大道郡西大寺村佐七  
妻ニ指遣申度当所人別離れ願書指出何之上聽届申達ス

一吹屋町金屋新右衛門義脇坂中務大輔殿御預所当国内勝南郡位田

村医師小高玄柳娘なか当丑廿三才此もの養女ニ引請申度住宅之義願出尤向方且郡寺村役人今も別昏指越候ニ付願書指出伺之上聞届申達ス三月三日住宅証文指出

一 今昼分錢通用百六文

一 西新町新屋源助義悻喜兵衛当丑廿四才此度往来中間ニ被召抱候ニ付町内人別指除候様願書指出中間引合候ニ聞届申達ス

一 吹屋町吹屋八左衛門義備中分職人召抱新吹一口取立申度乍去朝吹なれ不申候ニ付宵吹ニ仕度断書指出承置ク

一 伏見町備前屋はる悻勘之介当丑十九才ニ罷成候此度往来中間ニ被召抱候ニ付町内人別指除候様願書指出承届

一 堺町稲実屋義七郎義用事ニ付大坂堂島北町灘屋源兵衛方へ罷越申度来十六日出立往来廿五日計逗留ニ罷帰申度願書指出承届

一 宮脇町武田屋六郎兵衛義去ル巳年田町永田省賀長屋住和左衛門分質物預り之品々其俣指置候様申付置候処年久敷相成迷惑仕候ニ付壳払申度品数書付を以伺出候ニ付最早年数相立候ニ付壳払候ニ可然旨申達ス

一 寺社取次牢屋ニ神主共吟味有之候ニ付立合老人指出候様申来四つ時分罷出候様申達尤牢屋ニ詮義場取片付用意のため小頭ニ達候ニ明日取計有之ニ達ス

二月十六日 快晴

一 明日之御社參御延引被仰出候段中奥目付後藤四郎分申来夫々ニ相達ス

一 明日九つ時分寺社下代牢屋ニ罷越候ニ内吟味致候間立合指出候様

野条金平分申来小頭ニ申達置ク

一 二宮村安治義当月八日之夕盗人入込品数三ツ代ノ五拾三匁位之品盗取候旨例之通町触取計候様大目付中被申聴則触流指出二月廿五日無之段届出

一 二丁目林田屋あさ義所持之家屋敷表口三間裏行拾七間御役六歩七厘石之家屋敷此度代銀札壹貫六百五拾匁ニ相極同町野本屋甚蔵ニ壳渡申度願書指出承届二月廿一日壳券状出

一 桶屋町大工伝吉義久世村興善寺本堂再建立請負致候ニ付去年中壹ヶ月十五日程罷越候処今以相濟不申候ニ付尚亦当年中二月分毎月十五日宛程罷越申度願書指出承届候

一 今夜四つ時頃上紺屋町出火之様子ニ候処早速鎮り候旨小頭利右衛門罷出申聴尤組内和四郎罷出火元見分爲致候処火燵よりもへ出やくらふとん焼候計ニ格別之義無之最早鎮火ニ及候旨申出

一 上紺屋町出火之義灰屋与右衛門借屋もの和助申者ニ聞貫番ニ罷出留守ニて前文之通火燵分へ出候ニ付隣家之もの共早速罷越消留候段申出候ニ付大年寄分相届明日御所ニ御沙汰申上候計ニて各も及不申候事

二月十八日 雨

一 御用日ニ付登城

一 深信院様五半時分泰安寺妙法寺御參詣ニ付御先弘文藏幸治罷出無滞相濟候旨届出

一 今九つ時分寺社下代牢屋ニて内吟味ニ付立合和四郎罷出相濟候段相届

一三巴初五郎義御裁許相伺置候処伺之通出牢帰町夫役五十日御裁許被仰出近々取計可申事

一御用所<sup>ニ</sup>而左之通御用番輒負殿被仰渡大目付類助出席

一所々<sup>ニ</sup>而盜相働不届<sup>ニ</sup>付百敲之上追払 無宿盗人嘉平

一盜相働不届<sup>ニ</sup>付五十敲之上追払 同 盗人吉之介

一右同断 無宿盗人久米蔵

一盗人嘉平久米蔵町方引合之もの共御裁許之義相伺置候処宜取計候様御用番輒負殿被仰渡

一桶屋町備中屋庄兵衛義所持之家屋敷表口式間裏行七間式歩五厘御

役四歩役也右之家屋敷此度代銀札八拾匁<sup>ニ</sup>相究桶屋与吉郎<sup>江</sup>壳渡

申度双方連印願書指出承届二月廿一日壳券帳指出

一京町関屋喜兵衛義所持之家屋敷表口三間裏行十七間御役半役也右

之家屋敷去子七月相願平野屋治兵衛取次<sup>ニ</sup>而銀札四百匁借受居候

処今度元利返済請戻候之旨断書を以願書承届

一明十九日御仏參御延引被仰出候旨中奥目付令通用有之候<sup>ニ</sup>付大年

寄小頭<sup>江</sup>申達ス

二月十九日 快晴

一宮脇町広瀬屋安治義弓削役所<sup>江</sup>再出訴去ル六日添簡を以罷越彼是

暖等有之候得共不及熟談候由谷口市右衛門同李太郎今返書指越此

上<sup>者</sup>及公訴候共存寄無之相手方返答書願人<sup>江</sup>読聞七願書指戻候段

返書申来右<sup>ニ</sup>付取暖振并向方仕向之始末委敷相認指出候様申達置

ク

一当役所工面物并番賃銀勘定帳小手形指添大年寄令指出小手形は披

見之上指戻勘定帳留置ク

二月廿日 晴

一今昼後宮脇町広瀬屋安治呼出弓削出訴之一件相糺候<sup>ニ</sup>付立合之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番幸治

大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

一鍛冶町かくや久兵衛義弟源治郎去ル十一月致家出行衛相知不申候<sup>ニ</sup>付其節相届百日尋申付置候処今以行衛相知不申最早百日余<sup>ニ</sup>も

相成候<sup>ニ</sup>付町内人別指除候様願書指出伺之上聞届申達ス

一戸河町山北屋和助義三浦志摩守殿御領分当国内真島郡垂水村重

三郎妹しつ当丑四拾式才此度役介<sup>ニ</sup>引請申度住宅之義願出尤向方

且那寺并村役人別昏差越候旨願書指出伺之上聞届申達ス三月六日

住宅証文指出

二月廿一日 快晴

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一今日八つ時新魚町年寄并初五郎組合共呼出牢舍初五郎出牢<sup>江</sup>十日

夫役申付候旨申渡尤町役組合共御作事<sup>江</sup>召連罷越候様申付

右立合之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番<sup>來治幸治</sup>

大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

一右初五郎出番指向呼出候<sup>而</sup>出牢帰町夫役五十日申付諸事取計相濟

候上御用番中大目付<sup>江</sup>相届

一牢番清右衛門初五郎出牢申付候為請罷出出牢切手相渡ス

一二町目福寿屋新兵衛家守戸川町作人市之介義脇坂殿御預り所当国之内久米南条郡川口村吉十郎悴円藏当丑三十九才此度引請相応之渡世為仕度住宅之義願出尤向方村役人々も別昏指越候旨願書指出伺之上聞届申達三月六日住宅証文指出

一船頭町田原屋稲藏借屋もの西村屋義助娘まつ当丑廿六才去子十月十日頃不斗罷出所々相尋候得共行衛相知不申候ニ付其段相届候処百日尋申付尚亦方々相尋候得共相知不申候而最早百日余ニも相成候ニ付町内人別指除候様願書指出候而伺之上聞届申達ス

一京町関屋喜兵衛義所持之家屋敷表口三間裏行拾七間但御役半役也右之家屋敷代銀札八百匁ニ取極同町平野屋治兵衛江壳渡申度願書指出承届二月廿四日壳券出

一二階町塗師勘平義京都出水宝町西へ入菱屋治助隠居白黛申者内縁ニ而当国誕生時江參詣之序立寄申候ニ付十日計逗留為仕度願書指出承届ル

二月廿二日 雨

一明廿三日盗人三人敲取計候ニ付右之用意致置候様小頭江申付尚亦立合例之通罷出候様達置ク

一無宿盗人嘉平吉之介久米藏申渡書郡代より相廻ル

二月廿三日 晴

一今朝六半時左之面々罷出盗人三人敲取計

一所々ニ而盗相働不届ニ付百敲之上追払 無宿盗人嘉平

一盗相働不届ニ付五十敲之上追払 右同 吉之介

一右同断 右同 久米藏

右立合出役御徒目付山田喜七 下目付彦人

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番栄治「」  
右取計相濟候段出役之もの今届出候ニ付御両所江相届ル

一今朝大年寄宅ニ而左之もの共左之通申付小頭部屋目付等立合「」

一盗人嘉平無願数日留置候段不埒ニ付 舟頭町松永屋清兵衛  
追込但三日

右組合之もの共急度叱 町年寄叱  
一右同断 河原町作人嘉右衛門

右同

一盗人嘉平出所も不相札日雇ニ召仕 小性町瓜生原屋惣兵衛  
不埒ニ付追込

但右追込何 三日

右取計相濟候段出役并大年寄より届出候ニ付其段御両所江相届ル

一盗人嘉平盗もの買取候町方引合之もの共左之面々代物損失或者品取揚等夫々申渡取計相濟候段大年寄より届出ル

坪井町金屋喜兵衛 安岡町生綿屋喜右衛門 舟頭町瓜生原屋弥吉

橋本町塚角屋新八 東新町高原屋武兵衛 林田町高間屋茂吉

林田町辰野屋喜助 坪井町備中屋定吉 中ノ町高尾屋勘七

茅町阿波屋治兵衛 元魚町紙屋多兵衛 舟頭町作人新助

小性町若田屋佐助

一盗人三人之もの共川辺御境目江相送り候旨出番栄治嘉七届出尤右村屋一札取指出之

〔宋總〕

一奈良今井町岡島忠兵衛伴庄右衛門与申もの忝人例年之通筆并大小新鞘壳ニ参り候ニ付逗留為仕度元魚町延屋三治宿切手指出同晦日

〔宋總〕

一 大坂山下町大坂屋忠兵衛手代伊兵衛庄八孫兵衛助三郎都合四人例年之通小間物卸壳ニ参り候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手指出三月四日帰届

一 大目付廻状到来江戸表ニ〔〔武藏川橋主松平直虎〕大和守様御祖母保寿院様去ル十四日御死去ニ付今日相慎候様御触書来候ニ付町触并組中江触書夫々指出

二月廿四日 快晴

二月廿四日 快晴

一 宮脇町広瀬屋安治義先頃弓削役所江致出訴候処内濟被申付候得共不及熟談候ニ付致方無之右願書指戻候段返書来候而落書不致候ニ付尚亦懸合指遣度書状下案を以相伺候処何之通被仰出候ニ付今日

飛脚之もの大目付江申立右〔弓削表江指遣ス

一 東新町飯綱屋石右衛門義俵佐吉当丑式拾四才此度御領分林〔

〔指遣申度町内人別差除候様願書指出承届

一 安岡町大坂屋鉄五郎義茅町川土手通りニ而所持之家屋敷表口十式

〔御役式軒役之処右之屋敷地之内東詰ニ而表口四間四尺

裏行六間〔代銀札五拾匁ニ相極茅町岡島屋茂兵衛江壳渡

申度願書指出承届

一 勝間田町作人宗助持分家屋敷同町北側ニ而表口壹間半裏行拾四間

御役〔家屋敷代銀札式百匁ニ相極浜田屋茂兵衛江壳渡申度願書

指出承届三月四日壳券状出ス

一 船頭町備前屋佐七後家ちう義俵辰蔵当丑式拾二才去ル亥年今往来

方中間奉公ニ罷出候処病身ニ而相願暇取候ニ付町内人別人願書指出承届

一 船頭町舟持共四拾人壹艘ニ付銀札五拾匁つ、惣高式貫目拝借仕度

上納之義者当丑ノ秋御登米之節川舟賃を以無滯上納可仕舟持共惣

代組頭四人願書指出候ニ付伺之上聞届申達ス

二月廿五日 晴

一 京町吉田屋喜八郎義娘もと当丑式拾才此度脇坂中務大輔殿御預り

所当国之内久米南条郡塚角村稲屋頭蔵妻江差遣申度当所人別離れ願書指出候ニ付伺之上聞届申達ス

一 御用日ニ付登城

一 弓削役所江昨日書状指遣候処右返書并相手方返答書指添相廻ス

一 吹屋町釜屋市郎左衛門義御代官山田常右衛門殿御支配所当国之内

大庭郡上河内村円融寺鐘鑄談合ニ付職人拾人計召連来廿七日今十日計逗留仕度旨願書指出承届

一 新魚町紙屋元治義借屋もの備中屋定吉同人妻りき俵栄太郎備中松

山御城下新町福島屋定吉俵ニ而去ル寛政十二申年二月材木町竹屋

勘兵衛相願当所入帳ニ相成候処右定吉親病身ニ相成候ニ付国元江罷帰看病仕度依而当所人別指除候様願書指出伺之上聞届申達ス

二月廿六日 快晴

一 左之三人之もの共昨日迄追込三日ニ相成候ニ付今朝追込指免候様

大年寄江申達候所今朝呼出申渡取計相濟候旨届出

〔〔舟〕〕 船頭町松永屋清兵衛 河原町作人嘉右衛門

小性町瓜生原屋惣兵衛

右之もの共追込指免候段御用番中并大目付<sup>江</sup>相届候

一弓削役所より之返書并相手方返答書指添御用番衆<sup>江</sup>指出<sup>一</sup>

一右相手方返答書訴人安治懸合振之旨致配置候由<sup>ニ</sup>付右安治<sup>一</sup>

〔為致指出候様大年寄<sup>江</sup>申達置ク

二月廿七日 雨

一持福院義讚州金毘羅<sup>江</sup>參詣仕度来月十日出立往来十日之逗留<sup>一</sup>

〔指出大年寄聞届候旨当人願書指出三月十四日帰届

一材木町年寄三家屋猪太郎義作右衛門<sup>与</sup>改名仕度且亦改印も仕度願書指出<sup>一</sup>

一中ノ町東新町西新町組頭共分林田村分上ノ町大溝近来ことの外埋り候<sup>而</sup>夏分<sup>ニ</sup>□水落込内庭<sup>江</sup>入難<sup>ニ</sup>付溝攪<sup>ツ</sup>之義願書指出大目付中<sup>江</sup>指出ス

一下紺屋町出口屋佐助義隅田勇助長屋<sup>ニ</sup>居申候助七<sup>与</sup>申もの家内八人役介<sup>ニ</sup>引請申度願書指出勇助<sup>江</sup>も一応引合候<sup>而</sup>承届候

一堺町小林主水義讚州金毘羅<sup>江</sup>往来七日之逗留<sup>ニ</sup>而參詣仕度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出三月十二日帰届

一吹屋町熱田数馬義右同断願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出三月十二日帰届

一<sup>〔</sup>下紺屋町一乘院義讚州金毘羅<sup>江</sup>十日之逗留<sup>ニ</sup>而參詣仕度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出三月十四日帰届<sup>〕</sup>

一上紺屋町凹乘院義右同断之願書指出右同断三月十三日帰届

二月廿八日 快晴

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一河原町熱田市正悻大内藏義立願<sup>ニ</sup>而讚州金毘羅<sup>江</sup>七日之逗留<sup>ニ</sup>而參詣仕度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出三月十三日帰届

二月廿九日 曇

一材木町谷屋鉄五郎義伯父源六去ル子六月百五十日計逗留<sup>ニ</sup>而四国遍路<sup>ニ</sup>罷出候処日限<sup>ニ</sup>相成候<sup>而</sup>も罷帰病氣之程難計同十二月尚亦百日計之追願指出候処当国之内久米北条郡下二ヶ村<sup>与</sup>申所<sup>ニ</sup>而

津山遍路死人有之風聞候<sup>ニ</sup>付林田上ノ町孫兵衛<sup>与</sup>申もの并福渡町文蔵相頼彼之地<sup>江</sup>罷越懸合候処成程去子十一月廿八日材木町谷屋源七<sup>与</sup>申往来所持之老人当村<sup>ニ</sup>て死去相違無之別持手形調候<sup>ニ</sup>付

落候<sup>ニ</sup>付則手形指除届書指出承置ク

一新魚町藁屋吉九郎義所持之家屋敷表口式間半裏行拾式間之内納屋共御役半役右家屋敷去ル西ノ四月御願申町内亀屋源助取次<sup>ニ</sup>て質物書入銀札三百五拾匁借請候処此度元利返済請返候旨届書を以届出承置ク

一二階町井筒屋弥三郎義所持之他国受酒株去ル戊十二月相願元魚町

〔<sup>一</sup>候処双方勝手<sup>ニ</sup>付取戻申度以來弥兵衛方<sup>ニ</sup>而右株<sup>ニ</sup>而商売不仕候旨断<sup>一</sup> 〕

一元魚町富士屋新治義二階町井筒屋弥三郎所持之他国受酒株当丑<sup>一</sup>

〔<sup>一</sup>まて借受商売仕度左候得<sup>者</sup>弥三郎手前<sup>ニ</sup>而商売不仕候旨願書指出<sup>一</sup>

一二階町塗師勘平義京都菱屋清助隠居白黛<sup>与</sup>申者十日之逗留<sup>一</sup>

〔<sup>一</sup>今少參詣所不相濟候<sup>ニ</sup>付尚亦七日之逗留追願指出承届三月<sup>一</sup>

「」

一安岡町大坂屋増藏義坪井町塩屋直之介持来候古道具屋株譲り請同

「一」平兵衛請人<sup>ニ</sup>而商売仕度株札書替之義願書指出承届

一三町目一文字屋万助義茅町立具屋理兵衛所持之古道具屋株譲請同

町板屋源吉請人<sup>ニ</sup>而商売仕度株札書替之義願書指出承届

一安岡町岡崎屋多伝治義西今町宇賀屋多吉持来候古道具屋株同町樽

屋勘次請人<sup>ニ</sup>而讓請候<sup>而</sup>商売仕度株札名面書替之願書指出承届ル

二月晦日 晴

一御前様御母方御叔父松平信濃守殿於駿府御病氣之処当月十四日御

死去<sup>ニ</sup>付半減之忌服被為請候<sup>ニ</sup>付從今日来月二日迄三日之内鳴物

停止御触書到来<sup>ニ</sup>付例之通組中并町触等夫々<sup>江</sup>指出

一御前様<sup>江</sup>伺御機嫌有之候間明朔日麻上下着用<sup>ニ</sup>而<sup>出仕致候様</sup>大目

付赤見類助より申来候

一牢賃銀例月之通印形取相渡ス

三月 庚 小

御家老 安藤丹後殿

御年寄 海老原極人殿

大目付 平井半平

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

三月乙 酉 旦 快晴

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一御前様<sup>江</sup>伺御機嫌有之候<sup>ニ</sup>付麻上下着用出仕例之通御奏者番以下

三奉行迄一統七間廊下<sup>ニ</sup>而御小性頭<sup>江</sup>調申上ル

一例之通御用所<sup>江</sup>罷出候処申上ル御用向無之旨申上ル

三月二日 曇

一盗人嘉平引合之町方之もの共取揚物品々送書差添郡代<sup>江</sup>相廻候処

右請取書并町方<sup>江</sup>引渡候二品送書差添郡代より相廻請取置

一先達<sup>而</sup>青山村林山燒候一件町方之もの共早々拾壺二人も懸合有之

候<sup>ニ</sup>付郡代所<sup>ニ</sup>而も内済為致度候間町方<sup>ニ</sup>而も内々噯人申付候ハ

、在方<sup>ニ</sup>而も可申付候旨内談申来候<sup>ニ</sup>付任其意町方噯人櫻野屋茂

吉<sup>江</sup>内々為申付候処此度下済及熟談候旨大年寄申出承置

一明日川辺村新七出牢帰村申付候間五つ時立合指出候様郡代今申来

申付置ケ

一西今町坪屋藤十郎借屋<sup>ニ</sup>持来候家屋敷表口<sup>マ・表口</sup>裏行拾五間御役五歩

役右之家屋敷同町儀屋勘次へ代銀札六百匁<sup>ニ</sup>して売渡申度願書指

出承届同十日売券状出ス

一茂渡只助娘今曉致死去候尤七歳未滿<sup>ニ</sup>付忌服等は無之候得共遠慮

引込申候尤庄右衛門義<sup>茂</sup>同様引籠候旨届出候段大年寄今相届ル

三月三日 雨

一上巳<sup>ニ</sup>付麻上下着用五半時登城

一例之通七間廊下<sup>ニ</sup>而御奏者番以下三奉行迄一統上巳之御祝義御小

性頭江謁御前様江茂 同様御祝義申上ル

一御用所江 三奉行一統罷出上巳之御祝義申退座懸大目付役所江も  
及挨拶

一今朝川辺村新七出牢帰村ニ 付立合藤四郎罷出取計候旨届出

三月四日 快晴

一橋本町佐賀屋勘右衛門義悻亀吉当丑十八才此度往来方中間ニ 被召

抱候ニ 付町内人別指除候様願書指出中間頭引合之上聞届申達江

一三町目浜野屋源五郎義用事ニ 付備前岡山久山町松原屋源兵衛方江  
往来十日計之逗留ニ 罷越申度願書指出承届同十七日帰届

一右同町福永屋林右衛門義所持之自国受酒株去子三月相願東新町出

雲屋幸吉江 貸置候処限月来候ニ 付取戻候旨届書を以届出承置ク

一元魚町油屋与一郎義因州鳥取本町塗師岩松与 申もの当丑式拾八才  
此もの塗師細工手馴候ニ 付当年中留置右細工為仕度逗留願書指出

承届十一月三十日帰届

一牢舎和田村弥吉生野御代官所江 召出ニ 付出牢申付候間立合指出候

様郡代より申来幸治罷出取計候段届出

一播州今市綿屋嘉市郎与 申もの壹人例年之通呉服物売ニ 昨日参り候  
ニ 付逗留為仕度新職人町松野屋重右衛門宿切手指出ス十二月十八

日帰届ル

一大坂心齋橋塩町南へ入播磨屋清八手代久兵衛与 申もの式人例年之  
通瀬戸物売せろはん仕替きせる売古金買候昨日参り候ニ 付逗留為

仕度右同人宿切手指出ス同十二月廿一日帰

三月五日 快晴

一御用日ニ 付登城

一御用所ニ 而左之通御用番極人殿被申渡大目付侍座

広原分佐七下人盗人新七義所々ニ 盗相働不屈ニ 付百敲之上  
御領分追払被仰付候間其段取計可申旨被仰渡

一右盗人新七町方引合之もの共同之通被仰付候

一西今町京屋平兵衛義心願ニ 付往来三十日計之逗留ニ 而伊勢参宮仕  
度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出四月四日帰届

一右同町公文屋清左衛門義大坂心齋橋筋大河町玉子屋九兵衛方へ三  
十日計之逗留ニ 罷越申度願書指出大年寄聽届候旨当人願書指出

同廿九日帰届

一摂州大坂島之内大宝町万屋谷次郎与 申もの例年之通皮足袋すいの  
ふ金通シ売ニ 罷越候ニ 付逗留為仕度西新町山家屋和右衛門宿切手  
指出ス

一美濃職人町作人登之介義親玄達四拾五才同人悻孫四郎六才右兩人  
医学為修行大坂駕籠屋町茶染屋町東道庵方へ来ル卯年迄三ヶ年之

間滞留ニ 遣度願書指出承届卯二月廿一日帰届

一右同町吉田屋幸助義借屋もの宗兵衛当丑二十八才去亥年三浦伴左

衛門共ニ 而江戸表へ罷越候処今度暇取候ニ 付町内人別人願書指出  
承届

承届

一中ノ町平岡屋忠右衛門義用事ニ 付大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三  
十日計逗留ニ 罷越申度願書指出承届四月朔日帰り届

一坪井町福恵屋伊兵衛義用事ニ 付大坂梶木町玉子屋九兵衛方へ三十

日計逗留ニ 罷越申度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出同廿

九日帰り届

一来十八日御發駕被遊候ニ付右御知らセ大目付より御触書到来組中  
触書指出ス尤町触先例之文段ニ而指出ス

一先達ニ而同心組相勤居申候石名伝藏与申者当町隅田勇助家来ニ罷成  
居申候先達ニ而同心組番代申付候節役所出入指構之処此度右構指免  
呉候様一向歎出候ニ付此度指免候段小頭分可達旨小頭申達ス

三月六日 晴

一新魚町三沢屋与八郎義宿切手指出置候越中富山板屋利兵衛役介宗  
助与申もの病氣之処昨夜致死去候旨尤同道人も有之候ニ付同道人  
一札并医師容体書指添候ニ而夜分深更届書指出候ニ付今朝御用番極  
人殿江右之段相届取片付等之義勝手仮葬取計候ニ而可然旨尤宿切  
手指出候宿付商人宛致死去候共見分之もの指出不申先例ニ有之其  
上同道人も有之候事故旁見分ニ不及取片付取計候ニ而可然旨相伺置  
ク

一右之段昼後伺之通妙願寺江仮葬之義勝手次第取計候様極人殿分申  
来尤右之書類は被留置候ニ付大目付半平江手昏ニ而相届妙願寺江  
も御達有之候様仕度旨申遣ス尤右之段寺社取次江も申遣置且亦三  
沢屋与八郎願之趣承届候ニ而仮葬取計候様大年寄申達ス

一西今町浅島屋茂兵衛柳屋左兵衛義立願ニ付伊勢參宮仕度往来三十  
日計逗留仕度願書指出候ニ而大年寄聞届候旨当人願書指出四月四日  
日計逗留仕度願書指出候ニ而大年寄聞届候旨当人願書指出四月二  
日計逗留仕度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出四月二

一右同町永野屋安兵衛義用事ニ而大坂大川町玉子屋九兵衛方江三十  
日逗留ニ而罷越申度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出四月二

日帰り届

一二町目唐津屋文助義大坂過書町北浜玉子屋九郎兵衛方江三十日計  
之逗留ニ而罷越申度願書指出大年寄聞届候旨当人願書指出同廿九  
日帰り届

一今日四つ時分宿馬見分取計候付兼ニ而大年寄分申出候ニ付小頭部屋  
目付指出候処御代官所御金荷三駄来候ニ付勝間田江継立候ニ而右三  
疋晚刻迄には罷帰可申之処晚刻迄罷帰不申候間今日之間ニ合不申  
其余之分不殘見分相濟候右三疋明日見分取計可申旨小頭部屋目付  
分届出

一新魚町三沢屋与八郎方ニ而致死去候旅人宗助妙願寺江仮葬取計相  
濟候之段大年寄分相届

三月七日 雨

一昨日相残候宿馬三疋今日見分取計相濟候ニ而毛附帳指出蔵合孫左衛  
門宮田喜左衛門罷出相届尤右之内中ノ印有之候者疋任替致候様申  
付候旨届出尤小頭部屋目付も同様相届ル

一近々御發駕ニ付御道筋道見分として大年寄諸吟味小頭罷出候処格  
別之大破も無之少々つゝ之義は町役共へ直ニ申付候由何届出  
一昨日馬見分之節間ニ合不申馬持三人三町目岩五郎林田町伊兵衛同  
町長八旁以見分之義見分之義申付置候事ゆへ勝間田罷越候共早々  
罷帰可申筈之処外ニ荷物付候ニ而右見分間ニ合不申甚不埒ニ付以  
後今ニも相成候事ゆへ禁足被仰付候ニ而可然哉之旨大年寄伺出候ニ  
付伺之通取計可申旨申達ス但禁足三日之伺

一宮脇町広瀬屋安治弓削出訴一件相手方返答書相渡候処是迄懸合振

りは甚致相違候ニ付再返答書指出候ニ付右相違之趣を以今一応弓削役所江懸合申度書状下案指添右再返答書御用番極人殿江指出相伺置ク

一 林田町岩佐屋善七養子鉄治今度離縁人別除候願書指出候右者先年離縁致候而再養子迄も致候処除帳之義不願出其上高倉村実家ニ而喧嘩一件及内済候得共右入用出方之義ニ付彼是もつれ合候処今度右入用出方片付候ニ付右離縁除帳願差出依而郡代申談之上岩佐屋離縁願延引不届ニ付答可申付郡代所も実家高倉村よりも願出候ハ、其節申渡御裁許可相伺

一 明八日御仏參御延引被仰出候旨中奥目付寛良助分申来夫々江申達ス

三月八日 晴

一 御用日ニ付登城

一 宮脇町広瀬屋安治再返答書指出候ニ付弓削役所江懸合之案詞御用

番極人殿江相伺置ク

一 林田町岩佐屋善七養子鉄治先年致離縁候之処除帳不願出不届ニ付

追込三日申付候間人別除願聞届可然旨郡代江も申通御用番江相伺置ク

三月九日 晴

一 京町昼屋友十郎針屋和吉義裏御堀端塀覆損候ニ付取繕仕度足代おろし願書指出候ニ付大目付江願書相廻ス

一 新魚町金川屋助一郎義用事有之京都麩屋町四条上ル近江屋七三郎方江往来廿日計之逗留ニ而罷越申度願書指出大年寄聞届候旨当人

願書出四月八日帰

一 西新町余陸屋文右衛門義御先手組原武兵衛役介とみ弟辰右衛門妻ニ引受居申候処家風に入不申候ニ付此度離縁右武兵衛方江差戻候ニ付町内人別除願書指出承届

一 福渡町阿賀屋助五郎家守右助義妻娘共家内三人四国遍路ニ罷出申度往来百日計逗留ニ而罷帰申度願書指出承届六月十七日帰ル届

一 三町目太刀屋久治義商売用ニ付武州江戸表へ百五十日逗留ニ而罷越申度願書指出承届五月十四日帰り届

一 神戸村説教者甚太郎并盗人新七呼出吟味有之候ニ付立合指出候様郡代より申来源蔵罷出出入取計候旨届出ル

一 林田村五三郎弁七伊勢松上ノ町幸吉日上村久蔵太田村与吉虎蔵右七人のもの牢番預ケ申付候間立合指出候様郡代より申来源蔵罷出取計候旨相届

三月十日 曇

一 去ル七日禁足申付置候馬持三町目岩五郎林田村伊兵衛同町長八右

三人共昨日迄三日ニ相成候ニ付今朝禁足指免候旨申渡取計候段大年寄より相届

一 安岡町綿屋与兵衛義三町目福永屋林右衛門所持之自国受酒株当三月分来三月迄借受商売仕度願書指出承届

一 明十一日五半時御供揃ニ而地藏院泰安寺本源寺江御參詣被仰出候旨中奥目付助藤井嘉津馬分申来小頭并大年寄江申達ス

一 御発駕之節宿馬不足候ニ付在馬六疋寄馬之義問屋共願出候旨大年寄申出候ニ付郡代所江申遣置ク

一 牢舎神戸説教者甚太郎呼出吟味ニ付立合指出候様郡代より申来源  
藏罷出出入取計候旨相届ル

一 来十五日御発駕前ニ付御目見被仰付候仍<sub>而</sub>麻上下着用五半時登城  
仕候様御奏者廻状到来并来十八日御発駕被遊候ニ付火之用心御申  
付酒狂等無之様大目付廻状到来ニ付組中触書指出ス

三月十一日 晴

一 御用日ニ付登城

一 今日申上候御用向無之候旨御用所<sub>ニ而</sub>申述

一 昨日被仰出候通三ヶ寺御参詣被遊無御滞被為濟候旨御先弘文藏庄  
藏罷出相届ル

一 御発駕前ニ付来ル十五日今日勤ニ相成候旨大目付中より通達有之  
候旨勘定奉行より通用有之

一 宮脇町広瀬屋安治再返答書弓削役所<sub>江</sub>相廻可申旨書状下案指添候  
<sub>而</sub>伺置候処伺之通取計可申候様御用番中被申聴

一 林田町岩佐屋善七養子離縁願書指出候ニ付是迄等閑ニ致置人別除  
帳不願出候ニ付追込三日申付可然哉之旨伺書指出置候処伺之通被  
仰出候

一 元魚町大庭屋善兵衛義国保伝八供<sub>ニ而</sub>江戸表<sub>江</sub>罷越往来八十日計

<sub>ニ而</sub>罷帰申度願書指出承届五月十四日帰ル届

一 錦織村興禪寺<sub>(久米北条郡)</sub><sub>ニ而</sub>開帳并芝居興行有之候ニ付郡代申談候<sub>而</sub>御用番  
中<sub>江</sub>申上町触并来十三日夕芝居相始候ニ付目明指出候様小頭<sub>江</sub>申  
付候

三月十二日 晩雨

一 宮脇町広瀬屋安治再返答書弓削役所<sub>江</sub>指遣候ニ付書翰共書役相認  
指出候ニ付飛脚中谷孫四郎<sub>江</sub>相濟尤明朝出立候様申達ス

一 夜中文藏罷出候<sub>而</sub>今夕福渡町福渡屋浅之丞宅<sub>ニ而</sub>博奕参会之様子  
見渡候ニ付見改候処参会之もの共逃去候ものも有之候得共召捕候  
もの左之通<sub>ニ有之候旨届出候ニ付</sub>手鎖懸ヶ組合共<sub>江与</sub>駈預置候様  
申付ル

申付ル

<sub>(先頃御手廻り相動候<sub>而</sub>暇以後無帳候<sub>へ</sub>者  
手鎖懸ヶ宿福渡屋組合<sub>へ</sub>預申付</sub>

手鎖懸ヶ組合預ヶ

組合預ヶ

一 福渡屋浅之丞義博奕宿ニ候処其帰所ニ居合不申候ニ付<sub>与</sub>急尋出候  
様同人組合共<sub>へ</sub>申付

三月十三日 雨

一 郷中博奕参会差口之もの左之通之旨郡代より申来候ニ付番嘉七  
和四郎指向候<sub>而</sub>手鎖懸ヶ組合<sub>江</sub>預置候様申付

一 江戸庄方<sub>ニ而</sub>正月中忝度博奕宿并上ノ町幸吉方<sub>ニ而</sub>東新町紺  
屋万治同町伊三治且又山<sub>ニ而</sub>参会橋本町藤助右いつれも町方  
之ものニ付申述

一 佐々木主馬長屋住嘉兵衛<sub>与</sub>申もの昨夜福渡町博奕致参会候哉之旨  
申出候ニ付主人より手当有之候様被達置度大目付中<sub>江</sub>手帟<sub>ニ而</sub>申  
遣ス

一 林田村熊吉上ノ町文太郎牢番預ヶ申付候間立合之もの指出候様十  
郎左衛門<sub>前代</sub>申来候ニ付藤四郎罷出取計候段届出

一 西今町直屋孫兵衛持地面東西六間半南北九間半右之地面町内野瀬

屋新四郎へ代銀札七拾匁ニ相極売渡申度願書指出承届同十四日売券状差出ス

一 材木町近江屋藤吉母義悻藤吉去子ノ六月百日之逗留ニ而四国遍路ニ罷出日限ニ帰り不申同九月又候百日之追願指出候得共今以何之便も無御座候ニ付猶亦百日之追願指出承届

一 植月友甫後家家守和七義借屋ニ居申候作人長吉当二月下旬頃家出仕候ニ付組合共所々心懸り之処相尋候得共行衛相知不申出奔仕候哉与被存候ニ付相届候旨届書指出候仍而例之通百日尋申付置ク

一 林田博奕差口之もの四人何<sup>茂</sup>在方<sup>江</sup>罷出候由ニ而相尋候得共急ニ相知不申由ニ付嚴敷尋申付置候段出番嘉七和四郎届出

一 右指口之内東新町伊三治義は町内人別ニ無之候旨申出候ニ付<sup>与</sup>得吟味為致候処十七ヶ年以前西ノ年林田上ノ町与吉後家借屋<sup>江</sup>為引越候ニ付人別指除候旨申出候依之右之段郡代<sup>江</sup>申遣置ク

一 橋本町藤助義夜中罷帰候ニ付組合預ケ申付置候旨大年寄今届出ル  
三月十四日 晴

一 林田町岩佐屋善七義今朝追込申付并同人組合同町年寄叱申渡候様大年寄<sup>江</sup>差紙遣取計相濟候旨届出候ニ付御用番極人殿大目付半平<sup>江</sup>相届

右立合小頭利右衛門 部屋目付藤四郎  
一 今九つ時今左之もの共呼出及吟味

去ル十一日之夕福渡町福渡屋<sup>ニ</sup>而 美濃職人町尾谷屋  
博奕参会仕候義相違無之旨白状 左吉

御手廻り相勤届申候

右同断

無帳もの 嘉市

福渡屋隣家ニ居申候処寝入候<sup>而</sup> 安岡町 洪屋 茂吉  
一向存不申博奕携無之由

無帳もの嘉市同道<sup>ニ</sup>而福渡屋へ 佐々木主馬長屋住 嘉兵衛  
罷越候得共博奕之場ニ不居合携無之

様子ニ候得共請人共へ預置ク 右請人 伏見町大工 喜兵衛

右立合 下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎  
戸川町 仁助

大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

右之段取計候旨御用番極人殿大目付半平<sup>江</sup>相届ル

一 橋本町藤助夜前罷帰候ニ付昼廻り栄治庄藏指向候<sup>而</sup>手錠懸ケ組合預申付置

一 佐々木主馬長屋者嘉兵衛博奕差口ニ付今日吟味已前役筋<sup>江</sup>引渡候様大目付中へ申遣置候処主馬分相渡可申候間何卒同心組差向呉候様頼来候ニ付今日吟味前出番文藏源藏指遣請人指添請取来

一 林田村平八悻与之介牢番預ケ申付候間立合指出候様郡代より申来源藏指出入取計候旨届出

一 新魚町大工屋多助同居仕居申候研屋万兵衛義当丑三十六才此度開田万兵衛<sup>与</sup>相改候<sup>而</sup>大橋十太夫殿家来ニ住込候ニ付町内人別差除候様願書指出承届

一 京町田戸屋治三郎義所持之旅人宿屋株当丑ノ年より来戌ノ年迄拾ヶ年之間小性町小文字屋太兵衛<sup>江</sup>預ケ申度願書指出承届

一 弓削役所<sup>江</sup>広瀬屋安治再返答書相廻今一応吟味も有之候様致度申

遣候処右返書来とても訴答之もの相對内濟之外取計無之旨申来右  
返書共御用番中<sup>江</sup>差出此上<sup>者</sup>江戶御留主居<sup>江</sup>具ニ申遣シ公訴為仕  
候外無之哉<sup>与</sup>被存候之段相伺候候御留主居<sup>江</sup>之懸合之下案仕候<sup>而</sup>  
指出候様極人殿被申渡

三月十五日 晴

一御用日ニ付登城今日今日勤ニ相成ル

一御発駕前ニ付御家中之面々五半時揃<sup>ニ</sup>而御目見被仰付候処当役<sup>者</sup>

御発駕前日御目見被仰付候付今日<sup>者</sup>無之儀着服<sup>者</sup>麻上下着用可然  
旨類役申談候<sup>而</sup>麻上下着用罷出ル

一御用所<sup>ニ</sup>而御用番極人殿左之通御申渡大目付出席

(去ル己十二月四日夕一方村奉藏方<sup>ニ</sup>而博奕参会  
いたし不埒至極ニ付五十歳之上福村被仰付)

中島村平八悴政治

一野上玄養義近々他行相願以後他所住<sup>ニ</sup>も相成候哉之趣相聴候<sup>ニ</sup>付

右ものは諸人難産之助<sup>ニ</sup>茂相成候ものゆへ当所住居離れ不申候様

仕度依<sup>而</sup>何卒御目見医師<sup>ニ</sup>被仰付候様仕度旨極人殿<sup>江</sup>内意申込置

ク

一御蔵米五拾三匁 町米四拾九匁

一中ノ町秋田屋宗兵衛義同町板原屋甚兵衛後家持来候旅人旅籠屋株

勝手<sup>ニ</sup>付此度讓受商売仕度願書指出承届

一小性町鳥屋与市義借屋<sup>ニ</sup>居申候一石屋権兵衛義心願<sup>ニ</sup>而一千ヶ寺

参詣仕度往来式百日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷帰申度願書指出承届四月朔日

病氣<sup>ニ</sup>而帰ル

一御発駕之節立宿左之通申付候旨大年寄届出

一当役立宿

東新町 茂渡藤右衛門

一同供之もの立宿

同 しま屋伊助

一御先払立宿

京町 戸島屋伝吉

一来十八日御発駕被遊候<sup>ニ</sup>付御徒格以上并小従人以上之嫡子之面々  
曉七時登城仕候様御奏者廻状到来

三月十六日 快晴

一御用日日勤ニ付登城

一宮脇町広瀬屋安治義弓削役所出訴一件取揚無之<sup>ニ</sup>付江戶御留守居

江申遣弥公訴取向<sup>ニ</sup>茂致度候問問合有之候<sup>而</sup>右振合委細可申越候  
様可申遣旨相伺候候今般御供<sup>ニ</sup>而大橋十太夫殿出府<sup>ニ</sup>付諸事被吞

込候<sup>而</sup>御留守居<sup>江</sup>被申談答之間右書類十太夫殿<sup>江</sup>相廻候様御用番  
極人殿御申聴<sup>ニ</sup>付取調書類不残写十太夫殿<sup>江</sup>持参指出又

一牢舍伊勢松病氣<sup>ニ</sup>付原奇運療治申付置候処全快<sup>ニ</sup>付休薬為致候旨

牢番并大年寄相届

一牢番預ケ申付有之候真加部村栄藏出牢申付候間立合指出候様郡代

より申来嘉七罷出取計候旨届出

一細工町孤独人市平病氣及大切候段大年寄相届ル

三月十七日 快晴

一御発駕前日ニ付麻上下着用登城

一林田町岩佐屋善七追込指免養子離縁町内人別除願書承届候間其段

申達候様大年寄<sup>江</sup>申達候処右取計相濟候段届出候<sup>ニ</sup>付御用番中并

大目付<sup>江</sup>相届

一明朝御発駕<sup>ニ</sup>付左之通関貫小門開置立番付置候旨届出候<sup>ニ</sup>付例之

通御両所<sup>江</sup>及御沙汰

材木町 二階町 元魚町 戸河町 鍛冶町

一 御目見相始候旨七間廊下<sub>江</sub> 相廻候様御小納戸<sub>江</sub> 坊主を以申来七間廊下<sub>江</sub> 罷出候処御当職御家老<sub>江</sub> 相始順々<sub>而</sub> 当役郡代勘定奉行一同罷出御家老衆御取合有之候<sub>而</sub> 御目見恐悅申上候処是<sub>江</sub> 御意被遊候<sub>ニ</sub> 付脱釵御側<sub>江</sub> 罷出候処御手熨斗被下之息才<sub>ニ</sub> 御意被遊候<sub>而</sub> 元ノ席<sub>江</sub> 帰座帯釵仕候<sub>而</sub> 右同様順々勘定奉行迄相濟一同退座

一 明朝御登駕被遊候以後御前様<sub>江</sub> 恐悅申上候様大目付<sub>江</sub> 申達候処当役郡代は出役仕候<sub>ニ</sub> 付欠切<sub>ニ</sub> 可然旨大目付被申聴其段十郎左衛門<sub>江</sub> も及通用

一 明日御登駕被為濟候上大年寄札元諸吟味御目見医師御藏元并御挨拶被下置候諸町人町年寄等之恐悅廻勤ハ矢張是迄之通り廻勤候<sub>而</sub> 可然旨大目付中被申聴候旨十郎左衛門より通達有之

一 御留守中御用日三八<sub>ニ</sub> 相成候旨大目付中<sub>江</sub> 通達有之候旨類役<sub>江</sub> 通用有之

一 西新町木屋与治右衛門義松山寿庵供<sub>ニ</sub> 而 江戸表<sub>江</sub> 罷越五月下旬迄逗留仕度願書指出承届ル五月十四日帰届

三月十八日 快晴

一 今暁七時供揃申付七半時出宅東新町立宿茂渡藤右衛門方<sub>江</sub> 罷越

中山勇藏 鎗 扶箱 草り取 合羽籠 桃灯持

ノ割場中間五人

一 今日組出役之面々左之通

掃除見分<sub>(文藏 和四郎)</sub> 御先弘小頭利右衛門<sub>(榮七郎)</sub> 京町人留藤四郎  
自分供 勇藏 当番 庄藏 夕番 幸治

一 六半時前松之段之注進有之供相揃候<sub>而</sub> 立宿罷出升形内南側先例之場所<sub>ニ</sub> 而 相扣罷在大年寄三人升形外右何<sub>茂</sub> 南側先例之場所<sub>ニ</sub> 相扣罷在無程段々御先相見之候<sub>ニ</sub> 付右之場所<sub>ニ</sub> 而 御待請申上御駕所御見請申上下座仕罷在候処御駕籠所御供頭田中襄助名披露有之御通行相濟

一 大押大橋十太夫殿通行相濟候迄右之場所<sub>ニ</sub> 罷在候処十太夫殿駕籠脇<sub>江</sub> 御供<sub>ニ</sub> 候間乍失礼御会釈不及候旨申述御念入候段及返答

一 右御通行相濟候間退出上ノ町通り三枚橋<sub>江</sub> 懸り御用番極人殿<sub>江</sub> 町分無御滞御通行相濟候<sub>ニ</sub> 付引取候<sub>而</sub> 罷越候旨相届ケ大目付平井半平<sub>江</sub> 右同様若党指遣口上<sub>ニ</sub> 而 相届ル

一 福渡町福渡屋浅之丞義先刻罷帰り候旨大年寄<sub>江</sub> 相届尤組合之ものへ殿敷番致候様申付置候旨届出候<sub>ニ</sub> 付出番文藏源藏指向候<sub>而</sub> 手鎖懸ケ組合預ケ猶亦申付ル

一 右之通行取計候旨御用番極人殿大目付半平<sub>江</sub> 相届ル

一 明十九日四つ時深信院様泰安寺妙法寺<sub>江</sub> 御參詣被成候旨種村登門より申来小頭并大年寄<sub>江</sub> 申達ス

三月十九日 快晴

一 今四つ時深信院様御仏參<sub>ニ</sub> 付御先弘榮治源藏罷出無滞相濟候旨届出ル

三月廿日 曇

一 今九半時より左之もの共差出候様大年寄<sub>江</sub> 差紙指遣ス

福渡町 福渡屋浅之丞  
美濃職人町 尾谷屋左吉

橋本町 藤助

元御手廻帳外 嘉市

安岡町 洪屋 茂吉

佐々木主馬長屋住 嘉兵衛

嘉市右同断尤博奕宿浅之丞 帳外もの  
組合共へ是迄預置 嘉市

組合預ケ申付置候処博奕携無之 安岡町 洪屋 茂吉  
候ニ付組合預ケ指免

一奈良村<sup>(マナカ)</sup>ニ而 明廿一日分廿三日迄三日之内芝居興行有之候旨目明孫  
兵衛分申出候ニ付例之通郡代申談候而 目明指出尤町触も指出以後  
毎々不指出候間兼而 心得候様之御触書指出

請人預ケ申付置候処博奕携無之 佐々木主馬長屋住 嘉兵衛  
候ニ付請人預指免主人方へ指戻ス

一東新町紺屋万治義唯今帰宅仕候旨届出候段大年寄より相届候ニ付  
今日町役組合指添差出候様申付置ク

郷中博奕指口ニ付今日呼出及吟味 橋本町 藤助  
右同指口之ものニ候処他行致候而 東新町 紺屋 万治  
今日罷帰候付呼出一応吟味之上手錠

一因州知頭郡中原村ゆき<sup>与</sup>申女四国<sup>江</sup>罷出讚州丸亀ニ而 步行不相叶

懸ケ組合預ケ申付ル  
右取計候段御用番中并大目付<sup>江</sup>相届尤主馬長屋もの嘉兵衛義博  
奕携無之候ニ付主人<sup>江</sup>指戻候間其段被相達候様大目付半平<sup>江</sup>申

寄<sup>江</sup>申達置候処夜ニ入古城村より西今町<sup>江</sup>送り来林田村<sup>江</sup>送り達  
候旨大年寄より届出

遣ス  
一盗人新七盗取候品々取揚候而 送書を以郡代より相廻請取置請書追  
而 相廻候様申遣置

一今日呼出吟味ニ付立合之面々左之通

三月廿一日 烈風  
一牢舎説教者甚太郎出牢申付候間立合指出候様郡代より申来藤四郎

下役新左衛門 小頭兼部屋目付栄治 出番庄藏幸治  
大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

一今日左之もの共左之通申付ル

罷取出計候旨届出  
一福渡町博奕宿并参会之もの共御裁許伺口書指添御用番中<sup>江</sup>指出置

博奕致宿其場より逃去候処此間 福渡町 福渡屋 浅之丞  
罷帰り手鎖懸ケ組合預ケ申付置候処

今日口書取極牢番預ケ申付ル

博奕参会ニ而 手鎖懸ケ組合預ケ 美濃職人町尾谷屋

申付候処今日口書等取極印形取り 左吉

牢番預ケ申付ル 元御手廻り相勤候当町

一江戸庄義郷中博奕指口ニ付先日組之もの指向候処他行致候ニ付右  
申付置候処今日罷帰候旨届出候ニ付昼廻り嘉七和四郎指向候而手  
錠懸ケ組合預ケ申付置ク

一宮脇町広瀬屋安治義商用<sub>ニ</sub>而因州鳥取在<sub>江</sub>八日程之逗留<sub>ニ</sub>而罷越  
申度願書指出大年寄承届候旨当人願書指出三月廿七日帰届

三月廿二日 朝雨昼晴

一今九半時<sub>ハ</sub>左之もの共呼出吟味致候<sub>ニ</sub>付立合左之面々

下役新左衛門 小頭兼部屋目付藤四郎 出番嘉七和四郎

大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

橋本町 藤助

東新町紺屋 万治

右同町鍛冶屋宇兵衛

一京町小文字屋太兵衛義居宅裏御堀端取繕申度御堀<sub>江</sub>足代落願指出  
大目付<sub>江</sub>指出置ク

三月廿三日 晴

一御用日<sub>ニ</sub>付登城

一東新町鍛冶屋宇兵衛義博奕指口<sub>ニ</sub>付手錠懸ケ組合預ケ申付候旨御

兩所<sub>江</sub>相届ル

一御用所<sub>ニ</sub>而御用番極人殿左之通御申渡大目付半平出席

博奕宿致し其上逃去候段

福渡町 福渡屋

不届<sub>ニ</sub>付百敲之上帰町

浅之丞

博奕参会致し不届<sub>ニ</sub>付

美濃職人町尾谷屋

五十敲之上帰町

左吉

右同断不届<sub>ニ</sub>付五十敲之上

当町帳外もの

御城下立去り

嘉市

一当月五日御裁許御座候広原分佐七下人盗人新七敲并同十五日御裁

許有之候中島村平八伴政治敲今日御裁許之三人之もの共敲来廿六  
日<sub>ニ</sub>取計候旨御用番并大目付<sub>江</sub>相届候

一 中ノ町玉野屋助三郎義所持之家屋敷表口七間裏行拾七間但御役老

軒半役右之家屋敷去午ノ年三月相願西今町綿屋金兵衛方<sub>江</sub>質物書

入銀札老貫五百匁借受候処此度元利相払請返候間断書を以届出承

置ク

一式丁目三輪屋藤助義坪井町肥佐屋儀八持来候古道具屋株当丑ノ三

月<sub>ハ</sub>来ル午ノ二月迄五ヶ年之間借受商売仕度元魚町福吉屋伝吉請

人<sub>ニ</sub>罷立定法相守可申旨願書指出承届ル

一 東新町橋本屋甚左衛門義撰州能勢郡妙見宮<sub>江</sub>参詣仕度来ル廿六日

出立往来十五日計逗留仕度旨願書指出承届四月十一日帰ル

一 右同町ゆけ屋すミ義当丑七才<sub>ニ</sub>相成幼年<sub>ニ</sub>付今度久世村原方和助

義美父<sub>ニ</sub>付当年<sub>ハ</sub>戌年迄拾ヶ年間右和助方<sub>江</sub>逗留仕度願書指出承

届ル

一 生蠟五十斤入四包今般御用<sub>ニ</sub>而川下取計候間裏書取計候様安田伝

治<sub>ハ</sub>手形相廻シ則裏印取計相廻ス

三月廿四日 晴

一 今日他行致候<sub>ニ</sub>付十郎左衛門相頼置

一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助<sub>与</sub>申もの老例年之通墨筆白粉売

<sub>ニ</sub>昨日参候<sub>ニ</sub>付逗留為仕度元魚町延屋三治宿切手差出ス四月十二

日帰ル

一 大坂天神橋筋南河原町目鏡屋平兵衛手代清兵衛<sub>与</sub>申もの老例年

之通目鑑売<sub>ニ</sub>昨日参候<sub>ニ</sub>付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿

切手差出十二月十四日帰ル届

五十敲之上帰村

政治

一 檜村芝居今日限<sup>ニ</sup>而相濟候旨且亦明日今野田村<sup>ニ</sup>而芝居興行有之候由目明申出候<sup>ニ</sup>付猶又右場所<sup>江</sup>罷出候様申付ル

百敲之上帰町

浅之丞

一 院庄村勇左衛門義牢番預ケ申付候<sup>ニ</sup>付立会差出候様郡代所分申来庄藏罷出取計相濟候旨届出ル

五十敲上之帰町

左吉

三月廿五日 曇

一 深信院様大隅宮御参詣夫今天神鍛冶場橋御渡被成土手通り二宮<sup>江</sup>御参詣御帰懸ケ徳守宮御参拜被成候旨種村登門今通用有之右之段

五十敲之上御城下  
立去り

嘉市

大年寄出番へも申達ス

右之通取計相濟候旨届出ル且又左之通大年寄宅<sup>ニ</sup>而申渡立会小

一 御先弘文蔵幸治罷出無滞相濟候旨届出ル

頭代藤四郎部屋目付榮治

右浅之丞組合

一 盗人新七盗取候品郡代<sup>ニ</sup>而取上ケ先頃相廻候<sup>ニ</sup>付今日右請取書相廻ス

追込七日

清次

一 明日敲取計候間右之手当致置候様小頭<sup>江</sup>申付置ク

佐介

一 東新町銅屋善五郎儀持病氣<sup>ニ</sup>付奥津へ入湯仕度来ル廿六日出立<sup>ニ</sup>

清介

而往来十六日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷帰度旨願書差出承届ル不快<sup>ニ</sup>付四月

藤七

十九日帰ル届

作次郎

三月廿六日 朝小雨曇

追込五日

右同人隣家 忠右衛門

一 昨日申達置候通今朝敲取計出役之面々左之通

同 三日

同町年寄月番源右衛門

御徒目付妹尾周平 下目付組彦人

同 七日

福渡町 伊兵衛

小頭代藤四郎 部屋目付榮治 出番幸治和四郎

右之段取計相濟候段御用番極人殿大目付半平へ相届

広原分佐七下人盗人

一 筑前遠賀郡柏原浦小平次手代恵吉と申もの彦人例年之通茶碗売<sup>ニ</sup>

百敲之上御領分追扨

新七

昨日参候<sup>ニ</sup>付逗留為仕度旨京町小文字屋太兵衛宿切手差出四月廿

中島村平八悴

九日帰

一 盗人新七引合之町方之もの共夫々叱申渡被盜物左之通夫々江相渡  
取計相濟候旨大年寄分相届

銀札六拾三匁三分小倉帯一筋  
木綿わた入売つ

小倉島紙入売つ

金さし壹本

小倉島紙入売つ

島財布売つ

も、引一羽折紐一筋

三月廿七日 晴風

一 福渡町岡屋万五郎儀備前国上道郡四番村甚兵衛悴常吉当丑廿七歳

此度役介ニ引受相応之渡世為仕度住宅之儀願出尤向方且那寺并村

役人別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達同廿九日住宅証文出ス

一 惣豆腐屋共八百屋平吉今大豆高直ニ付是迄迄挺ニ付式拾壹文売之

処式拾式文売ニ仕度旨願書差出伺之上聞届申達尤郡代江も通用に

およふ

一 孤独扶持三ヶ月仕切証文表銀札百三拾匁七分七厘六毛八右奥書印

形取計大年寄へ渡ス

一同二月より壹人分銀札六匁七厘九毛五同様奥書印形取計

一同内貸拾式人分九拾匁之証文奥印取計相渡ス

一 下紺屋町原田屋利兵衛儀和州大峯山江參詣仕度往来三十日計逗留

罷帰申度留主中頭役之義者藤屋甚介ニ為相勤可申旨願書差出

承届四月廿六日帰ル

一 舟頭町瓜生原屋平兵衛所持之船株壹艘此度町内熊野屋鶴吉江相讓  
申度株札名面書替候様願書差出承届

一 右同町川口屋三九郎所持之船株此度町内熊野屋鶴吉へ相讓り申度  
名前付替之儀願書差出承届

一 右同町高松屋利助所持之船株壹艘此度町内米屋左吉江讓り申度株  
札名面書替之義願書差出承届

一 式町目道具屋兵吾所持之古道具屋株去ル享和三亥六月相願伏見町  
和氣屋万吉へ貸置候処此度勝手ニ付取戻し申候旨願書指出承届

一 戸川町福寿屋新吉儀新魚町福本屋多兵衛持来候古道具屋株当丑三  
月今来ル午二月迄五ヶ年之間借受商売仕度上紺屋町今尾屋栄吉請

人ニ罷立候旨願書差出承届ル

三月廿八日 快晴

一 御用日ニ付登城

一 下野田村并黒坂村芝居興行之義御両所江及御沙汰置ク

一 夏秋足袋相用申度金井長平を以伺書差出候処伺之通被仰出候旨同  
人今通用有之

一 西今町広瀬屋佐助儀東北条郡成安村源吉役介とも当丑拾六歳此度

借屋ニ居申候内田屋兵藏養女ニ貫請申度町内人別人願書差出承届

一 細工町年寄さし物屋長左衛門義悻平次立願有之大峯山江參詣為仕  
度往来三十日計之逗留ニ罷帰り申度願書差出承届四月廿六日帰

ル

一 牢舎扶持揚屋賄料内貸証文差出奥印取計小頭江相渡

一 上河内村寺院ニ芝居有之候由ニ付目明差出候様郡代今通用有之

候ニ付目明罷出候様小頭へ申達ス

三月廿九日 雨

一 福渡町年寄源右衛門義今朝追込差免候処其段申渡候旨大年寄々届出候ニ付御両所江御届申達ス

一 安岡町橋留屋喜代松義借屋ニ居申候菱川屋利八与申もの和州大峯山江廿日計之逗留ニ而参詣為仕度願書差出大年寄承届候旨当人の願書出ス四月廿四日帰ル

一 牢舎五三郎伊勢松喜七呼出候間立会申付候様郡代より申来幸治罷出出入取計候旨届ル

一 今朝牟 取計候処別条無之旨昼廻り藤四郎嘉七罷出相届ル

一 坪井町静虎屋利兵衛儀立願ニ付和州大峯江参詣仕度往来廿日計之逗留ニ而罷帰申度願書差出大年寄承届候旨当人願書差出四月廿六日帰ル

一 元魚町紙屋多兵衛義立願ニ付和州大峯江参詣仕度往来三十日計之逗留ニ而罷帰申度願書差出大年寄承届候旨当人願書差出四月十八日帰ル

一 例月之通番賃銀相渡ス

四月 辛巳 大

御家老 山田主膳殿  
御年寄 海老原極人殿  
大目付 黒田忠三郎

大年寄 斎藤孫右衛門  
諸吟味 宮田喜左衛門

四月 甲寅 旦 晴

一 孫右衛門義当月月番相勤候旨罷出候ニ而相届

一 細工町大工音兵衛借屋住孤独市平儀病氣之処養生不相叶死去仕候段届出候ニ付勝手次第取片付致候様申付ル尤右之段御用番并大目付江も相届ル

一 坪井近辺仙台与申所ニ而芝居有之候旨小頭分申出候ニ付目明罷出候様申付ル

一 院庄川満水ニ付舟渡相留候旨郡代分申来則大年寄江申達ス

四月二日 快晴

一 福渡町浅之丞隣家忠右衛門追込今朝差免候段大年寄江申達候処申渡取計候旨届出候付其段御用番并大目附へ相届ル

一 牢舎万助仁介熊吉幸吉作兵衛悍虎蔵呼出候ニ而其後五三郎伊勢松喜七呼出致吟味候旨立会申付候様申来嘉七罷出出入取計候旨申出ル

一 目明并非人扶持請取証文差出例之通奥書調印大年寄江相渡ス

一 目明罷出仙台芝居延引ニ相成候旨届出ル

一 西今町中直屋善吉儀娘ふさ当丑三十三才同孫けん拾壹歳右両人共御代官所当国内大庭郡久世村福富屋藤兵衛妻子ニ差遣申度当方支配相離町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一 東新町錢屋平兵衛儀町内玉屋伊左衛門所持之自国請酒株当丑四月

今来寅三月迄<sup>ケ</sup>年之間借請商売仕度願書差出承届

一上之町七之助神戸村十太郎牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代<sup>ハ</sup>申来り嘉七罷出取計候旨届出ル

但神戸村十太郎義年若之もの<sup>ニ</sup>付牢屋頼賄<sup>ニ</sup>致度尤半賄<sup>ニ</sup>取計呉候様申来其段申付ル

一下紺屋町福藏橋本町後藤屋仙藏伏見町横丁藤十郎右之もの共郷中博奕差口之者<sup>ニ</sup>付組之もの<sup>ニ</sup>和四郎嘉七差向候処右三人之もの共左之通申出

外<sup>江</sup>罷出候<sup>ニ</sup>付尋申付

下紺屋町 福藏

(非御免之ものにて當時不届合候ニ付申付)

橋本町後藤屋仙藏

他所もの<sup>ニ</sup>付当所人別<sup>ニ</sup>無之由

伏見町横丁 藤十郎

四月三日 快晴

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一人別除願書等申上候計<sup>ニ</sup>而 外御用無之

一東新町岩屋文藏儀去正月裏堀<sup>ニ</sup>式間階子かけ候<sup>ニ</sup>付其節相届候右階子上之町<sup>ニ</sup>有之候<sup>而</sup>郡代所<sup>江</sup>も届出候由<sup>ニ</sup>付階子相渡候様申付ル

一二ノ宮<sup>ニ</sup>而 去年正月御供焼部屋<sup>ニ</sup>而 色々紛失物之内羽釜丸<sup>ニ</sup>二つ

引吹屋八左衛門其節買取候由<sup>ニ</sup>而 届出候然ル処今日大目付中<sup>ハ</sup>猶

又右吹屋買取候哉之段被相尋候付取調候処先達<sup>而</sup>届出有之候<sup>ニ</sup>付追<sup>而</sup>右之段大目付<sup>江</sup>相達可申事

四月四日 快晴

一今朝左之もの共追込差免候段大年寄<sup>江</sup>申達候処申渡取計候段相届

候<sup>ニ</sup>付御用番并大目付<sup>江</sup>も相届

福渡町福渡屋浅之承組合

清次郎

左介

清助

藤七

作治郎

右同町異名伊之源事

伊兵衛

四月五日 快晴

一今日九つ半時<sup>ハ</sup>左之もの共呼出及吟味立会之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付栄治 出番文藏幸治

大年寄孫右衛門 諸吟味喜左衛門

呼出之もの共左之通

橋本町 藤助

東新町紺屋 万治

同町鍛冶屋 宇兵衛

一御敷之竹之子拔取間敷之旨惣町<sup>江</sup>触流差出并□□□非人頭<sup>江</sup>申達候様是又大年寄へ申達書<sup>ニ</sup>而 申遣ス

一桶屋町竹田屋文吉儀兄平吉義当丑五拾八歳<sup>ニ</sup>罷成申候此度摂州大

坂京町堀難波橋筋南詰のほり屋平四郎方へ役介<sup>ニ</sup>差遣申度当所支

配相離町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス  
一元魚町河内屋与七儀借屋もの作人丈右衛門当丑六拾八才此度三浦

志摩守殿御領分真島郡一色村平七<sup>与</sup>申もの縁類<sup>ニ</sup>付右平七方へ引

越申度当所支配相離町内人別差除候様願書差出窺之上聞届申達

一 細工町作人幸助儀立願ニ付千ヶ寺參詣仕度当月六日出立ニ而卯十

二月迄三ヶ年之間相廻り罷帰申度尤留主中家役諸用之儀者塩田屋

和介請込申候旨願書差出承届同日延願出ス

一 西新町久米屋清助義中之町秋田屋宗兵衛所持仕候自国請酒株去子

三月相願借請商売仕居候処限月ニ付当亦当丑四月ハ来ル寅ノ三月

迄借受商売仕度願書差出承届

一 桶屋町竹田屋文吉義弟権吉去子三月四国遍路罷出百五十日逗留其

後五十日之追願又候百日之日延相願居候得共以今様子相知不申仍

而今七十日之日延願書差出承届

一 京町小文字屋太兵衛儀京都西六条花屋町よしや吉兵衛と申もの当

所用事有之昨日參り候ニ付三十日計逗留爲仕度願書差出承届

一 山本三郎左衛門義林田村弥右衛門家屋敷家財共質物ニ書入銀札六

百目寛政十一未年貸渡同申年今当丑年迄三割六年賦ニして返済可

申証文表之処去ル酉年今亥四月迄三百九拾目返弁仕其余相滞候旨

急ニ筋立候様願書差出郡代江相廻し置

四月六日 晴風

一 今九半時分左之もの共呼出口書取極印形取之立会之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番栄治源藏

大年寄孫右衛門 諸吟味喜左衛門

東新町鍛冶屋 宇兵衛

同町 紺屋 万治

橋本町 藤介

右之もの共入牢申付候段申渡尤右之段御用番極人殿大目付忠三郎  
へ相届

一 安岡町久米屋弥市義伯父岩吉立願有之候ニ付西国願札仕度左候ハ

、明後七日罷立往来九十日計逗留ニ而罷帰申度願書差出承届六月

廿七日帰届

一 元魚町二文字屋清次郎儀所持之家屋敷表口七間六寸裏行拾七間但

御役式軒役右之家屋敷鋪并立具家財土藏三ヶ所共不残此度質物ニ

書入吉屋清藏取次ニ而當丑盆前今式割志歩半宛毎年相払来ル未ノ

盆前迄七年賦ニ相極銀札拾貫三百目借請申度願書差出承届同日質入

文化五辰年八月十五日元利返済シ請戻し之断書差出ス

一 舟頭町今岡屋熊吉儀所持之家屋敷表口三間裏行六間三尺御役志軒

役右家屋敷代銀札式百目ニ相究町内粉村屋伊介江売渡申度願書差

出承届四月廿三日家売券差出

一 今日入牢もの式人差添栄治和四郎罷出取計候旨相届尤上田邑村北

佐助倅松治牢番預ケニ付立会差出候様申来右兩人立合取計候旨相

届ル

四月七日 快晴

一 今早朝小頭利右衛門呼出左之もの共三人今度番代申付候間呼出候

而可申渡候尤申渡書三人とも同様左之通

存寄有之ニ付番代申付候御用立候もの 神田栄治

早々可願出候 江原文藏

本島庄藏

一 右之段申渡候処恐入奉畏候旨小頭利右衛門部屋目付藤四郎届出

一嘉七儀当分小頭并部屋目付助申付尤立合下役新左衛門

一小頭利右衛門<sup>江</sup>申渡立合下役新左衛門小頭部屋目付代嘉七

兼々申付方不宜所より相組不締<sup>ニ</sup>付 堀内利右衛門

不埒之段申渡追込申付

一部屋目付藤四郎<sup>江</sup>申渡立合右同断

申渡大鉢右同様<sup>ニ</sup>而 三船藤四郎

追込申付ル

一同心組三人今朝罷出候様大目付<sup>江</sup>申遣候所無程左之もの共助として罷出 山形林蔵 山本治三郎 寺坂兵治

一今朝組之者三人番代申付候義御用番極人殿へ罷越候<sup>而</sup>及御沙汰置尤申上候義<sup>ニ</sup>も無之候得共役所不平之事故内々御聴<sup>ニ</sup>入候旨申述置右之段同様大目付忠三郎へも及噂置ク

一郷中博奕之もの牢舎拾四人呼出候間立合差出候様十郎左衛門今申来和四郎罷出候<sup>而</sup>取計候旨届出ル

一上紺屋町烏羽屋源十郎儀借屋<sup>ニ</sup>居申候かね義先月<sup>〇</sup>不斗罷出候<sup>ニ</sup>付方々相尋候得共一向行衛相知不申候<sup>ニ</sup>付届出例之通百日尋申付置ク七月廿三日人別除

一西新町伊崎屋重右衛門義弟弥市此度大坂本町扇屋忠助方へ当丑四月今来ル卯ノ年迄三ヶ年之間奉公<sup>ニ</sup>差遣申度願書差出承届辰ノ四月今午歳迄追願いたし承届ル同午十一月十一日方向<sup>ニ</sup>而去月廿九日病死いたし候段届書差出承置

四月八日 晴

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一去子正月吹屋町吹屋八左衛門義羽釜壺<sup>〇</sup>買取候処<sup>ニ</sup>ノ宮社中盗もの<sup>ニ</sup>而其節為相札候<sup>而</sup>口書取置候然ル処盗人召捕不申候<sup>ニ</sup>付是迄其俣差置候得共今度猶又被盗人より寺社取次<sup>江</sup>申出候<sup>ニ</sup>付被盗人<sup>江</sup>相渡可然旨伺書を以口書共<sup>ニ</sup>差出候処何之通相渡候<sup>而</sup>可然被仰出候<sup>ニ</sup>付被盗人へ相渡し候様申付ル

一元魚町玉島屋音右衛門義所持之家屋敷表口四間裏行三間御役式歩五厘役右之家屋敷野屋茂一郎取次<sup>ニ</sup>而質物<sup>ニ</sup>書人来ル十一月切壺ヶ月壺歩半つ、之利足<sup>ニ</sup>而借請申度願書差出承届同十日質入証文出ス

一下紺屋町作人太郎兵衛義真言宗当国内真島郡山上村普門寺且那<sup>ニ</sup>候処遠方<sup>ニ</sup>而当所愛染寺且那<sup>ニ</sup>罷成申度尤両寺納得之上<sup>ニ</sup>而願書差出宗旨奉行<sup>江</sup>引合之上聞届申達

四月九日 雨

一東新町作人愛吉義今朝勝間田町横丁<sup>ニ</sup>而百匁札壺枚拾ひ候由<sup>ニ</sup>而届書を以右銀札差添届出

一中之町玉野屋助三郎儀所持之家屋敷表口五間裏行十七間御役壺軒壺歩七厘右之家屋敷式丁目龍田屋茂兵衛取次<sup>ニ</sup>而質物<sup>ニ</sup>書入銀札壺貫五百目来ル丑極月切利足壺ヶ月壺歩式朱つ、<sup>ニ</sup>而借請申度願書差出承届五月三日質入証文差出ス

一林田町作人伝右衛門儀借屋<sup>ニ</sup>居申候塚屋かめ当丑三十九歳今度北島甚平長屋へ引越申度町内人別差除候様願書差出候<sup>ニ</sup>付承届

一百目札拾ひ候もの有之候間市郷触流差出候様大目付中被申聽郡代  
も及通達町触差出

四月十日 晴昼前地震

一百目札拾ひ候もの有之候ニ付落し候もの有之候ハ、可申出大目付  
廻状来組中江 相達候様小頭江 申達ス

四月十一日 晴

一西今町柳屋左兵衛儀同町松尾屋源八後家所持之旅籠屋株当丑年分  
来ル巳ノ年迄五ヶ年之間借請候 而 商売仕度願書差出承届

一船頭町瓜生原屋弥吉義大久保安芸守殿領分当国内久米南条郡押  
測村甚七悴常八当丑四十五才同人妻みわ三十七歳此度役介ニ引請  
申度住宅之儀願出尤向方村役人別昏差越候旨願書差出伺之上承届

四月廿三日住宅証文差出

一小性町鳥屋与市義借屋もの権兵衛宿願ニ付四国遍路為仕度左候ハ  
、来ル十三日出立往来式百日計之逗留ニ 而 罷帰申度願書指出承届

七月廿四日帰ル届

一新魚町藁屋定吉借屋もの伯耆屋太兵衛家内三人右多兵衛当二月妻  
子残置不斗罷出候付心懸之処方々相尋候得共相知不申兼 困窮ニ  
罷有候ニ付無擲出奔仕哉依之届書を以届出例之通百日尋申付置ク

七月廿三日人別除

四月十二日 快晴

一今朝左之面々追込差免候ニ付下役新左衛門小頭部屋目付助嘉七立  
合 小頭 堀内利右衛門  
部屋目付 三船藤四郎

一嘉七儀小頭并部屋目付助申付置候処右助差免候段新左衛門立会申  
渡ス

一船頭町倉敷屋長五郎義森河内守殿領分播州佐用郡金谷村嘉吉悴勇  
藏当丑式拾八才此度役介ニ引受申度住宅之儀願出尤向方且那寺并  
村役人別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス四月廿三日住宅証  
文出ス

文出ス

一下紺屋町大工権次後家儀悴治助当丑式拾八才然ル処去ル二日之夕  
相尋之儀有之候 而 呼出候之処去月廿六日吉ヶ原辺迄罷越候ニ付親  
類組合共方々相尋候得共一向相知不申候ニ付届書を以届出候尤博  
奕差口之ものニて福藏事当時治助与相改候旨大年寄申出ル

一中之町甲屋幸助儀去ル八日之夕商用ニ 而 西町江 罷出帰かけ土手通  
り勝間田町横丁分罷帰り十日之朝銀札入用之義有之候 而 紙入見候  
処一百目札壹枚無御座相考候得共何方江も渡候儀無之御触流有之候  
落し銀札私落し候義 奉存候尤新銀札ニ 而 印者 留不申候ニ付請取  
先相尋見申候処屋百式六与有之候様覚申候旨届書を以届出候ニ付  
伺書相認差添御用番中江 差出ス

四月十三日 昼後雨

一御用日ニ付登城

一東新町作人愛吉銀札拾候段届出右之段触流等も有之候処中之町甲  
屋幸助落し候旨届書を以落候始末并銀札印等申出候ニ付落候儀明  
白ニ付差遣可申哉是迄割合等拾人江 遣候御定無之候得共落切手同  
様四歩一割合遣候 而 可然哉之旨伺書を以相伺候処伺之通四歩一割  
合拾人江 差遣候様被仰出其段大年寄江 申達ス

一御用日ニ付登城

一東新町作人愛吉銀札拾候段届出右之段触流等も有之候処中之町甲  
屋幸助落し候旨届書を以落候始末并銀札印等申出候ニ付落候儀明  
白ニ付差遣可申哉是迄割合等拾人江 遣候御定無之候得共落切手同  
様四歩一割合遣候 而 可然哉之旨伺書を以相伺候処伺之通四歩一割  
合拾人江 差遣候様被仰出其段大年寄江 申達ス

一今朝左之面々追込差免候ニ付下役新左衛門小頭部屋目付助嘉七立  
合 小頭 堀内利右衛門  
部屋目付 三船藤四郎

一今朝左之面々追込差免候ニ付下役新左衛門小頭部屋目付助嘉七立  
合 小頭 堀内利右衛門  
部屋目付 三船藤四郎

一 勝間田<sup>ニ</sup>而 明日芝居興行仕候由<sup>ニ</sup>付郡代申談候<sup>而</sup> 目明差遣候  
旨御用番中并大目付へも及御沙汰候

一 桶屋町綿瀬屋甚助義悱忠吉当丑式拾歳去々歳元魚町中野屋佐助後  
家養子<sup>ニ</sup>差遣候<sup>而</sup> 林田村<sup>江</sup>引越居申候処右忠吉儀離縁仕差戻候<sup>ニ</sup>  
付又々町内人別差加へ候様願書差出承届

一 船頭町山北屋伊兵衛儀林田村源藏娘くま当丑十九歳此度借屋<sup>ニ</sup>居  
申候粉村屋伊助妻<sup>ニ</sup>引請申度願書差出承届

一 西新町伊木屋宗五郎義所持之家屋敷表口式間半裏行十七間御役三  
歩役右之家屋敷代銀札六百匁<sup>ニ</sup>極メ同町住田屋忠兵衛<sup>江</sup>壳渡申度  
願書差出承届

一 山本三郎左衛門義林田村弥右衛門<sup>江</sup>懸り滞借物願書差出候<sup>ニ</sup>付郡  
代所へ相廻置候処同人代人<sup>ニ</sup>而 明日八つ時郡代所<sup>江</sup>差出候様申  
来其段大年寄<sup>江</sup>申達ス

一 一ノ宮市町中田植祭当日たり共参間敷旨御触書来組中<sup>江</sup>触書差出  
ス

四月十四日 雨

一 郡代所今日差支有之候<sup>ニ</sup>付山本三郎左衛門呼出之義延引致度旨申  
来候<sup>ニ</sup>付其段大年寄へ申達ス

一 帳外字助義博奕携<sup>ニ</sup>付郡代所<sup>ニ</sup>而 相札候処林田上之町甚五郎後家  
方へ近年折々罷越逗留致候尤右字助東新町入帳もの<sup>ニ</sup>而 先年博奕  
参会<sup>ニ</sup>付出席致候もの之由右引合船頭町船本屋左助東新町相札候  
様郡代より申来候<sup>ニ</sup>付其段大年寄へ申達置ケ

一 明十五日十六日両日溝見分有之候間可致出役旨小頭并部屋目付<sup>江</sup>

も相達候様申達ス

四月十五日 雨

一 今朝溝見分出役仕候旨小頭届出ル

一 吹屋町作人平藏義所持之家屋敷表口三間半裏行拾間半但御役本役  
右之家屋敷質物<sup>ニ</sup>書入銀札式百五拾目小性町鳥屋与市取次<sup>ニ</sup>而 来  
十月限借請申度願書差出承届同十月質入証文差出ス

一 東新町肥後屋長左衛門義塗椀商売仕度右<sup>ニ</sup>付当国之内真島郡郷原

村太左衛門<sup>与</sup>申もの当丑年より巳ノ年迄五ヶ年之間召抱右職方為  
仕度尤太左衛門家内六人一同逗留為仕職方為仕度願書差出承届  
文化七庚午二月廿七日右郷原へ差戻し候断書出ス

一 式町目林田屋幸治義所持之家屋敷表口壹間半裏行拾七間但御役三  
歩壹厘右之家屋敷代銀札七百五拾匁<sup>ニ</sup>相極同町野本屋甚藏<sup>江</sup>壳渡  
申度願書差出候<sup>ニ</sup>付聞届四月廿三日壳券状出ス

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助義借屋<sup>ニ</sup>居申候桔梗屋庄右衛門丑七  
拾九歳最早働等得不仕候<sup>ニ</sup>付此度西々条郡神戸村彦太郎方へ為引  
越申度町内人別差除候様願書差出承届

一 上紺屋町福本屋かん義借屋<sup>ニ</sup>居申候伊勢屋十藏義去子十一月廿九  
日咎中罷出程々相尋候得共行衛相知不申其段相届候処百日尋申渡  
置候処最早限日<sup>ニ</sup>相成候<sup>而</sup> 茂 一向行衛相知不申候段届書を以届出  
候<sup>ニ</sup>付猶又百日尋申付候

一 鍛冶町組頭共今般宗道宮再建立<sup>ニ</sup>付備前幸崎村大工宇三郎并弟  
子式人同所新六代吉豊藏メ四人町内鍛冶多三郎方<sup>ニ</sup>逗留為仕度願  
書差出承届

一 福渡町大工伝次義弟左吉当丑三十六才此度勝手ニ付当国之内大庭

郡久世村島屋忠兵衛方へ当丑年より卯ノ十二月迄<sup>三ヶ</sup>年之間奉公

ニ差遣申度願書指出承届寅三月二日帰届

一 上紺屋町備前屋庄兵衛儀土井大炊頭殿領分当国之内久米南条郡高

尾村十蔵娘きり当丑三拾壹歳然ル処此度養女ニ引受申度住宅之儀

願出尤向方且那寺并村役人別昏差越候ニ付願書差出伺之上聞届申

達ス四月廿三日住宅証文差出ス

一 福渡町阿賀屋伝吉家守作人林蔵義雲州意宇郡古志原村芳兵衛悻喜

太次当丑三拾四才同人妻りき廿八才同人娘八歳同人悻安吉六才同

人弟清吉三拾一歳メ五人役介ニ引請相応之渡世為仕度住宅之儀願

出尤向方且那寺并村役人分も別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申

達ス同廿四日住宅証文差出ス

一 帳外字助引合之もの船頭町船本屋口上書并東新町年寄口上書両通

大年寄持参差出候ニ付披見之上郡代所<sup>江</sup>相廻ス

四月十六日 雨

一 明十七日一ノ宮田植祭ニ付組之もの差出候旨大目付<sup>江</sup>相届

一 昨今両日溝見分致候処申聞候程之義無之候得共少々ツ、之義夫々

申付候段左之面々届出候

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

小頭 堀内利右衛門

部屋目付 三船藤四郎

一 明日一ノ宮出役小頭利右衛門平組藤四郎幸治罷出候旨届出ル

四月十七日 昼後晴

一 深信院様明十八日五半時御供揃泰安寺妙法寺へ御参詣被仰出候旨

種村登門分申来夫々<sup>江</sup>申達ス

一 西新町伊崎屋重右衛門義借屋ニ居申候弥七娘さと当丑五歳此度土

岐山城守殿領分当国之内英田郡川北村幸吉方へ養女ニ遣申度町内

人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一 橋本町中屋忠七儀土岐山城守殿領分当国英田郡平野村源右衛門姉

りよ七拾八歳りよ娘かね四拾式才右式人此度借屋ニ居申候平野屋

与八郎役介ニ引請申度住宅之儀願出尤向方村役人分も別昏差越候

旨願書差出伺之上聞届申達ス五月十三日住宅証文出ス

一 下紺屋町長右衛門後家守武助義娘さき当丑拾壹才此度脇坂中務

太輔殿御預り所当国久米北条郡宮尾村百姓幸助方へ養女ニ差遣申

度当所支配相離町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一 西今町礪屋勘次義所持之家屋敷借家表口式間裏行拾五間但御役式

歩八厘役右之家屋敷此度質物ニ書人同町神田屋宇兵衛取次<sup>ニ</sup>而銀

札四百匁当丑四月分来ル十二月切<sup>ケ</sup>月壹歩式朱之利足ニ相極借

請申度願書差出承届同廿二日質入証文出ス<sup>文化七庚午八月元利 返清請戻し届出ル</sup>

一 山本三郎左衛門代人明日八つ時後差出候様郡代分申来大年寄<sup>江</sup>申

達ス

四月十八日 雨

一 御用日ニ付登城

一 博奕一件之もの共御裁許之義口書差添伺書差出置<sup>ケ</sup>

一 山本三郎左衛門名代上田屋久平郡代所へ罷出候処今日も延引可然

旨申来候ニ付其段大年寄江申達ス

一 桶屋町水内屋半八義御領分下高倉村市右衛門義当丑三十三歳此度

養子ニ仕度人別人願書差出承届

一 油方年行事中江岩屋文蔵油方常盤屋丈右衛門分油直段是迄壹升四

匁四分売之処大坂油下直ニ相成候ニ付壹升ニ付三匁九分売仕候旨  
承出承置

四月十九日 雨

一 久世御代官山田常右衛門殿大坂表十七日出立ニ而来ル廿一二日頃

当所御止宿ニ相成候旨久世陣屋へ足輕躰之もの罷越右之段申聴人

足馬等数も承候由ニ而問屋分書付差出候由ニ而大年寄罷出申聞候

ニ付夫々手配等申付置ク尤右之段御用番極人殿へ罷越先例之通書

付を以相候之処伺之通取計可申旨御申聴夫より大目付黒田忠三

郎へ罷越右之段申達候処今度御止宿候ハ、先例之通当役自分伺ニ

御泊宿へ罷越可申旨被仰出候間右之通相心得可申旨被申聞候

一 中之町小山屋与三右衛門義所持之旅人宿屋株去々亥ノ八月相願坪

井町川原屋治助へ預置候処此度取戻し申度旨願書差出承届

一 右同人義所持之旅人宿屋株此度式町目龍田屋茂兵衛へ相譲り申度

双方連印願書差出承届

一 坪井町川原屋治助義中之町秋田屋宗兵衛所持之旅人旅籠屋株当丑

歳分来寅ノ年まで借請旅籠屋渡世仕度願書差出承届

一 元魚町笹屋友治義所持之旅人宿屋株五ヶ年已前酉年相願町内松江

屋勝左衛門へ預置候処此度取戻し申度願書差出承届ル

四月廿日 折々雨

一 久世御代官山田常右衛門殿先触到来ニ付右写差出御用番江差出大  
目付中へ及通用

一人足四拾弍人

及暮候所ニ而人足三人増 同人手代上下五人

一馬 九疋

上下弍拾四人

十七日大坂出立ニ而廿日土居廿一日津山

山田常右衛門手附

安藤利八郎

同人手代 堀川定兵衛

一 右御宿川口藤左衛門江申付置候処手狭之様子ニ付玉置源五兵衛へ

御宿申付右之段大年寄伺出候ニ付其旨取計候様申付ル

一 御省略中ハ若党老人之御足之処老入若党如何之ものニ付十郎左衛

門分大目付江申立候処此度若党式人召連可然旨被仰出候段十郎

左衛門分通用有之

一 久世御代官山田常右衛門殿今夕土居泊ニ而明廿一日当町止宿ニ相

成候旨先触到来ニ付院庄川江船差出候間船年寄老入裁許人老入罷

出候様可申達旨御船奉行小島定人分申来其段大年寄へ申達ス

四月廿一日 快晴

一 院庄川満水ニ而船渡相留り候旨郡代所江届出候処十郎左衛門出役

ニ付右之段御用番中并大目付江当役より相届ル

一 今日山田常右衛門殿当所止宿ニ付組之もの役割左之通

廿日 御先弘和四郎林蔵 夜中九つ時迄相詰廿日 御先弘幸治兵治

一 右御止宿ニ付当役自分伺罷出八半時供揃申付供立左之通

挑灯持調場 自分步行若定七 草箱取 合羽籠何も調場中

一 立宿斎藤孫右衛門宅江 罷越候処七半時頃常右衛門殿着被致候旨届

出候然ル処無程罷出候而 可然旨浜野屋源五郎致案内御宿玉置源五

兵衛方へ罷越候処手付安藤利八郎出迎候ニ 付名札差出常右衛門様

長途御勇健御旅行被成今日当所御止宿ニ 付相伺候旨御用等も有之

候ハ、可被仰聞旨相述候処入御念候御義常右衛門江 加申聴由ニ 而

相扣居候所直様罷出常右衛門江 申聞候処入御念御出忝可懸御目候

処唯今甚取込居候ニ 付無扱及御断候今夕者 当所止宿仕候ニ 付何分

御心被添被下候様御頼申候由右相濟候而 利八郎へ相応互ニ 及挨拶

御同役方江 も未不懸御目候得共宜頼入候旨申述罷出候所式台迄相

送罷帰ル夫より又候斎藤孫右衛門宅へ立寄院庄川留ニ 付明朝出

立ニ 候ハ、右等之手配り等申付罷帰ル尤帰かけ大目付忠三郎江 罷

越致逢談院庄川留ニ 付夫々手配り之旨申談夫々御用番極人殿へ出

役仕候段申置候而 六つ半時頃帰宅

一 左之通先例取調相伺候処伺之通取計候様御用番極人殿御申聞御宿

玉置源五兵衛

一 道筋不及掃除不見苦程ニ 可申付

一 保頭先払 問屋人足分

一 同心組先払 御着和四郎林藏 御立幸治兵治

一 御旅宿脇夜中出張同心組

一 御宿隣町五町夜廻り 堺町京町二階町新魚町小性町

一 大年寄忝人御旅宿江 伺ニ 罷出ル 蔵合孫左衛門

一 御宿町年寄忝人右同断 稲実屋義七郎

一 町医兩人在宿 跡見春鷗 富沢伴水

一 出火之節退場 本源寺 大信寺

一 当役自分伺ニ 罷出候様今度被仰出候

右之通相伺候処伺濟

一 院庄川水干落候ニ 付船渡相始候段郡代より申来則大年寄江 申達又

今朝常右衛門殿出立手配致置候処右ニ 付不及其儀候事

一本陣詰野屋茂一郎野々口屋七郎右衛門浜野屋源五郎申付候旨大

年寄申出ル

四月廿二日 快晴

一 東新町飯綱屋石右衛門義脇坂淡路守殿御預り所当国之内勝南郡堂

尾村市右衛門当丑六拾五歳同人妻かせ五十九才悴庄助三拾四歳弟

兵吉廿七歳右四人役介ニ 引請申度住宅之儀願出尤向方且那寺并村

役人分も別昏指越候旨願書差出伺之上聞届申達又七月廿八日住宅

証文出ス

一 今朝五つ時頃御代官山田常右衛門殿出立町分無滞通行相濟候旨御

先払幸治兵治分相届ル

一 右無滞出立相濟候旨大年寄罷出相届

一 右出立相濟人馬継立無滞相濟候段宮田喜左衛門分当番江 手替ニ 而

相届

一 右出立町分無滞通行相濟候段御用番并大目付へ相届ル

一 御奏者廻状到来去ル八日大守様御機嫌能御着府被遊候依而 御徒格

已上并御目見相濟候部屋住迄為御欽明廿三日四つ時登城仕候様御

状来

一 右之段大年寄并小頭<sup>江</sup>も申達ス

一 山本三郎左衛門義林田村孫右衛門<sup>江</sup>懸り滞銀之儀訴状差出候<sup>ニ</sup>付先達<sup>而</sup>郡代へ相廻置候処今昼呼出<sup>ニ</sup>付大年寄差添罷出候様申達置候処御用屋敷へ罷出双方呼出相札候<sup>而</sup>三十日限濟方申付候段大年寄<sup>ハ</sup>届出ル

四月廿三日 快晴

一 四つ時麻上下着用登城

一 七間廊下<sup>ニ</sup>而例之通大目付三奉行一統御小性頭代り黒田忠三郎へ御機嫌能御着府被成候恐悦謁申上ル御前様<sup>江</sup>も同様恐悦申上ル

一 目明助田中屋源吉へ申付候旨小頭<sup>ハ</sup>申出尤当人罷出候旨当番申聞候

四月廿四日 晴

一 三浦志摩守殿為御參勤来月十一日御在所後発足同夕当所御泊り之旨先触兩通到来致候旨右先触写大年寄<sup>ハ</sup>差出ス尤御本陣先触玉置源五兵衛<sup>江</sup>之先触<sup>一</sup>状問屋先触兩通来ル

本馬式拾疋 内三疋五月九日出立

一 右先触之趣御用番并大目付へ相届追<sup>而</sup>御取扱等取調可相回事

一 御作事奉行松尾門助<sup>ハ</sup>新魚町初五郎夫役今日迄<sup>ニ</sup>而日数五十日相濟候旨通用有之

四月廿五日 雨

一 新魚町三巴初五郎儀昨日迄<sup>ニ</sup>而夫役五十日相濟候段大年寄<sup>ハ</sup>届出候<sup>ニ</sup>付右之段御用番中并大目付<sup>江</sup>も相届候

一 吹屋町北村屋源右衛門義持分之家屋敷表口式間六尺裏行拾式間半

但御役三步三厘三毛右之家屋敷戸河町吉田屋甚右衛門取次<sup>ニ</sup>而質

物<sup>ニ</sup>書入銀札百匁来寅ノ二月切<sup>ニ</sup>借用仕度願書差出承届五月廿二日質入証文出ス

一 茅町木屋幸八義借屋居申候福田屋定七娘くめ式拾歳此度御領分山北村清五郎妻<sup>ニ</sup>差遣申度町内人別除願書差出承届

一 一ノ宮出役嘉七并林蔵罷出候処無別条引取候旨届出ル

四月廿六日 晴

一 船頭町倉敷屋音吉儀一ノ宮市町<sup>ニ</sup>付大坂島之内万歳六人連<sup>ニ</sup>而參懸り神主<sup>ハ</sup>今世話被相頼候<sup>ニ</sup>付逗留中いか様之義出来候共引受埒明可申願書差出寺社取次引合之上聞届申達又同日一札差出

一 西新町樽屋勘右衛門義借屋<sup>ニ</sup>居申候二文字屋彦太郎当丑三十七歳此度勝手<sup>ニ</sup>付京都烏丸通六角下ル町二文字屋九兵衛方へ為引越申度当所支配相離町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達又

一 西今町北鳥羽屋たみ義林田村五郎兵衛借屋住かね当丑四十九才同人娘うせ二拾式才同きよ十五才同つね十式才右四人此度借屋<sup>ニ</sup>居申候山手屋宇助役介<sup>ニ</sup>引請申度町内人別入願書差出承届

一 西新町田野村屋宇助義役介文助<sup>与</sup>申もの当丑五十七才同人悴三之丞十七才此度林田上之町権太郎方へ引越させ申度町内人別除願書差出承届

一 福渡町板屋幸助後家義去々亥三月相願候<sup>而</sup>播州鶴村平井八郎右衛門方へ当丑二月迄式<sup>々</sup>年之間奉公<sup>ニ</sup>差遣置候処今般罷帰候<sup>ニ</sup>付届書を以届出承届

一 三浦志摩守殿来月御止宿<sup>ニ</sup>付左之品々拝借仕度書付玉置源五兵衛

差出追<sup>而</sup>大目付へ懸合可申事

一 御燭台十五 一 御手燭十 一 御水越壺つ但し布<sup>口</sup>

一 御椀家具廿人前 一 御縁取式十枚 一 御馬盥壺つ

一 銅桶三つ

四月廿七日 快晴

一 茅町田野村屋喜惣次義一ノ宮市町ニ付参懸り四人連大坂輕業芝居

神主今世話被頼候付罷越世話尤逗留中いか躰之義出来候共

引請埒明可申願書差出寺社取次へ引合之上聞届申達ス同日一札差

出ス

一 玉置卯左衛門義弟惠藏当丑十七才去ル寛政五丑年三浦志摩守殿領

分勝山金田三郎左衛門養子ニ差遣置候処今度離縁仕罷帰候ニ付当

所人別ニ差加へ候様願書差出伺之上聞届申達ス

一 西新町伊崎屋重右衛門義借屋ニ居申候弥七<sup>与</sup>申もの当丑三十四歳

此度林田上之町久五郎方へ為引越申度町内人別除願書差出承届

一一ノ宮出役和四郎兵治罷出候処別条無之旨相届ル

四月廿八日 快晴

一 御用日登城

一 御用所<sup>ニ而</sup>御用番極人殿左之通御申渡大目付立合

度々致博奕宿不届ニ付 東新町 鍛冶屋 宇兵衛

百敲之上帰町

度々博奕致参会不届ニ付

五十敲之上帰町

博奕宿并致参会不届ニ付

百敲被仰付候

上ノ町

幸吉

林田村宇右衛門倅 伊勢松

弥七借屋住六助倅 五三郎

三右衛門倅 熊吉

平八倅 与之介

度々博奕致参会不届ニ付

久助借屋住 仁介

善八後家借屋住 喜七

上ノ町 文太郎

庄兵衛借屋住<sup>七之助事</sup> 太兵衛

太田村 与吉

作兵衛倅 虎藏

勘右衛門倅 虎藏

日上村 久藏

他へ罷出度々博奕致参会不届 上田邑村北佐助倅 松治

ニ付五十敲之上帰村

一 右博奕一件ニ付左之もの共左之通伺書差出置候所伺之通被仰付

東新町鍛冶屋宇兵衛

追込五日過料五百文つ、 組合共

追込三日過料五百文つ、 右同人 隣家之者

追込三日 右同町 月番 年寄共

治助義博奕差口<sup>ニ而</sup>家出 下紺屋町福藏事

いたし候ニ付百日尋申付万一右日数 治助

之内不尋出候ハ、過料五百文つ、 組合共へ

仙藏先年壹里四方追払もの<sup>ニ</sup>而

當時徘徊のもの<sup>ニ</sup>ハ候得共 橋本町 後藤屋 仙藏

何方<sup>ニ</sup>住居致候哉不相知候<sup>ニ</sup>付

親類并町役へ当所致徘徊候<sup>者</sup>

捕置届出候様申付ル

一來月十一日三浦志摩守殿御止宿<sup>ニ</sup>付先例取調左之通伺書差出候所

伺之通被仰付

一御通り筋不及掃除不見苦様<sup>ニ</sup>申付其外先例之通町触差出

一保頭先払

一同心組御先払

一出火之筋御退場 本源寺 大信寺

一御本陣前箱番所取立置尤御作事<sup>ニ</sup>而拝借

一御本陣前人留申付候事

一在宿医師兩人申付候事

一堺町自身番申付候事

一近町五町夜廻り申付

一同心組夜中出張兩人差出ス

一非人加廻り二組申付ル

一私拝領之御紋付衣服悴勝助妻へ拝着為仕度伺書類役十郎左衛門を

以差出候処伺之通御聴濟之旨十郎左衛門之通用有之

一鉄砲改当年順年<sup>ニ</sup>付取計候旨鉄砲奉行之通用有之

一一ノ宮出役藤四郎源藏罷出候処無別条引取候旨相届

四月廿九日 快晴

一桶屋町池淵屋民藏義一ノ宮市町<sup>ニ</sup>付播州高室芝居拾壹人連參懸り

神主之世話被相頼候<sup>ニ</sup>付世話仕度尤役者逗留中いか様之義出来候

共埒明可申願書差出寺社取次引合之上承届<sup>同日一札</sup>

一坪井町小倉屋清右衛門義姉孝当丑三拾貳歳先達<sup>而</sup>和田村伊伝次妻

<sup>ニ</sup>差遣置候処離縁仕罷歸り申候<sup>ニ</sup>付町内人別<sup>ニ</sup>差加候様願書差出

承届

一戸川町中屋庄兵衛義御領分之内和田村岩吉当丑十八才同人祖母き

さ七十三才同人役介直助六十九才右三人之もの共役介<sup>ニ</sup>引請相応

之渡世為仕度町内人別入願書差出承届

一玉置源五兵衛義備前片上村中村善左衛門妻夜前罷越候<sup>ニ</sup>付三十日

計之逗留為仕度願書差出承届四月廿三日歸り届

一一ノ宮出役嘉七治三郎罷出候処無別条旨相届ル

四月三十日 快晴

一御城山草刈今日之相始候旨三軒屋番清八罷出相届承置ク

一番賃銀三ヶ所例之通相渡ス

一一ノ宮出役和四郎林藏罷出候処別条無之引取候旨届出ル

一中之町玉野屋助三郎義所持之家屋敷表口七間裏行拾七間御役壹軒

役石家屋敷東ノ方式間口但御役三步三厘代銀札三百目<sup>ニ</sup>相極町内

大戸屋善三郎へ売渡申度願書差出承届六月六日売券状出ス

五月<sup>壬</sup>午小

御家老 安藤丹後殿

御年寄 海老原極人殿

大目付 赤見類助

大年寄 藏合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

五月 甲申 旦

(ママ・天候記載なし)

一 当月月番藏合孫左衛門相勤候旨相届ル

一 一ノ宮出役小頭利右衛門出番幸治林藏為見習勇藏罷出候所別条無之候旨銘々相届ル

五月二日 快晴

一 去月十五日御參勤之御礼首尾能被仰上候ニ付右為御飲明三四四時

御徒格已上御目見相濟候部屋住ニ至迄登城仕候様御奏者廻状到來

ニ付組中并大年寄へも例之通廻勤可致旨触書差出候

一 去月十九日浅草火之御番御老中方御奉書を以被蒙仰候旨大目付廻状到來組中并町触例之通差出ス

一 博奕一件之もの共御裁許明日取計可申段去月廿八日御用番并大目

付 相届置候処明日恐悦申上有之ニ付郡代申談候 而 延引仕候旨極

人殿并類助へ相届候事

一 新魚町檜野屋茂一郎儀悴助右衛門足痛ニ付真賀温泉へ入湯仕度廿

五日計逗留願書差出承届同廿九日帰ル届

一 川口藤左衛門義悻藤十郎近来冷症ニ相勝不申候ニ付当国真島郡真

賀温泉へ廿日計之逗留ニ而 罷越申度願書差出伺之上聞届同廿二日

今一廻り追願同廿九日帰届

一 例月之通目明并非人扶持大年寄今証文差出例之通裏印取計

一 大和守様御母公榮運院様御病氣御養生無御叶去月廿一日御死去被成候旨依之今日相慎候様大目付廻状到來組中并町触例之通差出ス

一 一ノ宮出役和四郎源藏罷出候処別段無之候段届出ル

一 兵庫之油懸り之もの上下四人罷越当地登セ方之ものへ対談仕度申

ニ付明日逢対之上趣意ハ可申出候得共先一通り相届候旨喜左衛門令相届

五月三日 雨

一 今四時恐悦申上ニ付麻上下着用惣登城

一 御用日ニ付願書類差出ス

一 西今町山際屋和兵衛儀昨朝六つ時分入口大戸板をおこし盜賊込込彼是取集銀札錢等都合四拾匁計被盜取其余紛失もの無之候段届書を以届出此段御用所へ申上候

一 七間廊下ニ而 例之通一統罷出御參勤御礼首尾能被仰上候恐悦并順

丸様松平山城守様へ御養子御約束被為濟候恐悦御小姓頭代大目付

忠三郎へ謁申上ル畢 御前様 江も同様恐悦申上ル

一 御藏米五拾匁五分 町米五拾匁五分

一 愛染寺被盜もの例之通町触差出候様大目付被申聞候ニ付町触差出左之品数同十七日無之段届出ル

一 子供指大小小道具附 一上田島綿入郡内島同一つ、

一 黒ちりめん羽折帯 一はななみ入銀札少々

一元魚町紙屋助右衛門儀撰州灘目油稼水車両組手先之もの松本善右  
衛門新屋甚兵衛播磨屋利兵衛上下三人昨夕当所<sup>江</sup>罷越用事有之候  
ニ付日数七日計逗留為仕度願書差出承届同十三日帰ル届

一市郷<sup>江</sup>被下置候痢病棄出来ニ付為心得申達候由大目付忠三郎分申  
来尤来ル十二日服用之由ニ候間是又相心得候様申来ル

一三浦志摩守殿近々御止宿ニ付町触差出ス

一一ノ宮市揚リニ付烏散成もの入込候間心付候様先例之通町触出ス

五月四日 晴

一町方へ被下置候痢病棄七千七百服相廻候様被相達候様大目付へ申  
遣候所久原甫雲へ可申達旨申来候ニ付則同人<sup>江</sup>申遣候

一出羽守様御関札持参之役人佐藤文八<sup>与</sup>申もの罷通り弥来ル九日土  
居駅御止宿<sup>ニ而</sup>十日当所御通行被成候旨人馬問屋<sup>ニ而</sup>申置候段申  
出候ニ付御所<sup>江</sup>及御沙汰置ク

一一昨二日之夜茅町あわ屋治兵衛方へ表之ふてう明ヶ盗人入込着類  
銀札刃々左之通被盜取候旨届書を以届出八日伺之上触流し出ス同  
十九日無之段届出ル

一衣類拾一品 一金つふし三分程 一脇指一腰  
一小玉七拾匁程 一步金巻 一南鐐式つ

一銀札七拾匁程 <sup>メ代ニ</sup>して四百六拾式匁

一一ノ宮へ出役小頭利右衛門出番嘉七林蔵罷出候所無滞見せ物等引  
払見届別条無之引取候旨届出候ニ付其段大目付頼助へ相届ル

一出羽守様御通行ニ付先例之通取計可申書付を以相伺候処何之通取  
計候様御用番中分申来ル

一出羽守様御通行ニ付来ル六日道見分取計可申旨大年寄伺出候ニ付  
其通申付小頭へも申達置ク

五月五日 晴

一端午ニ付登城可仕之処御省略中ニ付登城無之候右ニ付一己之廻勤  
ニも罷出

一出羽守様近々御通行ニ付先例之通町触書役相認候<sup>而</sup>差出ス

一明日市郷博奕一件之もの共御裁許取計候ニ付小頭へ申達明日牢屋  
敲之用意致置候様取計可申旨申達ス尤例之通出役之義も達置

一東新町年寄并宇兵衛万治組合橋本町年寄藤助組合明日六半時牢屋  
へ罷出候様大年寄孫左衛門申達ス

一林田町山形屋六治郎義借屋ニ居申候兎島屋勇吉去ル丑正月五日不  
斗罷出行方相知不申候ニ付其段届出候ニ付百日尋申付置候処最早  
百日余ニも相成候得共一向居所相知不申候ニ付町内人別除願書差  
出窺之上聞届申達ス

一安岡町久米屋鶴藏義二日之夜居宅裏口東ノ方戸明ヶ盗人入込候処  
家内目明キ候ニ付其俣罷歸り候様相見へ申候尤紛失もの無之段届  
書を以届出及御沙汰候

五月六日 快晴

一今朝六半時揃<sup>ニ而</sup>牢屋敲取計左之通出役之面々

御徒目付妹尾周平 下目付彦人

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和四郎林蔵  
毎度博奕宿いたし候ニ付 東新町鍛冶屋宇兵衛

百敲之上帰町

每度博奕参会いたし候ニ付  
五十敲之上帰町

兩人百敲之上勸農所へ遣ス  
十三人五十敲之上帰村

一左之もの共大年寄宅<sub>江</sub>立会小頭利右衛門部屋目付藤四郎差向候<sub>而</sub>  
左之通大年寄申渡ス

右同町紺屋 万治  
橋本町 藤介

郷中博奕宿并参会  
之もの共拾五人

東新町鍛冶屋宇兵衛組合

但追込過料五百文ツ、  
但追込日数五日

利兵衛  
幸吉  
善兵衛

右同人隣家兩人

平左衛門  
惣十郎

右同断  
但追込日数三日

右同町年寄月番兩人

治兵衛  
与三兵衛

追込

日数三日

下紺屋町大工権兵衛後家

悴福藏事治助

治助義博奕差口ニ付呼出候処致家出  
候ニ付組合共<sub>江</sub>尋申付候所行方相知  
不申旨届出候ニ付猶亦今日ハ百日尋

組合

山吉  
不動院  
五百吉

申付万一尋不出候ハ、過料五百文ツ  
、可申付旨申渡

右請書一札連印ニ而差出ス

橋本町

市六  
岩吉  
一乘院  
庄五郎

年寄共へ

後藤屋仙藏博奕差口之処先年  
豊後屋和助<sub>与</sub>申候節巷里四方追払もの  
ニ付当時徘徊之ものニハ候得共何方ニ  
住居共不相知ニ付已後当所徘徊致候ハ  
、捕置候<sub>而</sub>届出候様仙藏縁類共へ申付ル

一今日御裁許取計候旨御用番極人殿并大目付類助<sub>江</sub>相届ル  
一出羽守様近々御通行ニ付御通筋道見分差出候処為指破損所も無之  
少々つ、之義ハ町々年寄共<sub>江</sub>申付候旨小頭大年寄諸吟味等届出承  
置ク

一出羽守様人馬先触到来之由写差出尤人馬数左之通  
四月廿一日江戸表御発駕

繼馬 式拾六疋

繼人足式百人

西宮久七迄

繼馬 式拾五疋

繼人足百六拾人

明石津山ハ

繼馬 式拾六疋

一右先触写御用番中<sub>江</sub>差出大目付<sub>江</sub>も申遣候  
五月七日 晴夜中雨

一 町方へ相渡候痢病葉八千服久原甫雲分請取大年寄へ相渡ス内組之者并牢屋三軒屋番へも相渡ス

一 三浦志摩守殿来ル十一日御在所御発駕本馬式拾疋之先触<sup>ニ</sup>候処右之内六疋十日出立<sup>ニ</sup>而用意可致旨追触有之候由問屋申出候段大年

寄分届出候<sup>ニ</sup>付来ル十日出羽守様御通行并志摩守殿御先荷合宿馬拾疋不足<sup>ニ</sup>付右之段在寄馬之儀郡代<sup>江</sup>懸合候所承知之旨返書来ル

一 錢七拾式箇川下取計候間例之通裏印取計候様銀札場奉行栗原衛守分申来則調印差遣

一 一ノ宮市町出役組之もの昼弁当代<sup>者</sup>上より被下置夜食弁当<sup>者</sup>見世物勸進元分賄候義<sup>ニ</sup>候得共大見世物無之節<sup>者</sup>銘々分持參仕候義難

義仕候哉小頭分申立候得共近来昼弁当代上より被下置候様相成候上又候申立候も如何<sup>ニ</sup>付已後<sup>者</sup>大見世もの無之節<sup>者</sup>夜食弁当ハ役

所分差遣可申旨今日小頭<sup>江</sup>申達ス  
一來ル十日出羽守様御通行<sup>ニ</sup>付出役立宿左之通書付差出

一 御徒目付下目付立宿 佐伯屋与三兵衛  
一 同心組御先立宿 五明屋文吉

一 船頭町米屋藤右衛門義要用<sup>ニ</sup>付伯州倉吉新町登志屋利兵衛方へ三  
十日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷越申度願書差出承届ル同廿九日帰り届

一 茅町阿波屋治兵衛儀今朝見出し候表口石橋下<sup>ニ</sup>脇指一腰有之尤柄  
黒系鉄丸鍔毛彫龍目貫鮫頭<sup>者</sup>角縁真鍮切羽同断鰭同断鞘路色ぬり

銘は兼吉と有之長サ式尺式寸程有之候旨去ル五日之日附届書を以  
届出及御さた

一 雲州様女中来ル九日当所止宿<sup>ニ</sup>而本馬三疋之先触到着<sup>ニ</sup>付今朝十

疋寄馬之儀取計有之候様郡代<sup>江</sup>申遣置候処右先触<sup>ニ</sup>付猶亦三疋相  
増候<sup>而</sup>都合拾三疋来ル十日寄馬取計有之候様猶又郡代<sup>江</sup>申遣候所  
承知之旨申来ル

五月八日 雨昼後晴  
一 御用日<sup>ニ</sup>付登城

一來ル十二日十三日町会所<sup>ニ</sup>而教信講釈取計申度喜左衛門申出承届  
一 美濃職人町吉田屋平吉義借屋<sup>ニ</sup>居申候房屋長左衛門妻ひて立願<sup>ニ</sup>

付四国遍路為仕度往来日数百日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷帰度願書差出承届  
八月廿一日追願四十日閏八月朔日帰り届

一 元魚町広野屋長兵衛義妻かね立願御座候<sup>ニ</sup>付四国遍路為仕度往来  
百日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷帰り申度願書差出承届八月九日帰り届

一 二階町山手屋利兵衛家守備前屋仁兵衛義借屋<sup>ニ</sup>居申候弥兵衛妻み  
ね心願<sup>ニ</sup>付四国遍路<sup>ニ</sup>罷出申度尤日数百五十日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷帰  
申度願書差出承届八月八日帰り届

一 茅町阿波屋治兵衛戸口石橋之下<sup>ニ</sup>有之候脇指一腰右<sup>者</sup>触流し有之  
候愛染寺被盜候品<sup>ニ</sup>引合候哉<sup>ニ</sup>被存候付其段御沙汰申上候所<sup>与</sup>得

愛染寺引合候<sup>而</sup>相違も無之候ハ、猶又相伺候様極人殿御申聞<sup>ニ</sup>付  
寺社取次十郎左衛門へ届書相廻ス

一 伯州八橋郡大谷村安五郎<sup>与</sup>申もの西国順礼<sup>ニ</sup>罷出尾州奈良井宿<sup>ニ</sup>  
而歩行不相叶同所分送り出シ川辺迄送り来候<sup>ニ</sup>付継送り聞届候段

郡代分申来候<sup>ニ</sup>付大年寄へ申遣置候処夜中送り来町分送り達候旨  
届出ル

五月九日 曇

一吹屋町年寄釜屋市郎右衛門義病死仕候段大年寄届出承置ク

一左之もの共追込昨日迄三日ニ相成候ニ付今朝差免候旨大年寄へ申  
達候処申渡候段届出候ニ付其段御両所江相届ル

東新町年寄

甚左衛門

善五郎

同町鍛冶屋宇兵衛兩隣

治兵衛

与三兵衛

一出羽守様今夕土居御泊弥明日御通行之旨勝間田分川部大庄屋へ為  
知越候段郡代分通用有之

一近々三浦志摩守殿御止宿ニ付下々ニ至迄御本陣前通行不相成且火  
之元入念候様大目付廻状到来組中牢屋三軒屋番江相触候様小頭へ  
申達ス

五月十日 晴

一今暁出羽守様土居駅江之遠見罷帰昨七つ時過土居駅江御着被遊今

暁七半時御発駕之旨承之罷帰候段注進申出ル

一出羽守様御通行ニ付役左之通

五つ半時出宅

立宿山本三右衛門

当役 若元齋七 草り取鎗 合羽籠

一御先払 小頭利右衛門 幸治兵治

一問屋詰 部屋目付藤四郎 和四郎

一出羽守様九つ時前御通行被成林田町北横丁例之場所江罷出向方様

御奏者附罷越候而名面等相尋候ニ付名札差出御通行ニ付役仕候

段相述候処尚亦御駕籠脇分罷越及挨拶同人御駕籠所ニ而松御名様  
町御奉行江口勘太夫殿与名披露有之御通相濟候已後猶又御徒躰之  
もの罷越候而御目録持参例之通金式百疋被下之御札等相応及挨拶

一御通行相濟候間猶又立宿ニ扣居候所無程町分無御滞御通行相濟候

旨注進申来候ニ付供揃申付引取退出懸ケ御用番江罷越候而口上ニ

而相届大目付江者手帟ニ而相届

一今日出役之もの共江左之通被下置

錢三百文

御先払 小頭 利右衛門

同式百文ツ、

同 平 幸治

介 兵治

銀式兩ツ、

問屋場詰

藤四郎 和四郎

一出羽守様御通行人足請負左之通

一駕籠壹丁ニ付 七匁三分宛

一平人壹人ニ付 式匁宛

一同今日仕出人馬数左之通

一本馬式拾五疋

一輕尻壹疋

一人足式百九拾六人 外ニ馬三疋増

一坪井町備中屋喜兵衛義用事ニ付大坂立売堀式町目木津屋周藏方へ

罷越申度往来三十日計之逗留ニ而罷帰申度願書差出大年寄聞届候

而当人願書差出六月七日帰ル届

一雲州様衆脇坂十郎兵衛布施源兵衛分此方様御家老江奉文差越候ニ

付玉置源五兵衛へ持參相届呉候様申候ニ付本陣詰大村屋源右衛門  
丹後殿<sup>江</sup>相届返翰も有之候<sup>而</sup>則使へ相渡候旨大年寄分届出ル

五月十一日 晴

一東新町鍛冶屋宇兵衛組合共今朝追込差免候所申渡候段大年寄分届  
出候ニ付御両所へ相届

理兵衛 幸吉 善兵衛 平左衛門 惣十郎 〆五人

一三浦志摩守殿今夕御止宿ニ付伊達与兵衛殿御止宿へ被相越候由右  
ニ付川口藤左衛門<sup>江</sup>立宿被相頼候<sup>而</sup>幕挑灯被相用候ニ付目立候故  
藤左衛門分内々申出候由大年寄分相届ル

一志摩守殿御止宿ニ付組之もの役割左之通

十一日御着御先<sup>源藏</sup> 十二日御立御先<sup>藤四郎</sup>

夜九つ時迄相詰 十一日夜九つ時分相詰

一志摩守殿七半時過御本陣玉置源五兵衛方へ御着被成候旨御先<sup>源藏</sup> 相届  
当番迄届出候ニ付右之段御用番中并大目付<sup>江</sup>相届

一江戸御留主居志津馬分御用状到来右<sup>者</sup>広瀬屋安治出訴之義土居殿  
衆へも未御用多<sup>ニ</sup>懸合不申近々懸合<sup>与</sup>得相調可申遣旨申越ス

一先日以來非人二組目明召連更廻り申付置候処今夕分相止候<sup>而</sup>も可  
然旨小頭申出<sup>レ</sup>「非人加廻り相止候様大年寄<sup>江</sup>申達ス

一町会所<sup>ニ</sup>而 明夕より教信坊講釈取計候旨喜左衛門分届出承置ク  
五月十二日 晴

一三浦志摩守殿六時過御本陣御出立町分無御滞御通行相濟候旨出番  
之もの分届出候ニ付其段御用番中并大目付へ相届ル

一右之段大年寄并御本陣玉置源五兵衛分相届ル

一盲人物もらい町方致徘徊候節子共集り石打等いたし候哉ニ相聞候

ニ付其段大年寄へ及御沙汰候処成ほと右物貫坪井町宮脇町西今町  
辺專致徘徊候ニ付右之三町<sup>江</sup>差紙<sup>ニ</sup>而申達余之町々<sup>江</sup>者追々口達

ニ而相達可申大年寄申出ル

一出羽守様并志摩守殿御通行ニ付院庄川出役之もの共左之通被下も  
の有之候旨書付を以申出候

出羽守様より被下もの左之通

一鳥目壹貫文 惣船<sup>江</sup>

一同 六百元 御藏元文五郎  
御年寄喜左衛門

一同 百文 下裁許人壹人

一志摩守殿被下もの左之通

一金 百疋 (惣船<sup>江</sup>)

一同 五十疋 御藏元文五郎

一同 五十疋 御年寄喜左衛門

一鳥目式百文 下裁許人壹人

一右御止宿ニ付御本陣玉置源五兵衛<sup>江</sup>被下

一金 三百疋

一神田栄治義番代申付置候処今度渡部相馬組上田治兵衛弟和右衛門  
与申もの番代ニ差出申度願書差出尤加判部屋目付藤四郎小頭利右

衛門宛願書差出候ニ付同十三日聴届候段小頭呼出申達ス

一元魚町二文字屋清次郎義商用京都烏丸六角下ル所二文字屋九兵衛  
方へ往來四十日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷越申度願書差出大年寄聞届候旨当

人願書差出六月廿四日帰ル届

一 鉄砲御改<sup>ニ</sup> 付当年御順年先例之通町方相改候様鉄砲奉行<sup>江</sup> 大年寄  
呼出被申達候<sup>ニ</sup> 付明日町々年寄呼出候<sup>ニ</sup> 付相達候旨大年寄届出ル

五月十三日 快晴

一 御用日<sup>ニ</sup> 付登城

一 御用所<sup>ニ</sup> 御用番極人殿左之通御申渡大目付出席

東一宮村里上組利右衛門悻利吉義他領もの任頼博奕為致不埒  
至極<sup>ニ</sup> 付百敲之上帰村

一 右被仰渡候<sup>ニ</sup> 付郡代申談候<sup>而</sup> 来ル十六日取計候段御両所<sup>江</sup> 相届

一 茅町阿波屋治兵衛門口石橋之下へ脇指有之候段届出候<sup>ニ</sup> 付拵等見

改候処触流有之候愛染寺被盜もの<sup>ニ</sup> 似寄候<sup>ニ</sup> 付社取次<sup>ハ</sup> 愛染寺  
へ達及見候処相違無之段愛染寺<sup>ハ</sup> 申出有之候<sup>ニ</sup> 付其段申上引渡可

申哉之旨相伺候処伺之通取計候様被仰出候<sup>ニ</sup> 付社取次<sup>ハ</sup> へも申談

直<sup>ニ</sup> 阿波屋へ愛染寺罷越候<sup>而</sup> 請取可申候間其段阿波屋<sup>江</sup> も達置候  
様大年寄<sup>江</sup> 申達ス

一 御蔵米五拾八匁 一町米五拾四匁

五月十四日 快晴

一 深信院様明十五日五半時御供揃<sup>ニ</sup> 而 田中通り院庄<sup>江</sup> 御出被成候<sup>而</sup>

御帰り安岡町大番所田町通りへ御帰被成候旨種村登門<sup>ハ</sup> 通用有之  
小頭大年寄へ相達ス

一 出羽守様御通行問屋入用左之通<sup>ニ</sup> 候旨喜左衛門<sup>ハ</sup> 書付差出

一 七百三拾九匁式分 諸人用辻

内百七拾八匁八厘御私人足式百八人分請取

差引残<sup>而</sup> 五百六拾匁三分式厘

一 三浦志摩守殿御止宿<sup>ニ</sup> 付諸入用左之通之旨本陣詰四人<sup>ハ</sup> 書付差出  
ス

一百四拾壹匁九分六厘 諸色入用辻

一 三拾六匁四分

本陣入用

但此分金三百足被下<sup>ニ</sup> 付立用仕来り

一 川端幸治<sup>江</sup> 申渡之儀有之候間明十五日四つ時同道罷出候様小頭<sup>江</sup>  
切昏差遣尤幸治麻上下着用候様申遣ス

一 栄治番代和右衛門<sup>江</sup> 初<sup>而</sup> 謁<sup>ニ</sup> 付下役新左衛門出席小頭部屋目付立  
合<sup>ニ</sup> 罷出候様申達置ク

五月十五日 快晴

一 神田栄治番代和右衛門<sup>江</sup> 初<sup>而</sup> 謁候<sup>ニ</sup> 付左之通出席尤先例之通扇子  
箱持參三本入台<sup>ニ</sup> 居

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

一 川端幸治<sup>江</sup> 申渡左之通立合右之人數  
部屋目付助本役部屋目付次席申付入念可相勤旨直<sup>ニ</sup> 申達ス

一 中山勇藏義若年<sup>ニ</sup> 付屋敷番計相勤居申候処伸<sup>ケ</sup> 間<sup>ケ</sup> も本役同様被  
仰付候様仕度万一捕手出番之節<sup>者</sup> 伸<sup>ケ</sup> 間<sup>ケ</sup> も代り合可相勤旨小頭  
を以申出候<sup>ニ</sup> 付其通今日小頭より申渡候様申付ル

一 材木町坂本屋定吉義居宅裏御堀端<sup>ニ</sup> 建物仕度足代願差出来ル十八  
日御用日大目付へ差出十八日<sup>ニ</sup> 聞届申達ス

一 船頭町高松屋清次郎所持之米買宿屋株此度西新町木和屋源兵衛へ  
相譲り申度双方連印願書差出承届

一 戸河町紙屋平助儀郡代下代木村伝平役介こと当丑式拾七歳此度妻  
<sup>ニ</sup> 引受申度町内人別人願書差出承届

一東新町藁屋与七郎義所持之家屋敷表口七間裏行十七間御役杓軒式歩役尤土藏四ヶ所付質物ニ書入木和屋源兵衛取次ニ而来十月限杓

ヶ月杓歩之利足ニ而銀札五貫五百匁借受申度願書差出承届同十五日質入証文出ス文化七庚午五月廿五日元利返済断書出ス尤杓軒式歩役「」候得共全杓軒也

一深信院様五つ時過御帰被成町分御通相済候旨幸治和四郎届出尤昨日被仰出候御道筋細工町通り江御帰被成候旨申出ル

一明十六日敲取計候間右之手合取計置候様小頭江申達ス

五月十六日 雨

一去ル十三日御裁許有之候東一宮村里方利右衛門悴利吉敲婦村今朝取計候ニ付左之通出役之面々

御徒目付高橋三郎太 下目付彦人

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和四郎

右取計相済候旨届出候ニ付其段御用番極人殿大目付半平へ相届ル

一和右衛門義今日今見習出番之旨当番申出ル

一東新町鍛冶屋宇兵衛組合五人隣家兩人ノ七人宇兵衛博奕宿ニ付過

料五百文ツ、申付置候処今日右過料銭左之通差出ス

過料銭合九六銭三貫五百文 當時銭通用百七文右銀札ニ直シ  
三拾毫又四分

右之通相納候ニ付闕所物之内江入置ク

一院庄川満水ニ付船渡相留候旨夜ニ入郡代所今申来大年寄江申達ス

五月十七日 快晴

一四つ時頃院庄川船渡相始候旨郡代今申来其段大年寄へ申達ス

一深信院様明十八日五半時御供揃ニ而藺田町通り泰安寺妙法寺へ御

參詣被成候旨種村登門今通用有之候ニ付其段大年寄へ相達ス組も直ニ申達ス

五月十八日 雨

一深信院様御仏參御延引被成候旨種村登門今申来夫々江申達ス

一渡部相馬組上田治兵衛役介之婦人先達ニ而借牢相願入牢為致候処此節出牢相願御聞濟ニ候間出牢取計候様大目付中被申聽

一神田和右衛門明日今出勤ニ付加入彦人揚人ニ取計候旨大目付江相達ス治三郎揚人ニ取計候旨申「」

一唐物拔荷無油断見改申出候様之大意之御触書公儀今被仰出候間町方相触可申旨大目付中より右御触書式通被相渡例之通町触差出ス

一福渡町弓削屋藤藏義脇坂殿御預り所当国之内英田郡土居村善三郎

娘しち当丑廿六才此度役介ニ引受申度住宅之儀願出尤向方且那寺

并村役人別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス同廿四日住宅証

文差出ス

一美濃職人町山本屋佐右衛門義因州知頭郡駒帰宿兵庫屋与平次娘ひ

さ当丑三十才此度妻ニ引受申度住宅之儀願出尤向方且那寺并宿役

人別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス同廿六日住宅証文出ス

一元魚町久里屋喜兵衛義所持之家屋敷表口三間半裏行拾七間杓軒役

右家屋敷ニ土藏納屋共付質物ニ書入二文字屋清次郎取次ニ而銀札

四百五拾匁借請申度願書差出尤月杓歩半之利足ニ而当十一月切承

届同廿一日質入証文出ス

一同町美濃屋彦兵衛義所持之家屋敷表口九間裏行五間半内三間ハ裏

行拾式間但御役内六間者四歩役内三間ハ六歩役也右之家屋敷質物

書入ニ文字屋清次郎取次ニ而銀札貳貫目借請申度尤来ル二月切  
壹ヶ月壹歩半之利足ニ而返済可致願書差出承届同廿一日質入証文  
出ス

一 二階町中川五左衛門義御領分押入村源七娘かめ当丑貳拾二才此度  
借屋ニ居申候藤屋新八母さと引受申度町内人別人願書差出承届  
一 福渡町浜野屋嘉一郎家守久米吉義借屋ニ居申候作人政十郎妻みよ  
義四月晦日与風致家出候ニ付心懸り之处相尋候得共行衛相知不申  
仍此旨相届候由届書差出候ニ付例之通百日尋申付ル同閏八月九  
日除帳願御聞届

一 船頭町元屋仁左衛門家守樫村屋和市儀娘にわ当丑三拾歳此度御領  
分新田村吉右衛門妻ニ遣申度町内人別差除候様願書差出承届  
一 神田栄治番代和右衛門明日出番ニ付三人之内恚人加人揚人ニ取計  
候段大目付へ相届ル

五月十九日 快晴

一 町会所教信講釈夜前迄相勤相済候由尤此度者出席多ニ而例よりハ  
日数も多取計候旨喜左衛門届出今日教信方へ罷越挨拶申述候旨申  
出承置ク

一 三浦志摩守殿去ル十一日御止宿ニ付問屋入用左之通之旨書付を以  
御届申候旨喜左衛門申出ル

入用合 三拾九匁七分六厘  
内拾匁三分貳厘 扨十貳人分受取  
残 貳拾九匁四分四厘

五月廿日 晴夜分雨

一 鍛冶町宗道宮ニ而例年之通今夕同町之もの通夜仕候旨届出候ニ付  
大目寄今申出ル

五月廿一日 雨

一 綿改之儀操屋共之内難渋之義申立候ニ付昨年已来大年寄共へ監察  
為致候処難渋申立候操屋共は実意之ものニも無之由ニ候得共先つ  
当年之所ハ綿改相止候ニ而可然旨申出候ニ付猶又下役申談候処さ  
つはり相止候義も残念之義両様相用候ニ而可然旨下役存寄書猶又改  
方主法書付差出右同意ニ付尚亦弁書差添御用番極人殿へ差出委細  
申述置ク

五月廿二日 晴

一 順丸様御事松平山城守様へ急御智養子之義被任其意去ル六日御届  
書被指届旨御知らせ大目付廻状到来且亦右ニ付明廿三日四つ時  
揃ニ而御徒格已上并御目見相済候部屋住ニ至迄登城仕候様御奏者  
廻状到来町触差出例之通帳付罷出候様大年寄江相達ス組中へも廻  
状出ス

一 山本三郎左衛門義林田村弥右衛門へ懸り滞銀札之義及出訴候処去  
月廿二日郡代所ニ而三十日限済方申付有之候然ル処右弥右衛門今  
日延断相頼候ニ付来ル六月十日切日延断申出尤弥右衛門今も郡代  
所へ相願候由ニ付引合候ニ而聞届申達ス

一 西新町飯綱屋源兵衛義妻当正月今懐妊ニ罷成相届候処去廿日今相  
勝不申筈作役介清民へ療治相頼候処病氣差重候ニ付両隣組合相詰  
候ニ而種々療治致候得共養生不相叶死去之旨届書を以届出承置ク

一 西新町高松屋忠左衛門義本家高松屋龜之助義幼年ニ付為後見家内

不残引越申度届書を以届出承置ク

一坪井町草津屋虎五郎義同町南側ニ而表口六間裏行拾七間但御役壹

軒役右之家屋敷之内表口六間裏行拾間御役六歩ニ而代銀札式貫五

百目ニ相極町内福惠屋伊兵衛へ売渡申度且又右裏行南詰ニ而南北

七間東西六間御役四歩ニ而代銀札壹貫七百目ニ相究同町市場屋利

介へ売渡申度願書差出承届同廿四日売券状両通差出ス

一当年鉄砲御改ニ付町中相改町々年寄連印之帳面一冊鉄砲奉行江差

出候ニ付同様一冊大年寄持參請取置ク

一川口藤左衛門義悻藤十郎先頃御願申上真賀温泉江入湯仕候処追々

相応仕候ニ付今一廻り之日積七日計逗留為仕度日延願書差出伺之

上聞届申達ス

一下役新左衛門風邪ニ付今日出勤相断候旨申来ル

五月廿三日 雨

一御用日ニ付登城

一今日四つ時揃ニ而惣登城順丸様急御鞞養子御届書被差出候ニ付恐

悦申上有之例之通七間廊下ニ而御奏者番已下一統御小姓頭へ恐悦

謁申上ル御前様江も同様申上ル

一御用所江罷出恐悦申述大目付中江も恐悦及挨拶且又桧之間衆中へ

も罷出候而恐悦申述

一此節町方之様子御用所ニ而御聴ニ付御静謐之段申上候処今便江戸

表へ申上候間認差出候様御用番御申ニ付左之通認差出

町方此節之様子何も相変候儀無御座候先頃一ノ宮市町之節町

分端々へ盗人入込候哉ニ相聞候ニ付早々手当申付置候処其後

一向盜賊沙汰も無御座候町方一統衰微之様子ニハ御座候得共

全米価之下直ニ御座候ニ付下様之もの共自然と暮能御座候哉

此節至而御静謐ニ御座候間此段申上候已上

丑五月廿三日

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代長八与申もの例年之通茶碗類売ニ昨

日參候ニ付逗留仕らせ度京町小文字屋太兵衛宿切手差出ス六月十

五日帰ル届

一種油売直段壹升ニ付三匁九分之處大坂油下直ニ相成候ニ付壹升ニ

付三匁七分売ニ致度届書年行司岩屋文藏油方常盤屋丈右衛門届書

差出ス

一二階町茂渡庄右衛門家守藤助義居宅裏御堀端覆破損ニ付修覆仕

度御堀江足おろし申度願書差出大目付へ差出候上聞届申達ス

一下役新左衛門今日も不快ニ付仕相断候旨申来

一例年之通宗旨改案詞一冊証文下案壹通宗旨奉行古市主殿相渡ス

五月廿四日 雨

一中之町年寄善右衛門義昨日恐悦帳付廻勤之廻状大年寄分差出中之

町分西新町へ相廻し可申筈之處失念ニ而今朝相廻候ニ付東西新町

年寄共昨日恐悦不罷出依之右善右衛門不束ニ付追込ニ而も申付可

然旨大年寄申出候得共先此度者叱置已来入念候様可申達旨大年寄

江申達ス

五月廿五日 快晴

一今日別条無之

五月廿六日 快晴

一上紺屋町孤独宇助義近来老病<sup>ニ</sup> 渡部元端治療之処病氣差重候段  
届出候<sup>ニ</sup>付「合候処町内<sup>ニ</sup> 而 心<sup>ヲ</sup>付罷在候段大年寄相届ル

一下役新左衛門全快<sup>ニ</sup> 而 今日出勤之旨届有之

五月廿七日 快晴

一桶屋町吉田屋平助義役介喜兵衛当二月罷出歸り不申出奔之旨相届  
候処百日尋申付置候処方々相尋候得とも一向相知不申最早百日余  
<sup>ニ</sup>も相成候得共今以相知不申候<sup>ニ</sup>付町内人別差除候様願書差出伺  
之上聞届申達ス

一下紺屋町長江朝庵義用事<sup>ニ</sup>付播州赤穂御城下三町目紙屋市左衛門

へ罷越往來百四十日計之逗留<sup>ニ</sup> 而 罷歸り申度願書差出承届九月廿

一日歸ル届

一材木町小花屋忠五郎義当国内大久保安芸守殿領分久米南条郡押  
測村百姓仁兵衛娘そめ当丑廿三才今般妻<sup>ニ</sup>引受申度住宅之儀願出  
尤向方旦那寺并村役人別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス六  
月六日住宅証文出ス

一例年之通宗門御改<sup>ニ</sup>付町方之宗門改帳下案并証文案詞一通宗旨奉

行古市隼人分相渡候<sup>ニ</sup>付今日大年寄へ先例之通取計候様案詞共相

渡ス

五月廿八日 快晴

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一御用所<sup>江</sup>罷出当日御祝儀申述人別出入願書申上候処御聞届相濟

一揚り屋扶持内貸証文小頭分差出例之通調印

一志戸部村治助義去ル廿三日七つ時分分晩方迄左之品被盜取候<sup>ニ</sup>付

例之通触流差出候様大目付中分被申聽候<sup>ニ</sup>付町触差出ス六月十二  
日無之旨申出

一男着単物尙 但淺黄立<sup>(マツ)</sup>鳥代四匁位

一揚屋賄是迄一日壹人七分之處壹分相増候<sup>而</sup>明日分八分<sup>ニ</sup>相成候旨  
小勘者北島唯七分申聞候<sup>ニ</sup>付其段小頭<sup>江</sup>申達牢番へ申達候様申付  
ル

一質屋頭是迄質屋<sup>ニ</sup>付<sup>而</sup>之義繁々相勤候<sup>而</sup>筆墨昏入用人遣等有之候  
得共右<sup>ニ</sup>付<sup>而</sup>之あしらい無之何とも申出<sup>者</sup>無之候得共以來年分御  
用之多少割合を以惣質屋共分右入用為差出候<sup>而</sup>可然存寄も無之候  
ハ、右之通取計可申旨大年寄孫左衛門伺出候<sup>ニ</sup>付其通取計候様申  
達ス

一二階町石松院義不動堂并鎮守疱瘡守護神へ灯明之施主有之候<sup>ニ</sup>付  
例年之通來月七日分同十四日分まで護摩修行仕度寺社取次<sup>江</sup>も願書  
指出候旨願書差出承届

一下紺屋町不動院義例年之通來月七日分同十四日迄祇園会<sup>ニ</sup>付御戸  
開除疫祈禱仕度尤寺社役所へも願書指出候旨願書差出承届

一來月七日分同十四日迄祇園会<sup>ニ</sup>付二階町元魚町関貫四つ時迄大扉  
開立番付置候様申付候旨且又下紺屋町<sup>江</sup>右<sup>ニ</sup>付挑灯出候旨大年寄  
分申出承届但番所之儀<sup>者</sup>追<sup>而</sup>可及御沙汰事

五月廿九日 快晴

一例月之通番賃銀印形取相渡ス

六月癸未 小

御家老 山田主膳殿

御年寄 黒田要人殿

大目付 太田舍人

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

六月癸丑 旦 快晴

一 大年寄源五兵衛当月月番相勤候旨届出ル

一 江原文藏義先達而番代申付置候処今般安藤丹後殿家来前原平左衛門与申もの番代ニ差出申度願書差出

六月二日 晴

一 菜種当年老割増式百四拾六俵相登せ申度旨宮田喜左衛門今書付差出承届候ハ、油屋共割付為致度申出候ニ付其通ニ申付候

一 宮田喜左衛門義芸州宮島へ参詣仕度往来廿五日計逗留ニ而罷帰リ

一 申度願書差出承届同廿五日帰ルル

一 齋藤孫右衛門義立願ニ付讚州金毘羅并芸州巖島江参詣仕度往来廿五日計ニ而罷帰申度旨願書差出伺之上聞届申達ス同廿五日帰ル届

一 鍛冶町富岡屋宇兵衛後家備前国児島郡広岡村七郎右衛門倅虎吉当丑式拾九才此度養子ニ貫請申度住宅之儀願出尤向方且那寺并村役人今も別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス同十八日住宅証文出ス

一 川原町熱田市正儀孫女はる当丑拾歳ニ罷成候処此度脇坂中務大輔殿御預り所当国内勝南郡池ヶ原村伝吉養女ニ差遣申度仍而当所支配相離町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

六月三日 朝曇

一 御用日ニ付登城

一 順丸様御養子御取組被為濟候ニ付座頭共被下之儀先例も二ツ分被下候由ニ付右之通被下置候様配当場より願出候ニ付先例取調候処御取組被為濟候而老ツ御引越被為濟候而老ツ都合二ツ被下候先例ニ付今日御用所ニ而御用番要人殿江申上候処先例之通被下置候旨被仰出候ニ付其段大年寄へ申達ス

一 祇園会ニ付例年之通二階町元魚町北関貫四時迄開置立番付置候旨御用番中并大目付江及御沙汰

一 江原文藏義先達而番代申付置候処今般丹後殿家来前原平左衛門与申もの番代ニ差出申度願書差出候ニ付右平左衛門義丹後殿ニ差構も無之哉之趣小頭を以丹後殿執権江問合候処何之差構も無之由ニ付大目付江も右之段及噂候而小頭江聞届申達ス

一 松平山城守様江於大坂去月二日御卒去之旨申来候依之今三日今明後五日迄三日之内相慎候様被仰出候段大目付廻状到来組中并町触差出ス

一 順丸様御事松平山城守様御卒去之旨被為聴候日今御服忌被為請候様御用番土井大炊頭殿御達有之候ニ付得其意候様大目付廻状到来組中并町触差出ス

六月四日 昼後雨

一 御蔵米六拾日 町米五拾六匁

六月五日 終日雨

一 京町俵屋伊兵衛義商売用ニ付備後福山大黒町いほりヤ宇兵衛方へ  
三十五日計逗留ニ罷越申度願書差出大年寄承届候旨当人願書差  
出又七月五日帰ル届

六月六日 晴夜中雨

一 江原文藏番代平左衛門初而謁候ニ付先例之通扇子箱三本入台ニ  
居前以座敷へ差出置左之面々侍座

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

一 下役新左衛門風邪ニ而今日不參之旨断申来

一 林田町年寄常盤屋丈右衛門義湿瘡ニ付当国之内真賀温泉へ入湯仕  
度願書願出尤往来廿日計逗留ニ罷帰り申度願書差出承届ル同廿  
五日帰ル届

一 勝間田町栄屋与三左衛門義立願ニ付芸州宮島江參詣仕度来ル七日  
出立ニて往来廿日計逗留ニ罷帰申度願書差出承届同八日不快ニ  
付延引届出ス

一 河原町田中屋喜七儀姉かよ当丑四拾式才今度御領分之内惣社村讚  
岐妻ニ差遣申度町内人別除願書差出寺社取次も引合有之候ニ付  
猶引合之上承届

六月七日 昼後雨

一 鍛冶町横野屋徳左衛門借屋住加茂屋仁助義備前岡山森下町福原屋  
辰三郎悴和兵衛当丑三拾九才同人妻ふて式拾四歳同人娘つま六才  
右三人此度養「」引請申度住宅之義願出尤向方旦那寺并町年寄

も別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達又同廿三日住宅証文「」

一 福渡町浜野屋嘉市郎家守久米吉義三浦志摩守殿御領分当国之内真  
島郡鹿田村豊吉弟広太当丑式拾九歳此度借屋ニ居申候作人茂七役  
介ニ引請相応之渡世為仕度住宅之義願出尤向方旦那寺并村役人  
別紙差越候旨願書差出伺之上聞届同十三日住宅証文出ス

一 鍛冶町鍛冶善右衛門義脇坂中務大輔殿御預り所当国之内久米南条  
郡神目中村岩右衛門当丑五十三才同人妻そよ四十八才同人悴善吉  
廿六才同人娘きよ廿歳ニ罷成申候右四人此度役介ニ引請申度住宅  
之義願出尤向方旦那寺并村役人も別昏差越候旨願書差出伺之上  
聞届申達又同廿三日住宅証文出ス

一 堺町丸屋茂七儀脇坂中務大輔殿御預所当国之内勝南郡上瓜生原村  
幸三郎孫清吉当丑式拾才ニ罷成候此度役介ニ引請申度住宅之義願  
出尤向方村役人も別昏差越候旨願書差出伺之上聞届同十三日住  
宅証文出ス

一 鍛冶町鍛冶庄助義御代官下代後藤定治娘つる当丑十六歳此度妻ニ  
引受申度町内人別入願書差出承届

一 防州岩国河内組合之谷村きくと申女回国ニ罷出因州八上郡坂田村  
ニ而病氣付同所分送り出櫓村へ送り来候ニ付村継送り之儀承届候  
旨郡代分申来則大年寄へ申達ス

一 下役新左衛門未風邪不相勝候ニ付今日不參之旨相断候段申来

一 江原平左衛門義今日朝番見習出勤

六月八日 晴

一 御用日ニ付登城

一 防州岩国河内組合ノ谷村きく<sup>与</sup>申女昨夜及深更町分無滞新田村<sup>江</sup>  
送り達候旨大年寄<sup>ハ</sup>相届

一 下役新左衛門未相勝不申由<sup>ニ</sup>付今日も不参之旨断有之

一 坪井町金屋喜兵衛儀妻兼<sup>而</sup>病身者<sup>ニ</sup>付経行不順病氣と相心得春方  
医師取上ば、<sup>ニ</sup>為見候処懐妊之旨申候<sup>ニ</sup>付則当正月懐妊相届然ル  
処今朝男子出生仕親子共快御座候<sup>ニ</sup>付月取間違延引之段恐入候旨  
断書を以届出候<sup>ニ</sup>付例之通七夜相济候ハ、叱取計候様大年寄<sup>江</sup>申  
達置

一 江原平左衛門義夕番見習出勤

六月九日 快晴

一 三町目太刀屋久治義商売躰用事<sup>ニ</sup>付京都麩屋町錦下ル所近江屋七  
三郎方へ三十日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷越申度願書差出大年寄聞届候旨当  
人願書差出ス

一 左之もの兩人入牢申付候間立合差出候様郡代<sup>ハ</sup>申来尤手形相廻候  
<sup>ニ</sup>付認直し候<sup>而</sup>出番勇藏へ相渡

日上村 忠四郎

同人伴 山三郎

右入牢取計候旨出番勇藏相届ル

六月十日 晴夜雨

一 勝間田町栄屋与三左衛門義芸州宮島明神<sup>江</sup>七日出立参詣仕度願承  
届置<sup>一</sup>不快<sup>ニ</sup>而延引仕候旨届書を以届出承置ク

一 鍛冶町鍛冶伝右衛門悴駒次儀近来一向家職等不仕兎角出遊<sup>ハ</sup>親申  
付候義不相用右伝右衛門義も心配仕候<sup>ニ</sup>付何卒蒙示度内々銀札場

小遣源次<sup>ハ</sup>孫左衛門へ内願仕候由申出候<sup>ニ</sup>付今日大年寄月番宅へ  
呼出<sup>与</sup>得申聴候処納得仕候<sup>而</sup>以来急度相改可申組合共も一同申出  
候段源五兵衛<sup>ハ</sup>届出ル

一 山本三郎左衛門義林田村弥右衛門へ相懸り滞銀札出訴<sup>ニ</sup>付右願書  
郡代<sup>江</sup>相廻候処四月廿二日三十日限济方弥右衛門へ申付置候処限  
日<sup>ニ</sup>相成懸合不相济当月十日迄日延願差出承届置候処今日右滞銀  
札弥右衛門<sup>ハ</sup>返济仕候<sup>而</sup>双方申分無之相济候旨届出郡代所へも弥  
右衛門<sup>ハ</sup>同様相届候由<sup>ニ</sup>付承置ク

一 江原平左衛門今日<sup>ハ</sup>出番之旨申出右<sup>ニ</sup>付助山形林藏揚人<sup>ニ</sup>取計候  
旨大目付へ申遣ス

六月十一日 雨昼後止

一 院庄川満水<sup>ニ</sup>付船渡相留候旨郡代所<sup>ハ</sup>通用有之大年寄へ相達ス

一 江戸御留主居<sup>ハ</sup>御用状<sup>而</sup>通到来<sup>ハ</sup>彦通<sup>ハ</sup>郡代連名<sup>ニ</sup>付十郎左衛門<sup>ハ</sup>  
相廻ス

一 夜中院庄川水落川明キ候旨郡代<sup>ハ</sup>申来大年寄<sup>江</sup>申遣ス

六月十二日 雨雷鳴

一 今昼後院庄川猶又満水<sup>ニ</sup>付舟渡相留候旨郡代<sup>ハ</sup>申来大年寄へ相達  
候

一 材木町万屋与三兵衛家守清兵衛義御代官所布施孫三郎殿御支配所  
当国之内勝北郡小畑村百姓万太郎妹きみ当丑廿三才同人娘うた当  
丑三才此度私借屋<sup>ニ</sup>居申候松山屋伊三郎妻子<sup>ニ</sup>引請申度住宅之儀  
願出向方且那寺并村役人<sup>ハ</sup>も別昏指越候旨願書差出伺之上聞届申  
達又同廿五日住宅証文出ス

一 茅町浅田屋松太郎義茅町川土手御敷垣根ニ藁くろ致置候処今朝見  
出し候処右藁くろ下ニ布子壱つ男帯一筋ノ式品有之候ニ付届書を  
以届出尤右之品者 同人江預ケ置候段大年寄分申出ル

一 船頭町組頭共連印ニ而 境町通同小性町通上下土手筋并船差雁木腰  
石垣之場所へ近来鹿芥捨置御用荷物并其外船積之邪魔其上事之外  
見苦敷ニ付右三ヶ所へ立札有之候様仕度旨願書差出相伺候処何之  
通被仰出申達ス

一 下紺屋町朝庵家守八十郎義借屋ニ居申候忠吉此度石田新次家来池  
村嘉市同居仕度旨届書差出石田よりも噂有之候ニ付承届ル

六月十三日 雨

一 御用日ニ付登城

一 院庄川用キ候旨郡代より申来大年寄へ相達ス

一 下役新左衛門未不相勝候ニ付今日出勤相断候旨申「」

一 寺坂兵治義是迄助ニ罷出居申候処外御用有之候ニ付揚人ニ取計右  
代山形林蔵差出可申旨勘定奉行分通用有之候処当人分も申出候

一 油方之もの共々菜種式百六俵撰州兵庫灘屋へ積送り候ニ付裏印之  
義願出則調印相渡ス

六月十四日 快晴

一 去ル十日之夕西寺町愛染寺へ盗賊入込候而 物数拾四品盗取候由届  
出候ニ付例之通触流取計候様大目付中被申聴例之通町触差出ス同  
廿二日無之段申出ル尤同寺届落之由追届之上左之通

一 木綿古裕壱つ但表あひひろと裏あさ地

一 木綿わた入壱つ但表紺かすりいと入裏黒

一 木綿わた入壱つ但表あひ之白茶もん四角の藤小もん

一 新田村六治牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代より申来和四郎罷  
出取計候旨届出ル

一 坪井町金屋喜兵衛月取間違届延引ニ付先頃届出有之候処出産致安  
産候ニ付今日例之通叱申渡候段大年寄分届出ル

一 妙法寺地中妙見宮宵祭ニ付今夕西今町上之関貴之所揚挑灯差出候  
旨右同町年寄伺出候旨大年寄分相届候ニ付承置ク

一 堺町加賀屋伝吾方ニ泊旅僧相宿之参宮人之銀子九拾匁程盗取候処  
早速心付候而 目明共へ申遣目明共致吟味候処盗取候ニ相違無之候  
ニ付則取戻し右参宮人者 差戻し請取書等取候然ル所旅僧長州出生

之ものニ而 当時無宿之由余程金銀致所持候ニ付当所ニ而も盗相働  
候義難計依之□□□非人共へ預ケ置候旨目明申出候旨小頭分相届  
ル

一 今夕徳守宮納涼初ニ付出役和四郎右衛門罷出候所別条無之引取候  
旨届出ル

一 六月十五日 快晴

一 夜前京町戸島屋伝吉方ニ止宿仕候生野御代官所役人之由申候得共  
必定盗賊筋之ものニ相違無之其上先達而 郷中当所御役人之名面偽  
り廻村之ものニも可有御座候由ニ付郡代所分召捕候ニ付町目明へ

も在目明より相頼候由ニ付非人共召連戸島屋へ罷越召捕候段目明  
孫兵衛分申出候段小頭分届出尤始終郡代所取計候儀ニ付当役所ニ

而 承置候計ニ候得共郡代分内談有之

一 来ル廿五日廿六日両日宗門改之惣町印形取候義例年之通取計候旨

大年寄届出尤右入用錢当年も忝人ニ付五錢ツ、取立候旨申出承置  
ク

六月十六日 快晴

一 明十七日之夕觀音參詣多ニ付宮脇町関貫四つ時迄開置立番附候旨  
届出「」御用番中并大目附<sup>江</sup>も相届ル

一 山形林藏助ニ罷出居申候処不快引込ニ付日下勇助右代出勤之旨案  
内有之

六月十七日 快晴

一 明十八日五半時御供揃<sup>ニ</sup>而深信院様蘭田町通り泰安寺妙法寺へ御  
參詣被成候旨種村登門より申来則小頭并大年寄<sup>江</sup>も申達

一 大番所前へ関貫及破損明ケ立難仕急之間ニ合不申候様番人共分願  
出候間早々直し被仰付候様材木町年寄兩人分届出候ニ付大目付へ  
差出ス

一 豆腐直段唯今迄忝丁ニ付式拾式文ツ、商売之処大豆高直ニ付忝丁  
ニ付式拾四文ツ、売買仕度惣豆腐屋共并八百屋平吉分願書差出伺  
之上聞届申達ス

一 豆腐忝丁ニ付 式拾四文売立 但此代式匁式分五厘  
内忝匁六分<sup>八十匁相場大豆式并代</sup> 三分薪代 ヲ忝匁九分元入

一 引残<sup>而</sup> 三分五厘手間代

一 宮脇町徳守宮地子居松野屋伝助義悻利吉当丑式拾五才罷成候処去  
ル子年五月<sup>与</sup>風罷出行方相知不申親類組合共所々相尋候得共相知  
不申其段相届候処百日尋申付猶又心懸り之場所相尋候得共相知不  
申同年八月人別除帳願出承届候処今般右利吉儀大坂和泉町ほね屋

町東へ入鴻池又市郎方へ參奉公稼仕居申候由今度大病ニ取結命分  
も無覺束趣ニ付何卒右利吉儀帰住相免候ハ、連越介抱仕遣度旨願  
書差出右之通之先例も有之候ニ付伺之上聞届申達

一 二階町三保屋十右衛門家守伝治義借屋ニ居申候山田屋徳兵衛兼<sup>而</sup>  
大工職修行仕猶又先達<sup>而</sup>相願大坂順慶町忝丁目近江屋市右衛門<sup>与</sup>  
申もの火消道具細工人ニ<sup>而</sup>彼弟子ニ罷成修行仕夫々相覺手ニ入候  
之間火用道具御用相勤申度右看板等差出申度尤御免之上職分相稼  
申度願書差出御所<sup>江</sup>及御沙汰聞届

一 徳守宮納涼ニ付今夕出役仕候旨出番藤四郎勇藏届出

一 安岡町はりまや平五郎義新田村市右衛門娘きさ当丑廿四歳ニ罷成  
申候此度妻ニ引受申度町内人別入願差出承届ル

一 戸川町倉敷屋和助義娘ふさ当丑式拾四才此度西北条郡山北村浅之  
助妻ニ差遣申度町内人別除願書差出承届ル

六月十八日 快晴

一 御用日ニ付登城

一 深信院様御仏參無滞相濟候旨御先弘嘉七和右衛門罷出候段相届

一 此間郡代所ニ召捕置候生野役人名前偽<sup>口</sup>戸島屋ニ致止宿候もの下  
方「」吟味候処為差手懸り無之候ニ付下方ニ<sup>而</sup>追払可申旨尤  
町在目明一札取之候<sup>而</sup>以後徘徊致間敷旨急度申渡右之通取計候旨  
案内有之

一 江戸御留守居より差越候御用状式通返書下案相認候<sup>而</sup>御用番要人  
殿へ「」置ク

一 来ル廿三日御用日廿四日ニ相成候旨大目付分類役<sup>江</sup>被相達候旨通

用有之

六月廿日 曇

一 神田和右衛門請狀先例之文段<sup>ニ</sup> 差出尤寺証文差添差出ス先例之通且那寺林田高福寺請人戸川町福松屋新吉

一 江戸御留守居<sup>江</sup>之文通下案御用番要人殿<sup>江</sup>相何置候処御存寄無之宜取計候様手紙<sup>ニ</sup> 申来

一 堺町加賀屋<sup>ニ</sup> 盜致し候長州出生当時無宿<sup>ニ</sup> 而 円淨<sup>与</sup> 申僧<sup>□□□</sup>

六月廿一日 大雨雷鳴

へ 預置候処今日呼出し一応遂吟味入牢申付尤右之段御用番中并大目付へ相届

一 兼田川院庄川水満水<sup>ニ</sup> 付川留之義郡代より申来則大年寄<sup>江</sup> 申達ス  
一 御蔵米六拾三匁五分 町米五拾九匁五分

右立会

六月廿二日 朝曇晴

一 小頭利右衛門 書役兼部屋目付藤四郎 出番嘉七和右衛門  
一 古城西村岩右衛門被盜もの単物沓羽折沓代物都<sup>而</sup> 式拾沓匁位之品

一 兼田川院庄川水落川明キ候旨郡代分申来大年寄<sup>江</sup> 相達ス  
一 御蔵米六拾七匁五分 町米六拾三匁五分

例之通触流取計候様<sup>ニ</sup> 大目付被申聞町触差出同廿五日無之段届出ル

一 夜中兼田川院庄川川留之儀郡代分申来大年寄<sup>江</sup> 申達ス  
六月廿三日 晴

六月十九日 快晴

一 播州網干余陸屋利兵衛<sup>与</sup> 申もの沓人例年之通荒物并塩物おろし売<sup>ニ</sup> 昨日參候間逗留仕らせ度例之通中之町津田屋伝助宿切手差出ス

一 潰銀類銀座并下買之外他所<sup>ニ</sup> 而 売買致間敷且又銀箔之義京都之外<sup>ニ</sup> 而 打立申間敷公儀御触書大目付分相廻町触并組中<sup>江</sup> も触書差出ス

八月廿二日 帰届

一 昨日及吟味候旅僧円淨去ル十日十一日兩夕共中之町甲屋幸助方<sup>ニ</sup> 止宿之趣申候<sup>ニ</sup> 付則甲屋相糺候処泊り候<sup>ニ</sup> 無相違幸助口書取差出ス

一 播州網干余陸屋惣七<sup>与</sup> 申もの沓人例年之通八百屋ものおろし売<sup>ニ</sup> 昨日參候間逗留為仕度右同町右同人宿切手差出ス八月廿二日 帰届

一 生野役人之名面偽り戸島屋方<sup>ニ</sup> 致止宿候もの目明共召捕候<sup>而</sup> 及吟味候処先達<sup>而</sup> 元魚町延屋三治方<sup>ニ</sup> 而 相宿之紙入之内<sup>ニ</sup> 有之候小柄盜候<sup>ニ</sup> 相違無之其外為差義も無之<sup>ニ</sup> 付目明場<sup>ニ</sup> 而 追払可然旨郡代分も相談有之其通<sup>ニ</sup> 為取計町在目明共<sup>江</sup> 一札取之今日皿村へ追払候旨届出ル

一 播州網干塩屋伊兵衛<sup>与</sup> 申もの沓人例年之通塩物荒物卸売<sup>ニ</sup> 昨日參候<sup>ニ</sup> 付逗留為仕度右同町右同人宿切手差出ス八月廿二日 帰届

一 吹屋町瓜生原屋勘助儀御代官三河口太忠殿御支配所備中国浅口郡阿賀崎新田村菅田屋彦四郎弟直助<sup>与</sup> 申もの当丑廿六歳此度役介<sup>ニ</sup> 引受申度住宅之儀願出尤向方且那寺并役人分も別替差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス七月朔日住宅証文出ス

一 吹屋町瓜生原屋勘助儀御代官三河口太忠殿御支配所備中国浅口郡阿賀崎新田村菅田屋彦四郎弟直助<sup>与</sup> 申もの当丑廿六歳此度役介<sup>ニ</sup> 引受申度住宅之儀願出尤向方且那寺并役人分も別替差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス七月朔日住宅証文出ス

候旨届出ル

差出伺之上聞届申達ス七月朔日住宅証文出ス

一 東新町鋼屋善助義大久保安芸守殿御領分当国内久米北条郡山手  
南村熊治郎姉うた当丑廿四才此度妻ニ引請申度住宅之儀願出尤向  
方且那寺并村役人々も別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス七  
月廿八日住宅証文出ス

一 東新町鍛冶屋忠助義土岐山城守殿御領分当国内英田郡福本村政  
治郎弟嘉吉義当丑拾九才此度役介ニ引受申度住宅之儀願出尤向方  
且那寺并村役人々も別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス七月  
廿八日住宅証文差出ス

一 二階町三保屋十右衛門家守伝次義森河内守殿御領分播州佐用郡大  
内谷村六郎右衛門幸次郎当丑四十三才同人妻りゑ三拾八歳同人  
俸兵吉八才右三人之もの共借屋ニ居申候高田屋友次方へ引請相応  
之渡世為仕度住宅之儀願出尤向方且那寺并村役人よりも別昏差越  
候旨願書差出伺之上聞届申達ス七月八日住宅証文出ス

一 撰州有馬辻堂茂兵衛与申もの忝人例年之通墨筆白粉卸売ニ昨日参  
候ニ付差置申度中之町甲屋幸介宿切手差出八月十三日帰ル届

一 備前岡山上之町黒金屋嘉兵衛と申もの忝人例年之通紙類荒物類紺  
屋形金通シ張替商売ニ昨日参候ニ付逗留為仕度中之町甲屋幸助宿  
切手差出ス

一 堺町年寄義七郎義近来病身ニ相成候ニ付悴三四郎名代ニ差出度願  
書差出承届同日大年寄宅ニ而申渡候段届ル

一 京町年寄喜八郎義右同断ニ付悴喜代四郎名代ニ差出度願書差出承  
届同日申渡候旨大年寄今届出ル

一 東新町久野屋茂兵衛儀当正月上旬品々被盜取候内三斗之切手被盜

取候処印不相覺五十七歟廿一歟両印之内マカ之内之由申出候ニ付触  
取計かた／＼中買共計へ申達置候処今度右印相分被盜取候切手廿  
一之印ニ相違無之候間五十七之印切手売買無滞候様取計呉候様届  
書差出候ニ付大目付へ及沙汰中買共へ申達候様大年寄江相達ス

一 新魚町紙屋元吉義借屋ニ居申候国岡屋甚助与申もの妻さん同人俸  
文吉右式人心願有之候ニ付四国遍路罷出申度尤往来百五十日計還  
留ニ而罷帰候旨願書差出承届同十一月十二日七十七日延願  
寅正月廿一日又七十七日延願

一 材木町近江屋藤吉母義俸藤吉去子六月相願四国遍路罷出候処日限  
ニ帰り不申追々日延相願候処今以罷帰り不申候ニ付猶又式百日計  
日延之義願出承届

一 勇藏義伯父致死去候ニ付今日分三日程遠慮仕度尤引込ニ不仕頼合  
ニ仕度旨小頭分届出承置ク

六月廿四日 晴昼後夕立

一 暑中伺御機嫌御家中一統五半時登城

一 今日御用日ニ付登城

一 七間廊下ニ而例之通御小性代大目付類助へ御奏者番已下一統暑中

伺御機嫌之旨謁申上御前様江も同様御機嫌伺候旨謁申上ル

一 桶屋町中田屋十兵衛義娘かん当丑式拾八歳右之もの去ル八ヶ年已

前林田村乙吉妻ニ罷越候而男子女子兩人出生之所右女子忝人召連

離縁仕引受申候ニ付町内人別人之義願出承届

一 船頭町年寄美濃出屋清右衛門義此度船頭町土手筋致出精掃除等為  
致建札等願出候義も同人心付ニ而他邦之見分甚宜相成候ニ付右清  
右衛門役所及賞詞候間其段相達候様大年寄へ申達ス

一米直段俄ニ高直ニ相成候ニ付内分為承合候所全く地上ケ之由上方直段ニも引合不申候由ニ付米払底之趣ニ相聽候ニ付造酒米買入之儀差留候間造酒屋共可申達尤中買共江も造酒米買入候ハ、口入致間敷兩方へ右之段相達候様大年寄へ申達ス

一今朝半浚取計候処別条無之段幸治和右衛門届出ル

六月廿五日 晴

一船頭町土手船付場三ヶ所建札今日御作事方取計候ニ付同町年寄罷出相濟候段相届ル

一下田邑村川西儀三次同村川東太吉同流民庄八右三人牢番預ケ申付候間立会差出候様郡代分申来出番平左衛門罷出取計候旨届出ル

六月廿六日 快晴

一齋藤孫右衛門宮田喜左衛門昨夜罷帰候旨届出ル

一勇藏今日分出勤之旨届出

一神戸村十太郎牢賄一日分三合七勺五才六月分銀札七匁五分六厘郡代より相廻今日牢番へ渡ス

一昨日今日両日町会所ニ而惣町宗門印形取相濟候旨大年寄届出

六月廿七日 快晴

一西今町古金屋伊兵衛儀廿四日之夕裏門こしめき盗人入込左之品被盜取候旨届書を以届出七月六日無之段申出ル

一 一小脇差壱 一金山鏢 一金切羽一具 一銀切羽鏢

一 一唐扇 一シヤリ太刀拵脇指

右代凡七拾五匁位

一林田町辰野屋喜助義夜前九つ半時分分七つ半時分迄之内表口分盜

人入込左之品々被盜取候旨届書を以届出七月六日無之段申出ル

一白もめん三反 一刻たはこ壱袋 一つりつな廿尋

一 一小倉島男帯地 一文錢百文 一銀札拾匁計

一 一手拭地十四五反 右代凡百目計

一福渡町植月友輔後家家守和七儀借屋ニ居申候長吉儀去ル二月下旬罷出行衛相知不申届出候ニ付百日尋申付置候処今以行衛相知不申

百日余ニも相成候ニ付町内人別除願書差出伺之上聞届申達

一桶屋町竹田屋文吉儀弟權吉去子三月相願往来百五十日計之逗留ニ

而四国遍路ニ罷出候処日限ニ至罷帰不申追々日延相願候処今以一向便も無之病死之程も難計依之人別除願書差出伺之上聞届

一吹屋町吹屋八左衛門義大久保安芸守殿御領分当国之内久米北条郡角石谷村丈右衛門娘さの当丑式拾一歳此度弟藤三郎妻ニ引請申度

住宅之儀願出尤向方旦那寺并村役人分別昏書付差越候旨願書差出

伺之上聞届八月七日住宅証文差出

一西今町公文屋清左衛門義借屋ニ居申候丸屋治兵衛娘もと去子二月相願新田村七左衛門伴勘吉妻ニ差遣置候処此度離縁仕尤先方ニ而

出生之男子召連罷帰候ニ付町内人別入願書差出承届

六月廿八日 快晴

一御用日ニ付登城

一先達而綿改之仕法立替之儀伺書差出置候処江戸表へ御伺ニ相成候処伺之通取計候様被仰出候旨御用番要人殿御申渡有之

一宗永寺へ廿四日之夕盜賊入込左之品々被盜取候ニ付例之通触流取計候様大目付類助分申聞町触差出ス

一白単物 一浅黄染単物 一白絹帯但織紋有 一白絹糸手巾  
一 小倉紙入内ニ銀札三十匁小札三匁余 一賽銭三百文計

惣合銀札共八拾目余り 七月六日無之段申出ル

一 繰綿改役並屋忠兵衛大村屋源右衛門米屋長兵衛生綿屋喜右衛門ノ  
四人之もの共改役差免呉候様先達<sup>而</sup>願書差出候ニ付今日願之通承  
届役免申達候様大年寄へ相達ス

六月廿九日 快晴

一 今夕徳守宮名越祓ニ付坪井町門並ニ挑灯差出且細工町上ノ番所前  
へ揚挑灯差出且又同町ニ<sup>而</sup>昨夕百万遍仕度届出候旨大年寄へ届出  
承置ク

一 牢舎院庄村勇左衛門神戸村十太郎新田村六治右三人共出牢又々勸  
農所へ差遣申候間立会差出候様郡代分申来源蔵罷出取計候段届出  
ル

一 無宿盗人<sup>与</sup>之助入牢申付候間立会差出候様郡代分申来尤入牢手形  
相廻立会源蔵罷出取計候段届出ル

一 徳守宮水無月祓ニ付今夕出役和四郎源蔵罷出別段無之引取候段届  
出ル

一 例月之通番賃銀相渡ス

七月<sup>甲</sup> 申 小

御家老 安藤丹後殿  
御年寄 海老原極人殿

大目付 太田舎人

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

七月<sup>壬</sup> 午 旦 朝曇晴

一 当月月番斎藤孫右衛門相勤候旨届出ル

一 例年之通宗門御改ニ付寺証文自分証文共当月中旬頃迄ニ差出候様  
宗旨奉行分順達廻状到来組中<sup>江</sup>も右之段申達

七月二日 晴折々曇

一 御蔵米六拾六匁 町米六拾式匁

一 河原町山形屋長七五人組共分組合山形屋長七同人妻とよ同娘たき  
右三人之もの義五六日以前分罷出行衛相知不申候ニ付所々心当り  
之方相尋候得共一向行方相知不申候ニ付右之趣届出候ニ付百日尋  
申付置ク

一 美濃職人町鉄屋治兵衛借屋もの斧八悴志津太儀河野志津太と相改  
黒田要人殿家来ニ住込候付町内人別差除候様願書差出候ニ付則要  
人殿へ開合之上聞届申達ス

一 京町作人ミチ義娘くま当丑廿三才同ちせ十九才右兩人此度脇坂中  
務大輔殿御預り所当国勝南郡下瓜生原村龍田建治方へ養女ニ差遣  
申度当所人別離願書差出伺之上聞届申達ス

一 河原町作人万歳義備前赤坂郡五日市村多兵衛悴藤七当丑四十五才  
同人妻ひな四十三才同娘ふて十八才右三人之もの役介ニ引受申度

住宅之儀願出尤向方且那寺并役人今も別昏差越候旨願書差出何之上聞届申達ス同四日住宅証文出ス

一牢舎与之助呼出候間立合差出候様郡代今申来嘉七罷出出入取計候段届出ル

一吹屋町年寄釜屋市郎右衛門儀先頃致死去候ニ付右悴へ跡役申付候間可然旨大年寄より伺出尤是迄市郎右衛門故障之節も相勤居候事故旁跡役申付候様申出候ニ付其旨可取計旨相達候処今日申渡候段大年寄より相届「」

七月三日 曇

一御用日ニ付登城

一於御用所御用番御年寄極人殿左之通御申渡大目付舎人出席

博奕参会いたし不埒至極ニ付  
五十敲之上帰村被仰付  
下田邑村川西 義三治  
同村 川東 太吉  
同 流民 庄八

一右敲取計来ル廿五日取計候旨御用所并大目付中江も相届

一新田村之内瓦屋権七出戰場へ盗人去月廿五日之夕裏戸口より入込

左之品被盜取候旨例之通触流取計可申旨大目付中被申聞則町触差出ス同六日無之段届出ル

一男着単物巻 一女着単もの巻 一同単物巻  
但蛤形島(イ) 但紺浅黄立島(イ) 但右同断

一越中富山船橋町松井屋源兵衛手代文三郎加助清兵衛メ三人例年之通反魂丹壳ニ昨日参候ニ付逗留爲仕度元魚町延屋三治宿切手出ス  
十二月廿三日届届

一幸治儀不快ニ付引込助之儀大目付中へ申達候処赤田平次助ニ罷出ル

七月四日 晴雨少々

一同心組元島庄蔵先達ニ番代申付置候処今般小沢又右衛門家来浮田林平与申もの番代ニ差出申度願書差出下見等も相済又右衛門江も承合候上聞届申達ス

一明日敲取計候ニ付右手配之儀小頭江申達ス

七月五日 晴

一今朝左之もの共左之通取計立会之面々

御徒目付山田嘉七 下目付老入

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番平左衛門

五十敲之上帰村  
下田邑村川西 義三治  
同村 川東 太吉  
同 流民 庄八

一右取計相済候段出役之面々より届出候ニ付其段御用番極人殿大目付舎人江相届ル

七月六日 曇雨少々

一本島林平今朝初而謁候ニ付先例之通扇子箱三本入台ニ居差出置小頭部屋目付出席

一安岡町大坂屋鉄五郎借屋住喜多次与申者郷中ニ而麦盜致候哉之旨相聞候ニ付札呉候様郡代より申来候ニ付目明共へ相札申付候処段々疑敷義共有之夜前組之もの嘉七平左衛門へ目明共非人共差添差向候処在宿不致深更ニハ帰り可申趣ニ付所々へ手配りいたし相待

居申候処聖徳寺前へ帰り懸り候もの者人有之候而相札かけ候処荷物等捨置候而逃去候ニ付残し置候荷物相改候処麦四斗ほと風呂敷ニ包巻荷ニ致捨有之ニ付聖徳寺へ右麦ハ預ケ置候旨出番分届出右ニ付喜多次妻子他参留喜多次義者組合とも殿敷尋申付置尤喜多次諸道具等封印置候右之段御両所へ及御沙汰置ク

七月七日 朝雲晴

一七夕御年限中ニ付登城無之

一町方諸人用八朔割帳面例之通大年寄分差出一応披見之上存寄無之段申達差戻ス

一御堀掃除料銀札式百八拾九匁分四厘大年寄より相納候ニ付明日御作事奉行江相渡候事

一惣馬持廿五人例年之通老人ニ付大豆壹俵ツ、拝借仕御納所之義者来ル八月今十二月まで扶持大豆ニ引取候様願書差出候ニ付勘定奉行懸合之上御用所江相伺聞届

一元魚町伊丹屋利左衛門義所持之自国請酒株去子八月相願候而三町目南屋利兵衛江貸置候処此度双方勝手ニ付取戻申度願書差出承届

一例年之通盆中町触差出ス

七月八日

(ア・イ・天候記載なし)

一中之町淀屋正七義久世勝山都而西筋取引商内いたし荷物往返之所坪井間屋場ニ而自分持之分ハ故障無之候得共手人代人ニ而持運ひ候歩荷之分繼立可申段指故障申之商内之差支ニ相成難義仕候ニ付坪井役所へ出訴仕度添簡之儀願出候得共下方ニ而穩便ニ相濟候様致度大年寄共分坪井大庄屋へ一応為懸合候処坪井大庄屋より申越

候者自分持之分差構無之候得共手人代人ニ而持運ひ候荷物是非繼立候仕送り之旨問屋場分申出候旨申来候段右往返書簡差出候ニ付右之段正七江与得申聴セ其上ニも難義之趣ニも候ハ、出訴願出候様大年寄江申付置則右書面類御用所へ及御沙汰候処写ニ而差出候様御申ニ付往返書簡写差出ス

一例月之川下送書裏書申出取計遣又今日御聞濟馬持共拝借之証文等奥書申出調印遣又

一御用日ニ付登城

一来ル十三日十四日十五日惣町関貫開置立番付候旨御両所へ相届ル一来ル十四日例年之通為示廻町仕候段及御沙汰御貸人之義大目付へ申達置ク

一田町御門北角御矢倉勘定奉行預候処右之内半分当役所拝借被仰付候間勘定奉行懸合可申候様大目付舍人被申聞

但兼而御槽拝借之儀申込置候得共当時手近キ処ニ明矢倉無之候ニ付右之段御達シ

一牢舎岩城不快之旨届出候ニ付大年寄へ申達町医中村益庵診察之所輕キ義ニも候得共服藥致可然由ニ付則服藥申付候段大年寄届出ル

七月九日 快晴

一伊丹屋利右衛門義所持之自国請酒株此度三町目南屋利兵衛へ相譲り申度左候ハ、以後右株者伊丹屋方ニ而商売不仕旨願書差出承届

七月十日 快晴

一別条無之

七月十一日 晴

一 当月番賃銀明十二日渡ニ付大年寄分差出取調置ク

七月十二日 快晴

一 例月之番賃銀当月分今日相渡ス

一 深信院様明十三日五半時泰安寺妙法寺<sup>江</sup>御參詣被成候旨種村登門

分申来夫々<sup>江</sup>申達ス

一 要人殿家来河野志津太と申もの美濃職人町作人斧八方<sup>ニ</sup>同居為致候旨要人殿分申来

一 小性町塩屋七三郎義横山村之内所持之水車へ当月七日夕盗人入込銀札式百五六拾匁盗取候旨届出尤郡代所<sup>江</sup>も相届候由ニ付引合之上追<sup>而</sup>御用日<sup>ニ</sup>御さた可申上事

七月十三日 快晴

一 左之もの其他所札取扱候旨銀札場目付之もの分申出候間一応相札候<sup>而</sup>先例取調御裁許之義相伺候様大目付舍人より申来

新魚町 備前屋喜七

堺町 西川屋善介

橋本町 山形屋喜八

一 盆中ニ付今日御用日出仕無之

七月十四日 晴

一 他所札取扱候もの共三人今朝大年寄宅<sup>ニ</sup>而相札口書取差出ス

一 牢舎岩城病氣<sup>ニ</sup>付中村益庵療治服薬仕候処全快<sup>ニ</sup>付休薬仕候旨牢

番并大年寄分相届ル

一 例年之通盆中廻町仕候<sup>ニ</sup>付七つ時供揃申付七つ半時頃出宅

一 若党兩人

和四郎 平左衛門

一 割場中間 四人

一 牢屋下番中間 壹人

×

一 細工町角下大年寄三人諸吟味罷出候<sup>ニ</sup>付相応及挨拶

一 廻町順昨年之通町役罷出取扱振先例之通

七月十五日 晴

一 宗旨証文并自分証文共手紙差添宗旨奉行小島定人<sup>江</sup>相廻ス

一 坪井町日野屋五助儀兄京都祇園南町日野屋久五郎儀先達<sup>而</sup>罷越当

二 月上旬八十日計之逗留願出承届候然ル処老母久々相勝不申右介

抱<sup>ニ</sup>取紛追願延引仕候猶又八十日計之逗留為仕度願書差出承届

七月十六日 晴少雨

一 夜前夜廻り嘉七林平罷出船頭町土手例年之通聖靈送り群集<sup>ニ</sup>候得

共別条無之旨届出ル

一 他所札取扱候もの三人御裁許伺書相認大目付<sup>江</sup>今日差出ス存寄も

有之候ハ、可被申聽候様申談置ク

七月十七日 晴少雨

一 下役新左衛門全快<sup>ニ</sup>付今日分出勤之旨案内有之

一 新魚町魚屋善四郎家守兵治義本多大和守殿御領分播州宍粟郡下牧

谷村忠右衛門娘いち当丑廿九才此度妻<sup>ニ</sup>引請申度住宅之儀願出尤

向方旦那寺并村役人分も別昏差越候旨願書差出窺之上聞届申達九

月廿二日住宅証文出ス

一 新魚町檉野屋茂一郎義松平主税殿領分播州佐用郡平福村平四郎娘

くに当丑廿八才此度役介引請申度住宅之儀願出尤向方旦那寺并村

役人分別紙差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス九月廿二日住宅証  
文出

一中之町作人虎藏義所持之家屋敷表口四間裏行拾四間半御役本役右  
之家屋敷此度代銀札三百五拾匁ニ相極町内一平江売渡申度願書差  
出承届七月廿六日売券状差出ス

一川口藤左衛門隱居仲治義剃髮仕度之旨先頃内々申出願書ニ而も可  
差出義ニ候哉大年寄分伺出候ニ付願書差出候ニハ及中間敷役所聞  
置候ニ而可然旨相達置候処昨日剃髮仕心元と改号仕候段大年寄申出  
ル

一新魚町樫野屋茂一郎義召仕佐吉与申もの当丑式拾才ニ罷成元船頭  
町ニ罷在候中間治兵衛悴ニ而治兵衛江戸表ニ而病死已後母つる親  
里播州釜島村兵五郎方へ母子共罷越相懸り居申候処右母又々当地  
江罷越林田上之町中間金藏妻ニ相成村方入帳仕居申候処右佐吉義  
跡をした母方へ罷越其節請人を以召抱居申候然ル処是迄何方へ  
も入帳不仕ニ而先非を悔何卒御当所住宅之義願具候様相頼尤当人  
実跡ものニ付相応之渡世仕らせ度願書差出伺之上聞届申達ス

七月十八日 晴

一御用日ニ付登城

一丹後殿 中ニ而別席御逢対有之町方之様子御聞被成度ケ条書ニ而  
御渡来ル廿一日迄差出候様御申聴有之

一御箱訴壹通右者茅町幸右衛門先達ニ而之養子喜兵衛と申もの離縁之  
所彼是出入有之候ニ付右之段及御箱訴候段宜取計候様大目付中被  
申聞右訴状被相渡候

七月十九日 雨

一石州津和野領分直地村妙勤与申尼回国之処病氣ニ付齧先分送り来  
候旨承届置候段郡代分申来其段大年寄へ達置ケ

一大守様御不例ニ付明廿日四つ時登城致候様大目付舍人より申来

一他所札取扱候橋本町山形屋喜八堺町西川屋善助新魚町備前屋喜七  
申渡書相済明廿日五つ時呼出可相達旨差紙を以大年寄へ達ス

一右立合小頭并目付罷出候様申達ス

七月廿日 快晴

一今四つ時為伺御機嫌登城例之通御奏者番以下七間廊下ニ而御機嫌  
相伺御小姓頭代舍人江謁ス御前様へも同様申上ル

一御奏者廻状到来江戸表分飛脚到来大守様御不例ニ被為在候ニ付為  
伺御機嫌明廿一日四つ時御徒格已上登城仕候様廻状到来ニ付先例  
も有之ニ付大年寄計江右之段為相知尤役所へ罷出候様申達ス

一勝間田町榮屋与三左衛門義真賀江入湯仕度明後廿二日出立往来廿  
三日逗留ニ而罷婦申度願書差出承届八月六日帰ル

一新魚町三沢屋与八儀越中富山板屋理兵衛役介治右衛門徳兵衛平三  
郎三人昨日参候ニ付例年之通当月迄請人取召抱置売薬為仕度願  
書差出承届

一惣練屋共明廿一日八半時不残差出候様大年寄江差昏遣ス右ニ付月  
番大年寄者勿論非番孫左衛門兼綿改之義引受居申候ニ付是又明  
日罷出候様申達ス

一右呼出ニ付小頭部屋目付番兩人罷出候様小頭江申達ス

一小性町瓜生原屋惣兵衛義借屋ニ居申候植木屋金藏当月八日不斗罷

出何方へ参候哉行衛相知不申請人<sup>者</sup>勿論組合心懸り之所相尋候得  
共今以相知不申段届書を以届出例之通百日尋申付ル

一戸川町作人新兵衛義御領分小原村庄七後家当丑五拾三歳此度借屋  
住利三次妻<sup>ニ</sup>引請申度願書差出承届

一御蔵米六拾五匁 町米六拾壹匁

一今夕美濃職人町<sup>ニ</sup>而 百万遍仕候段届出候<sup>ニ</sup>付其段大年寄より相届

七月廿一日 朝雨昼後晴

一今四つ時為伺御機嫌惣出仕当役例之通七間廊下<sup>ニ</sup>而 御奏者番已下  
御小姓頭代へ謁申上ル御前様<sup>江</sup>も同様御機嫌相伺

一勘定奉行辰右衛門長平当病不参<sup>ニ</sup>付辰右衛門名代十郎左衛門長平  
名代勘大夫七間廊下<sup>ニ</sup>而 謁申上御前様<sup>江</sup>茂 同様申上ル

一今八つ半時分惣繰屋共五拾余人もの呼出左之通申渡

綿改之儀難洪申立之もの共間々有之候<sup>ニ</sup>付以来<sup>者</sup>改請候共自  
分稼<sup>ニ</sup>致候共勝手次第併自分稼たり共不正之義とも有之候ハ

、急度可及吟味候且改綿是迄壹本六貫百目之処已来<sup>者</sup>六貫目  
入可致尤改方申付候右改方目付として組之者改之節差出候間

銘々出精可致候其外改綿之義理解申候

右立会之面々左之通

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番源蔵林平

大年寄孫右衛門 別<sup>ニ</sup>孫左衛門 諸吟味喜左衛門

繰綿問屋之もの共

並屋忠兵衛 能勢屋源助 大村屋源右衛門

高瀬屋勘右衛門 豊屋喜兵衛 大坂屋鉄五郎

前段之趣申渡他邦へ相拘り候事故随分正路<sup>ニ</sup>可取計之源助義  
是迄折々不埒之義相聞候へ共先つ此度<sup>者</sup>其俣<sup>ニ</sup>差置候尤亡父

源助綿之儀<sup>ニ</sup>付<sup>而</sup>者 功も有之候<sup>ニ</sup>付不及吟味候已来急度相慎  
入念候様申付

立会之面々右同断

一左之もの兩人呼出候<sup>而</sup>直に申付候左之通

繰綿改役申付候已来<sup>者</sup>別<sup>而</sup>入念可相改

候尤其方共目付として組之もの老人差

向改方は迄之通併已来<sup>者</sup>壹本六貫目入

ニ可取計事

立会之面々右同断

一操綿改之節改人大村屋源右衛門米屋長兵衛へ申付候間改方非分も

有之哉目付として以来改之節出役可致候様小頭利右衛門へ申付ル  
尤改<sup>ニ</sup>罷出候節<sup>者</sup>役所<sup>江</sup>可申出候

右立会 下役新左衛門 部屋目付藤四郎

一牢舎盗人円淨呼出候<sup>而</sup>盜之始末及詮義候得共今日吟味詰<sup>ニ</sup>も不相

成右立会左之面々

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番幸治和右衛門

一大守様御不例<sup>ニ</sup>付大年寄共并惣町中乍恐御祈禱仕度旨願出候<sup>ニ</sup>付

右之段御用番中<sup>江</sup>相伺候処無程宜取計候様申来其段大年寄へ申達

ス

一大守様御不例<sup>ニ</sup>付御家中一統於八幡宮御祈禱申上候様御家老中御

達之旨大目付中書付被相渡候但御祈禱料之義<sup>者</sup>追<sup>而</sup>可相達由

七月廿二日 雨

一 上紺屋町鳥羽屋源十郎借屋<sup>ニ</sup>居申候かね三月廿七日<sup>与</sup>風罷出候<sup>ニ</sup>

付其節相届候処百日尋申付置候処今以行衛相知不申候<sup>ニ</sup>付最早百

日余<sup>ニ</sup>も相成候間町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一 西新町中島屋与次兵衛義三浦志摩守殿領分当国之内真島郡曲り村

龍右衛門当丑三拾一才同人妻つる廿五才右兩人役介<sup>ニ</sup>引受申度住

宅之儀願出尤向方旦那寺并村役人今別昏差越候旨願書差出伺之上

聞届申達ス八月十三日住宅証文出

一 院庄川満水<sup>ニ</sup>付川留之儀郡代分申来大年寄へ申達ス

一 兼田川右同断<sup>ニ</sup>付大年寄へ申達ス

七月廿三日 快晴

一 御用日<sup>ニ</sup>付登城

一 一両川水落候<sup>ニ</sup>付船渡し相始候旨郡代分申来大年寄へ申達ス

一 左之もの共追込昨日迄三日<sup>ニ</sup>相成候<sup>ニ</sup>付今朝差免候様大年寄<sup>江</sup>申

達候処申渡取計候旨届出候

橋本町 山形屋喜八

堺町 西川哉善介

新魚町 備前屋喜七

右之段登城之上御両所へ相届ル

一 雲州之隠州囚人召連大坂御奉行へ差出候<sup>ニ</sup>付左之通先触到来之旨

右写差出ス

一人足 式拾人

一 輕尻 三疋

一 右<sup>ニ</sup>付是迄先例も無之候得共組之者兩人見へ隠れ<sup>ニ</sup>市中通行中稽<sup>(ウツ)</sup>

衛為致候<sup>而</sup>可然旨御用番中<sup>江</sup>相伺候処宜取計候様要人殿御申聞<sup>ニ</sup>

付其段大目付へ及噲置ク

一 右<sup>ニ</sup>付今日夜廻り之所右警衛之方へ出役致候<sup>而</sup>可然旨小頭へ申達

候処藤四郎勇藏罷出

一 松平順丸様御事勘四郎様<sup>与</sup>御改名被成山城守様御遺領無御相違被

仰蒙候段右為御知大目付廻状到来右之段組中<sup>江</sup>相違候様小頭へ申

達且又町触<sup>者</sup>不差出大年寄計へ為相知候

一 大守様御不例之処追々御勝不被成候之段江戸表分申来候<sup>ニ</sup>付為何

御機嫌明廿四日四つ時御徒格以上惣登城仕候様御奏者廻状到来右

之段大年寄へ申達先日之通大年寄計役所<sup>江</sup>罷出候様申達ス

一 新魚町藁屋定吉儀借屋<sup>ニ</sup>居申候伯耆屋太兵衛家内三人相暮罷在候

処当三月妻子残し置<sup>与</sup>風罷出行衛相知不申候<sup>ニ</sup>付其段相届候所百

日尋申付猶又所々相尋候得共今以行方相知不申最早百日余<sup>ニ</sup>も相

成候<sup>ニ</sup>付町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一 新魚町桑名屋喜兵衛義所持之家屋敷表口式間半裏行六間半御役四

歩右之家屋敷此度代銀札百七拾匁<sup>ニ</sup>相究町内住屋喜助へ売渡申度

願書差出承届八月四日売券状出ス

一 明日□□村番非人郡代所分当役所へ引渡候間□□□非人頭へ引渡

五十敲相当之任置取計候様今度初<sup>而</sup>右取計<sup>ニ</sup>相成候<sup>ニ</sup>付今日大年

寄へ<sup>与</sup>得申聞非人頭□委細申含置候様申付

七月廿四日 快晴

一〇〇村番非人三之助義去ル九日夕博奕宿致郡代所<sub>ニ</sub>而吟味之上御裁許之義相伺候趣<sub>者</sub>五十敲可申付候処非人之義<sub>ニ</sub>付非人頭へ引渡相当之仕置可仕旨伺済<sub>ニ</sub>付今朝番非人郡代所同心差添差越候<sub>ニ</sub>付左之通取計置ク

大年寄<sub>分</sub>非人頭<sub>江</sub>今朝申渡ス

其方共手下〇〇村番非人三之助義去ル九日夕博奕致宿不届<sub>ニ</sub>付五十敲可申付所非人之儀<sub>ニ</sub>付其方共<sub>江</sub>引渡候相当之仕置可申付候

追<sub>而</sub>御役所<sub>分</sub>御渡被成候間非人兩人召連候<sub>而</sub>罷出請取可申候

一今五つ時左之面々役所へ罷出候<sub>而</sub>郡代所<sub>分</sub>召連候三之助請取候<sub>而</sub>非人<sub>江</sub>相渡候

出番藤四郎勇藏 目明孫兵衛<sub>郡代所<sub>分</sub>も目明差添不申候付以後目明不及候</sub>

一右取計相済候旨登城之上御兩所へ相届ル

一今日為伺御機嫌四つ時惣出仕例之通七間廊下<sub>ニ</sub>而御奏者番已下三奉行迄一同罷出御小姓頭代へ謁御機嫌伺申上ル

一御前様<sub>江</sub>も同様申上ル

一明日<sub>分</sub>日勤<sub>ニ</sub>相成候旨大目付中<sub>分</sub>被申聽候旨勘定奉行<sub>分</sub>通用有之  
一於八幡宮大年寄共并惣町御祈禱滿願<sub>ニ</sub>付右神主御城<sub>江</sub>持參小勘者請取候旨右同人申聞候大年寄共<sub>分</sub>も申出ル

七月廿五日 快晴

一御用日<sub>ニ</sub>付登城今日<sub>分</sub>日勤<sub>ニ</sub>相成ル

一宮脇町関貫大扉損候<sub>而</sub>開兼候<sub>ニ</sub>付繕被仰付被下候様坪井町年寄共

今届書差出今日大目付中へ差出

一今日左之もの共へ操屋頭申付候段大年寄より届出ル<sub>(ツマ、正しくは操屋)</sub>

並屋忠兵衛

田邑屋善三郎

生綿屋喜右衛門

一大守様御不例<sub>ニ</sub>付<sub>而</sub>者別<sub>而</sub>火之元入念候様大目付廻状到来<sub>ニ</sub>付組

中へ相達候様小頭へ申付且又町方<sub>江</sub>も相触候様大年寄<sub>江</sub>申付尤今

日<sub>分</sub>物頭風廻りも被仰付候事故惣町自身番差出候様是亦右之触書

<sub>江</sub>書入相達ス

一今夕より非人加廻りも壹組差出候様申付ル

一追廻し大目付構之場所<sub>江</sub>出所尾州之西国順礼尤往来<sub>者</sub>致所持候得

共野伏同様之もの歩行不相叶四五日も右之場所<sub>ニ</sub>罷在候旨目付組

より申出候間〇〇〇〇へ引取候共其所<sub>ニ</sub>小屋かけ等致候<sub>而</sub>差置候

処宜取計可申旨大目付舍人<sub>分</sub>被申達候<sub>ニ</sub>付何分先例取調候<sub>而</sub>猶又

御懸合可申旨相達候<sub>而</sub>退出尤退出後取調候<sub>而</sub>同人<sub>江</sub>懸合候趣左之

通

先例取調候処御役筋御構之場所<sub>ニ</sub>候ハ、御徒目付并御組被差

出候<sub>而</sub>見分有之野伏<sub>ニ</sub>候ハ、〇〇〇〇非人共へ引取可申且往来

等も所持致候旅僧<sub>者</sub>旅籠屋<sub>江</sub>為引取町医等申付候<sub>而</sub>療治相加

へ候先例<sub>ニ</sub>有之候今般之もの往来致所持候共野伏同様之もの

<sub>ニ</sub>候ハ、〇〇〇〇〇〇へ為引取可申哉一応御見分被差出候義<sub>ニ</sub>も

候間其段申達候処往来致所持候共野伏同様之もの<sub>ニ</sub>付見分差

出候<sub>ニ</sub>も不及候間〇〇〇〇〇〇へ引取候様可取計同人差図<sub>ニ</sub>付候

分御差図次第取計可申段申述右之段与得大年寄へ申付早々非  
人共方へ引取候様可取計旨申付ル

七月廿六日 快晴  
一日勤ニ付登城

(未終)  
一元魚町玉島屋音右衛門義式町目道具屋兵吾持来候古道具屋株当丑  
七月夕来ル午ノ六月迄五ヶ年之間借請御定法相守商売仕度願書差  
出承届寅七月廿九日取戻ス

一戸川町備中屋源助義借屋ニ居申候清藏義当六月下旬不斗罷出其後  
罷歸り不申候ニ付組合之もの迄も方々相尋候得共今以行衛相知不  
申候旨届出候ニ付例之通百日尋申付置

一追廻しニ罷在候行倒之病人□□□□へ引取候旨大年寄相届右之  
段夜中ニ付明日大目付中江可相届事

一今昼廻り罷出河原町罷通り候処野村屋忠藏方ニ五人寄合博奕之  
躰見請候ニ付罷越見改候処右参会之もの共不残逃去候尤宿忠藏義  
者在方へ罷越候而妻計子共老人召連罷在候旨右妻江廻り之もの一  
応遂吟味参会之名面左之通

河原町(ママ・屋欠方)油利七 船頭町新屋伊三郎 京町錦屋万藏此もの当時無帳  
つぐね岩此もの不相知 備前神川庄

右廻り幸治源藏より当番宛ニ而右之通ニ御座候処如何取計可申哉  
伺之上申越候様申遣候段伺出候ニ付右宿忠藏妻組合預ケニ取計引  
取候様申達候ニ付其段当番夕申遣無程右廻り兩人罷出右之段逸々  
申出

一河原町野村屋忠藏宿ニ而博奕致候旨尤右忠藏義者留守之由ニ付今  
日廻り之もの夕申出候間明朝右忠藏妻呼出致吟味候様大年寄江申  
達ス

一今朝五時頃江戸表今早追大沢長平到着之由承之  
一大守様御病氣被為及御大切候ニ付為伺御機嫌早々麻上下着用登城  
仕候様御奏者廻状到来ニ付右之段大年寄へ申達例之通可致廻勤候  
様可相達旨申達ス  
一御用所ニ而御家老丹後殿左之通御申渡被成候三奉行一同罷出尤大  
目付中今差図有之罷出候

大守様御病氣之処御養生不被為叶去ル廿日卯上刻御逝去被遊  
絶言語候未御嫡子様不被為在候ニ付慎三郎様御養子御願書御  
老中方へ被指出候処御請取被成候間乍此上可致安堵候

畢而大目付出席左之通相達ス  
右之趣同役同列并支配方へも可被相達候様太田舍人被申達  
一右之趣一応惣町江も為相知候様大年寄江触書を以申達ス  
一七間廊下江例之通御奏者番已下一同罷出御小姓頭代江御機嫌伺之  
儀謁申上ル御前様へも同様御機嫌伺申上ル

一御用所江三奉行一同罷出候而江戸表之儀者乍恐奉絶言語候段申述  
退座かけ大目付役所へも右之段申述  
一左之通御触書到来ニ付組中江触書差出ス  
大守様御病氣之処御養生不被為叶御逝去被遊候ニ付御家中之  
面々下々ニ至迄諸事相慎可致穩便候

一火之用心猶以堅可申付候  
一普請鳴物停止之事ニ候

一麻上下着用可致事

一月代之儀刺申間敷候又もの御構無之下々<sub>ニ</sub>至迄他行無用之事

<sub>ニ</sub>候 但日数<sub>者</sub>追<sub>而</sub>可申渡候

右<sub>者</sub>大目付廻状到来<sub>ニ</sub>付組之もの并牢屋三軒屋并高石垣番<sub>江</sub>も

相達候様小頭へ申達

一右御触書到来<sub>ニ</sub>付先例之通町触左之通差出

大守様去ル廿日卯ノ上刻御逝去被遊候依之鳴物高声御停止之

事

一普請仕儀御停止之事

一火之用心大切<sub>ニ</sub>仕裏借屋之もの迄念入候様可申付事

一町内表店之分ハ両部ともおろし可罷在候

一殺生之義家職<sub>ニ</sub>仕候共一切殺生御停止之事

一魚鳥商売之儀店売振売共<sub>ニ</sub>御停止之事

一往還<sub>ニ</sub>も子供高声仕間敷事

一扶持方米搗候義<sub>者</sub>今明日遠慮可致候尤明後日搗候共随分蜜<sub>マツ</sub>

搗可申候勿論酒米等搗候義ハ御二七日不相成候来月五日夕苦

しからす候

右之通町触差出ス

一安岡町岡屋忠七借屋<sub>ニ</sub>居申候喜多次<sub>与</sub>申もの当月五日<sub>与</sub>風罷出帰

不申然ル所右喜多次へ尋之義有之<sub>ニ</sub>付組合共<sub>江</sub>尋申付候<sub>而</sub>所々相

尋候得共以今相知不申候段届出候<sub>ニ</sub>付猶又百日尋申付ル

七月廿七日 雨

一日勤<sub>ニ</sub>付登城

一此間□□□□へ引取候野伏同様之行倒之病人今朝病氣差重先刻致

落命候旨大年寄分届出候<sub>ニ</sub>付登城之上右之段大目付へ及樽御用番

中<sub>江</sub>相伺候処勝手次第取捨申付候様御差図<sub>ニ</sub>付其段大年寄へ申付

但取捨場所<sub>者</sub>川向惣墓へ取埋候様申付ル尤□□□□へ遣候<sub>而</sub>

致病死候ものハ見分差出候義<sub>ニ</sub>は無之尤是者□□□□へ遣候

已前構所分見分有之候<sub>而</sub>相濟候もの故<sub>ニ</sub>も可有之今般之行倒

者大目付構場<sub>ニ</sub>候処見分<sub>ニ</sub>も被差出候様申談候得共不及其

義□□□□へ引取候様<sub>ニ</sub>大目付太田舍人差図<sub>ニ</sub>付右之通取計

一左之通之御触書到来組中計へ触書出ス

大守様御病氣被為成御差重候<sub>ニ</sub>付去ル十八日御届書御留守居

御使者<sub>ニ</sub>御用番牧野備前守殿へ御差出被成候所無御滞相濟

候右<sub>ニ</sub>付昼頃御尋之為上使堀内蔵頭殿御出御懇之上意被為蒙

仰候旨御触書到来

一今日□□□□野伏病死人川向惣墓<sub>江</sub>取埋取計相濟候旨大年寄より

届出

一今般之御凶変<sub>ニ</sub>付<sub>而</sub>者他邦より御使者并御徒使等も可有之義も難

計候<sub>ニ</sub>付御使者宿并御徒使宿申付置候様大目付中申達候<sub>ニ</sub>付大

年寄へ申付左之通申付段届出ル

御使者宿 西今町坪屋藤十郎 林田町山本三右衛門

御徒使宿 西今町永田屋喜七 橋本町後藤屋佐市

一郡代十郎左衛門義間違之義有之候<sub>而</sub>恐人差扣伺候様申来大目付

舍人<sub>江</sub>罷越相伺置候処無程不及其儀已来入念候様申来右同人<sub>江</sub>及

通用

七月廿八日

(マ・天統記載なし)

一 御用日ニ付登城

一 左之通御触書兩通到来惣町并組中<sub>江</sub>触書差出

慎三郎様御事急御養子御願書被差出候処去ル廿一日御用番牧

野備前守殿<sub>ハ</sub>五十日十三月之御忌服被為請候様御達有之依之

殿様<sub>与</sub>可奉称旨被仰出候旨御触書到来

殿様御名ニ差合候名面之文字慎之字并三郎之続相改可申旨被

仰出候旨御触書来ル

一 今日切<sub>ニ</sub>而日勤相止候旨類役<sub>ハ</sub>通用有之

一 坪井役人佐藤五兵衛<sub>ハ</sub>今般御凶変ニ付為御悔書状到来及相答候

七月廿九日 曇

一 御蔵米六拾七匁 町米六拾三匁

一 坪井町沢野屋伝吉<sub>与</sub>申もの只今詰米御蔵<sub>江</sub>直し切手式枚致持参鳥

散成様子ニ付召捕候<sub>而</sub>相糺可申尤御中陰中ニ付糺も難成候ハ、先

取逃し不申候様取計可申大目付舍人<sub>ハ</sub>申来候付則詰米御蔵へ出番

嘉七勇藏并部屋目付藤四郎差添差向候<sub>而</sub>右沢野屋伝吉儀役所<sub>江</sub>連

来候<sub>而</sub>御中陰ながら差懸り候事故左之面々立合及内吟味

下役新左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番嘉七勇藏

大年寄孫右衛門 諸吟味喜左衛門

一 沢野屋伝吉申口左之通

四俵三俵切手式枚去十一月十八日銀札百目之質<sub>ニ</sub>福渡町岡屋

万五郎<sub>ハ</sub>分取候<sub>而</sub>近来<sub>ニ</sub>至り毎度及催促候得共請返不申<sub>而</sub>三日

以前右入替として小脇差<sub>ハ</sub>腰服太多りもの三つ万五郎<sub>ハ</sub>差越

候得共右百目<sub>ニ</sub>引合不申候<sub>ニ</sub>付足銀札三拾匁差越候様申遣候  
得共今朝迄差越不申御切手今日切<sub>ニ</sub>而奉恐入候事故何分書替  
願置可申<sub>与</sub>御蔵へ持参仕候段申候<sub>ニ</sub>付

一 岡屋万五郎組<sub>ハ</sub>もの差向候<sub>而</sub>町役組合召連罷出候<sub>ニ</sub>付及内吟味申

口左之通

沢野屋伝吉へ質<sub>ニ</sub>遣候義伝吉申口之通右切手<sub>者</sub>坪井町千切屋

勘兵衛<sub>ハ</sub>被相頼質<sub>ニ</sub>遣候義<sub>ニ</sub>而無筆もの故一向直し等之趣<sub>者</sub>

不相弁且両三日已前右質物請返し可申旨<sub>ニ</sub>而小脇指<sub>ハ</sub>腰服太

ゑりもの三つ伝吉申口之通勘兵衛<sub>ハ</sub>請取候<sub>而</sub>指遣候所今三拾

匁不足<sub>ニ</sub>付其段も勘兵衛へ申達候処是差延し今朝も及催促

候処後刻迄<sub>ニ</sub>取<sub>ニ</sub>参候様申候<sub>ニ</sub>付罷越候得共在宿不仕義<sub>ニ</sub>御

座候旨申口也右<sub>ニ</sub>付千切屋勘兵衛呼出可申

一 坪井町千切屋勘兵衛<sub>江</sub>組<sub>ハ</sub>もの差向呼出候所在宿不仕家内<sub>ニ</sub>而も

一向存不申候由<sub>ニ</sub>付所々参先相尋候得共居合不申候段届出候<sub>ニ</sub>付

家内不殘組合預ケ<sub>ニ</sub>申付并勘兵衛義組合尋申付引取候様申付

一 千切屋勘兵衛居合不申候<sub>ニ</sub>付沢野屋伝吉并岡屋万五郎組合預ケ<sub>ニ</sub>

申付候<sub>而</sub>為引取候

一 坪井町中津屋惣十郎儀沢野屋同様御蔵<sub>江</sub>直し切手致持参候<sub>ニ</sub>付御

蔵へ組<sub>ハ</sub>もの差向候様大目付舍人<sub>ハ</sub>申聰候<sub>ニ</sub>付先割之出番并部屋

目付差向候<sub>而</sub>中津屋請取役所へ連帰候<sub>ニ</sub>付先刻之立合之面々出席

一 坪井町中津屋惣十郎及内吟味候処左之通之申口

今日御蔵<sub>江</sub>御書替願出候拾枚之切手<sub>者</sub>式枚<sub>三俵清水宛</sub>右<sub>者</sub>福

渡町岡屋万五郎<sub>ハ</sub>質物<sub>ニ</sub>取置候処請返し不申今日切<sub>ニ</sub>付書替

願出候 八枚(三俵柴山宛 四俵一場宛 五俵吉田宛 六俵御作事宛 七俵御代官下代宛) 右者 七月切

取置候処今日迄請返不申仍而 書替願出候義ニ 候旨申口ニ 付

組合預ケ申付候而 引取候様申付

一 岡屋万五郎猶亦呼出及吟味候処中津屋申口之通相違無之候段申出

千切屋勘兵衛義者 今以罷帰り不申候ニ 付不及吟味

一 右之段大目付舍人江 相届及対談候処勘兵衛者 何卒召捕候様仕度御

用番中も御申ニ 付手当取計候様被申聴候ニ 付先つ左之通取計候而

足付候方捕手之もの差向可申先つ聞合旁差遣可申申談

西ノ方中須賀坪井森原辺

出番 和右衛門  
目明 庄七

南ノ方大戸押測弓削辺

出番 和四郎  
目明 孫兵衛

東ノ方新イ田勝間田様子ニ より

一 両日も罷越候様

一 鍛冶町鍛冶頭市郎右衛門義吉野郡縁家共方ニ 病人有之為見廻下人

差越帰り懸ケ玉林土橋辺ニ 而 落し切手式枚有之候而 拾取候旨届書

を以届出ル尤左之通

六俵子納 丑七月廿五日 此切手直し切手

御使組宛

八升壹合式勺五分 丑七月廿二日 此切手其俵

栗田辰右衛門宛

一 坪井役人佐藤五兵衛今般御凶変ニ 付自分为挨拶書状差越先例も

有之候ニ 付一ト通り及返書追而 右挨拶可申遣先例ニ 付今日不相同  
返書取計明日御用所へ御沙汰可申上候事

八月乙 西大

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目付 黒田頼母

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

八月辛 亥朔 晴

一 今日御中陰ながら八朔ニ 付五半時登城

一 例之通御奏者番以下三奉行迄七間廊下江 罷出御小姓頭代大目付江

八朔ニ 付仕候段申上候

一 郡代十郎左衛門不快ニ 付仕相断香々美大庄屋中島三郎左衛門改

号願書指出呉候様申来御用番中江 相伺候処承届候様御申ニ 付其段

十郎左衛門江 及通用

一 御中陰ニ 付先例之通町方メリ之ため明二日朝廻町仕候段御用番中

江 相届大目付江 も右之段届御貸人等之義申達ス

一 鍛冶頭市郎右衛門下人拾ひ候切手式枚届書共登城之上御用番中へ

御届申上御聴置尤右切手式枚之内壹枚直し切手ニ 付触流等ニ も及

不申今般之直し切手一件相濟候上<sub>ニ</sub>而何れ共相伺可申右切手<sub>者</sub>役所預り置右届書<sub>者</sub>大目付へ差出

一今朝組之もの老日目明老人ツ、東西南三方へ千切屋勘兵衛逃去候方角為聞合差出候所何方へも一向足付キ不申候之旨夜<sub>ニ</sub>入候迄追々罷帰候右<sub>ニ</sub>付<sub>而</sub>者何れ未市中<sub>ニ</sub>忍居候哉<sub>ニ</sub>も被存候旨何<sub>茂</sub>申出ル

一明朝六半時前出宅<sub>ニ</sub>而廻町致候旨大年寄へ申付小頭へも若堂之義申付置ク

一下役新左衛門義彦左衛門<sub>与</sub>改名致候旨届有之

八月二日

一今般六半時頃致出宅町廻り致候廻り順<sub>并</sub>諸事盆中廻町之通り大年寄諸吟味出役并町々年寄出役郡<sub>而</sub>先例之通<sub>ニ</sub>付度<sub>ニ</sub>略ス引取懸ケ御用番要人殿へ罷越候<sub>而</sub>別条無之引取候段相届大目付へ<sub>者</sub>若堂差遣し口上<sub>ニ</sub>而相届

御省略中<sub>ニ</sub>付供立左之通

若堂 幸次 鎗 中間三人<sub>ニ</sub>而  
自分歩行 勇藏 草履取 合羽籠

一町方宗門帳大年寄<sub>今</sub>今日差出ス

一兼書役彦左衛門今朝<sub>今</sub>罷出候<sub>而</sub>町方宗門帳奥書相認自分両印相認致出来追<sub>而</sub>宗旨奉行へ可差出事

一札元山本三郎左衛門今度恒助<sub>与</sub>改号仕度旨願書差出伺之上聞届申達ス

一今八半時<sub>今</sub>千切屋勘兵衛妻并伴町役組合差添候<sub>而</sub>差出候様大年寄

江 差紙遣ス尤立会出役諸吟味出役等之義申達ス

一千切屋勘兵衛妻子呼出致吟味候<sub>ニ</sub>付立合之面々左之通

一下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付幸次 出番勇藏和右衛門 大年寄孫右衛門 諸吟味喜左衛門

一右勘兵衛逃去ル<sub>ニ</sub>付段々及吟味候得共不及白状併悴申口勘兵衛逃去候節聖徳寺へ罷越其後蕎麦尾山へ罷越候由勘兵衛兄北郷門大夫長屋ものも先ツ主人門大夫<sub>江</sub>御預ケ有之候様申上候処其段可相達旨要人殿御申聞

一右申口<sub>ニ</sub>付蕎麦尾山<sub>江</sub>左之もの共差向候<sub>而</sub>何卒手段を以召捕候様申付候段其他領之義殊<sub>ニ</sub>寺地<sub>ニ</sub>付必定忍ひ居候共容易<sub>ニ</sub>相渡候共不被存候<sub>ニ</sub>付与得組之もの兩人<sub>江</sub>申付遣ス

組之もの兩人嘉七和四郎 目明孫兵衛 非人兩人

一千切屋勘兵衛宿元へ組幸次和四郎差遣候<sub>而</sub>諸道具闕所申付候所夜中罷帰り候<sub>而</sub>何も心懸り之義無之候得共諸道具拾式所へ封印置候旨届出ル

一宗門帳差出宗門人別左之通

天台宗

一九百八拾八人内 男五百式拾式人 女四百六拾六人

真言宗

一貳千貳百八拾八人内 男子千八百拾壹人 女子九拾九人

禪宗

一四百三拾九人内 男貳百三拾三人 女貳百六拾六人

浄土宗

一 六百弐人内 男三百弐拾九人  
女三百八拾弐人

浄土真宗

一 四百三人内 男弐百弐拾九人  
女百七拾四人

日蓮宗

一 弐千三拾五人内 男九百七拾七人  
女九百五拾八人

惣人数合 六千七百四拾七人内 男三千五百四拾弐人  
女三千弐百五拾五人

右改相済候ニ付宗門帳巻箱宗旨奉行江相廻ス

一新魚町年寄和泉屋三郎助義此度庸藏与改名仕度願書差出承届

八月三日 快晴

一 御用日ニ付登城

一 左之通今日町触差出

一 一町方片部明ヶ候義来ル五日分差免

一 紺屋職油しめ南京打温鈍之粉おろし船繕大工鑄物師鍛冶職来

ル五日分不苦

一 左之通大目付廻状到来組中へ申付

御家中之面々一統明四日分髮剃可申候尤組中間之義者明四日分

月代剃可申候

但足輕麻上下明四日分不及着用

一 東井口村政吉被盜物去ル廿四日九ツ時分暮方迄之内左之品被盜

取候ニ付町触差出可申尤町方片部ニ相成候而差出可申旨大目付中

被申聞相認八月十六日無之段申出ル

一 男着単物袴ツ但し織色紋丸之内ニ鷹之羽違 代七匁五分位

一 古ち、ふ単物袴ツ但空いろ小もん

代拾弐匁位

(本編)

一 伏見町和気屋万吉義二階町山本屋周五衛門所持之自国請酒株去ル

子八月相願借受罷在候所限月来リ候ニ付猶亦当八月分来寅七月迄借請商売仕度願書差出承届寅五月三日取戻ス

一 北郷門太夫分長屋もの千助義御役所へ相渡候様支配頭より御達有

之候間御渡申度旨申来候ニ付組之もの差向候哉之旨及対談候処最  
早請人江引渡置候段申聴ニ付左下之請人差添候而役所へ被差出候

様ニ橋要助罷越候而終始申聞候ニ付右之段相違ス無程請人差添候  
而罷出候ニ付一応及吟味

北郷門太夫長屋もの仙助

請人坪井町加登屋孫兵衛

右立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付幸次 出番源藏和右衛門

一 昨夜蕎麦尾山へ差向嘉七和四郎分昼時頃書状差越候訳は夜前真壁

村幸太郎方迄罷越度々及評議人足等七八人相雇幸太郎も罷越呉候

而右蕎麦尾山へ罷越最初幸太郎分寺院へ懸合候処勘兵衛罷越居申

候儀無相違候右等御尋之ものニ候ハ、随分御召捕可被成当方構無

之旨申之候処右勘兵衛義裏口より逃去リ候趣ニ付手配いたし所々

相尋可申之処右寺地納所申候者勘兵衛義是ニ罷在候旨致案内候ニ

付組之者共罷越相改候処納戸長持之内ニ居申候而引出可申候処咽

ニさせる付立居申候而甚危急之趣ニ付幸太郎才覚ニ而香々美医師

宗祐江も早速申遣候而無程罷越致診察候処先つ當時氣遣敷義者無

之候へ共所敷候候ニ付何とも無心元申之候得共連帰候様之手段取

計等幸太郎致世話先□一応真壁幸太郎方迄連帰リ何も支度仕候上

今夕遅ク相成候共連帰候旨昼時分度書状差越依之何分連帰候様返書小頭利右衛門より遣候<sub>而</sub>当方医師岩佐孝順在宿為致置候様大年寄<sub>江</sub>申達ス

一 右蕎麦尾山之一件荒増今日北郷門大夫長屋もの請取候<sub>而</sub>一応及吟味候段御用番要人殿并大目付頼母へ罷越相届置ク

一 聖徳寺并安国寺弁書大目付より被相廻候付写取追<sub>而</sub>致返却候旨申遣置ク

一 千切屋勘兵衛義蕎麦尾山<sub>ニ</sub><sub>而</sub>今日召捕候処咽喉へきせる突立甚危急之様躰<sub>ニ</sub>候へ共戸板等<sub>ニ</sub>竹結付手輿<sub>与</sub>唱候もの<sub>ニ</sub>乗セ人足八人かけ組之もの并目明非人等差添候<sub>而</sub>夜四ツ時過頃役所迄連越候<sub>ニ</sub>付廻り之組藤四郎勇藏差添牢屋へ差遣尤其已前大年寄へ達医師孝順牢屋へ差遣候様申付候処罷越居申候<sub>而</sub>致診察治療取計容体書等差出尤右病人<sub>ニ</sub>付惣牢へ入候<sub>而</sub>相牢之もの共心付候様牢番より申付候様藤四郎分申達ス

八月四日 曇

一 昨夜及深更千切屋勘兵衛牢番預ケ申付候且蕎麦尾山之次第并勘兵衛容躰等御両所へ今朝相届ル

一 安岡町村永屋吉右衛門義聖徳寺弁書之内去ル朔日聖徳寺<sub>ニ</sub>忍ひ居候内右吉右衛門勘兵衛使等致遣候旨<sub>ニ</sub>付今日吟味有之候<sub>ニ</sub>付禁足申付置候様大年寄<sub>江</sub>申付ル

八月五日 晴

一 京町大村屋源右衛門方へ昨三日之夕八ツ時頃より夜明迄之内盜賊入込左之品々被盜取候旨届出触流之儀願出同十六日無之段申出ル

一 脇指 壹腰 代凡百貳拾匁位 一同 壹腰 代凡七拾目位

一 小合口 壹本 代凡拾五匁位 一 男着単物 壹 代拾五匁位

一 男着単物 壹 代拾匁位 一同木綿袴 壹 代貳拾目位

一 女着単物 壹 代拾八匁位 一 男着単物 壹 代拾六匁位

一 とくさ羅紗紙入壹代拾五匁位 一 たんつう紙入壹 代七匁位

一 朱印籠 壹 代八匁位 一 中立男着袴 壹 代拾匁位

×拾貳品 代×三百貳拾四匁

一 伏見町柴田屋勘次義去ル三日晝七ツ半時盜賊入込候<sub>ニ</sub>付家内聞付相谷候「」りへ罷帰申候然ル所屋敷内へ硯箱持出し中<sub>ニ</sub>銀札貳分錢貳三十文計有之候処右貳分盜取外は其俣差置有之候段届書を以届出ル

一 上紺屋町福本屋かん義借屋もの伊勢屋十歳去子十一月廿九日咎中<sub>与</sub>風罷出種々相尋候得共相知不申段当四月相届又候百日尋申付置候処今以一向行衛相知不申最早貳百日余<sub>ニ</sub>も相成候<sub>ニ</sub>付相届候旨届書を以届出伺之上除帳申付ル

一 左之通窺御機嫌出仕仕候様御奏者廻状到来

八月

八日 惣出仕 十三日 檢之間詰之面々

十八日 惣出仕 廿三日 表方頭分之面々

廿八日 表方当外以下大役人迄

三日 月並小役人已下徒格迄

右何<sub>茂</sub>四時登城之事

一 二階町仁兵衛儀借屋<sub>ニ</sub>居申候美濃屋利兵衛妹きさ年来病身<sub>ニ</sub>付経

行不順ニ御座候処当月ニ至り腹体重ク相見ヘ申候ニ付野上玄養ヘ見せ候所懐胎ニ相違無之五ヶ月ニも相成候様子ニ申候左候ヘハ是迄届等も不致不調法之旨届書を以届出候ニ付産之上咎之儀大年寄江申達置ク

一元魚町吉屋清藏義所持仕候饅頭箱四ツ去ル子十月分坪井町千切屋勘兵衛ヘ貸置申候処勘兵衛儀家財封印申付候段及承候ニ付右之趣届置候旨届書を以申出ル

八月六日 晴

一当月月番孫左衛門相勤候筈之処病人有之候ニ難相勤候ニ付当月孫右衛門両月統月番相勤候旨相届

八月七日 晴

一福渡町阿賀屋助五郎家守忠助儀借屋ニ居申候多十郎七月八日ニ家出仕候ニ所々相尋候得共今以行衛相知不申候ニ付其旨届書を以届出候ニ付例之通百日尋申付ル

一茂渡庄右衛門家守小性町若野屋甚吉儀御領分林田村弥兵衛当丑六拾六才同人悴亀吉当丑式拾八歳ニ罷成申候然ル処此度借屋ニ居申候中村屋文兵衛役介ニ引請申度町内人別人願書差出承届ル

一組屋忠右衛門今日死去仕候ニ付左之もの共忌中引込候旨届出候ニ付御両所江及御さた候

実弟ニ付忌十日

伯父ニ付忌同断

茂渡庄右衛門

同 只助

一東新町綿屋忠兵衛義五日夕八ツ時迄居家敷東側湯殿屋根を越盜賊入込店ニ有之候代口物左之通被盜取候旨届書を以届出候ニ付触流

願之義申上ル同十六日無之旨申出ル

一木綿 三束計 代六貫弍百替位

一紙入雲斎とくさ染 代五匁位

一同花色染黒ころ裏 代六匁位此分裏ニ有之旨八月十三日届出

ル

一外入とくさめん錦裏八丈 代四匁位此分右同断

一銀札凡拾五匁計 一錢凡四匁計

一安岡町村永屋吉右衛門義千切屋勘兵衛去ル朔日聖徳寺ニ忍居候節使等致候ニ付今七ツ時呼出及吟味

立合之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付幸次 出番和四郎和右衛門

大年寄孫右衛門 諸吟味喜左衛門

一組屋忠右衛門死去候ニ付坪屋藤十郎縁家ニ付兼ニ御使者宿申付候得共当分故障ニ付今日□町目浜野屋源五郎ヘ申付候段大年寄今届出候ニ付大目付中ヘ及沙汰郡代江も右同断

八月八日 晴

一御用日并為伺御機嫌四ツ時登城

一左之通大目付より演達有之組中町方江相達ス

去月廿二日以上使水野壹岐守殿御懇之被為蒙上意御香奠白銀

弍十枚御頂戴被成候且又御法号嚴恭院様与奉唱候 御前様御儀

蕙心院様与奉唱候

一於七間廊下御奏者番已下一同御機嫌伺御小性頭代大目付頼母江謁申上ル蕙心院様江も右同様申上ル

一 丹後殿明九日江戸表へ出立ニ付今日御退出懸三奉行一同中ノ口へ罷出候<sub>而</sub>及御挨拶尤前以御同人御退出之節罷出候様大目付中今通達有之

八月九日 快晴

一 嚴恭院様御法事一夜別事来ル十日夕十一日迄御執行被仰付候仍<sub>而</sub>十一日昼時夕七ツ時迄参拜仕候様御奏者廻状到来尤御香奠も惣目錄を以差上候ニ付御勝手可相納申来

一來ル十日より十一日迄於泰安寺嚴恭院様御法事被仰付候旨大目付廻状到来ニ付組中へ触書并町触等差出ス

一 深信院様明十日七ツ時泰安寺へ御参詣被成候旨種村登門夕申来大年寄并小頭<sub>江</sub>も申付ル

一 坪井町一文字屋文助義商用ニ付京都車屋町姉小路上ル町一文字屋茂右衛門方へ罷越申度尤来ル十二日出立往来三十日計之逗留<sub>ニ而</sub>

罷帰申度旨願書差出大年寄聞届候旨当人願書差出閏八月朔日帰届一明十日夕十一日迄御法事ニ付例之通十一日朝辻堅メ組之もの差出候様小頭<sub>江</sub>申達ス

八月十日 晴<sub>式十日</sub>

一 深信院様御先弘源藏林平罷出候所無滞相濟候段相届ル

八月十一日 快晴

一 嚴恭院様御初法事ニ付今朝辻堅幸次和右衛門罷出候所無御滞相濟御用所衆初御法事出役之面々退散ニ付引取候段届出ル

一 西今町公文屋清左衛門義商用ニ付大坂心齋橋筋大河南川玉子屋九郎兵衛方へ三十日計之逗留<sub>ニ而</sub>罷帰申義願書差出大年寄承届候旨当

人願書差出閏八月朔日帰届

一 右同町永田屋喜兵衛義右同断ニ付大坂淀屋橋筋大河町錦屋義兵衛方へ廿日計之逗留<sub>ニ而</sub>罷越申度願書差出大年寄聞届候旨当人願書差出閏八月二日帰ル届

一 上田邑村見内庄屋庄兵衛被盜もの男着袷煙草半斤去二日夕六時分夕五ツ時分迄之内被盜取候旨例之通町触差出又同廿六日無之段申出ル

一 元魚町油屋与三兵衛儀孫与一郎当丑三拾八歳此度御藏番柴田伝右衛門役介ニ差遣度町内人別差除候様願書差出御藏奉行引合之上聞届申達ス

一 下紺屋町大工権次後家悴治助義去ル五月六日ニ呼出候所前日夕<sub>与</sub>風罷出候<sub>而</sub>不居申候旨届出候ニ付其砌百日尋申付組合所々相尋候得共以今行衛相知不申依之今五十日之日延致し候ハ、猶亦嚴敷相尋可申願書差出承届

一 伏見町徳島屋友治儀所持之家屋敷表口式間裏行拾七間大溝石垣切御役半役也右之家屋敷代銀札百式拾匁ニ相究町内八幡屋民藏へ売渡申度願書差出承届ル同三十日売券出ス

一 伏見町年寄田邑屋卯左衛門悴善三郎義此度善左衛門<sub>与</sub>改名仕度願書差出承届

八月十二日 晴

一 京町若松屋義助義借屋ニ居申候大坂屋市藏義用事ニ付大坂御堂筋河原町石川屋勘兵衛方へ罷越申度明十三日出立往来四十五日計之逗留<sub>ニ而</sub>罷帰り申度願書差出大年寄承届候旨当人願書差出ス

一 細工町家根屋嘉兵衛義吉田弥一郎長屋住久五郎<sup>与</sup>申もの当丑五十三才同人妻りよ四拾七才同人智為八廿六才同娘つる十七才家内四人此度引受相応之渡世為仕度町内人別願書差出吉田弥一郎へ引合之上聞届申達ス

一 戸川町板屋伊右衛門義当国真島郡神代村<sup>与</sup>喜多藏<sup>与</sup>申もの大工修行為仕度当年中逗留願先達<sup>而</sup>相済罷有候所此度修行相済神代村へ差届候<sup>ニ</sup>付届出承置

一 細工町板屋長左衛門義古斗樽壺但内<sup>ニ</sup>荏子油壺斗壺升入右<sup>者</sup>当月七日頃<sup>ハ</sup>十日迄之内店<sup>ニ</sup>而紛失仕候旨届書を以届出御両所へ及御沙汰

一 惣豆腐屋共并八百屋平吉<sup>ハ</sup>大豆下直<sup>ニ</sup>相成候<sup>ニ</sup>付是迄<sup>ハ</sup>壺丁式拾四文売之処式拾式文売<sup>ニ</sup>仕度願書差出伺之上聞届郡代<sup>江</sup>も通達ス

一 豆腐壺丁<sup>ニ</sup>付式拾式文ツ、売立 但壺箱分代式匁六厘 大豆七拾目相場

内壺匁四分 大豆式升代

三分 薪代

引残 三分六厘 手間代

一 牢舎広瀬雅楽病氣<sup>ニ</sup>付薬服用仕度願出候<sup>ニ</sup>付大年寄へ申付候処吉

武修格申付候<sup>□</sup>難捨置容躰<sup>ニ</sup>付薬服用為致候旨大年寄届出

一 組之もの平左衛門養父致死去候<sup>ニ</sup>付忌中引込候段小頭<sup>ハ</sup>届出右<sup>ニ</sup>付助相廻り候様申達呉候様申出ル

八月十三日 昼後小雨

一 御用日<sup>ニ</sup>付登城

一 七間廊下<sup>ニ</sup>而御初法事被為済并御出棺被為済候<sup>ニ</sup>付伺御機嫌例之通御奏者番<sup>□</sup>一同御小性頭代大目付へ謁申上ル

一 西今町坪屋藤十郎御使者下宿申付置候処此間故障<sup>ニ</sup>而当分難相動及断候<sup>ニ</sup>付浜野屋源五郎へ申付置候処最早藤十郎故障相済候<sup>ニ</sup>付從今日相勤候段大目付中并郡代<sup>江</sup>も申通置ク

一 役所致拜借候御櫓へ御用長持等入候<sup>ニ</sup>付書役小頭出番兩人罷出割場中間兩人<sup>江</sup>為持運候<sup>而</sup>今日長持四棹外<sup>ニ</sup>箱類等入置ク

一 先例之通大年寄并札元御三十五日拜礼之義御用所<sup>江</sup>相伺候処先例之通取計候様御申聞<sup>ニ</sup>付大目付へも及沙汰且亦大年寄へ申達ス

一 左之通大目付廻状到来

一 御家中坊主以上来ル廿六日今月代剃可申普請も四日より不苦但武芸は追<sup>而</sup>被仰出候由

一 檜之間已上御奏者大目付與勤之面々閏八月十一日今月代剃可申候且又御家中之面々月代剃候当日より麻上下不及着用候旨

右之御触書普請武芸之儀組中<sup>江</sup>相達ス

一 吹屋町木屋喜助義御領分西北条郡新田村定吉当丑式拾四歳此度借家<sup>ニ</sup>居申候作人和七方へ引請相応之渡世為仕度町内人別人願書差出承届

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助義御領分小田中村清助当丑七拾壹歳

此度借家<sup>ニ</sup>居申候三十郎親<sup>ニ</sup>付引請申度町内人別人願書差出届届

一 組平左衛門養父津川山番相勤居申候由今度病死致<sup>シ</sup>候<sup>ニ</sup>付例之通忌中引込候旨右<sup>ニ</sup>付助壺人申立候旨小頭<sup>ハ</sup>申出候<sup>ニ</sup>付其段大目付へ申達ス

八月十四日 雨

一先達<sup>而</sup>町米払底<sup>ニ</sup>付酒造米買入之義差留置候処此節出米有之候旨  
沢山<sup>ニ</sup>相成候<sup>ニ</sup>付扶持米之故障<sup>ニ</sup>不相成程<sup>ニ</sup>買入候様造酒屋共并  
中買共へも可申付旨尤船荷積之儀<sup>者</sup>是迄之通差心得罷在候様是亦  
中買共へ申付候様大年寄へ申達ス

一町方之もの色々之虚説申ふらし候ものも有之趣相聞候上之義<sup>者</sup>勿  
論御家中之事たり共決<sup>而</sup>批判不仕候様万一不慎之ものも有之候ハ  
、急度申付候様今日町触差出ス

一小性町笹岡休意義所持之家屋敷表口式間半裏行拾間御役半役右家  
屋敷質物<sup>ニ</sup>書入銀札式百三拾匁新魚町鳥屋与市取次<sup>ニ</sup>而来ル寅正  
月切巻ケ月壹歩半之利足<sup>ニ</sup>而借用仕度旨願書差出承届同十九日質  
入証文出文化七庚午十二月十三日元利返済受戻し断書出ス

一大坂淀屋橋筋榎木町河内屋甚七手代吉太夫茂右衛門例年之通銅類  
唐金類真<sup>口</sup>類売<sup>ニ</sup>昨日罷越候付逗留為仕度中之町甲屋幸助宿切手  
出ス

一平左衛門助山形林蔵罷出ル

八月十五日 曇

一御蔵米六拾六匁 町米六拾式匁

一人馬間屋請負式貫七百匁之処当年<sup>者</sup>閏月有之候<sup>ニ</sup>付何卒右之割合  
被下置候様歎書差出候由<sup>ニ</sup>而大年寄分入内見候旨申出候<sup>ニ</sup>付請負  
之義<sup>者</sup>閏月等兼<sup>而</sup>心得居申候義<sup>ニ</sup>候へ<sup>者</sup>右歎書<sup>者</sup>不取上併当年<sup>者</sup>  
御省略中<sup>ニ</sup>付問屋請米も半数<sup>ニ</sup>成居候候事故格別之存寄を以百式  
拾匁遣之已来閏月之例<sup>ニ</sup>ハ不相成候段申渡候様<sup>ニ</sup>孫右衛門へ申付

ル

一惣練屋共へ改之儀自分稼<sup>ニ</sup>致候共勝手次第之旨申渡置候処右之段  
心得違已後は改<sup>者</sup>請不申候様一同申合候旨相聞候<sup>ニ</sup>付明日大年寄  
場へ練屋不残呼出改請候勝手之ものハ是迄通り改請可申且亦組之  
もの差出候義何とやら大造<sup>ニ</sup>も存候由<sup>ニ</sup>付是亦左様之義<sup>ニ</sup>而者無  
之段<sup>与</sup>風理解申聞候様大年寄へ申付尤孫左衛門義は兼<sup>而</sup>吞込居申  
候事故是亦立合候様<sup>ニ</sup>申付ル

一加茂小中原村<sup>ニ</sup>而来十八日より廿五日迄牛馬市有之候旨郷中之も  
のハ右場所<sup>江</sup>参り不申候様致度相伺候町方之もの同意<sup>ニ</sup>候ハ、今  
日相伺被呉候様申談候処無程伺之通御差図有之候間町触取計可申  
候様十郎左衛門分申来

八月十六日 晴

一加茂小中原村<sup>ニ</sup>而牛馬市有之候<sup>ニ</sup>付右場所<sup>江</sup>罷越不申候様町触差  
出為目付目明差出候様小頭<sup>江</sup>申付ル

一「<sup>一</sup>奉行小島定人<sup>分</sup>町方宗門帳不審之所付紙<sup>ニ</sup>而被差戻大年寄へ  
差遣し猶亦取調候様申付ル

一西新町丸屋吉兵衛儀伴伝吉当丑式十六才此度十郎左衛門へ出入奉  
公為相勤申度町内人別除願書差出尤中谷伝右衛門<sup>与</sup>相改候旨申出

三浦十郎左衛門へ引合之上聞届申達ス

一坪井町塩屋善兵衛義所持之造酒株此度当丑ノ八月分来亥ノ七月迄  
丸拾<sup>ケ</sup>年之間町内川口屋庄助へ貸渡シ造酒商売為仕度名前<sup>者</sup>是迄  
之通り<sup>ニ</sup>而商売為仕候旨願書差出承届

一新魚町森原屋岩右衛門義三浦志摩守殿御領分<sup>者</sup>真島郡且土村権右

衛門弟妻平当丑弍拾八才妻平今般養子ニ仕度住宅之儀願出尤向方  
且那寺并村役人別紙差越候旨願書差出伺之通聞届申達ス同廿三日  
住宅証文出ス

一 伏見町道具屋喜次郎義借ニ居申候原屋九兵衛当国内重田又兵衛  
殿御支配所勝北郡馬桑村百姓理助甥清兵衛当丑三拾五歲此度九兵  
衛方へ引受相応之渡世為仕度住宅之儀願出尤向方村役人分別紙差  
越候旨願書差出伺之上聞届申達ス同三十日住宅証文差出ス

八月十七日 晴夜中雨

一 御藏米六拾四匁 町米六拾目

一 御払米三百俵銀札六拾弍匁五分八厘 落札龍田屋茂兵衛

町米准之

八月十八日 雨

一 御用日并伺御機嫌四ツ時登城

一 七間廊下ニ而例之通御奏者番已下三奉行迄御小姓頭代大目付江御  
機嫌伺謁申上ル(平出)蕙心院様江も同様謁申上ル

一 御年限中来月閏月ニ付扶持米割増壹月分被下之候旨大目付頼母ハ  
申聴之尤類役へも及通用候様被申候候ニ付其段申達ス

一 大年寄札元月代之義先例御三十五日過候而剃可申処今般者御家中  
御正当御三十五日ニ而月代御免被成候仍而御家中同様ニ而も如何  
之旨郡代申談候而大目付へ及対談候処いか様御家中同様ニ而者難  
相成旨ニ而被相伺候処御四七日過候而大年寄札元大庄屋月代剃可  
然旨被仰出尤御拝礼之義者先例之通御三十五日參拜可仕旨被仰出  
候付其段大年寄へ申達ス

一 深信院様明十九日八半時御供揃ニ而例之御道筋ニ而泰安寺妙法寺  
へ御參詣被成候旨種村登門(奉)今通用有之夫々江相達ス

一 坪井町福惠屋伊兵衛義売用ニ付摂州大坂心齋橋筋大河町玉子屋九  
兵衛方往来三十日計之逗留ニ而罷越度願書差出大年寄聞届候旨当  
人願書差出ス閏八月九日帰届

一 「」左衛門儀明日ハ致出勤候ニ付助揚人ニ取計候様小頭ハ申出候  
ニ付其段大目付へ相達ス

八月十九日 雨

一 嚴恭院様御初法事并御四十九日迄之為御布施先例之通壹ツ半被下  
置候様配當場より願出候旨大年寄より申出候ニ付兼而伺相濟居申  
候ニ付聞届申達ス

一 深信院様御參詣無滞被相濟候旨御先弘源藏和四郎罷出候段届ル

八月廿日 晴

一 今日無別条

八月廿一日 晴

一 御藏米六拾弍匁 町米五拾八匁

一 追廻しニ行倒候非人体之もの□□□□へ引取候上致病死候入用都  
合銀札拾壹匁弍分六厘受取証文大年寄ハ差出奥書いたし相渡ス

一 美濃職人町吉田屋平吉借屋ニ居申候長左衛門妻秀義五月十一日立  
百日之逗留ニ而四国遍路ニ罷出候処当月上旬より讚州ニ而足痛歩  
行難相成猶又今四日計之日延願書差出承届閏八月朔日帰届

八月廿二日 曇

一 細工町灘屋武兵衛義雲州神戸郡杵築中村権六俵与平当丑四拾八才

同妻そめ四十三才同娘みき十四歳此度役介ニ引請申度住宅之儀願

出尤向方且那寺并村役人今も別紙差越候旨願書差出し伺之上聞届

申達ス聞八月十日住宅証文出ス

一東新町組頭共不残より大川土手筋枕土手取繕致度御敷頭迄仕度且

又八出河原ニ而芝取申度願書差出大目付へ対談之上聞届郡代江も

通達有之

一市中扶持米払底ニ付他邦へ売払船積等致候儀口入致間敷旨中買共

并舟積懸り之もの共へ大年寄より為申達置候処此節ニ而者市中含

米沢山ニ相成候ニ付船積致候も不苦候間勝手次第取計可申旨中

買共へ申達候様大年寄へ達ス

一來ル廿五日巖恭院様拝礼仕候大年寄并札元名面書左之通大年寄よ

り差出ス

大年寄

藏合孫左衛門

齋藤孫右衛門

玉置源五兵衛

札元

茂渡庄右衛門

川口藤左衛門

山本恒助

茂渡藤右衛門

玉置宇左衛門

山本三右衛門

同見習

茂渡只助

川口藤十郎

拾壹人

一右之面々来廿五日御香奠献備仕候ニ付右御香奠料壹人分五分拾壹

人分五匁五分今日相納候ニ付小勘者へ相渡候事

八月廿三日 晴

一御用日ニ付登城

一七間廊下ニ而御奏者番已下例之通御膝中為伺御機嫌御小姓頭代大

目付へ謁申上ル

一御年貢米外払為替米仕間敷例年之通り町方へ相触候様大目付中今

書付被相渡則今日町触差出ス

一今般御法事御赦ニ付寺院より歎之趣内意申出候間存寄付紙ニ致候

而差出候様大目付中被申達尤郡代へも通達致候様被申聴則申達ス

一元魚町延屋三治義江戸芝飯倉片町医師稲倉玄俊弟宗琢と申もの誕

生寺へ参詣仕昨晚罷越候而用事有之ニ付三十日計逗留為仕度願書

差出承届聞八月廿六日五十日追願

八月廿四日 晴

一阿賀屋文五郎義當時三木善平与改罷在候而一学殿家来分ニ有之候

処病氣養生不相叶昨夜致死去候右者藏合孫左衛門父ニ付定式之通

忌五十日引込候旨孫右衛門今届出候ニ付其段御用番要人殿大目付

頼母江相届

一林田町門屋又七儀所持之家屋敷表口五間裏行拾七間御役本役右家

屋敷并裏借屋式軒立物共不残質物ニ書入壹ヶ月壹歩半之利足ニ而

銀札八百目山本屋友太郎取次ニ而借用仕度願書差出承届聞八月十

三日質入証文出ス文化八未年八月廿八日元利返済請戻し届書差出

又

一 夜分大年寄罷出二階町きせるや長兵衛儀二ノ宮長吉<sup>与</sup>申もの罷越  
 彼是声高いたし其上長兵衛妻之姉及打擲候様子<sup>ニ</sup>御中陰中甚騒  
 敷候段届出候<sup>ニ</sup>付相届候旨申出候付右之段郡代<sup>江</sup>も致通用出番和  
 四郎林平差向候処郡代所よりも同心差出候<sup>而</sup>長吉義早速召捕候<sup>而</sup>  
 町宿<sup>江</sup>引取候旨出番よりも一応長兵衛承札候処為差義<sup>ニ</sup>も無之大  
 声致候<sup>ニ</sup>付相届候由<sup>ニ</sup>而長吉さへ引取候得<sup>者</sup>何も申分無之候由出  
 番分申出承置候

一 明日御拜礼罷出候面々之内左之もの共不参仕候旨書付差出ス

忌中

藏合孫左衛門

当病

山本恒助

八月廿五日 晴

一 嚴恭院様御三十五日<sup>ニ</sup>付兼<sup>而</sup>伺相濟候通大年寄札元大庄屋拜礼被  
 仰付尤銘々御香奠等献備仕候<sup>而</sup>四ツ時泰安寺へ罷出候右<sup>ニ</sup>付当役  
 郡代并中奥目付御徒目付下目付出役有之尤泰安寺<sup>ニ</sup>詰場所当役  
 郡代北之方中奥目付御徒目付南之方玄関へ下目付相詰ル拜礼之も  
 の共拜席表より入口壺畳目にて老人ツ、順々拜礼無滞相濟

一 牢舎雅楽儀病氣<sup>ニ</sup>付吉武修格療治仕居申候処最早限日<sup>ニ</sup>付外医師<sup>江</sup>  
 被仰付被下候様申出候<sup>ニ</sup>付其段大年寄へ申付候処中村益庵<sup>江</sup>申  
 付診察致候<sup>而</sup>修格同様医案<sup>ニ</sup>付猶亦葉差遣候旨大年寄分相届ル

一 夜前二階町きせる屋長兵衛方へ二ノ宮村長吉儀罷越彼是及大声候  
 旨届出候<sup>ニ</sup>付郡代所分召捕事相濟候得とも夜前之始末長兵衛一応  
 相札候様大年寄へ申付置候処相札候由<sup>ニ</sup>而口書差出候尤郡代所<sup>ニ</sup>

<sup>而</sup>長吉為相札候由之処双方申立之筋<sup>者</sup>無之併御中陰中之義<sup>ニ</sup>而  
 届<sup>ニ</sup>付御中陰明<sup>ニ</sup>相伺候<sup>而</sup>追込<sup>ニ</sup>而も取計可申先ツ此度<sup>者</sup>手鎖差  
 免他参留申付置候旨郡代分申来

一 兼田川院庄川満水<sup>ニ</sup>付舟渡相留候段郡代所分通用有之大年寄へ申  
 達ス

八月廿六日 晴

一 明日分坪井村<sup>ニ</sup>而牛馬寄市立有之候<sup>ニ</sup>付例之通十郎左衛門より市  
 郷触達之儀申上置候間勝手次第触達取計候様申来町触差出尤右之  
 場所<sup>江</sup>目明差出候様小頭<sup>江</sup>も相達ス

一 先日以來小中原村牛馬市昨日迄之日数<sup>ニ</sup>有之候処未市立も有之候  
 得共先ツ市郷目明共申合候<sup>而</sup>引取候段目明分小頭<sup>江</sup>届出候旨小頭  
 申出ル

一 西今町高松屋嘉右衛門義悴清之丞当丑弍歳<sup>ニ</sup>罷成候此度御領分沖  
 村芳右衛門方へ養子<sup>ニ</sup>差遣申度町内人別除之願書差出承届

一 宮脇町徳守宮地子居松野屋伝助義悴長四郎去子ノ四月相願三ヶ年  
 之間大坂伏見町亀屋伊兵衛方へ奉公稼<sup>ニ</sup>遣置候処当七月より病氣  
 付当月二日<sup>ニ</sup>病死仕向方<sup>ニ</sup>而葬具候段届書を以届出承置ク

一 西今町坪屋藤十郎義外裏堀覆<sup>江</sup>梯を懸盜賊入込部屋之内錠前を明  
 ケ諸道具取散候得共紛失物<sup>者</sup>無之候様相見え候段届書を以届出承  
 置ク御両所へ及御沙汰

一 兼田川院庄川共川明候旨郡代より申来候<sup>ニ</sup>付其段大年寄へ申達ス

八月廿七日 快晴

一 牢番上野団助義脇坂中務大輔殿御預り所当国之内宮尾村十兵衛悴

豊藏当丑六才ニ罷成候此度役介ニ引請申度願書差出聞届申達ス

一京町宮田喜左衛門家守三之助義兄伊勢藏義当丑四十四歳右伊勢藏

拾七年已前父善吉存寄ニ不相叶勘当相願置候処翌年立帰町役

江対し致狼藉候ニ付追払申付当時他領ニ罷在候所右両親も相果候

得共伊勢藏心底も相直候ハ、勘当差免度願只候様ニ父存生中申置

候ニ付相願候旨歎書差出シ「今般御赦ニ付寺院よりも徘徊被

差免候様歎書内意申出ニ付当役存寄被相尋候ニ付徘徊被差免候

も可然旨付紙ニ而申上候

一嚴恭院様御供養御布施御百ヶ日共壹ツ半銀札七百五拾匁自他座頭

警女共へ割渡頂戴仕候段配当場城喜美分請書差出御所へ及御沙

汰候

一福渡町孤独藤十郎病氣之処今日致死去候旨届出候ニ付勝手次第取

片付致候様大年寄へ申付ル

一玉置宇左衛門義近來病身ニ相成候ニ付京都烏丸通り六角二文字屋

九兵衛方へ罷越候旨療治仕度尤日数三十五日計逗留仕度願書差出

伺之上聞届申達ス九月七日帰ル届

八月廿八日 快晴

一御用日ニ付登城

一御膝中為何御機嫌於七間廊下御奏者番以下一同御小性頭代大目付

へ謁申上ル

一光嚴寺被盜物触流取計候様大目付中被申達則町触差出ス左之品々

一木綿單物壹 但あさきからし鳥 一木綿帶壹 しら茶立鳥

一今般御凶變ニ付他邦より御使者有之義難計御使者下宿等東西ニ申

付置候得共最早御日合も相立候ニ付右之心得ニも及間敷哉之旨大

目付へ申談候処最早心得ニも及不申候間其段相達候様黒田頼母被

申聞候ニ付則大年寄へ申付ル

一去月廿九日坪井町中津屋宗十郎御藏へ持參仕候直し切手之内壹

枚三升五合五匁之切手直し無之分今日九日切ニ書替御藏奉行吉田

文左衛門分相廻候ニ付請取置ク

一御藏米五拾九匁 町米五拾五匁

一目明孫兵衛義 小中原村牛馬市へ罷越弥吉儀 不快引込ニ付右之

助倉敷屋惣兵衛へ申付候段小頭より申出ル

一蕎尾山 千切屋勘兵衛召捕候諸入用小頭分証文差出例之通奥書取

計遣ス

一組平左衛門義拝領屋敷ニ建家無之ニ付今般家作仕度普請料之儀小

頭分申出候ニ付其旨大目付へ申立候処並之通普請料米三俵被下候

旨被申聴則小頭 申達ス

八月廿九日 雨

一新魚町姫路屋甚右衛門義所持之家屋敷表口六間半裏行十七間御役

壹軒半役右之家屋敷家財立物ニ至迄質物ニ書入船頭町船本屋喜左

衛門取次ニ而當丑ノ十二月分三割式歩ツ、毎年相払来ル巳ノ十二

月切五年賦に相極銀札壹貫五百目借用仕度願書差出承届文化五辰

年四月請返ス断書出ス

一今昼後分壹匁ニ付錢通用百八文ニ相成候旨大年寄分届出ル

八月晦日 快晴

一例月之番賃銀相渡ス

一 高石垣番今般引替文吉与申もの申付候由右ニ付今日引越候旨請負  
一 札差出右請人下紺屋町出口屋早助下請人橋本町(マ・以下人名記載なし)

大年寄 玉置源五兵衛  
諸吟味 宮田喜左衛門

一 大年寄孫右衛門罷出桶屋町大坂屋京右衛門借屋ニ居申候平七并同人娘いと同人孫磯五郎メ三人借屋ニ罷在候所右家売払候ニ付明渡候様再三申付候得共一向不及頓着其後右借屋ハ売払候へハ近辺江罷越所々ニ而逗留之姿ニ而借屋かり不申候ニ付大坂屋借屋人別ニ而難義之趣ニ而毎々願書歎書等も差出候処新魚町歌屋久五郎借り名前ニ付彼方へ引取候様ニ申候得共得引取不申旨是又歎書差出右再返答書等都而三通差出且又夜前桶屋町年寄罷出夜前右いと義年寄宅へ罷越候而岩見屋孫兵衛悴岩治拔身いたし候而いとを切殺し候旨申之候ニ付申出候由ニ而届出夜分及深更候ニ付今日相届候旨申出候ニ付右平六義ハ新魚町歌屋方へ引取らせいと同人悴者請人共引取候様申付置候処無滞取計候旨大年寄分届出ル  
一 坪井町鍛柄屋吉右衛門兄山形寿三医学為修行京都江罷越居申候而去ル戌年帰り年限之処向方ニ而病氣旁以帰り延引仕候段届出候ニ付大年寄宅へ呼出急度叱已来入念候様申付ル無程右之段申達候旨大年寄より届出ル

閏八月 小

御年寄 黒田要人殿  
大目付 平井半平

閏八月朔庚辰旦(マ・天候記載なし)  
一 御蔵米五拾六匁 町米五拾貳匁

一元魚町延屋三治方へ戸村助左衛門西原村清蔵桶屋清吉同道ニ而備前七番之内材木町和泉屋七兵衛与申もの罷越候而去廿六日之頃逗留仕当町ニ而品々買取候而今朝出立可仕由ニ而馬式死人足等相雇既ニ出立も可仕処右調物代一向払不申候ニ付急々及吟味候処懐中之金子与申候も拵ものニ而全体無宿者ニ而語りものニ有之候ニ付早速目明江申遣し先ツ召捕置候処右同道人一同相歎何卒内済致吳候様申之候付目明場ニ而内済申付候処延屋義も得心ニ而買物品々ハ夫々江差戻宿賃等者割合を以請取及熟談候旨銘々一札目明より指出候旨ニ而小頭分差出請取置ク  
一 当月月番相勤候旨大年寄源五兵衛届出ル

八月二日 小雨(米絶)

一 京町小文字屋太兵衛儀商用ニ付大坂大川町淀屋橋南詰綿屋義兵衛方へ往来四十日計之逗留ニ而罷越申度願出候而大年寄承届候旨当人願書差出九月六日帰ル届  
一 西新町樽屋勘治義御領分之内太田村喜助娘すミ当丑拾七才此度悴嘉之平妻ニ引請申度町内人別人願書差出承届  
一 中之町秋田屋宗兵衛義所持之自国受酒株去ル子八月相願新町なら

や源兵衛方へ貸置候処限月来候付取戻候旨届書を以届出承置ク

一安岡町篠屋市右衛門義所持之家屋敷表口四間半裏行拾四間御役

軒役右家屋敷去ル寛政九巳年四月相願同町岡崎屋伊兵衛<sup>江質物</sup>

書入銀札壹貫目借受候処此度元利相済し請返候旨断書を以申出候

付承置ク

一堺町稻実屋義七郎儀用事有之候<sup>二</sup>付大坂堂島北町潮屋源兵衛方迄

罷越申度願書差出尤往来廿五日計之逗留<sup>二</sup>而罷帰申度之旨願書差

出承届九月朔日帰ル届

一伏見町馬持又四郎持馬鹿毛先月下旬相煩候<sup>而</sup>種々治療仕候得共

今昼九ツ時落申候段届書を以届出承り置ク

一牢舎勘兵衛義致全快候<sup>二</sup>付休薬為致候段牢番団助申出大年寄より

も同様相届

閏八月三日 快晴

一御膝中伺御機嫌例之通於七間廊下御奏者番以下一同御小姓頭代大

目付<sup>江</sup>謁申上ル

一來ル八日御用日之所九日<sup>二</sup>相成候旨勘定奉行分通申有之

一今日之御用日申上候御用向無之

一加茂小中原村牛馬市昨日迄引弘候<sup>二</sup>付今日引取候旨目孫兵衛届

出ル

閏八月四日 快晴

一諸吟味喜左衛門罷出菜種為登辻番書付持参左之通

覚

右升高八拾六石壹斗

右之通播州兵庫菜種引請問屋へ積登申出已上

年行司 岩屋文藏

油方 三人

覚

一菜種式百貳拾四俵

此壹割貳拾貳俵 引請人三人分

合貳百四拾六俵

右升高八拾六石壹斗

内六拾八石八斗八升 此届菜種引之

殘拾七石貳斗貳升 此分町散集又種

断書右同断 名面右同人

覚

一菜種百三石三斗

右<sup>者</sup>町方油屋共手作手絞り当丑歳作高<sup>二</sup>而御座候以上

年号月日 名面右四人

閏八月五日 曇昼後雨

一明六日之夕茅町<sup>二</sup>而百万遍仕候段届出候旨大年寄分相届承置ク

閏八月六日 雨

一今晚佐久間兵右衛門殿為使岡崎文平罷越夜前八ツ時分屋敷内<sup>江</sup>盜

賊表塀を切入込土藏之戸を明ケ候処夫のミ<sup>二</sup>而

不盜取候由之処居 間<sup>二</sup>有之候脇指式腰盜取候様相見え候旨心得<sup>二</sup>も相成可申候間被

相知候由尤大目付<sup>江</sup>も被相届候段申来候<sup>二</sup>付相応及返答早速申付

候而小頭ニ差添目明差遣這入候様子為及見候処素人之手際ニも無之哉ニ相見へ候旨目明申出ル

一本多左門殿分も川崎平左衛門為使夜前屋敷内へ盜賊入込候様子ニ

付相改候得共何茂紛失無之併與縁ニ有之候傘志本致紛失候処裏門ニ

捨有之候佐久間殿江這入候已前入込候事与被存候旨右之段大目

付へも相届候間為心得為相知候旨申来相応及返答

一大目附半平分逢対致度旨申来罷越候処夜前佐久間兵右衛門殿并古

市隼人方へ盜賊入込候而別紙之品々被盜取候ニ付町触可差出尤右

御場所柄之儀与得目明江も申付候様被申聴尤右被盜者もの書付郡

代江も相廻触流取計候様通達可致旨被申聞

一夜中田町辺烏散成もの致徘徊候哉之旨同人噂ニ付左候ハ、今夕よ

り組之もの更廻り為致可申非人も一組差添分更廻り可申付半平

江申談取計夫々江申付ル

閏八月七日 昼後晴

一桶屋町桶屋清吉儀借屋ニ居申候大坂屋幸兵衛儀近来馬取扱之義覚

候ニ付鳥屋与三兵衛存生之節之通り南新座馬場而駒仕立之義与

三兵衛同様仕度御馬御用之義ハ出精相働可申願書差出伺之上聞届

申達ス

一坪井町表屋甚六儀山田常右衛門殿御支配所大庭郡久世村与右衛門

悴宗次郎当丑式拾七才此度役介ニ引受申度住宅之義願出尤向方且

那寺并村役人分別紙差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス同十三日

住宅証文出ス

一福渡町浜野屋嘉一郎家守久米吉義借屋ニ居申候作人政十郎妻みよ

義四月晦日家出仕候ニ付其段相届百日尋申付置候処所々相尋候得共一向行衛相知不申最早百日余ニも相成候ニ付町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一上紺屋町灰屋与右衛門義借屋ニ居申候作人權四郎義先月廿八日不

斗罷出候ニ付所々相尋候得共行方相知不申候ニ付其段届出例之通

百日尋申付ル

一桶屋町備前屋吉儀備前邑谷村大工惣吉（子）同郡才田村大工和吉上

道郡一日市村大工万吉右三人之もの当年中引請細工為仕度逗留願

差出承届

一（孫）二階町鳥屋藤吉儀播州加古川よりねちわく手伝ニ九兵衛長次与申

もの例年之通呼越候ニ付当十二月末迄逗留為仕度願書差出承届十

二月十四日帰ル

一西新町備前屋儀助義御領分惣社村三之助娘まさ当丑式十三歳此度

悴宇兵衛妻ニ引受申度町内人別入願書差出承り届

一堺町福鳥屋清七儀りよ当丑式拾六歳此度西一宮村宇之助妻ニ差遣

申度町内人別除願書差出承届

一坪井町沢野屋伝六儀借屋ニ居申候金屋喜兵衛義去月六日ニ近在江

売用ニ罷越候処罷帰り不申所々相尋ニ候得共行方相知不申候ニ付

其段届出例之通百日尋申付ル

一坪井町鉄柄屋吉右衛門義兄山形寿三医道為修行京都大仏前正面通

り伊勢屋又兵衛方へ当年分来ル辰七月迄三ヶ年之内罷越逗留為仕

度願書差出承届文化五戊辰年閏六月廿六日帰ル

閏八月八日 晴

一 深信院様明九日四ツ時御供揃蘭田町通り泰安寺并御參詣被成候段  
種村登門より申來御先弘之儀小頭<sub>江</sub>申達并大年寄<sub>江</sub>も申付ル

閏八月九日 快晴

一 御用日<sub>ニ</sub>付登城

一 御膝中為伺御機嫌七間廊下<sub>ニ</sub>而例之通御奏者番已下一同御小姓頭

代大目付<sub>江</sub>謁申上ル

一 先達<sub>而</sub>大村屋源右衛門被盜取候脇指<sub>ニ</sub>志腰河内村地下<sub>与</sub>申所<sub>ニ</sub>質<sub>ニ</sub>

置有之趣目明助倉敷屋宗兵衛<sub>江</sub>河内宿長三<sub>与</sub>申ものより為知越候

<sub>ニ</sub>付早速宗兵衛罷越懸合候得共右脇指<sub>者</sub>不相渡併内濟熟談<sub>ニ</sub>も及

候ハ、返可申旨向方<sub>分</sub>申口<sub>ニ</sub>候得共中途宗兵衛取計<sub>ニ</sub>も難致旨申

出候<sub>ニ</sub>付弥大村屋被盜取候脇指<sub>ニ</sub>候哉源右衛門罷越見改可申大年

寄<sub>分</sub>為申付尤目明代宗兵衛同道仕罷越候様申付ル

一 大目付廻状到來左之通組中<sub>江</sub>相触ル

一 武芸之儀來ル十一月<sub>分</sub>勝手次第

一 他行之儀御百<sub>ヶ</sub>日過勝手次第

一 殺生之儀御一周忌迄相慎可申

一 右御触書<sub>ニ</sub>付町方へ左之通相触ル

一 御中陰十日迄<sub>ニ</sub>付十一日より自身番引取可申

一 鳴物殺生致家職候ものは來十一月<sub>分</sub>勝手次第之事

一 新職人町年寄喜平次義職分之義<sub>ニ</sub>付久米北條郡中北村喜右衛門方

へ罷越御輿繕相頼候<sub>ニ</sub>付廿日計逗留仕度旨願書差出承届九月二日

帰ル届

一 式町目龍田屋茂兵衛義江州甲賀郡石部宿大黒屋治右衛門悴唯次郎

<sub>与</sub>申もの当国誕生寺へ參詣仕当所用事有之候<sub>ニ</sub>付三十日計逗留為  
仕度請人共一同連印願書差出承届同廿六日帰届

一 西川役人永岡唯左衛門大谷代藏より今般御凶変<sub>ニ</sub>付為御悔書状差  
越及相答候

閏八月十日 快晴

一 茂渡庄右衛門<sub>江</sub>綿実絞油元方御用兼帶申付候義今般申渡候旨勘定  
奉行金井長平<sub>分</sub>通用有之

一 牢舎儀右衛門義病氣<sub>ニ</sub>而<sub>而</sub>不食等仕候段牢番团助届出候<sub>ニ</sub>付医師大

年寄<sub>江</sub>申付候所原亭運<sub>江</sub>診察申付候処難捨置趣<sub>ニ</sub>付療治申付薬差

遣候旨相届

一 牢舎雅楽全快<sub>ニ</sub>付休薬為致候旨牢番并大年寄<sub>分</sub>届出ル

一 大村屋源右衛門義昨日河内村<sub>江</sub>罷越候<sub>而</sub>質物<sub>ニ</sub>有之候脇指見改候

処被盜取候脇指<sub>ニ</sub>相違無之外<sub>ニ</sub>単物<sub>ニ</sub>右被盜取候節品有之右二

品きり<sub>ニ</sub>て外<sub>ニ</sub>被盜もの右質屋<sub>ニ</sub>は無之盜賊吟味も目明追々取計

候得共右質屋之所ハ内濟之形<sub>ニ</sub>而<sub>而</sub>互<sub>ニ</sub>一札取遣候<sub>而</sub>相濟可申右一

札案文今夕深更大年寄迄差越候由<sub>ニ</sub>而<sub>而</sub>伺出候<sub>ニ</sub>付其通取計候<sub>而</sub>可

然旨申付ル

閏八月十一日 朝小雨

一 夜分小頭宅<sub>江</sub>三巴初太郎罷越候<sub>而</sub>今夕土手へ罷出見申候処材木之

間<sub>ニ</sub>臥居候もの<sub>而</sub>尅人罷在候<sub>而</sub>見答候処当春頃追弘申付候盗人嘉平

之由<sub>ニ</sub>付初五郎宅<sub>江</sub>連帰り候<sub>而</sub>申出候由<sub>ニ</sub>而<sub>而</sub>小頭申出候依<sub>而</sub>和四

郎差遣繩をかけ非人<sub>江</sub>相渡預置候様申付右之段取計相濟候旨届出

ル

一 今夕更廻り左之面々罷出候処別条無之候段届出ル

小頭利右衛門 藤四郎 源藏 和右衛門 平左衛門

一元島林平請状取計候由ニ付小頭分請状差出ス尤請人新魚町油屋齋次

閏八月十二日 風

一 林田町年寄門屋久左衛門義印形紛失仕候ニ付替印仕度旨印鑑差添届書差出承届

一 材木町中村益庵義備前南方村医師根岸清運内縁之ものニ候処弟広治与申もの罷越候ニ付来ル十一月迄逗留為仕度旨願書差出承届

一元魚町大庭屋善兵衛儀所持之家屋敷表口七間半裏行拾七間御役式軒役石家屋敷并裏ニ土藏共不残質物ニ書入町内二文字屋清次郎取次ニ銀札式貫目借用仕度尤寅四月切沓ケ月沓歩半之利足相究借

請申度願書差出承届同十三日質入証文出ス文化五戊辰年十二月廿六日請戻し候届書出ス

一 右同町同人義今般脇坂中務太輔殿御預り所久米南條郡塚角村橋次郎方へ当閏八月より来ル午ノ七月迄丸五ケ年之間出職仕度尤宿元

之義 實父亀屋定次江為引請候旨願書差出承届ル文化五戊辰年九月廿六日届ル

一 林田町深屋勘十郎儀新職人町高角屋八十吉持来候古道具屋株去ル申七月分当七月迄借請候処限月ニ相成候然ル処猶又当丑ノ八月分

来ル午ノ八月迄五ケ年之間借請商売仕度願書差出承届  
一 京町広瀬屋清藏義同町今出屋半兵衛持来候古道具株去ル申ノ七月

分当七月迄借請候処限月ニ相成候ニ付猶又当丑八月分来ル午八月迄五ケ年之間借請商売仕度願書差出承届限月失念いたし翌来二月十日猶又去年八月分来ル迄迄願書出ス

一 西今町作屋庄兵衛義塩谷大四郎殿御支配所当国内吉野郡辻堂村

藤七悴茂兵衛当丑三拾才才同人妻ちく廿五歳同人悴宇吉三才右三人此度役介ニ引受相応之渡世為仕度住宅之儀願出尤向方且那寺并村役人分別紙差越候由願書差出伺之上聞届申達又同十五日住宅証文出ス

一 東新町茶屋武左衛門義悴武兵衛当丑四拾四才兼々不所存ものニ而去ル戌十一月宿元罷出婦り不申候ニ付親類組合相談之上義絶勘当

仕居申候然ル処右武兵衛倉敷辺ニ居申候ニ所縁を以勘当差免呉候様相歎弥心底も取直し候趣ニ有之候付差免申度帰住之義差免候様歎書差出伺之上聞届申達ス

一 新魚町金屋庄吉義川向持分畑綿余程ふき候処桶屋町小座屋治助畑綿も同様ふき居候然ル所八日之夕番ニ罷越見申候処綿もり居申候ニ付声かけ追懸候処逃去取逃し申候然ル処跡ニさる籠捨置逃去り

右籠之内ニ左之品々有之候旨届書を以届出伺之上聞所ニ取計内綿者庄吉へ遣ス

一 一さる籠 沓荷 綿沓斤余

一 あい染網袋

一 此内ニ  
一 浅黄空色小もん単もの沓ツ 一 古小倉帯 沓筋

一 藍染木綿三尺手拭沓ツ 一 紺染木綿切レ沓尺五寸程

一 ちくさ古キも、引沓ツ 一 白キ手おひ沓ツ  
一 紅しほり小手拭焼米式合程包  
一 かるた一面さい四つむらさき絹糸一くりこん一くり水い

ろ七くり 外雨紙巻枚

一 去十日嘉七<sup>江</sup>差添目明并非人<sup>人</sup>老人加茂宇野村<sup>江</sup>差遣先達<sup>而</sup>佐久間兵右衛門殿方<sup>ニ</sup>相勤居申候者宗藏<sup>与</sup>申もの兼々烏散之もの<sup>ニ</sup>付召捕罷帰り候様申付差遣候処向方入帳もの<sup>ニ</sup>も無之候<sup>而</sup>今日召捕罷帰候<sup>ニ</sup>付一応及吟味牢番預ケ申付ル尤右之段御両所へ相届右之もの名前左之通

元佐久間殿家来田村宗藏事

要七

一 昨日召捕盗人嘉平当時義平非人<sup>ニ</sup>預置候処今日一応吟味之上牢番預ケ申付右之段御両所へ相届

閏八月十三日 晴

一 御用日<sup>ニ</sup>付登城

一 大村屋源右衛門義夜前河内村より罷帰被盜物脇指并单物荖ツ河内村忠左衛門質物<sup>ニ</sup>取置候処何卒内济<sup>ニ</sup>而請取呉候様暖人有之候由<sup>ニ</sup>而右質物之処内济<sup>ニ</sup>も及候ハ、却<sup>而</sup>盗人手懸りも相分り可申旨<sup>ニ</sup>付双方一札取かわし右式品受取罷帰候旨大年寄より届出ル  
一 右<sup>ニ</sup>付目明宗兵衛も同道<sup>ニ</sup>而罷帰盜賊懸り合之もの左之通<sup>ニ</sup>取計置先ツ一応罷帰候段小頭迄届出ル

質置主

脇指置 河内宿 亀治

单物置 □□非人番半治

右兩人同村庄屋へ預ケ置候処<sup>与</sup>預り候由

一 単もの半治<sup>江</sup>相頼候候<sup>而</sup>

真島郡敷番無宿弥吉

半治質<sup>ニ</sup>置候由

今般之一件都<sup>而</sup>世話致候<sup>而</sup> 河内宿 長三

宗兵衛懸合之もの

一 今八時より牢屋<sup>江</sup>罷越候<sup>而</sup>千切屋勘兵衛并盗人円淨及吟味

立合之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付幸次

出番和四郎平左衛門 目明兩人

一 殿様御実名克孝様<sup>与</sup>奉称候<sup>ニ</sup>付御名字<sup>ニ</sup>差合候名乗字相改可申尤一字ツ、之同訓<sup>者</sup>不苦候之旨大目付廻状到来組中并町方へ触書出ス

一 御用并自分願等<sup>ニ</sup>而道中致往来候節途中<sup>ニ</sup>而人馬雇候ハ、着之上可申出中山道甲州路致往来候ハ、前以届出候様御触書到来組中へ差出ス

一 福渡町野上玄養儀所持之家屋敷表口四間裏行拾七間御役壺軒役右之家屋敷寛政十二申ノ四月相願質物<sup>ニ</sup>書入銀札三百目三町日常屋平吉<sup>等</sup>借請候所元利共相济請返し候旨断書を以届出承置ク

一 橋本町山形屋喜八義用事<sup>ニ</sup>付大坂大川町和泉屋六郎兵衛方へ往来廿五日計之逗留<sup>ニ</sup>而罷越申度町役林田町年寄へ頼置候旨願書差出承届九月四日帰ル届

一 嘉七義要七召捕罷帰り候得共向方<sup>ニ</sup>而腰物取扱之様子承り候処<sup>与</sup>聡不相知候<sup>ニ</sup>付明日出立<sup>ニ</sup>而右加茂辺へ罷越候<sup>而</sup>聞糺罷帰候様申付明朝出立之趣小頭分申付ル

閏八月十四日 晴

〔采録〕

一三町目太刀屋久治義商用ニ而 因州鳥取川端三町目うとや喜左衛門

方へ罷越申度往来日数四十日計逗留願書大年寄聞届候旨当人願書

差出ス九月廿九日届届

閏八月十五日 雨

一加茂辺 嘉七差遣要七取扱之脇指為聞糺候へ共一向相知不申候ニ

付向方盜賊番兩人 江与 得相頼置罷帰候旨届出ル尤右番人兩人共先

頃要七召捕候節彼是致世話候ニ付右為挨拶銀札八匁ツ、差遣度旨

申出候ニ付致持參差遣候

閏八月十六日 昼後晴

一左之もの共牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代分申来候ニ付出番

和四郎へ申付ル

土居下分

藤藏

亀治

幾右衛門

千代治

万次

同村上分

為次

瀬戸村

八十吉

利吉

小座村下分

善吉

メ九人

右之もの入牢取計候段和四郎届出ル

一玉置卯左衛門義父方祖父去ル十四日死去仕候ニ付忌服御定式之通

十五日ニ而 御届候処此節他行仕候ニ付向方「」忌受候之段大年寄

分届出御所 江及御沙汰

玉置仁平実父備中矢掛中西四郎右衛門

閏八月十七日 晴

一久世手代堀川定兵衛和田一九郎平塚左右助より書状差越大村屋源

右衛門被盜物之内式品河内村中村分百姓忠左衛門方ニ致質入候処

取戻候哉其外盜賊手懸り心当等も有之候哉相糺申越候様申来候ニ

付則大村屋源右衛門糺候処相違無之仍 而返書下案相認来書共要人

殿へ相伺候処存寄無之旨御申聞ニ付則返書差遣ス

一安岡町粉屋伊兵衛義御領分二宮村伊三郎当丑十七才此度役介ニ引

受申度町内人別人願書差出承届

一西新町岸田屋喜兵衛義当丑三十五才同人妻ます三拾五才同人倅佐

市十一才右三人此度東南條郡太田村清藏借屋へ引越申度町内人別

差除候様願書差出承届

一元魚町亀屋弥七儀中之町秋田屋宗兵衛所持之自国請酒株当閏八月

分来ル十二月迄五ヶ月之間借受商売仕度願書差出承届

一深信院様明十八日五半時御供揃ニ而 藪田町通り泰安寺妙法寺へ御

詣被成候旨種村登門分通用有之候ニ付夫々 江申達ス

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代宗兵衛 与申もの例年之通茶碗類売ニ

参り候ニ付則逗留為仕度京町小文字屋太兵衛宿切手差出ス十月二日帰届

一 船頭町今津屋孫十郎後家借家ニ居申候宮地屋岩吉儀三浦志摩守殿御領分当国之内真島郡福田村ニ罷在候市右衛門義当丑四十六才此度役介ニ引請申度住宅之儀願出尤向方旦那寺并村役人分も別紙差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス同十九日住宅証文出ス  
一 明十八日五半時麻上下着用惣出仕之旨大目付廻状到来

閏八月十八日 快晴

一 御用日并惣出仕ニ付五半時登城

一 蔵合孫左衛門義昨日迄忌廿五日ニ相成候ニ付今朝忌御免之義奉書を以申達御両所へ相届

一 深信院様両寺御参詣無滞相濟候段御先弘和右衛門林平届出ル

一 御用所ニ而 要人殿御申渡之趣左之通尤大目付半平待座三奉行一同罷出ル

去ル六日土井大炊頭殿御宅江 大和守様御同道御出被成候処兼

御願被置候御養子并御家督無御相違被為蒙仰候段相達候様被仰

出候旨御申渡

右之段惣町江 相達候様大年寄江 申付且又右恐悦廻勤致候様夫々江 可相達旨申達ス

一 殿様御事大守様与 可奉称旨御達有之候ニ付惣町中へ相触ル

一 於七間廊下御奏者番已下一統恐悦申上并蕙心院様江も同様恐悦御小姓頭代大目付半平へ謁申上ル

一 御用所并松之間大目付江も江戸表恐悦三奉行一同罷出候ニ申述

一 西新町高松屋龜之助所持之自国請酒株七ヶ年已前未年十二月相願町内岸田屋喜兵衛方へ貸渡置候処双方勝手ニ付取戻候旨断書を以届出候ニ付承置ク

一 坪井町糺屋茂四郎義所持之家屋敷表口三間裏行十七間御役壹軒役右之家屋敷代銀札壹貫目ニ相極東隣塩屋茂右衛門へ売渡申度願書差出承届同日売券状出ス

一 今日八ツ時より左之もの共呼出及吟味立合之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付幸次 出番和右衛門林平

大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

去七月廿五日博奕宿仕候義相違無之参会之 河原町野村屋  
もの油利七新屋伊三綿屋万蔵つぐね岩金川庄 忠蔵妻

千切屋勘兵衛分質物之一件ニ付

坪井町沢野屋 伝吉  
福渡町 万五郎

一 御蔵米五拾四匁 町米五拾目

閏八月十九日 快晴

一 上河原村利左衛門被盜物九品同村喜兵衛被盜物四品触流差出候様大目付中申達候由郡代より通用有之町触差出同廿八日無之殿申出ル

閏八月廿日 晴

一 今日別条無之

閏八月廿一日 晴

一 西今町日笠屋庄七儀是迄当国之内西々条郡河本村福泉寺旦那候

処今度同宗西寺町愛染寺旦那ニ寺替仕度尤当人耆人ニ而福泉寺より放手形愛染寺へ相渡候旨両寺共納得之旨願書差出宗旨奉行引合之上聞届申達

一中之町粟井屋茂市儀役介政右衛門立願有之ニ付往来八十日計逗留

ニ而四国遍路ニ罷出度願書差出承届十一月廿八日帰ル

一千切屋勘兵衛切手買取候取次之もの共為相札候処銘々口書にて申出承置ク

閏八月廿二日 晴

一御藏米五拾目 町米四拾六匁

一京町田原屋伊兵衛義商用ニ付播州姫路京口壺丁目とまみ屋平兵衛

方へ往来四十七日計之逗留ニ而罷越申度願書差出大年寄承届候旨

当人願書差出ス九月七日帰届

一福渡町阿賀屋助五郎家守甚吉儀借屋ニ居申候岩藏当月十三日ニ与

風家出仕候ニ付心懸り之所相尋候得共行衛相知不申旨届書を以届

出候尤右之もの河原町野村屋忠藏方ニ而博奕参会之ものニ付今度

者百日尋者不申付追而御裁許之節申付候事

一元魚町原屋喜兵衛儀宿屋商売仕渡世ニ候処近年不勝手ニ付居宅并

宿屋迄河内屋和兵衛へ借置候然ル処去ル十一日分職分ニ仕候鳴物

は御免候得共右宿屋ニ名前御座候ニ付当時三味線稽古職分ニ仕候

得共右ニ付相慎候何卒当時職分之義故御免御座候様歎書差出伺之

上聞届

一郡代より左之もの共揚屋并牢番預ケ申付候間立合差出候様申来出

番幸次罷出取計候旨届出ル

牢番預ケ  
上高倉村 藤八  
大篠村西 周藏  
同 東 兵治  
同 義八  
同 栄藏

揚り屋  
同村 丹治  
下高倉村西 是吉

閏八月廿三日 晴

御用日登城

一西今町中野屋太郎兵衛義所持之家屋敷表口五間裏行拾六間壱尺式

寸五歩御役半役右之家屋敷去ル寛政三亥年六月坪井町静虎屋利兵

衛取次ニ而質物ニ書入銀札五百五拾目借請候処此度元利返済仕請

返候旨届書を以届出承置ク

一右同町同人義前段所持之家屋敷之内空地東西式間七歩五厘南北五

間之地面土藏共此度代銀札三百目ニ相極同町坪屋藤十郎江売渡申

度願書差出承届同廿四日売券状出ス

一二階町なきや文義裏堀覆破損仕候ニ付修覆仕度御堀江足代おろし

申度願書差出来ル廿八日之御用日ニ大目付江差出候事

一郡代より左之もの共牢番預ケ申付候間立合差出候様申来

下高倉村東 島治

和七悴

菊治

乙治

山西村 幾右衛門悴

政吉

三之丞

一新職人町塗師孫三郎借屋住定吉与申もの畑綿盜取候旨目明共より

申出候ニ付目明孫兵衛宅へ召捕置候段届出候ニ付番和右衛門平

左衛門指遣繩懸ケ役所江連帰候而左之面々立合及吟味

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番和右衛門平左衛門

大年寄源五兵衛 諸吟味役喜左衛門

一右及吟味候処畑綿両度盜取候段及白状候ニ付則吟味中入牢申付尤

独身ものニ付組合ハ賄候様大年寄江申付ル

一右之段御用番要人殿并大目付半平へ相届ル

一於御用所御用番要人殿左之通御申渡大目付半平出席

土居村下分 藤藏

宇助悴

亀次

同村 幾右衛門

彦兵衛悴

千代治

同 万吉

瀬戸村組頭 八十吉

善八悴

利吉

小座村下分 善吉

右之もの共度々博奕致参会候ニ付五十敲之上帰村申付候間其段

取計可申旨御申渡

一右御裁許之儀郡代申談候而来廿五日取計可申段御所江相届

閏八月廿四日 快晴

一昨夜和四郎罷出京町辰巳屋文兵衛悴万藏義立帰罷在候右之もの兼

而風聞不宜ものニ付目明ハ申出候由相届候ニ付藤四郎嘉七和四郎

三人差向候所右万藏者居合不申弟伊三郎居合候ニ付召捕候段届出

候ニ付文兵衛組合預ケ可申付旨申付候

一明廿五日正九ツ時より牢屋ニ而夫々及吟味候ニ付小頭江拷問等茂

取計可申右之手合致置候様申付ル

一明日九ツ時左之もの共牢屋敷へ差出候様大年寄へ差紙差遣ス

安岡町村永屋吉右衛門

北郷門太夫長屋住仙助

右請人角屋孫兵衛へ預ケ

京町辰巳屋文兵衛悴

伊三郎

右者文兵衛組合預ケニ付町役組合

一牢舎幾右衛門病氣ニ付療治昨日迄二廻り原亭運申付候所致快氣候

ニ付休薬為仕候旨牢番并大年寄ハ相届

閏八月廿五日 快晴

一去ル廿三日御裁許被仰出候郷中博奕一件之もの共今般敲取計左之

通

土居村下分 藤藏

宇助悴

龜治

同村 幾右衛門

彦兵衛悴

度々博奕致参会候ニ付五十敲婦村 千代治

同 万吉

瀬戸村組頭 八十吉

善八悴

小座村下分 善吉

右出役之面々左之通

御徒目付 下目付老入

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和四郎

一今九ツ時より牢屋江罷出左之もの共及吟味

安岡町村永屋吉右衛門

北郷門太夫長屋住仙助

牢舎千切屋勘兵衛

今日入牢申付候 京町辰巳屋文兵衛悴

伊三郎

牢舎無宿 嘉兵衛

同 要七

右要七儀者兼而悪評有之ものニ付水責申付候諸事穢多頭九郎

右衛門罷出取計之

右立合之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番源藏和四郎

一錢三十箇当川積下申度札元共送り書式通札座奉行松島郡平介相廻

候ニ付則裏印取計差遣ス

一辰巳屋文兵衛伊三郎立帰候ニ付召捕入牢申付候段御用番要人殿

大目付半平へ相届ル

閏八月廿六日

(ママ・天候記載なし)

一二階町藤野屋嘉四郎家守嘉兵衛義山田常右衛門殿御支配所備中阿

賀郡水田村善右衛門当丑六拾九才此度借屋ニ居申候作人左助実父

ニ付引受養育仕度住宅之儀願出尤向方旦那寺并村役人分別紙差越

候旨願書差出伺之上聞届申達ス九月朔日住宅証文差出ス

一此間より追々両日郷中之もの共牢舎都合拾式人今日呼出候ニ付立

合申付候様申来幸次出番ニ付罷出出入取計候旨相届

一今日左之もの共牢番預ケ申付候間立合差出候様申来

下高倉村西分 金藏

同村東分 六太郎

左吉

下高倉村 豊治

本郷西村 多吉

ノ五人

右立会幸次罷出入牢取計候旨届出

一蕎麦尾山ニ而ちきりや勘兵衛召捕候節真加部村幸太郎懸合等致世

話候ニ付金貳百疋遣之候旨先頃申立候之処相渡候ニ付和四郎之差遣候処請書差出其外左之通差遣候ニ付同人江相渡請書差出

一 銀札四拾六匁九分 蕎麦尾山諸人用真加部村庄屋源次之差

出候小日記表

一金百疋 円宗寺村医師宗友江

一同百疋 金剛頂寺江

一 銀札四拾匁 右同寺江 長持代

一 金貳百疋 真加部村幸太郎へ

一元魚町伊丹屋利左衛門義撰州能勢郡妙見宮へ往来廿日計之逗留ニ

而罷越申度願書差出大年寄承届候旨当人願書差出ス追願ニ而十月五日帰届

一 東新町岩屋文蔵借屋ニ居申候倉敷屋才右衛門義今般二十四拜参詣仕度当月廿八日出立仕往来百日計逗留ニ而罷帰申度願書差出承届

十二月廿五日五十日之日延願

一元魚町延屋三治義江戸麻布六本木飯倉片町稲倉宗琢当八月相願逗留為仕候処今五十日計逗留追願差出承届

一 安岡町の屋市右衛門義所持之家屋敷表口四間半裏行十四間御役

一 鍛冶町宗道宮普請出来ニ付明日遷宮仕候旨大年寄之申出承置ク

閏八月廿八日 曇

一 御用日ニ付登城 御駕籠之もの被召抱候ニ付望之もの来月七日迄ニ割場へ申出候様

町触差出ス

閏八月廿九日 曇

一 河面村文蔵申もの入湯帰懸ケ上長田村ニ而病氣付同所之送り

一 出院庄村江送り来候ニ付村継承届候旨郡代より申来右之段大年寄

一 江申達候処新田村之送り来町分無滞送り届候旨大年寄之相届ル

一 例月之通三ヶ所番賃銀相渡ス

一 去ル十五月初 御登城御家督之御礼首尾能被仰上候ニ付為御歛例

之通五ツ半時惣登城仕候様御奏者廻状到来ニ付組中并町触等差出

且又例之通廻勤可致旨是亦申付

一 御家督御糺被為濟候御祝儀明朔日吸もの御酒御赤飯被下之候間中

一 奥組已上五半時大番組已下坊主迄九半時登城仕候様昨日大目廻

状到来御触書留ニ記置ク

九月 丙 大

閏八月廿七日 快晴

一 先達而順丸様御引越御取組等被為濟候ニ付為御祝儀座頭共へ二ツ

一 分被下之候ニ付去ル廿三日被下取計候旨配當場城喜美請書差出候

旨大年寄之差出ス 大目付 赤見類助 大年寄 蔵合孫左衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

九月庚戌廿己未快晴

一去ル十五日初而御登城御家督之御礼首尾克被仰上候為御歎五半時惣登城

一於七間廊下御奏者番已下三奉行迄一同去十一日十三日御老中方初而御逢被為濟同十五日御家督之御礼首尾好被仰上候恐悦小性頭代大目付江調申上ル蕙心院也様江も同様恐悦申上候

一御用所坊主部屋前ニ而三奉行一統御赤飯吸もの御酒被下之頂戴仕給仕御用所坊主

一組之ものへ割鯛御酒被下之候旨大目付類助被申達候其段小頭江申達ス

一御用所江罷出三奉行一同恐悦申上退出かけ大目付へ同様申述  
一桧之間江も罷出候而江戸表之恐悦申述

一七間廊下ニ而今日御祝頂戴仕候御礼例之通一同御小性頭代江調申上ル

一坪井佐藤五兵衛大竹宗十郎より書状差越今度大竹宗十郎参着ニ付来秋迄相詰佐藤五兵衛用向相濟次第罷帰候旨案内申来

九月二日 快晴

一御藏米四拾四匁 町米四拾目

一左之通牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代ハ申来平左衛門罷出取計相濟候段届出ル

小原村 藤兵衛 元治 文吉 佐吉 茂作 権吉

惣社村 初之丞 利七 浅之助 忠太 鍋治 八十吉

市之丞 忠藏

山北村 吉右衛門 六兵衛

拾六人

九月三日 快晴

一坪井佐藤五兵衛大竹宗十郎より書状差越候返書今日取ニ可参ニ付紙屋助右衛門へ相渡ス

一御凶変之節坪井役人并西川役人ハ書状差越候ニ付右為挨拶明日飛脚差立候書状差越候旨御用番へ御沙汰申上大目付江も飛脚之義申達ス

一役所江相渡候三ツ道具損候ニ付引替之儀今日大目付江申達大納戸ハ相廻ス

一左之もの共呼出候間立合差出候様郡代より申来立合平左衛門罷出ル

小原村 藤兵衛 元治 文吉 佐吉 茂作

惣社村 初之丞

一左之もの共牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代より申来藤四郎罷出取計呼出之もの共同様取計候段申出ル

黒田頼母長屋住金藏 大篠村 万治

式人

一木下東五郎殿蕙心院様御実弟ニ付已来様付相唱候様御触書到来組中町方へ相達ス

一 隆照院様 (先代藩主長考) 梅香院様 (長孝夫人) 顯徳院様 (前々藩主康徳) 信源院様 (康成夫人) 巖恭院様 (つゞみ・巖の誤り)

右御靈屋様御忌日慎方之儀廻状到来御触書留ニ委敷記置ク

一 深信院様例月十九日四ツ時御供揃ニ而例之通御道筋泰安寺妙法寺

江御参詣被成候ニ付度々通用無之御延引之節為相知候旨兼而相触

置候様種村登門申聴候ニ付大年寄小頭江も申達置ク

九月四日 晴

一 勘兵衛引合ニ付千年寺被相札候処口書差出候旨大目付中より被相

渡引合相違無之

九月五日 夜中雨

一 御凶変後未御日柄も不相立候ニ付祭礼之節町方之もの共俄芸或は

ねり物様之もの差出申間敷旨町方へ触書差出ス

一 御家督并御目見被為済候御祝儀ニツ分座頭共頂戴仕度願出候旨大

年寄分申出候ニ付右之通先例ニ付承届候旨申付ル尤先触之通兼而

伺相済候ニ付申達ス

一 西川坪井江挨拶之書状昨日差出候所西川より返書来り坪井分者請

取書来ル

九月六日 曇

一 奈良今井町墨屋伊兵衛手代源助与申もの老人例年之通墨筆紅粉壳

ニ昨日参り候ニ付逗留為仕候旨宿元魚町延屋三治宿切手差出ス十

月廿五日帰ル届

九月七日 快晴

一 菜種届書相認候ニ付致調印候様十郎左衛門分申来文段左之通

覚

七拾八ヶ 村菜種作高

一百七拾式石壹斗八升

内

百三石三斗

残而六拾八石八斗八升

外ニ散種拾七石式斗式升

合八拾六石壹斗

右者兵庫問屋江積登申候

右之通ニ御座候已上

丑九月 兩名印

一 御蔵米 四拾三匁 町米三拾九匁

一二階町山手理屋兵衛方へ去ル五日之夕借屋北隣石右衛門堺之堀覆

を越裏門錠はつし盜賊入込土蔵之錠明ケ質物少々盜取候由尤品数

聡与不相分候得共相届候旨届書を以申出此段及御沙汰候

一 上紺屋町中津屋伊右衛門義去ル四日之夕何時とも不相知小山屋平

八借屋ニ組合有之候夫より段々堀を越門を明入込候而土蔵を開キ

候処右之内ニ而者失もの無之かとにかけ有之候染物左之通被盜取

候段届出触流願ニ付相伺

一 白もめん五尋 一同四尋 一古もの鳥糸(つゞみ)入染直し

一 縮緬古物帯幅せまく六七尺茶小紋付

メ代式拾目五分計

一 桶屋町作人甚蔵義役介りん当丑式拾八歳然ル処去月廿六日不斗罷

出歸り不申方々相尋候得共行衛相知不申出奔仕候旨届出候ニ付先

例之通百日尋申付ル

九月八日 快晴

一御用日ニ付登城

一德守官祭礼永代十七日夕十八日ニ相成候旨大目付中被申達小頭江  
申付候

一上河原村庄屋文左衛門去月廿七日盗人入込左之品々被盜取候旨町  
触差出候様大目付中被申聽町触差出ス同廿八日無之段申出ル

一男着木綿古布子袴ツ但表紺立島裏淺黄直段九匁位

一同拾羽折袴ツ表裏共紺淺黄茶立島かた入郡内島直段拾五匁位

一紙入袴ツ但小倉島両面書類中ニ在直段袴匁五分位

一銀札三拾匁計

ノ四品

一上紺屋町中津屋伊右衛門被盜もの触流差出候様大目付中被申達候

ニ付町触差出ス

一元魚町紙屋太兵衛儀所持之家屋敷表口式間半裏行拾七間但御役四

歩六厘七毛右之家屋敷此度町内南屋孫三取次ニ而銀札三百目借用

仕度旨来ル寅九月切袴ヶ月袴歩半之利足ニ相究借請申度願書差出

承届同十日質入証文出ス文化七庚午年八月晦日請戻し断書差出ス

一今日左之もの共博奕致参会候ニ付御裁許被仰出候

所々ニ而博奕致参会不届ニ付五十敲之上帰 上高倉村 藤八

村可申付候処兼々不行跡ニ付敲之上勸農所

江差出候

博奕致参会不届ニ付五十敲之上帰村

大篠西村 周藏

同東村義八同人倅米藏同村兵治上高倉村豊治下高倉村東分是吉

同村乙助同村岩助倅島治同村和七倅菊治同村忠吉倅六太郎同村

義助倅佐吉同村西分利兵衛下入金藏本郷西村源太郎倅下高倉村

利兵衛下人多吉山西村幾右衛門倅下高倉村久米藏下人政吉右政

吉弟下高倉村幸八下人三之丞大笹東村万治惣社村和七淺之助三

之助甥忠太市平倅鍋治伊八孫八十吉忠七倅市之丞甚兵衛倅与市

瀨助倅忠藏重右衛門門上河原村彦之丞下人初之丞山北村吉右衛

門六兵衛小原村種吉彦平倅藤兵衛伊之吉倅元治文助倅文吉忠助

倅佐吉平藏倅茂作

黒田頼母長屋住

右同断不届ニ付五十敲之上受人江引渡ス

金藏

九月九日 快晴

一御年限中ニ付登城無之

一小頭初組之もの共当日ニ付罷出候ニ付神酒差出ス

一大隅宮祭礼ニ付左之もの共出役之旨相届ル

嘉七 源藏 和四郎 林平

右祭礼無滞相濟候段届出ル

九月十日 快晴

一左之もの共明日九ツ半時差出候様大年寄江申付候段差紙出ス

坪井町千切屋勘兵衛組合共

坪井町沢野屋伝吉

同町 中津屋宗十郎

安岡町村永屋吉右衛門

福渡町岡屋 万五郎

河原町野村屋忠藏妻

仙助請人角孫孫兵衛

一越中富山二番町菜種屋兵右衛門与申もの売薬商ニ昨日参り候ニ付

逗留為致度西新町山家屋利右衛門宿切手出ス十二月八日届届ル

九月十一日 快晴昼後雨

一左之もの共呼出口書印形取立合之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付幸治 出番平左衛門林平

大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門

坪井町千切屋勘兵衛

同町 沢野屋伝吉

同町 中津屋宗十郎

福渡町岡屋 万五郎

安岡町村永屋吉右衛門

北郷門太夫長屋住仙助

河原町野村屋忠藏妻

牢舎無宿盗人義平

同 円浄

京町辰巳屋伊三郎当録無宿

新職人町塗師孫三郎借屋住

定吉

右之もの共口書印形取之組合有之候もの共は組合町役一同印形

取之

一河原町野村屋忠藏妻その義博突宿ニ付手鎖懸ケ組合預ケ申付候段

御用番中大目付江も相届ル尤博突宿之儀者入牢も申付候義ニ候得

共二才之小児有之病氣ニも有之候ニ付右之通申付置候段も相届置

一今昼廻り藤四郎和右衛門罷出候所追廻し松原内ニ行倒もの有之病

氣之様子ニ野伏体之もの之よし如何取計可申哉之旨伺出候ニ付

□□□□非人江番申付候間其俣ニ廻り相勤候様申付候尤□□□□

□□江番申付候義は大年寄江申付ル

一追廻し行倒もの之儀大目付構場所ニ付右之趣申遣候処無程□□□□

□□江引取候而病氣養生為致候様取計可申旨尤先時日付組見分同様

ニ被差出候ニ付別段御徒目付等見分者不差出候由申来候ニ付右

之通大年寄江申付ル

九月十二日 晴

一追廻し行倒もの昨夜□□□□江為引取候処無難ニ引取今日も同様

ニは候得共一向言舌相分り不申食事不仕候旨届出候ニ付其段大目

付類助江申遣ス

一桶屋町ひの屋亀次借屋もの大谷屋馬吉父甚之丞六ヶ年已前吉田屋

平助借屋ニ居申候節致出奔候而除帳ニ相成候処伯州倉吉ニ罷在候

而忤馬吉罷越如何様之訊ニ出奔致候哉之旨相尋候所借金ニ差詰

り致出奔候旨申之候ニ付馬吉致工面候而銀主方無申分相济候ニ付

婦住差免呉候様歎書差出伺之上聞届申達ス

一福渡町福本屋万次義脇坂中務太輔殿御預所英田郡倉敷村文四郎忤

卯兵衛義当廿五才此度役介ニ引請申度住宅之義願出尤向方村役

人分別紙差越候旨願書差出伺之上聞届申達同廿五日住宅証文差出

又

一 今般之御祝儀座頭共へ二ツ分被下之候ニ付割渡候旨配當場城喜美請書差出御用所江も差出猶又大目付中江差出置ク

一 来十七日徳守宮宵祭ニ付左之町々大門開九ツ時迄立番付置候旨大年寄ニ届出候ニ付御両所江及御沙汰承置ク

元魚町 二階町 戸川町 上紺屋町 鍛冶町 細工町 宮脇町 材木町

一 一〇〇〇〇江引取置候追廻し行倒もの晩刻致落命候段大年寄ニ届出候ニ付御用番中江取捨之義相伺候処無程勝手次第取捨候様相達可申旨御申越ニ付其段大年寄江申付ル

一 牢舎万次口中出物有之気分相勝不申候由ニ而岩佐孝順診察之処難捨置棄差遣候旨大年寄より届出ル

九月十三日 快晴

一 御用日登城

一 主膳殿去ル九日帰着ニ付今朝宅へ罷越候而謁

一 左之もの共御裁許伺口書共取揃差出置ク

博奕宿ニ付

河原町野村屋忠藏妻

其外右懸り合一件之もの共

立帰り忍居候ニ付

京町辰巳屋文兵衛勘当之悴

伊三郎并町役組合

畑綿盗

新職人町塗師孫三郎借屋

もの定吉畑綿盗取候

盗人 無宿 円浄

盗人 嘉平 当時 義平

一 来ル十五日被仰渡之儀有之候間御徒格已上四時登城仕候様大目付廻状到来

一 播州加藤郡三木町形屋与兵衛手代藤兵衛と申もの例年之通紺屋形売ニ昨日参候ニ付逗留為仕度西新町山家屋利右衛門宿切手差出ス

十月廿一日帰ル届

一 信州筑摩郡敷原宿古屋善吉与申もの忝人例年之通木櫛売ニ昨日参候ニ付逗留為仕度林田町福吉屋安右衛門宿切手差出ス

一 大坂立売堀式町目播磨屋惣吉手代幸助与申もの忝人例年之通小間物売ニ昨日参候付逗留為仕度右同人宿切手差出ス十二月廿三日帰届

一 米価下落ニ付明日より揚屋賄七分ニ相戻候旨勘定奉行辰右衛門ニ申来小頭へ申達ス

一 一〇〇〇〇ニ引起居候行倒もの昨晩落命致候ニ付取捨之義相伺候処伺之通被仰出候ニ付其段大年寄へ申付候所先例之通川向惣幕江取捨相濟候旨届出候ニ付御両所へ相届ル

九月十四日 晴

一 久世堀川定兵衛和田一九郎平塚左右助ニ例年之通米相場付奥印ニ而

来十一月相廻呉候様申来候ニ付及相答

一 宮脇町広瀬屋安治弓削出訴一件江戸御留守居志津馬江懸合置候処右等貸借之義者公辺ニ而も筋立兼候趣ニ付及出訴候義如何哉之旨申来猶又伺之上取計候事

一 大守様月並御登城被為濟候ニ付為恐悦明十五日四時惣登城之旨大

目付廻状并御奏者廻状等到来ニ付例之通町触并組中<sup>江</sup>も触達ス

九月十五日 快晴

一惣出仕ニ付四ツ時登城

一五節旬月並御登城被為濟候ニ付恐悅申上例之通七間廊下ニ而御奏

者番以下一同御小性頭代大目付へ謁申上尤<sup>念也</sup>蕙心院様<sup>江</sup>も同様申上ル

一右恐悅三奉行一同御用所并桧之間<sup>江</sup>罷出申述大目付役所へも自身及挨拶

一当月より御年限明キニ付御意之趣御用所ニ而御申渡御書付<sup>者</sup>大

目付類助誑渡候右之御趣意左之通

一巖恭院様思召を被為繼候付今般<sup>者</sup>何角被差置候<sup>而</sup>物成并御扶

持被下等之義無引方被下之来寅十月よりハ亥年已前之通御引

方被仰付候御藏奉行口入借物之分御弁濟被下候<sup>而</sup>廿<sup>ケ</sup>年賦ニ

御引取被成候

一御家中物成月渡りニ被仰付候其外は都<sup>而</sup>亥年已前之通併七<sup>ケ</sup>

年之間御省略被仰出候ニ付御年限中之通取計分限相応ニ取計

可申候事

一役々存寄之儀少々之御益筋ニ<sup>而</sup>も無遠慮申上候様被仰出候事

一諸組<sup>江</sup>百目ツ、御貸付是亦廿<sup>ケ</sup>年賦ニ御引取被成候旨大目付

中被申達

右之趣組中<sup>江</sup>相達候様小頭<sup>江</sup>申達ス大年寄へも左之もの共へ相達

候様申付ル

一八人扶持

藏合孫左衛門

一六人扶持ツ、

斎藤孫右衛門  
玉置源五兵衛

一右同断

六人扶持ツ、

茂渡庄右衛門  
川口藤左衛門  
茂渡藤右衛門  
山本三右衛門

一三人扶持ツ、

山本恒助  
玉置卯左衛門

一貳人扶持

中川五左衛門  
木屋太兵衛

一四人扶持

一三人扶持

右<sup>者</sup>来寅十月より先年之通御引米有之

一三人扶持ツ、

久山勘八  
宮田喜左衛門

玉置卯左衛門  
稲実屋  
義七郎

美濃出屋

清右衛門

一一人半扶持

屋根屋  
嘉兵衛

一一人扶持

木屋太兵衛  
悴

右<sup>者</sup>下地より御引米無之

一米三俵ツ、御蔵元式人

右同断

一明十六日此間御裁許御座候取計候旨御両所江御届申小頭江も右手合致置候様申付ル

一來十七日徳守宮宵祭ニ付左之町々関貫開置候旨立番付置候由大年寄分届出候ニ付御用番并大御目付江も相届ル

二階町 元魚町 上紺屋町 鍛冶町 細工町 宮脇町  
戸川町 材木町

九月十六日 快晴

一去ル八日御裁許被仰出候郷中博奕参会之もの共三十四人敲取計候ニ付出役左之通

御徒目付山田喜七 下目付老入

小頭利右衛門 部屋目付幸次 出番和右衛門平左衛門  
右取計相濟候段御用番要人殿大目付類助へ相届ル

一元魚町吉屋清藏義先達而相届候坪井町千切屋勘兵衛江饅頭箱貸置候処此節右商売相始候ニ付何卒差戻候様可申付之旨歎書差出承

置ク猶勘兵衛諸道具封印付候ニ付相糺候上ニ而可申付事  
一元一宮村千次与申もの博奕会合之上逃去此節帰候ニ付牢番預申付

候間立合差出候様郡代より申来林平罷出取計相濟候旨届出ル  
一御廐中間相勤当時致牢人候利助与申もの兼而久世辺徘徊之ものニ

而山田屋清七与申もの懇意ニ付当所被盜もの之儀相頼候処人当り之義も有之候ニ付何とそ佐久間殿家来被参候而右質屋相糺候而引

合之品も有之候ハ、何分請返し内済ニ相成候ハ、致世話候由ニ付

右之趣共兵右衛門殿江承合候所随分家来差遣可申由ニ而明日出立

ニ而右利助佐久間殿家来文平与申もの同道ニ而罷越候様申付ル尤右之趣は要人殿并類助江も申談候而右之通取計

一今夜廻り藤四郎勇藏罷出候ニ付千切屋勘兵衛へ吉屋清藏分饅頭箱四ツ貸置候ニ付差戻候様歎書差出候仍而千切屋方へ差向為相改候

処借請候ニ相違無之勘兵衛家内申之候ニ付開封之上吉屋方へ差返し候様町年寄江相達可申哉之旨伺出候ニ付其通取計候様申付ル

九月十七日 雨

一 小頭利右衛門盜賊筋之義ニ付明日立ニ付久世表へ差遣候依而右留守中藤四郎へ小頭代申付ル

一 徳守宮宵祭ニ付左之面々八ツ時より警固出役  
小頭代藤四郎 出番并廻り分 嘉七 勇藏 源藏 和右衛門

一 どんど瀬分百問裁下モ迄御普請場之石并川寄之石取中間敷町触差出候様御達之旨郡代分申聞候ニ付今日町触差出尤右川向寄之近町

之町役折々心付万一右体之義及見聴候ハ、早々申出候様大年寄へ申達

一出雲大社中官西村神太夫与申御師上下四人例年之通参候ニ付逗留為仕度二町目龍田屋茂兵衛宿切手差出ス十二月廿六日帰届

一元魚町大庭屋善兵衛義京都三宝院御宮役僧吉祥院与申もの上下四人当国修験共へ用事ニ付昨日罷越候仍而十日計逗留為仕度願書差

出候ニ付承届同廿二日出立届  
九月十八日 折々雨

一御用日ニ付登城

一昨日宵祭ニ付為警固小頭并組之もの四人差出候処別条無之夜分引取候旨今朝何<sub>茂</sub>届出ス

一千切屋勘兵衛直し切手一件并右引合之もの共御裁許伺御用番要人殿<sub>江</sub>差出ス

一徳守宮祭祀ニ付左之もの共出役仕候旨何れも届出ス

小頭代藤四郎 出番并廻りより 嘉七 源藏 和四郎 林平

一 小頭利右衛門義今昼出立ニ付久世表へ罷越候処向方都合不宜候ニ付今日延引之旨届出ル

一 徳守宮祭祀無滞相济候段出役より届出候ニ付御両所<sub>江</sub>相届ル

九月十九日 晴

一 深信院様四ツ時泰安寺妙法寺へ御参詣被成候ニ付御先弘和四郎林平罷出候所無滞御参詣相济候段届出ル

一 昨夜尼子数右衛門長屋<sub>江</sub>盗人這入銀札拾匁計操綿少々盗取候段手懸り之品<sub>ニ</sub>者無之候得共為心得相達候旨大目付頼助申来候付其段小頭<sub>江</sub>申付目明<sub>江</sub>相達させ候事

一 新魚町姫路屋甚左衛門義印形紛失仕候ニ付改判仕度旨印鑑添願書差出承届

一 飯塚弥代長屋もの兼<sub>而</sub>風聞不宜もの之処此度暇差遣受人<sub>江</sub>相渡候

由ニ付目明共へ申付召置候様取計可申小頭分申付候処早速召捕候ニ付非人小屋<sub>江</sub>差遣置候尤請人<sub>者</sub>左之もの共ニ付役介ハ彼方遣

置候段申出ル

飯塚弥代長屋もの源六請人

二階町髪詰 豊治  
美濃職人町たはこや 斧八

九月廿日 曇

一 小頭利右衛門義兼<sub>而</sub>申付置候久世表<sub>ニ</sub>而盗賊吟味之義ニ付明日出立仕候旨当人相届承置

九月廿一日 快晴

一 元飯塚弥代長屋住源六<sub>与</sub>申もの此間目明召捕非人小屋ニ預ケ置候処今日八ツ時呼出盜賊筋及吟味立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭代藤四郎 部屋目付幸次 出番和右衛門林平 右源六儀吟味中牢番預ケニ申付其段御用番要人殿大御目付頼助へ相届

九月廿二日 快晴

一 御代官竹内要左衛門分町作当御年貢為吟味近日より町内<sub>江</sub>差出候ニ付若納方不埒之ものも有之候ハ、手鎖申付候間兼<sub>而</sub>承知致置候様先例之通申来及即答

一 下紺屋町桶屋六右衛門義借屋ニ居申候久五郎娘鶴義去ル五月分懐胎之旨相届置候処当月十六日四ツ時女子致出生候<sub>而</sub>出生之女子至<sub>而</sub>丈夫ニ相見え候ニ付先達<sub>而</sub>届延引恐入候旨届書を以届出候ニ付

例之通月取間違叱相達候様大年寄<sub>江</sub>申付置ク

一 伊丹屋さき義悻利左衛門相願先月廿七日出立撰州能勢郡妙見宮<sub>江</sub>参詣仕候処向方<sub>ニ</sub>而少々相勝不申今十日計逗留仕度日延願致呉候

様申越候ニ付願書差出承届十月五日帰ル届

一 去ル四月延屋三治方ニ止宿仕候源明<sub>与</sub>申もの共小柄同宿之駒太郎

<sub>与</sub>申もの盜取居候処先頃右駒太郎目明共<sub>ニ</sub>而召捕候<sub>而</sub>彼是吟味之内右小柄盜取居候由<sub>ニ</sub>而取揚差出候ニ付此度右小柄延屋三治へ相

渡候処請取差出ス

一 下紺屋町紙屋庄五郎儀脇坂中務太輔殿御預り所当国之内英多郡倉敷村平藏当丑式十二才同人悴辰次郎四藏右兩人引請候 而 渡世為仕度住宅之義願出尤向方旦那寺并村役人各別紙差越候旨願書差出伺之上聞届申達又同廿九日住宅証文差出ス

一 西新町飯綱屋源兵衛儀脇坂殿御預り所当国之内英田郡檜原下村与次兵衛姉ふん十三年巳前丑七月相願妻ニ引請罷在候処家風に入不申候ニ付此度離縁与次兵衛方へ差戻候ニ付当所支配相離町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一 伏見町小田屋伊平次義土岐山城寺殿御領分御当国之内英田郡川北村百姓瀬助悴敬藏当丑式拾八才此度引請候 而 相応之渡世為仕度住宅之儀願出向方旦那寺并村役人よりも別紙差越候旨願書指出伺之上聞届申達又十月八日住宅証文出ス

九月廿三日 雨

一 御用日ニ付登城

一 御藏米四拾五匁五分 町米四拾壹匁五分

一 林田町紺屋治兵衛居室へ廿二日明方盗人入込左之品々盗取候旨届出ル

一 わた入羽折沓ツ表黒裏もめんつきく 一 浅黄染もめん九尋

代五匁位

代十三匁位

一 木綿女帯沓筋紺ニ茶立しま 一 まへかけ沓ツちくさ染但二布

代四匁位

代壹匁位

ノ四品

一 京町宮田喜左衛門家守三之助義兄伊勢藏当丑四拾四才右者 十七年

已前父善吉今勘当ものニ 而 其後罷歸り追払ニ相成候処今般御赦ニ 而 寺院今徘徊之義歎出御聴届ニ候得共勘当ものニ付父善吉在生中悴三之助へ申置候ニ付今度勘当差免度歎書差出伺之上十月朔日聞届申達ス

一 大坂重田又兵衛殿手代星野慎平榎本宗八飯沼才次郎今当十月米相場書例之通奥書取計相廻候様申来候ニ付則及即答  
一 去ル十七日佐久間殿家来文平并利助同道ニ 而 久世表へ罷越山田屋清七取扱候 而 備中之内 与 申所之質屋品々質物相改見候処佐久間殿被盜候品ニ引合不申候ニ付今日罷歸候且又一昨日立ニ 而 同所へ小頭利右衛門罷越候処是又同道ニ 而 罷歸り委細申出ル

一 巖恭院様御法事御赦ニ付寺院歎出之帰住居并徘徊被差免候拾壹人之もの共来朔日申渡候様大御目付類助申聞之候ニ付申渡書取計候様書役江申達ス

九月廿四日 雨

一 惣社村与市与申もの牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代より申来候ニ付其段申付幸次罷出候 而 入牢取計候旨届出候

九月廿五日 晴

一 治部清左衛門屋敷ニ居申候そよ義当廿一日之夕盗賊入込左之品被盜取候ニ付触流差出候様ニ大目付より被申聴候由ニ 而 十郎左衛門今申来

一 女着立島布子裏もへき裾ニ鼠小紋付

一 同立島單もの袖うら金きん

右之品々町触差出ヌ

一諸組拝領屋敷ニ女老人差置候<sup>而</sup>被盜候例も可有之哉大目付中被相尋何卒急ニ取調呉候様被申聞候間取調候<sup>而</sup>直ニ大目付<sup>江</sup>申遣候様  
十郎左衛門<sup>分</sup>申来取調候<sup>而</sup>左之通申遣

享和三亥年正月七日林田弓之町御城代組治部藤左衛門拝領屋敷  
住房方へ盗人入込十式品被盜取候旨町触差出候段大目付中<sup>江</sup>申遣ヌ

九月廿六日 晩雨

一先日久世表<sup>江</sup>差遣置候元御厩中間利助義今晩罷帰り山田屋清七<sup>江</sup>  
懸合盜賊筋之義小頭を以申出承置ク

九月廿七日 雨

一東新町茶屋武左衛門義小笠原信濃守殿御領分播州佐用郡皆田村百姓弥四郎当丑三十六才妻てん三拾歳此度役介引請相応之渡世為仕度住宅之儀願出尤向方旦那寺并村役人今も別紙差越候旨願書指出伺之上聞届申達ス十月六日住宅証文指出

一二階町備前屋仁兵衛義借屋ニ居申候みの屋利兵衛娘きさ義懐胎之趣<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>玄養診察之処最早五ヶ月<sup>ニ</sup>も相成候由<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>去七月懐胎月取間違之段相届候処今般經行御座候ニ付早速玄養へ容体為見候処左候得<sup>者</sup>病氣<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>經行相滞候義<sup>与</sup>申之候ニ付再応相届候旨野上玄養容体書共ニ差出承置ク

一下目附安井友次長屋ニ居申候作人伊助当丑五十九才同人妻ふみ六拾四才同人悴惣吉三十八才此度安岡町神目屋九郎兵衛へ引請相応之渡世為仕度町内人別人願書差出所も相糺候由<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>大年寄申出

候ニ付承届

九月廿八日 雨

一御用日ニ付登城

一 例月三日十八日山吹之間<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>大学講釈有之候旨大目付中<sup>分</sup>達有之  
一出羽守様来ル朔日御発駕被成当所四日御通行被成候ニ付当夏御通行之通人馬等手当之義御頼被成候段申来候旨大目付中被申聞先例之通取計可申旨先例書を以相伺相濟左之通

一御通り筋道見分同心組小頭大年寄諸吟味

一在方寄馬員数相知次第郡代<sup>江</sup>申遣ヌ

一御通り筋家々之前盛砂掃除入念候様申付候

一御通行前夕<sup>分</sup>町方火之用心并非人加廻り

一御本陣玉置源五兵衛<sup>江</sup>御小休之用意申付置

一斎藤孫右衛門<sup>江</sup>御使者宿之義申達置ク

一町医兩人在宿申付置ク

一馬駅<sup>江</sup>同心組兩人諸吟味問屋目付兼老人罷出其外式步中買共差出ヌ

一御先扨同心組小頭老人平組式人差出ヌ

一当役西今町横丁<sup>江</sup>出役町分御通行相濟引取候

一直し切手之内左之切手正切手ニ付書替之義大目付<sup>江</sup>申達勘定奉行

<sup>江</sup>相渡置候処書替出来<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>栗田辰右衛門<sup>分</sup>相廻ヌ

一三升五合五勺 中津屋質物直し切手之内正切手壹枚有之分

一八升壹合式勺五才 鍛治市郎右衛門下人玉林<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>拾候切手式一枚之内壹枚<sup>者</sup>直し切手ニ付御藏<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>消捨

（ニ）相成忝枚正切手ニ而書替

一新職人町滝本屋庄藏義借屋ニ居申候作人忠五郎兄松之介当丑廿八歳然ル処廿一年已前二宮村与八方へ養子ニ差遣候所此度離縁仕罷歸り候ニ付町内人別人願書差出承届

一御用所ニ而左之もの共御裁許御用番要人殿御申渡大目付類助待座

畑綿盗取候ニ付五十敲之上  
新職人町塗師孫四郎借屋住  
歸村  
定吉

參宮所持之銀子盗取候ニ付  
無宿盗人

五十敲之上追払  
円淨

当春追払ものニ候処立帰居候  
盗人嘉平事當時  
ニ付百敲之上追払  
義平

一左之もの共伺之通御裁許被仰出

去ル七月博奕宿致候ニ付過  
河原町野村屋忠藏妻

料三貫文追込但し廿日  
その

右ニ付追込但し三日  
右町年寄

源右衛門

右忠藏組合

右ニ付過料五百文ツ、  
追込但し三日  
山次郎  
ふみ  
喜次郎  
治之助

右同断

右忠藏隣家

喜兵衛

（茂兵衛

一右博奕參会之もの共逃去候ニ付左之通

右參会之所逃去候ニ付組合共

江 巖敷尋申付百日之内不尋出

候ハ、過料五百文ツ、為仕候

一左之もの共伺之通被仰出

勘当之身として当春已来立

帰居候ニ付追払

勘当之悴内々ニ而当春已来  
差置候ニ付追込但し七日

右文兵衛組合

常八郎

善助

伝吉

伊助

善左衛門

善右衛門

右町年寄

右ニ付急度叱

嘉左衛門

喜八郎

一左之もの共夫々引合ニ付左之趣何相濟  
（円淨両夕届なく為泊候ニ  
中之町甲屋

付急度叱

定吉今綿買取候処盗物

付代物損失申付ル

西今町高田屋

音右衛門

小性町芦田屋

佐助

高田屋買綿新魚町大工伝之助

菅田屋買綿堺町玉屋喜兵衛

一時之助徳川家斉の子息様去ル十四日御逝去ニ付従公儀普請鳴物等御構無之旨御

手前ニてハ從今日晦日迄三日之内鳴物御停止之段大目付廻状到来

付組中并惣町触夫々江申達ス

九月廿九日 晴

一出羽守様来月朔日雲州表御發駕ニ付御先触人馬左之通御先触写差

出候ニ付御用番中江差出ス

繼馬 貳拾七疋

繼人足 貳百人

右ニ付在方寄馬七疋申付候様人馬問屋江申出候ニ付其段郡代江申

遣ス

九月晦日 晴

一深信院様明朝日八ツ時御供揃蘭田町通り泰安寺江御仏參被成候旨

種村登門江通用有之右之段小頭并大年寄江も申達ス

一巖イソ恭院様御法事御赦ニ付寺院歎江によつて左之もの共帰住或ハ徘徊

等被差免候ニ付明朝日五半時役所并郡代所江差出候様大年寄江差

紙遣ス

伊勢屋長右衛門親類

大黒屋藤七親類

鍛冶繁藏親類

豊後屋和助親類

大工伝兵衛親類

古銀屋伊勢藏親類

鮎屋吉五郎親類

大工藤吉親類

渡部八十助親類

神喜屋梅之助親類

下紺屋町大工藤助親類

郡代所江差出し可申

吹屋町吹屋 八左衛門

西新町大黒屋藤右衛門

東新町野村屋忠助後家

橋本町後藤屋佐市

西今町おけ屋善五郎

京町古銀屋 三之助

中之町鮎屋 乙次郎

安岡町竹屋 佐助

京町関屋 喜兵衛

上紺屋町神田屋清吉

下紺屋町鵜飼屋武助

京町阿波屋 亀吉

十月丁亥大

御家老 山田主膳殿

御年寄 黒田要人殿

大目付 太田舎人

大年寄 斎藤孫右衛門

諸吟味 宮田喜左衛門

十月庚辰旦 晴

一 今日より御省略御年限明キニ付先例之通昼夜とも廻り為相勤候段  
申達置候ニ付昼夜共廻り罷出候

一 巖恭院様御法事御赦ニ付左之もの共婦住居<sup>并</sup>徘徊被差免候ニ付今日五つ半時分町役差添罷出候ニ付直に申達又尤申渡書大年寄分相渡ス

其方親類伊勢屋長右衛門義今般重キ  
御法事御赦ニ付寺院歎ニよつて婦住居被差免

吹屋町吹屋八左衛門

煩代 瀧藏

西新町大黒屋

大黒屋藤七右同断

藤右衛門

東新町野村屋忠助

鍛冶町繁屋右同断

後家煩代 其助

橋本町後藤屋

豊後屋和助右同断

佐市

但し右和助義先達<sup>而</sup>江戸庄方<sup>ニ</sup>博奕指口ニ付致徘徊候ハ、申出候様右町役親類<sup>江</sup>申付候ニ付尚又婦住居<sup>ニ</sup>も為致候ハ、其内申出候様申付置ク

中之町鮎屋乙次郎

鮎屋吉五郎右同断

煩代 清助

上紺屋町神田屋

神喜屋梅之助右同断

清吉

其方親類大工伝兵衛儀今般重キ

西今町桶屋

御法事御赦ニ付寺院歎によつて徘徊被差免候

善五郎

京町古銀屋

古銀屋伊勢藏右同断

三之助

但し右之段直ニ申渡平日義絶勘当差免度歎書差出置候聞届之義大年寄分申達ス

大工藤吉右同断

佐助

京町関屋

渡部八十助右同断

喜兵衛

下紺屋町鵜飼屋

大工藤助右同断

武助

右立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番嘉七源藏

大年寄孫右衛門 諸吟味喜左衛門

右申渡相濟候旨御用番要人殿大目付舍人<sup>江</sup>相届

一 深信院様八つ時御供揃<sup>ニ</sup>而 泰安寺<sup>江</sup>御参詣被成候ニ付御先弘和右衛門平左衛門罷出候処無滞相濟候旨届出ル

一 当組林平儀拜領屋敷<sup>江</sup>今日引越候旨小頭分相届ル

一 明日敲取計候間右之手当致置候様申付大年寄<sup>江</sup>も明日申達之もの明朝呼出置候様申付ル新職人町定吉組合町役牢屋へ明朝六半時罷出候様可申付之旨是亦大年寄<sup>江</sup>申付置ク

一 下紺屋町大工権治後家悻治助義先達<sup>而</sup>博奕一件ニ付出奔之処組合共<sup>江</sup>百日尋申付不尋出候ハ、過料五百文ツ、可申付旨申付置候処

右治助義先非を悔吟味可請罷帰候よし届出候ニ付組合共<sup>江</sup>預ケ置候段大年寄分相届

十月二日 曇

一 去ル廿八日御裁許被仰出候左之もの共左之通取計無滞相濟

參宮人所持之銀子盜取候ニ付 盜人無宿 円淨

五十敲之上御領分追払

当春追払ものニ候処立歸り候ニ付 同嘉兵衛当時

百敲之上右同断 義平

畑綿少々盜取候ニ付五十敲之上帰町 新職人町塗師孫四郎

勘当之身として内々立歸り 借屋住 定吉

忍居ニ付御領分追払 勘当之悴 伊三郎

勘当之悴内々ニ差置候ニ付 同 辰巳屋 文兵衛

追込但七日 右同断ニ付追込但し三日 右文兵衛 組合共

右同断ニ付急度叱 右町 年寄共

去ル七月博奕宿致候ニ付 河原町野村屋忠藏 妻その

追込廿日過料三貫文 右忠藏 組合 隣家 共

右一件ニ付追込三日 右町 年寄

過料五百文ツ、 船頭町新屋忠次郎

右同断ニ付追込三日 弟伊三吉

右忠藏方ニ而博奕参会之ものニ候 河原町 利七

処何も逃去候ニ付組合共江百日尋 福渡町 岩藏

申付右日数尋不出候ハ、過料五百 文ツ、申付候段申渡請書取之

盜人円淨無願ニ夕為泊候ニ付 中之町甲屋

急度叱 幸介

定吉より綿壹斤代壹匁分ニ買取 西今町高田屋

候処盜ものニ付取揚被盜人新魚町 音右衛門

大工伝之助へ戻させ請取書差出ス

右同断綿壹斤余壹匁分ニ買取候 小性町芦田屋

ニ付取上ケ被盜人堺町玉屋喜兵衛 佐助

へ戻させ請取書出

右牢屋立合之面々左之通

御徒目附吉村弥平次 下目付壹人

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番勇藏和四郎

右大年寄孫右衛門宅ニ而申渡候節立合左之通

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番源藏

右取計相濟候段御用番并大目付江も相届

一 今日追払之もの共川辺御境目迄相送り庄屋一札取之罷帰候旨出番

勇藏和四郎相届

一 御藏米四拾七匁 町米四拾三匁

一 一宮村文治出牢申付候間立会差出候様郡代より申来嘉七罷出出牢

取計候段届出ル

一 京都烏丸通り六角下ル町二文字屋九兵衛手代佐兵衛藤三郎申も

の式人例之通呉服売ニ昨日参り候ニ付逗留為仕度元魚町二文字屋

清次郎宿切手差出ス寅二月六日佐兵衛帰ル届同廿四日藤三郎帰届

一 惣大工共分前々之通町方他所大工入込之儀差留候様歎書差出且亦

寺社方普請之義<sup>者</sup> 手馴候ものも有之候得共普請不致候<sup>而</sup> 右之手

筋も絶候<sup>而</sup> 歎敷候<sup>ニ</sup> 付寺社普請他所大工差留候様被仰付候ハ、惣

大工一統難有之旨歎書差出候<sup>ニ</sup> 付八日御用所<sup>江</sup> 相伺候処町方入込之所御聞濟<sup>ニ</sup> 付其段申達ス

一京町野田屋佐右衛門<sup>ハ</sup> 御使者屋敷表側格子損候<sup>而</sup> 見苦敷相成表側  
おたれ痛候<sup>而</sup> 雨もりくさり候様子<sup>ニ</sup> 候<sup>ニ</sup> 付両様繕被仰付被下候様  
願書指出大目付中へ差出候事

一茅町よしや平兵衛儀借屋<sup>ニ</sup> 居申候作人折平年廿六歳同人母たけ年  
四拾八才同人妹こう式拾三歳右三人土井大炊頭殿御領分久米南条  
郡北庄里方村百姓礮兵衛方へ役介<sup>ニ</sup> 引越申度当所支配相離町内人  
別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一京町瀧山屋宗兵衛義居宅裏御堀端<sup>ニ</sup> 建物仕度御堀<sup>江</sup> 足代おろし願  
書差出大御目付<sup>江</sup> 差出ス

一上紺屋町神目屋幸吉儀安芸国加茂郡仁<sup>ケ</sup> 田村源右衛門娘なつ当丑  
式拾三才此度妻<sup>ニ</sup> 引受申度住宅之儀願出尤向方旦那寺并村役人<sup>ハ</sup>  
も別昏差越候旨願書差出伺之上聞届達ス

一二階町山手屋理兵衛義先頃届出候被盜もの品数取調左之通被盜取  
候<sup>ニ</sup> 付触流之義願出御用番中<sup>江</sup> 差出ス同八日町触差出ス

一脇指沓腰 鞘之上沓尺七八寸位

一身慶鎮作 一縁頭四歩一新作之図中川作 一鮫白目貫紅葉  
<sup>ニ</sup> 鹿切羽金きせ鍮銅下緒黒銀之銚柄糸松葉色鞆鶴目銀尤鍔  
なし 代百五拾匁位

一同沓腰 同沓尺五六寸位 流質物<sup>ニ</sup> 御座候

但し切羽銀きせ其外不相分 代式拾五匁位

一同沓腰 此分流質物<sup>ニ</sup> 而 仕立金高等不相分

一木綿島布子沓つ 弁慶島<sup>(マ)</sup> 代十三四匁位

一同島島布子沓つ 島<sup>(マ)</sup> から不相分 代拾式三匁位

一同小紋布子羽織沓つ 代八匁位

一同島島式反 但し三留茶入立しま 代十七匁位

代式百式拾六匁計

一上紺屋町灰屋与右衛門義借屋<sup>ニ</sup> 居申候作人権四郎義去ル八月在方  
へ参候由<sup>ニ</sup> 而 一向帰り不申所々相尋候へ共行衛相知不申候<sup>ニ</sup> 付相  
届候処百日尋申付置候然ル処昨晦日右権四郎儀罷歸り候<sup>ニ</sup> 付いか  
様之義<sup>ニ</sup> 而 無願数日他行致候哉之旨相尋候処無何心身延山<sup>江</sup> 参詣  
仕候由先達<sup>而</sup> 不願出他行仕候段恐入候旨何卒帰住居差免候様歎書  
差出候<sup>ニ</sup> 付大年寄宅<sup>ニ</sup> 而 無願他行之段叱申渡帰住居願承届候様申

達候処右之趣申渡候旨届出ル

一河原町山形屋長七組合共右長七妻娘共家内三人先達<sup>而</sup> 出奔仕候  
<sup>ニ</sup> 付其節相届百日尋申付置候処最早百日余<sup>ニ</sup> も相成候<sup>ニ</sup> 付町内人

別差除候様願出差出伺之上聞届達ス

十月三日 雨

一御用日<sup>ニ</sup> 付登城

一今日宇治橋之間<sup>ニ</sup> 而 大村成夫大字講釈有之御用所初大目付三奉行  
出席

一明日出羽守様御通行<sup>ニ</sup> 付役割左之通小頭<sup>ハ</sup> 差出ス

御先払 小頭利右衛門藤四郎和右衛門 馬駄<sup>江</sup> 孝治源藏

供<sub>用</sub>使<sub>和</sub>四郎平左衛門門林平

- 一二階町疊屋佐吉義御作事今已來御用申付候様今日申渡候旨御作事奉行<sub>之</sub>通用有之尤疊屋嘉右衛門同様<sub>ニ</sub>相成候旨申來
- 一大神樂岡田忠太夫昨夜罷越候旨橋本町宿武藏屋甚藏<sub>之</sub>届出候旨大年寄<sub>之</sub>相届ル<sub>ニ</sub>付未御家中鳴物御免も無之候<sub>ニ</sub>付御家中相廻り候義<sub>者</sub>差留候旨申付ル

一右大神樂罷越候旨大御目付舍人<sub>江</sub>相届候尤御家中相廻り候義差留候段是又申遣ス

一御藏米四拾七匁 町米四拾三匁

一御払米三百俵 落札木和屋源兵衛

代正銀四拾七匁五分五厘町米准之

一深信院様毎月十二日例之御道筋<sub>ニ</sub>而四つ時御供揃泰安寺<sub>江</sub>御參詣被成候<sub>ニ</sub>付毎々通達無之候旨兼<sub>而</sub>申付置候様種村登門申聽候<sub>ニ</sub>付則大年寄<sub>江</sub>も相達ス

十月四日 折々雨

一今日出羽守様御通行<sub>ニ</sub>付五半時供揃申付西今町坪屋藤十郎方立宿<sub>ニ</sub>付罷越扣御省略明<sub>ニ</sub>付供立左之通

口<sub>之</sub>著<sub>者</sub>自分騎馬<sub>着</sub>用使<sub>者</sub>人<sub>草</sub> 鎗 割場中間  
取り取手人  
携箱 割場 合羽籠割場

一出羽守様九つ時過御通行被成先例之場所妙法寺之角<sub>江</sub>罷出相扣居候処足輕躰<sub>之</sub>もの罷越出役之様子相尋候<sub>ニ</sub>付名札相渡候処御駕籠<sub>江</sub>差出候<sub>而</sub>無程御駕所<sub>ニ</sub>付下座致候処御駕脇<sub>之</sub>被露有之御通行相<sub>江</sub>濟候<sub>而</sub>御徒躰<sub>之</sub>もの罷越御目<sub>六金式百疋被下候旨片木<sub>ニ</sub>居差出候<sub>ニ</sub>付相応挨拶御役人中<sub>江</sub>御礼之義宜頼存候旨及挨拶夫より猶亦拜</sub>

屋へ罷帰扣候内町分御離れ被成候注進有之候<sub>ニ</sub>付立宿引取帰かけ

御用番要人殿<sub>江</sub>罷越出羽守様御通行<sub>ニ</sub>付出役仕町分無御滞御通行相濟候旨直<sub>ニ</sub>申届大目付月番舍人<sub>江</sub>以使右之段相届

一今日遠見差出置候場所左之通

院庄御休<sub>ニ</sub>而 天皇はなより 筋違橋<sub>之</sub>右天皇がはな<sub>ニ</sub>而供揃右之場所<sub>江</sub>罷出ル

一出羽守様御先払并問屋詰共<sub>之</sub>無滞御通行相濟候段相届

一玉置源五兵衛宮田喜左衛門今も右同断之旨相届

一今日人足請負左之通

一駕籠壹挺<sub>ニ</sub>付七匁三分 一平人壹人<sub>ニ</sub>付式匁壹分

一今日人馬差出候員數問屋場<sub>之</sub>左之通書出

一本馬廿七疋外<sub>ニ</sub>式疋増 一人足式百八拾九人

一明日敲取計候間右手合致置候様小頭<sub>江</sub>申付ル

一京町田原屋伊兵衛義商用<sub>ニ</sub>付伯州倉吉中町赤崎屋宗兵衛方へ罷越

廿日計逗留仕度之旨願書差出大年寄聽届候旨当人願書差出ス同廿

六日帰ル届

一今日出羽守様被下もの左之通

銀式両ツ、 幸治源藏

錢三百文 小頭利右衛門

同式百文ツ、 御先払藤四郎和右衛門

十月五日 曇

一惣社村与市五十敲婦村今朝取計相済ム

立合左之通

御徒目付吉村弥平次 下目付彦人

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番源藏

右取計候旨御兩所<sup>江</sup>相届

一左之もの昨日迄追込三日ニ相成候ニ付今朝追込差免

野村屋忠藏組合 山次郎 ふみ 喜次郎 治之助

同隣家 喜兵衛 茂兵衛 右町年寄 源右衛門

京町辰巳屋文兵衛組合 常八郎 善助 伝吉 伊助

善左衛門 組頭 善右衛門

十三人

右取計相濟候旨御用番要人殿大御目付舍人<sup>江</sup>相届

一御藏米四拾七匁 町米四拾三匁

一御払米三百俵 落札大黒屋利兵衛

代正銀四拾七匁九厘 町米准之

一三浦子間違之義有之候<sup>而</sup>差扣伺呉候様申義ニ付大目付舍人<sup>江</sup>罷越

相伺候処無程不及其儀已来入念候様被仰出候ニ付其段相違候様申

来其段同人<sup>江</sup>及通達

十月六日 快晴

一大神楽岡田忠太夫罷越候旨届出候旨大年寄より届出候ニ付此節御

家中鳴物御免も無之候間御家中相廻り候義差留候尤町分勝手次第

之旨相違候様大年寄<sup>江</sup>申付但右之趣大目付<sup>江</sup>も書面<sup>ニ</sup>而届委細申

遣ス

十月七日 晴風

一西川永岡唯左衛門大谷代藏より当十月米相場相極次第相廻具候様

書面を以申来則返書明日迄ニ羽織屋取ニ罷越候様申付置ク

一出羽守様御通行ニ付問屋場入用差引払之分左之通之旨書付差出ス

一七百五拾九匁四分 内百九拾匁九分御払人足式百拾式人

一勝間田町西屋甚兵衛義御領分日上村常吉役介佐四郎当丑四十八才

此度借屋ニ居申候利吉家内ニ引請申度町内人別人願書差出承届

一元魚町年寄佐右衛門義年来年寄役相勤来り候処近来病身ニ相成難

義ニ付病氣指支之節悴佐次郎名代役相勤させ申度願書差出右佐次

郎年頃ニも候間申付候<sup>而</sup>も可然旨大年寄申出候ニ付承届

一御藏米四拾七匁 町米四拾三匁

一御払米三百俵 落札木和屋源兵衛

代正銀四拾六匁七分壹厘

一橋本町豊後屋和介今晩罷帰候旨申出候ニ付組合預申付置候段大年

寄合相届

十月八日 曇

一安岡町岡崎屋善吉後家義三浦志摩守殿御領分当国之内真島郡上山

村侘美熊次郎弟百合藏此度養子ニ引請申度住宅之義願出尤向方且

郡寺<sup>并</sup>村役人別昏差越候旨願書差出伺之上聞届同十六日住宅証文

差出ス

一惣大工共今町方他所大工入込ニ相成居候所職分差支ニ相成候ニ付

先年之通差留候様歎書差出伺之上町方入込之所差留候義承届町触

差出尤已後差支無之様可申付旨大年寄<sup>江</sup>申達ス

一中之町平野屋伊助義一昨六日之夕盗人入込左之品々被盜取候旨届

出候ニ付御用番中へ差出候<sup>而</sup>触流願出候段申上候処大目付中より

例之通触流取計可申旨十郎左衛門へ被相達通用有之候ニ付町触差  
出入同廿日無之段申出ル

一脇指壹腰 一小倉島昏入壹つ 一奥島裕羽折壹つ

代三十五匁位 代壹匁五分 代十五匁位

一糸入鳥男着裕壹 一子共着布子壹

代貳拾匁 代六匁

一左之通先触到来ニ付先例取調一昨年九条様御家来佐々木丹後守止  
宿之節之例を以同心組兩人保頭先払差出可申哉之旨相伺候処伺之  
通取計候様御用番中御差函ニ付右之通取計大年寄并小頭等江申達  
ス

覚

一長持壹棒 一乗物壹挺 一駕籠壹挺 一分持五荷

此人足貳人 此人足四人 此人足三人

一輕尻馬三疋

右者就日光御門主御用岩井和泉守一島要人明三日京都出立伯州  
大山迄罷越候宿々人馬船川等無遲滯肝煎可給候尤定之通賃錢相  
払可申者也

丑十月二日 坂本御殿御役所

城州山崎  
伯州溝口宿々問屋中

宿割上下拾人

十月三日芥川 四日 五日 六日 七日 八日勝間田  
九日久世 十日 十一日  
十月九日 晴

一京町辰巳屋文兵衛追込昨日迄七日ニ相成候ニ付今朝追込差免候様  
大年寄江申付候処呼出申渡候段届出候ニ付御両所江相届

一下紺屋町福藏橋本町豊後屋和介先達而江戸庄博奕宿之処参合差口  
之ものニ付其節呼出候処福藏義者致家出行衛不相知候段届出候ニ  
付組合共江百日尋申付置候処今般罷帰候段届出候且又和助義者追

払者ニ而其節徘徊被差免候ものニ付徘徊いたし候ハ、早々捕置候  
而届出候様町年寄縁家共江申付置候処此度御法事御赦ニ付寺院歎

によつて帰住居被差免候ニ付罷帰候段相届候ニ付右兩人共組合預  
ケニ申付置候旨先頃大年寄より相届候仍而今日八つ時呼出候而及  
吟味候旨大年寄江申付其外立合之面々江も申達置ク

一出羽守様御通行之節御本陣玉置源五兵衛手当入用左之通之旨本陣  
詰美濃出屋清右衛門野々口屋七郎右衛門櫻野屋茂一郎分書付差出

ス

諸色入用代拾貳匁

一左之もの八つ時呼出候而及吟味

去十二月東新町鍛冶屋宇兵衛博奕宿之 下紺屋町大工権次後家  
節参合差口ニ候処逃去り行衛不相知候 治助

ニ付組合共江百日尋申付置候処今度罷

帰候段届出候ニ付今日呼出及吟味入牢申付ル

右同断博奕差口ニ候処此もの追払もの 橋本町豊後屋

ニ而徘徊御免之ものニ付致徘徊候ハ、 和介  
申出候様町役并縁家共江申付置候処今  
度罷帰り候旨届出候ニ付遂吟味吟味中入牢申付ル

牢舎盗人

源六

盜賊筋吟味ニ付

右吟味ニ付立合左之面々

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付幸治 出番平左衛門林平

一 右入牢申付候段御所<sub>江</sub> 相届ル

一 市ノ宮<sub>ニ</sub> 召捕候坊主盗人<sub>口</sub> 淨此間当役所<sub>ニ</sub> 而 追払申付候もの<sub>ニ</sub>

而 立帰り召捕候ニ 付入牢申付候段入牢手形那代所<sub>分</sub> 相廻立合之

の差出候様申来候ニ 付手形認直し出番林平差出入牢取計候段届出  
ル

一 日光御門主様御役人岩井和泉守今日当所通行之処今夕勝間田泊<sub>ニ</sub>

相成候段大年寄并問屋とも届出候ニ 付其段御所<sub>江</sub> 相届ル

一 御藏米四拾六匁五分 町米四拾貳匁五分

一 御払米三百俵 落札木和屋源兵衛

代正銀四拾六匁貳分壹厘 町米准之

一 岩井和泉守今日通行ニ 付先払藤四郎和右衛門今朝<sub>分</sub> 罷出候処通行

延引ニ 付引取候段相届

十月十日 晴

一 今日和泉守通行ニ 付出番嘉七源藏先払ニ 罷出候段相届ル

一 右和泉守町分無滞通行相濟候段出番兩人より届出候ニ 付其段御所

所<sub>江</sub> 相届

一 大御目付舎人<sub>分</sub> 左之通組之もの<sub>江</sub> 可申達旨書付被相渡候ニ 付右書

付小頭<sub>江</sub> 相渡申達ス

諸組中間頭々<sub>江</sub>

諸下代諸組忝人百目ツ、中間忝人六拾匁ツ、借物為返濟御貸  
渡被成来寅歳<sub>分</sub> 二十年賦被仰付候処猶左之通被仰出候

一 御藏奉行口入借物<sub>之</sub> 借入無之類并右之御貸渡員数より借不足之

年<sub>分</sub> 二拾年賦被仰付尤右之内三歩<sub>分</sub> 春給<sub>ニ</sub> 而 引取三歩<sub>ニ</sub> 者

春給<sub>ニ</sub> 而 引取可申事

一 右之当り<sub>分</sub> 借過<sub>ニ</sub> 相成居候分も有之候得<sub>者</sub> 是又御弁濟被下当

年<sub>分</sub> 二割五年賦被仰付候取立方右同断

一 御藏奉行手先<sub>ニ</sub> 而 借入無之類并右之御貸渡員数より借不足之  
類も有之候得<sub>者</sub> 其分<sub>ハ</sub> 此所<sub>ニ</sub> 而 御貸渡被下来寅歳<sub>分</sub> 二拾年賦  
被仰付候尤取立方右同断

丑十月

十月十一日

晴風夜雨

一 大神楽岡田忠太夫今日当所出立仕候旨宿武藏屋甚藏<sub>分</sub> 申出候旨大

年寄<sub>分</sub> 相届

一 御藏米四拾六匁五分 町米四拾貳匁五分

一 御払米三百俵 落札大黒屋利兵衛

代正銀四拾六匁六分貳厘 町米准之

一 小性町瓜生原屋伊之助義借屋<sub>ニ</sub> 居申候植木屋金藏当丑四拾才当七

月八日頃不斗罷出候ニ 付行衛不不知其段届出候ニ 付百日尋申付置

候最早此節百日余<sub>ニ</sub> 相成候ニ 付町内人別除願書差出伺之上聞届

達ス

一 河原町野村屋忠藏妻その博突宿<sub>ニ</sub> 付組合<sub>并</sub> 隣家過料錢左之通相納

候旨大年寄<sub>分</sub> 差出ス

一九六錢貳貫五百文

組合五人

銀札ニメ貳拾貳匁貳分三厘 百八文通用

一同五百文

隣家老人

同四匁四分四厘

右同

メ貳拾六匁六分七厘

十月十二日

(マ・天候記載無)

一 当組和右衛門妻夜前出産女子出生仕候ニ付血忌例之通七日引込候段小頭より相届尤出番々助ニいたし候ニ付使組助ニ及申間敷旨申出候

一 戸川町備中屋源助義借屋ニ居申候清藏与申もの当六月不斗罷出候ニ付所々相尋候得共相知不申其段相届候処百日尋申付置候最早百

日余ニも相成候ニ付町内人別差除候様願書差出何之上聞届申達ス

一 河原町矢田屋茂兵衛義脇坂中務大輔殿御預り所勝南郡西吉田村平

藏悴茂吉義当丑貳拾八歳此度役介ニ引受相応之渡世為仕度住宅之

儀願出尤向方旦那寺村役人よりも別紙差越候旨願書差出何之上聞

届申達ス同十六日住宅証文差出

(朱總)

一 船頭町熊野屋文五郎義悖鶴吉儀商売用ニ而大坂大河町綿屋儀兵衛

方へ差遣申度五十日計之逗留願書差出承り届十二月廿三日帰届ル

一 右同町米屋藤右衛門義弟佐吉商売用ニ付大坂大川町浜屋清兵衛方

へ五十日計之逗留ニ而差遣申度願書差出承届十二月廿三日帰届

一 福渡町松山屋清助組合共右清助当四月病死仕候処右後家ちよ儀

河原町聳久七方へ家財等も相送り引越候ニ付右清助家屋敷同人弟

町内松岡屋岩右衛門江為引請申度願書差出承届

十月十三日 晴

一 御用日ニ付登城

一 上紺屋町今尾屋栄藏義大坂高麗橋筋四軒町吉田一光与申もの軍書

講釈師ニ付逗留為仕来ル十五日夕夕本覚寺ニおゐて講釈為致若大

雨之節者相休候旨願書差出候ニ付寺社取次江も引合之上相伺候

処何之通被仰出候ニ付承届候旨大年寄申達ス

一 組之もの拝領屋敷江家守差置候ハ、婦人計之もの差置申間敷之旨

相達置候様今日大目付舍人今被申達候ニ付其段小頭申達ス

一 御家中当年御年限明ニ候得共都而御年限之通儉約第一相守候様ニ

被仰出候ニ付町方江も右之趣を以質素節儉相守家業職分出精可致

万一相背花美莫太之風俗見当り候ハ、相糺早々申出候様組之もの

江も申付置候段町触差出

一 近來賭碁ニ紛敷義有之趣相聴候ニ付是亦見当り候ハ、踏込召捕候

様組之ものへ申付置候旨同様町触差出ス

一 本郷北村小左衛門被盜物左之通例之通触流差出候様大目付被申達

則町触差出ス同廿三日無之段申出

一 男着木綿布子袖なし羽折 一ちくさまへたれ但し二日注進哥ニ立合

代式匁位

代式匁位

一 男着木綿古布子但しちくさま地茶立局

一 木綿三布風呂敷但しあさ地

代拾貳匁位

代五分位

一 銀札貳分札三分札拾枚計但貳匁五分程

メ五品

一 公郷村公郷寺兼帶所同村法福寺本尊来二月開帳ニ付右修覆建札宮

川橋<sup>江</sup> 差出度願書御聞濟<sup>ニ</sup> 付右通用寺社取次三浦十郎左衛門<sup>江</sup> 申  
來其段大年寄<sup>江</sup> 申付ル

一 御藏米四拾六匁五分 町米四拾貳匁五分

一 御払米三百俵 落札わらや与七郎

代正銀四拾六匁五分三厘

十月十四日 快晴

一 御藏米四拾六匁五分 町米四拾貳匁五分

一 御払米 (マ・マ・俵数記載なし) 落札大黒屋喜兵衛

代正銀四拾六匁分九厘

一 船頭町粉村屋伊助儀御領分林田村源藏娘くま当四月相願候<sup>而</sup> 妻<sup>ニ</sup>  
引請罷有候所家風<sup>ニ</sup> 不入離縁<sup>ニ</sup> 而 親元<sup>江</sup> 差返し候<sup>ニ</sup> 付町内人別差

除候様願書差出承届

十月十五日 晴

十月十五日 晴

一 元魚町豊屋喜兵衛義所持之家屋敷表口貳間半裏行拾七間御役三歩

役右之家屋敷代銀札五百目<sup>ニ</sup> 相極町内桶屋勘助へ売渡申度願書差

出候<sup>ニ</sup> 付承届同十六日売券状差出ス

一 錢通用左之通

百拾文

一 広戸村富興行有之候旨目明共今申出候<sup>ニ</sup> 付則今日郷中目明も差出

候由<sup>ニ</sup> 而 孫兵衛罷越候様小頭へ申付ル

十月十六日 曇

一 上紺屋町金川屋太兵衛儀備前国上道郡沖新田三番善兵衛娘のゑ当

丑貳拾八歳此度妻<sup>ニ</sup> 引受申度尤向方旦那寺<sup>并</sup> 村役人分別替差越候

旨願書差出伺之上聞届達同廿四日住宅証文出

一 御藏米四拾六匁五分 町米四拾貳匁五分

一 御払米三百俵 落札銅屋善五郎

代正銀四拾六匁三分三厘 町米准之

一 今八時より左之もの兩人呼出再応及吟味口書取極例之通読聞せ当

人初町役<sup>并</sup> 組合共印形取之

下紺屋町権治後家

仲福藏事 大工 治助

橋本町後藤屋仙藏事

豊後屋和介

右立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和四郎林平

大年寄孫左衛門 諸吟味喜左衛門不快<sup>ニ</sup> 付不參

十月十七日 晴

一 豆腐直段是迄貳拾貳文売之処大豆下直<sup>ニ</sup> 相成候<sup>ニ</sup> 付拾九文売<sup>ニ</sup> 仕

度旨願差出伺之上聞届申達ス

一 豆腐壹丁 拾九文<sup>ニ</sup> 売立

但し代壹匁七分式厘

五拾貳匁相場

内 壹匁四厘 大豆貳升

三分 薪代

ノ 壹匁三分四厘 元入引

残<sup>而</sup> 三分八厘 手間代

惣豆腐屋共  
八百屋 平吉

一坪井町日野屋五助義兄京都祇園南町日野屋久五郎先達<sup>而</sup>逗留願差  
出最早限日<sup>ニ</sup>相成候処右久五郎義大病<sup>ニ</sup>而歩行不相叶仍<sup>而</sup>今八十  
日計逗留日延願書差出ス承届寅二月二日又八十日追願

十月十八日 快晴

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一組和右衛門血忌明<sup>ニ</sup>付今日夕出勤之旨相届候

一今日左之もの八時より呼出候<sup>ニ</sup>付立会之面々左之通

夫喜多治麦盗人之聞へ有之候<sup>ニ</sup>付 安岡町岡屋忠七借屋住

可召取候処逃去候仍<sup>而</sup>組合<sup>江</sup>尋申

<sup>喜多治</sup>妻

付置候得共相知不申旨届出候<sup>ニ</sup>付一応及吟味

立会之面々

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

一伏見町江田立斎義所持之家屋敷表口三間半裏行拾五間御役半役也

右之家屋敷代銀札式百五拾目<sup>ニ</sup>相極町内大工屋利助へ売渡し申度

願書差出候<sup>ニ</sup>付承届同三十日売券状差出ス

一成安村政右衛門被盜もの左之通触流差出候様大目付被申達郡代<sup>江</sup>

及通用

一脇指志腰<sup>代四拾匁位</sup> 搦別記有之 一男帯一筋<sup>匁五匁位</sup> 白と紺との立局<sup>七八匁位書付類</sup>

一男袷羽折沓<sup>マツ</sup>つ<sup>代拾匁位</sup> 草水色立局<sup>一古紙入沓つ同式匁位</sup> (小倉立局内<sup>銀札</sup>)

メ四品 銀札六拾五匁位

一寺元村助九郎被盜もの大工道具品々<sup>者</sup> 目明共<sup>江</sup>申達置心当り之

ものも有之候ハ、早々届出候様小頭分申付ル

一御蔵米四拾六匁五分 町米四拾式匁五分

一御払米三百俵 落札木和屋源兵衛

代正銀四拾六匁式分三厘 町米准之

十月十九日 晴

一深信院様例月兩寺御參詣四時之処已後<sup>者</sup> 八時御供揃<sup>ニ</sup>相成候旨

毎々達無之候段種村登門申聽候<sup>ニ</sup>付大年寄并小頭<sup>江</sup>申達置ク

一渡部相馬分乱心之婦人借牢之義上田治兵衛相願候<sup>而</sup>御聞届相濟候

間宜取計候様大御目付太田舍人分申來渡部相馬分も申來

一林田町福吉屋安右衛門義備前加茂円城寺納所沼本儀兵衛義当所用

事有之昨日罷越候<sup>ニ</sup>付廿日計逗留為仕度願書差出承届十一月五日

届届

十月廿日 晴

一表組上田治兵衛役介之乱心之婦人借牢願相濟候<sup>ニ</sup>付今日右治兵衛

分牢屋<sup>江</sup>差出可申届出候<sup>ニ</sup>付出番勇藏林平罷出入牢取計候段相届

ル尤狂女賄は御作事中間善八<sup>与</sup>申もの分持運ひ候旨申出ル

一去ル七月安岡町喜多次可召捕捕手之もの差出置候処聖徳寺辺<sup>ニ</sup>風

呂敷包志荷荷ひ候もの罷在候処右荷物捨置逃去候<sup>ニ</sup>付相改候処風

呂敷<sup>ニ</sup>麦沓俵計包さる棒并手鎖等有之候<sup>ニ</sup>付先聖徳寺<sup>江</sup>預置候処

今日出番勇藏差遣請取帰り役所<sup>江</sup>差出

十月廿一日 快晴

一撰州大坂島之内大宝町万屋善次郎<sup>与</sup>申もの老人例年之通皮足袋す

いのふ金とふし売<sup>ニ</sup>昨日参り候<sup>ニ</sup>付逗留為仕度西新町山家屋利右

衛門宿切手差出ス十二月八日帰ル届

一越中富山二丁目松井屋庄右衛門<sup>与</sup>申もの老人例年之通売葉商<sup>ニ</sup>昨

日参り候ニ付逗留為仕度西新町山家屋利右衛門宿切手差出ス十二  
月八日帰り届

十月廿二日 晴夜雨

一河原町野村屋忠藏妻その義追込昨日迄廿日ニ相成候ニ付今朝追込  
差免候旨大年寄江申達候処呼出候ニ申渡候旨届出候ニ付御用番要  
人殿大御目付舍人江相届ル

一安岡町喜多次妻りき今八時呼出候ニ再応及吟味口書取極町役組合  
共各印形取之郷中引合も有之候ニ付郡代十郎左衛門江相廻置ク

右立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番嘉七林平  
大年寄孫右衛門 諸吟味喜左衛門

一牢舎扶持当月仕切ニ付左之通証文小頭より差出例之通奥印取計之

一米四石六斗五升 此俵拾四俵三升

一銀札三百四拾八匁

一小性町田辺屋岩吉儀森和泉守殿御領分播州赤穂郡西宇根村勘六娘  
しけ当丑四拾三才同人忩忠藏式拾三歳弟重吉拾四才同弟榮藏七才

ノ四人之もの共此度役介ニ引受申度住宅之儀願出尤向方旦那寺并  
村役人ノ別昏差越候旨願書差出伺之上聞届達十一月廿五日住宅証  
文出ス

一戸川町平野屋幸右衛門義弟茂四郎当丑拾三才此度当国之内土岐山  
城守殿御領分英田郡川崎村伝次郎方江養子ニ差遣申度当所支配相  
離町内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一堺町丸亀屋勘治義御代官布施孫三郎殿御支配所当国吉野郡粟井中

村治兵衛娘しけ当丑廿才此度忩亀之助妻ニ引請申度住宅之儀願出  
尤向方旦那寺并村役人ノも別紙差越候旨願書差出伺之上聞届申達  
ス十一月十六日住宅証文出ス

十月廿三日 晴夜雨

一御用日ニ付登城

一例月之講釈宇治橋之間ニ而大村成夫相勤之例之通出席

一河原町熱田市正義近來老衰ニ而職分離相勤候ニ付隠居忩大内藏  
江神職相続為仕度願書差出寺社取次引合之上聞届申達ス

一大年寄共并惣町ノ歳暮献上物并年頭献上被下等未御省略中ニ付相  
止候間其段相達候様大御目付舍人被申達候ニ付其段大年寄江申達

又

一筑前遠賀郡柏原浦小平次手代恵吉与申もの老人例年之通茶碗売ニ

昨日参候ニ付逗留為仕度京町小文字屋太兵衛宿切手差出ス寅三月

朔日帰り届

一御藏米四拾六匁五分 町米四拾貳匁五分

一御払米三百俵 落札甲屋幸助

代正銀四拾六匁五分三厘 町米准之

一二宮村利兵衛入牢申付候間立会差出候様手形共郡代ノ相廻候ニ付  
手形認直出牢平左衛門罷出候ニ而入牢取計候段届出ル

十月廿四日 夜雨

一橋本町豊後屋御裁許相伺候処取計致前後候様ニ而旧悪咎之様ニ者  
無之哉之旨御家老中御申之由先例も有之候哉存寄付紙ニ而差出候

様要人殿ノ申來候

一 去ル七月五日之夕麦被盜取候もの下田邑村川西吉右衛門与申もの  
之由安岡町喜多次盜取候哉ニ引合候ニ付郡代分申来尤右者聖徳寺  
前ニ差置逃去候もの荷棒右田邑吉右衛門印有之候ニ付麦引渡候而  
も可然哉ニ付郡代申談候而被盜人江相渡候様相伺可申事

十月廿五日 快晴

一日光御門主御役人岩井和泉守一鳥要人夜前久世泊ニ而今日当所通  
行之旨人馬等先日之通先触到来之旨写差出候ニ付先日伺相濟候通  
取計候段御用番要人殿大御目付舍人江申遣ス

一 福渡町増見屋藤吉儀伯州会见郡東福原村好右衛門悴久五郎当丑三  
拾才ニ罷成候此度養子ニ引請申度住宅之義願出尤向方且那寺并村  
役人分も別紙差越候旨願書差出候ニ付伺之上聞届申達十一月六日  
住宅証文出ス

一日光役人岩井和泉守一鳥要人町分無滞通行相濟候段大年寄分相届  
ル

一 右通行ニ付為先払出番勇藏和右衛門罷出候所町分無滞罷通候旨兩  
人共届出候

十月廿六日 昼後雨

一 福渡町阿賀屋助五郎家守忠助借屋ニ居申候多十郎義当七月八日不  
斗罷出罷帰り不申心懸り之所相尋候得共相知不申八月八日相届百  
日尋申付置候処最早百日余ニも相成候へ共行衛相知不申候ニ付町  
内人別差除候様願書差出伺之上聞届申達ス

一 玉置字左衛門義京都今出川千本植付彈正妹すミ当丑式拾四歳此度  
妻ニ引請申度尤同人宗旨浄土宗同所親類寺旦那ニ付放手形持參為

致西寺町成道寺旦那ニ可仕願書差出候ニ付伺之上聞届

一 備前岡山中之町五明屋八郎兵衛手代多助与申もの老例年之通元  
結御売ニ昨日參候ニ付右宿仕逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門  
宿切手差出ス十一月十八日帰届

一 備前岡山浜田屋挑灯屋吉太郎与申もの例年之通挑灯張替ニ昨日參  
り候ニ付逗留為仕度右同人宿切手差出ス十二月十四日帰り届  
(本郷)一 雲州杵築多久太夫与申御師上下三人例年之通且那廻りニ昨日參  
候ニ付宿仕逗留為仕度右同人宿切手差出ス十二月十四日帰届

十月廿七日 昼後晴

一 林田千光寺振圍今日西寺町長安寺ニ而興行ニ付兼而千光寺分案内  
有之候処今朝雨天ニ而延引之由尤明日快晴ニ候ハ、興行有之候旨  
小頭分相届ル

一 札元山本恒助義要用ニ付大坂大河町和泉屋六郎兵衛方へ往来廿日  
計逗留ニ而罷越申度願書差出候ニ付伺之上聞届申達

一 西新町高松屋亀之助義所持之自国請酒株此度元魚町友屋利兵衛へ  
相讓申度願書差出承届ル

十月廿八日 晴

一 御用日ニ付登城  
一 吹屋町作人平藏義脇坂中務大輔殿御預り所当国之内久米南条郡豊  
楽寺村紋次郎当丑六拾才同人妻りよ五十一才同人悴万吉拾六歳此  
度役介ニ引受申度人別人願出尤向方且那寺并村役人よりも別紙差  
越候旨願書差出候ニ付伺之上聞届申達ス十一月廿五日住宅証文出  
ス

一御藏米四拾六匁五分 町米四拾貳匁五分  
一御払米三百俵 落札わらや与七郎

代正銀四拾七匁四厘 町米准之

一坪井町福惠屋伊兵衛義脇坂中務太輔殿領分播州佐用郡猿田村佐助  
養女いと当丑廿九才此度借屋ニ居申候川口屋直次妻ニ引受申度願  
出尤向方旦那寺并村役人分別紙差越候旨願書差出伺之上聞届申達  
又同十一月廿三日住宅証文差出

一伏見町能勢屋源助義所持之家屋敷表口五間裏行拾貳間五尺但御堀  
石垣切御役七歩五厘役右之家屋敷并土蔵一ヶ所付船頭町米屋藤右  
衛門取次ニ而質物ニ書入銀札三貫目借請申度願書指出承届ル十一  
月五日家質証文出ス文化六巳年二月受返し断書出ス

一昨下紺屋町長江庵義用事ニ付大坂梶木町八丁目玉子屋九兵衛方へ罷  
越申度尤往来百廿日計之逗留ニ而罷帰申度願書差出承届寅三月六  
日帰届

一今日千光寺振申長安寺ニ而興行之処無滞相濟候旨廻り嘉七平左衛  
門分届出候

一吹屋町釜屋孫四郎義享和三亥七月相願候而撰州大坂上本町津山屋  
清助方へ六ヶ年身上稼ニ罷越候処此度罷帰候段届書を以届出承置

一林田町升屋藤右衛門義召仕之下女去ル五月より懐妊之所在方親元  
江罷越居候而此度罷帰候而申之候者当五月分右之段之由左候ハ、  
届等延引仕候旨届書を以届出候ニ付出産之上例之通取計候様大年  
寄へ申付置

一林田町右同人義去ル天明五辰年母伝分相願質物ニ書入松田屋平七

取次ニ而銀札百貳拾目借受候家屋敷此度元利相濟請返候旨届書を  
以届出承置

一組之もの左之面々御年限之処借物持出返済引足不申甚難渋之段申  
出候ニ付相糺候処無抛趣ニ相聞候ニ付下役彦左衛門江申談大年寄  
孫右衛門口入ニ而銀札六百目借受左之面々連印小頭奥書役筋ニ而  
も裏印之証文差遣連印左之通

銀札六百目

内百目者

嘉七壱人分

十月廿九日 晴

一大目付廻状到來左之通組之もの共江触書差出ス町触者不差出

御伯父ニ付御一代御兩敬  
御従弟ニ付様付

（當時は伊勢久居藩主の高七）  
藤堂左近将監様  
土佐守殿御願のちの土佐藩山内も親  
松平邦之丞殿

一左之もの共牢番預ケ申付候間立会差出候様郡代より申来勇藏罷出  
入牢取計候段届出ル

布原村太兵衛 林蔵  
寺元村 七右衛門  
古川村 伝助  
桑原村 槌吉  
四人

三船藤四郎  
川端幸治  
萩野嘉七  
石名源蔵  
神田和右衛門  
江原平左衛門

十月三十日 晴

一 去年玉置源五兵衛方出羽守様御止宿之節床置物馬香炉致紛失候右  
香炉<sup>ニ</sup>似寄候品戸川町浜崎屋安兵衛方<sup>ニ</sup>當時伏見屋茂七方下人八  
兵衛<sup>与</sup>申もの差置候<sup>而</sup>其後福渡町惣五郎<sup>与</sup>申もの取<sup>ニ</sup>参り右浜崎  
屋女房相渡候段安兵衛弟利兵衛相断候段源五兵衛承出候段小頭  
迄内々相咄候<sup>ニ</sup>付一応可及吟味候<sup>ニ</sup>付右八兵衛は伏見屋茂七<sup>江</sup>預  
ケ申付福渡町惣五郎八組合預申付尤今昼廻り幸治勇藏差遣取計之

十一月<sup>戊</sup>子大

御家老 安藤丹後殿

御年寄 黒田要人殿

大目付 黒田頼母

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

十一月<sup>庚</sup>戌旦 晴

一 御吉事日<sup>ニ</sup>付麻上下着用五半時登城

一 今日御吉事日<sup>ニ</sup>付御譜代之面々計七間廊下<sup>ニ</sup>おゐて御祝儀申上有  
之畢<sup>而</sup>山吹之間宇治橋之間並居御祝御赤飯頂戴之相濟一同芥子之  
間御家老<sup>江</sup>向候<sup>而</sup>御礼申上ル  
一 御用所<sup>ニ</sup>而 御用番御年寄要人殿被仰達候三奉行一同罷出候左之通

来歳御初入御規定<sup>ニ</sup>候得共未公辺御届無之候右之段被仰出候  
<sup>ニ</sup>付被仰達候

一 上紺屋町今屋屋栄藏義相願去ル十五日夕より西寺町本覚寺<sup>ニ</sup>而吉  
田一光軍書講釈晴天十五日相済居候所今五日之日延追願差出候<sup>ニ</sup>  
付寺社取次引合之上相伺候<sup>而</sup>聞届申達ス

一 銭廿二箇当川積下候様右手形例之通裡書取計候様札座奉行松島郡  
平今申達則取計差遣ス

一 勝山戸村新左衛門神原九郎左衛門膝付介右衛門より例之通米相場  
付取<sup>ニ</sup>差越候<sup>ニ</sup>付書状返書并相場書差廻ス左之通

美作国津山米相場覚

一 上米但三俵石<sup>ニ</sup>付 文字銀四拾五匁式分三毛

一 中米但右同断 同銀 四拾式匁式分三毛

一 下米但右同断 同銀 三拾九匁式分三毛

右<sup>者</sup>当丑十月十六日十八日廿三日廿八日右四日御藏御払米壹石式  
升之平均相場付差「」申候以上

年号月日

米中買頭兩人

大年寄宛

大年寄共奥書

右<sup>者</sup>御私領之分御代官所御預り所<sup>江</sup>者 当役奥書印形取計之相廻  
ス

一 久世山田常右衛門殿手代堀川定兵衛和田一九郎平塚左右助より例  
年之通相場付取<sup>ニ</sup>差越則先例之通相認相廻ス

一 組浜塩谷大四郎殿手代勝田近藏広石卷右衛門渡部園兵衛右同断

一 龍野長尾三郎兵衛平野七郎兵衛三沢清右衛門分右同断申来則先例之通相廻ス

十一月二日 快晴

一 坪井大竹宗十郎分例年之通相場附取ニ差越則為相認相廻ス

一 今九半時分左之もの呼出候而戸川町浜崎屋安兵衛方ニ預置候馬之香炉之義ニ付可及吟味左之通

牢番預ケ申付候

伏見屋茂七

下原村由右衛門役介ニ而

下人 八兵衛

同村入帳もの之よし

右茂七召連罷出候

立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番和四郎和右衛門

一 大坂重田又兵衛殿手代星野慎平飯沼才次郎分右同断米相場書取ニ

差越差遣ス

一 弓削谷口市右衛門深川橋四郎分右同断之旨申来則差遣ス

一 生野御代官布施孫三郎殿手代中沢良助桑名善藏分米相場附取ニ差

越候ニ付例之通相認差遣ス

一 福渡町惣五郎義茂七下人八兵衛使ニ而戸川町浜崎屋安兵衛方へ差

遣候趣ニ付今晚呼出及吟味立会之面々前条之通

一 福渡町浜崎屋安兵衛并同人弟利兵衛義両人共禁足申付候様大年寄

江申達ス

一 伏見屋茂七下人八兵衛儀下原村芳右衛門役介ニ而同村人別もの之

よしニ而式町目年寄より下原村庄屋へ人別有無之義早々懸合候様

様大年寄江申付ル

十一月三日 快晴

一 御用日ニ付登城

一 例月之講釈宇治橋之間ニ而大村成夫相勤之例之通出席

一 西川永岡順左衛門大谷代藏へ米相場附相廻候処今日返書来

一 橋本町豊後屋和助下紺屋町大工治助博奕参会ニ付五十敲掃町之旨

取計候様御用所ニ而御年寄要人殿被仰渡大目付頼母侍座

一 今八時分左之もの共呼出伏見屋茂七下人八兵衛懸り合之ものニ付及吟味

福渡町浜崎屋安兵衛

同 同人弟利兵衛

立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭和右衛門 部屋目付幸治

大年寄 諸吟味

一 郡代十郎左衛門不快ニ付今日不参ニ付御用所ニ而申上候御用向無

之段申上ル

一 福渡町浜崎屋安兵衛義禁足申付置候所組合預ケ申付ル

一 伏見屋茂七下人八兵衛儀下原村芳右衛門役介ニ而同村入帳もの之

由当人申立候ニ付下原村庄屋へ二丁目年寄為相懸合候処人別もの

ニハ無之旨返書差越候旨則返書差出候ニ付昨日御用所并大御目付

江も及御さした置候ニ付其段申遣ス

十一月四日 晴

一 御藏米四拾七匁 町米四拾三匁

一 御払米 (マ・米数記載なし)

落札神田屋卯兵衛

代正銀四拾七匁三分三厘 町米准之

十一月五日 晴

一 明六日敲取計候間右之手段致置候様小頭<sub>江</sub>申付尤明日牢屋敷<sub>ニ</sub>而吟味もの致候間是亦取計九つ時罷出候様申付ル

一 河原町田中屋喜七儀昨四日昼後夕晩方迄之内錢箱<sub>ニ</sub>有之候切手彦

俵日付十月二日印<sub>ニ</sub>大橋十太夫殿内長谷川理左衛門<sub>与</sub>名前之切手

并銀札七八匁計被盜取候旨届書を以届出候<sub>ニ</sub>付中買共<sub>江</sub>者申付置

其段御用番中<sub>江</sub>相届

一 左之もの共牢番預ケ申付候間立会差出候様郡代より申来林平罷出候<sub>而</sub>入牢取計候旨相届ル

竹田村幸七 神戸村三之丞 吉原村文吉 八十八 仁助

古川村宇吉 岩吉 幸右衛門 長藏 喜代次

寺元村定右衛門 弥吉 幸太郎

ノ十三人

十一月六日 晴

一 左之もの共敲之上掃町取計相済候<sub>ニ</sub>付其段御用番中并大御目付<sub>江</sub>相届<sub>茂</sub>

度々博奕参会致候<sub>ニ</sub>付

五十敲之上掃町

出役之面々左之通

御徒目付高橋三郎太 下目付組彦人安井友次

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番平左衛門

一 大年寄源五兵衛宅<sub>ニ</sub>而左之通申渡小頭利右衛門部屋目付藤四郎立会出役

夫喜多治義盜賊之風聞有之候処

逃去り候<sub>ニ</sub>付御領分立去り尤所

持之道具遣之

右申渡取計相済候段御用番中并大御目付へ相届

一 去ル七月五日之夕聖徳寺辺<sub>ニ</sub>捨有之候裸麦彦俵程并さる棒彦本右

者下田邑川西吉右衛門被盜物<sub>ニ</sub>付引渡可申伺相済候<sub>ニ</sub>付今日送り

書を以郡代<sub>江</sub>相渡ス

一 牢屋<sub>ニ</sub>而左之通之もの共及吟味候処逸々及白状

出羽守様御止宿之節御本陣玉置源五兵衛 伏見屋茂七下人

衛方御座敷向<sub>ニ</sub>有之候銅馬之香炉盜取候旨

元飯塚弥代長屋住

田町辺町方数ヶ所盜相働候段

右立会左之面々

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番嘉七平左衛門 目明彦人

一 去ル廿九日牢番預ケ<sub>ニ</sub>相成候三人并昨日牢番預ケ之十三人呼出有

之候間立会差出候様郡代今申来候<sub>ニ</sub>付出役之出番立合差出ス

一 左之もの共今日牢番預ケ申付候間立会差出候様郡代今申来出役立

合入牢取計

寺元村作次 弥左衛門 清吉 伊兵衛 平左衛門

并宗枝村長四郎 ノ六人

一今日呼出之もの十六人は又差戻候間立合差出候様郡代より申来嘉  
七立合取計  
(未總)

一紀州高野山万性院使僧義清与申僧上下式人例年之通旦那廻りニ罷  
越候ニ付逗留為仕度式町目龍田屋茂兵衛宿切手差出ス十二月廿六  
日帰届

一橋本町河内屋宇兵衛義去ル四日之夕八半時頃裏門戸こちはつし盜  
人入込左之品々被盜取候旨届書を以届出町触差出ス同廿二日無之  
段届出候

一明七日之夕より町会所ニ而教信講釈相勤候旨大年寄并喜左衛門ノ  
相届承置ク  
品数ノ式拾貳品 内脇指壹腰帷子十一 代ノ百九拾四匁八分

十一月七日 曇  
一 下田邑吉右衛門被盜候麦送り書を以郡代江相廻候処右請取相廻り  
尤右吉右衛門直ニ麦さる棒受取ニ罷出候ニ付則相渡ス  
一 塗椀問屋仕度旨右問屋定書ともニ左の四人之もの願書差出伺置

新魚町檜野屋茂一郎  
鍛冶町山形屋与次兵衛  
東新町肥後屋長右衛門  
吹屋町口原村七郎右衛門

十一月八日 晴  
借屋住藤屋 久米治

一御用日ニ付登城  
一御用所ニ而左之通御用番要人殿御申渡大目付頼母侍座

博奕宿ニ付百敲之上帰村 寺元村 佐治兵衛

博奕参会之もの共  
五十敲帰村  
寺元村七右衛門 定右衛門 伊兵衛  
同人悴幸太郎 つゞ作次兵衛悴左衛門  
藤吉悴弥吉 平左衛門 清吉 古川村伝助  
長藏 喜代次 勘兵衛悴宇吉 新右衛門悴  
岩吉 吉原村文吉 八十八 藤助悴仁助

古川村与右衛門悴幸右衛門 宗枝村長四郎  
神戸村宇八悴平四郎 下人三之丞 竹田村  
幸七 布原村太兵衛悴林藏  
ノ廿貳人

一今日被仰出候敲之もの明九日取計候旨郡代申談之上御所へ相届  
一明日敲取計候間手合之義小頭江申付置ク  
一伏見屋茂七下人八兵衛玉置源五兵衛方ニ而盜取候唐銅香炉伯州米  
子宿屋大津屋伊左衛門方ニ止宿之節右伊左衛門相頼同町小間物屋  
へ売渡候段及白状候ニ付目明孫兵衛江申付明日立ニ而米子伊左衛  
門方へ罷越相糺候而罷帰り候様小頭ノ申付ル

一弓削役所谷口市右衛門深川橋四郎ノ先日相廻候相場付為挨拶鮮鯛  
壹枚相送り候ニ付則及返書  
十一月九日 晴

一昨日御裁許被仰出候郷中博奕宿并参会之もの共廿貳人今朝敲取計  
候ニ付出役之面々左之通  
御徒目付高橋三郎太 下目付組老  
小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和右衛門

十一月八日 晴  
御徒目付高橋三郎太 下目付組老  
小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和右衛門

十一月八日 晴  
御徒目付高橋三郎太 下目付組老  
小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和右衛門

右敵之上帰村取計相濟候旨出役より届候ニ付其段御用番并大御目付<sup>江</sup>相届ル

一今日半浚致候候処別条無之候段昼廻り幸治勇藏取計候<sup>而</sup>届出候

一牢舎桑原村植吉呼出候間立合差出候様郡代分申来候<sup>而</sup>和右衛門罷出候処出入取計候段届出ル

一堺町出火之節出人今般小龍水出来ニ付他町<sup>江</sup>差出候人足を相止忝町切水之手之手配り相改書付差出

一齋藤孫右衛門義播州細月島津友三郎<sup>与</sup>申もの昨日罷越候ニ付五日計逗留為仕度同役加判願書差出承届

十一月十日 晴

一河原町山形屋長七借屋もの魚屋和助義当丑五十三才同人妻きち三十七才同娘みつ九才右家内此度本琳寺内へ引越申度町内人別除之願書差出候ニ付寺社取次引合之上危聞届申達ス

十一月十一日 晴

一町会所教信講釈昨夜切<sup>而</sup>相濟候段喜左衛門分届出尤今日教信<sup>江</sup>も及挨拶候段相届ル

一市郷酒造人増穀数之義相糺候<sup>而</sup>郡代連名<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>江戸表御留主居<sup>江</sup>懸合置候処今般御届無滞相濟候段郡代当役連名<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>御留主居分申来追<sup>而</sup>書類御用所へ差出可申旨郡代より申来

十一月十二日 昼後雨

一牢舎源六義今日昼後呼出及吟味立会之面々左之通

一 下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付幸治 出番嘉七源藏  
一 深信院様今四つ時御供揃<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>泰安寺<sup>江</sup>御参詣被成候ニ付御先払幸

治源藏罷出無滞相濟候段届出ル

一河原町敷屋忠兵衛儀備前岡山瀧本町升屋善八悴善七当丑三拾九才同人妻りよ四拾才同人娘きん九才右三人共役介ニ引請相応之渡世為仕度住宅之儀願出尤向方旦那寺并町年寄よりも別紙差越候旨願書差出伺之上聞届達ス同十九日住宅証文差出ス

一新魚町紙屋元吉義借屋もの国岡屋甚助妻きん同人悴文吉右式人去

ル七月相願百五十日計之逗留<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>四国遍路ニ罷出候処道中足よわ<sup>ニ</sup>て隙入候旨申越候ニ付今七十日計日延追願差出承届ル寅正月猶

又七十日日延願

一伊勢山田川北助太夫名代辻田善治<sup>与</sup>申御師忝人例年之通且那廻り

ニ昨日参候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手差出寅四月十六日帰届

一町会所入用銀札三拾三匁式分八厘喜左衛門分請取証文差出候ニ付証文差添勘定奉行へ差出置候処則相廻候ニ付喜左衛門へ相渡ス

十一月十三日 雨

一御家督後初<sup>而</sup>御鷹之雁御拝領被成候ニ付来ル十五日五半時惣登城之旨御奏者番廻状到来大年寄并小頭<sup>江</sup>も相達ス

一御用日ニ付登城

一盗賊締め方之儀伺書差出置候処今日伺之通取計可申旨要人殿御申達ニ付猶取調取計相濟候上御両所<sup>江</sup>相届候事

一雲州能義郡広瀬上町中屋宇堂弟玄浄<sup>与</sup>申もの播州佐用郡林崎村ニ<sup>而</sup>病氣付送り出川部村へ送り来候旨郡代分通用有之仍<sup>而</sup>例之通取

計候様大年寄<sup>江</sup>申付ル

十一月十四日 晴風夜雨

一 当中川筋舟車近來川中へ堰致候ニ付通船之故障ニ相成候旨他領船  
肝煎今久世御代官所へ相願候ニ付郡代所へ久世手代より御廻米之  
差障ニ相成候旨申出候間早々取払之義申來仍 郡代より相伺候 而  
右堰取払不申候 而 相成申間敷旨御用番分も御申之由ニ付今日大  
年寄へ兩三日之内取払せ可申尤取払候ハ、申出候様申付置

一 茅町広原屋善吉義借屋ものいくと申女当丑六十四才此度西寺町栄  
巖寺長屋へ引越申度町内人別除之願書差出寺社取次引合之上  
一 円宗寺村助次半番預ケ申付候間立会差出候様郡代より申來林平罷  
出候 而 取計候旨届出ル

十一月十五日 晴

一 惣登城五半時麻上下着用  
一 例之通七間廊下ニ而 御奏者番以下三奉行迄初 而 御鷹之雁御拝領被  
成并重陽御内書始 而 御頂戴被成候恐悦御小姓頭代大目付 江 謁申上  
ル 蕙心院様 江 同様申上ル  
一 右恐悦御用所并檢之間へも罷出候 而 恐悦申上大目付役所へも右及  
挨拶

一 市郷酒造人共銘々増穀數之義願出候ニ付先達 而 江戸御留守 江 申遣  
置候処十月九日御届相濟候段申來り候ニ付兼 而 伺置候通町方運上  
銀五拾枚在方運上銀三枚半差出候様取計可申段御用所へ申上候 而  
今日大年寄 江 申達ス  
一 御日柄も被為立候付鳴物勝手次第ニ致候様大目付分演達有之候段  
勘定奉行分通用有之其段組中 江 も申達ス

十一月十六日 晴

一 錢式拾式箇川下取計候間例之通手形裏印取計候様銀札場奉行栗原  
衛守分申來候ニ付則調印差遣ス  
一 大坂重田又兵衛殿手代星野慎平榎本宗八飯沼才次郎分米相場付相  
廻候再答右之合封差戻候ニ付当番請取書遣飛脚差戻ス

十一月十七日 晴

一 中之町鮎屋吉兵衛儀御代官重田又兵衛殿御預り所御当国之内勝北  
郡新野安井村長七娘そめ当丑廿七才同人悴市藏当丑式歳罷成申候  
右式人共妻子ニ引請申度住宅之儀願出尤向方且那寺并村役人分も  
別昏差越候旨願書差出伺之上聞届申達ス同廿二日住宅証文出ス

一 江戸飯倉片町稲倉玄俊弟完球義当八月下旬より五十日之逗留日延  
相願去ル十月十四日ニ而 逗留日限相濟候処久世表 江 罷越候ニ付早  
速届出候所家内大病人ニ而 右届延引致候処又々昨晚久世表分罷婦  
候 而 未用事相濟不申候ニ付此上來ル寅ノ二月迄逗留為仕度元魚町  
延屋三治より願書差出候ニ付届延引之処叱置候 而 聞届相達候様申  
付ル文化三寅二月七日帰届

十一月十八日 雪

一 昨日寒入ニ付為伺御機嫌五半時惣登城  
一 今日御用日ニ付例之通出仕  
一 今日宇治橋之間講釈之処欠切ニ相成候旨大御目付被申聴類役 江 也  
及通用  
一 例之通七間廊下ニおゐて御小姓頭代大目付 江 寒中伺御機嫌謁申上  
ル 蕙心院様 江 同様申上ル

〔宋總〕

一 伊勢山田結城弥三太夫名代高田兵吉与申もの上下式人例年之通且那廻り昨日參候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手差

出寅正月三十日帰届

〔宋總〕

一 播州網干余六屋利兵衛与申もの老人例年之通塩物并荒物卸売ニ昨日參り候ニ付逗留為仕度中之町津田屋伝助宿切手指出又寅二月十三日帰届

〔宋總〕

一 播州網干余陸屋惣七与申もの老人例年之通八百屋もの御売ニ昨日參候ニ付逗留為仕度中之町津田屋伝助宿切手差出又寅二月十三日帰届

〔宋總〕

一 水戸中納言様去ル六日御逝去ニ付今日今来ル廿四日迄鳴物停止之旨被仰出尤普請者今日今明後廿日迄停止之段大目付廻状到来ニ付

組中并町触等差出ス

十一月十九日 晴

一 京町俵屋伊兵衛義商用ニ付因州鳥取川端三町目うとヤ喜左衛門方往來三十日計之逗留ニ而罷越申度願書差出大年寄月番承届候旨

当人願書指出ス

十一月廿日 晴夜雨

一 目明孫兵衛米子江伏見屋下人八兵衛盜物売払候由ニ付宿屋大津屋伊左衛門方へ差遣相糺候様申付去ル九日出立之処今日罷帰向方懸

合候処右盜物八兵衛白状之通ニ而有之候処何分内済之義呉々相頼候ニ付致内済右唐銅之香炉取戻し罷帰候段届出右香炉も役所へ差

出ス

十一月廿一日 晴

一 西川役人永岡順左衛門大谷代藏より寒中為見廻例年之通酒壺樽盤節三連送來り尤書状差越候ニ付右返書差遣ス

〔宋總〕

一 摂州有馬辻堂茂兵衛与申もの老人例年之通墨筆白粉卸売ニ昨年参り候ニ付逗留為仕度中之町甲屋幸助宿切手差出又寅二月十日帰届

〔宋總〕

一 備前岡山之上町黒金屋嘉兵衛与申もの老人例年之通紙類荒物紺屋形金通し張替商売ニ昨日參候ニ付逗留為仕度宿切手差出又寅二月十日帰届

〔宋總〕

一 惣馬持今飼立為手当式拾五人江老人ニ付大豆式俵半ツ、拝借之願差出尤納所之義者来ル寅二月今七月迄引取候様惣馬持廿五人より願書差出伺之上聞届申達ス

〔宋總〕

一 京町猪野屋善助儀娘なか儀当丑十七才然ル処兼而不所存者ニ而先達而今度々家出したし猶又当月上旬罷出候而行衛相知不申是迄親類組合異見を加へ候得共相用不申候ニ付今般義絶勘当仕度旨願書

差出伺之上聞届申達ス同三十日勘当証文差出ス

一 勢州朝熊岳明王院使僧休可坊悅中坊宝藏坊儀中坊上下八人例年之通且那廻りニ昨日參候ニ付逗留為仕度新魚町三沢屋与八郎宿切手

差出ス

一 京愛宕山長床坊使僧休益坊上下三人例年之通且那廻りニ昨日參候ニ付逗留為仕度右同人宿切手差出□

一 下紺屋町稲田屋藤十郎後家儀所持之家屋敷表口三間裏行拾老間御役式歩役右家屋敷之内裏之方ニ而東西三間南北北間御役式厘役ニ

相極代銀札式拾匁ニ相究鳥屋利兵衛江売渡し申度願書差出候ニ付

則承届ル同廿八日売券状差出ス

十一月廿五日 晴

一 右同人義所持之家屋敷表口三間裏行拾間御役壹歩八厘也右家屋敷此度代銀札式百目ニ相極町内作屋義助へ売渡申度願書差出候ニ付承届ル同廿八日売券差出ス

一 兼而伺相濟候左之もの共左之通申付候処申渡相濟候段届出御所所相届ル

十一月廿三日 快晴

一 御用日ニ付登城

旅籠屋頭差免

後藤屋 佐市

一 惣酒造人共今増穀之義去月十九日御届相濟候旨御留守居今申越候返書今日御用番中江相伺候而郡代連名ニ而返書差遣ス

右者 大年寄宅ニ而大年寄申渡ス

一去々亥年已来之役所闕所銀ノ銀札三百三拾壹匁七分五厘八毛帳面式冊納証文壹通勘定奉行相納候処右請取証文帳面壹冊印形相濟勘定奉行栗田辰右衛門ハ相廻ス受取置

一 小頭宅ニ而小頭申渡ス左之通

目明 孫兵衛

十一月廿四日 晴夜雨

十一月廿四日 晴夜雨

右同断銀札七匁差遣ス

同 弥吉

一 材木町中村益庵義先達而相願備前南方村医師根岸清運弟広治儀逗留為仕置候処昨日罷帰候段届書を以届出ル

一 御家中関貫并町方関貫定法之義大年寄宅ニ而町々年寄呼出し委細書付を以可申達旨大年寄へ申付ル

一 材木町近江屋藤吉母義悻藤吉去子六月相願四国遍路ニ罷越候処帰宅不致追々日延相願候処同年十月十四日讚州引田積善坊方ニ而死去仕趣趣今便幸便ニ申遣候旨届書を以届出承置ク

一 関貫番所掟書今般改制ニ付惣関貫江為打候ニ付町大工老人持夫壹人差出小頭差添候而御家中関貫番所へ為打候義小頭取計之

一 兼而伺相濟候盜賊締方関貫番へ定之儀明日取計候ニ付大年寄并小頭江も右之手配り等申付置ク

一 今般盜賊締り方并関貫定法書等已後弥堅相守候様大目付廻状到来ニ付町方は町々年寄呼出候而大年寄ハ口達為致候ニ付触書不差出小頭へ触達之義申達ス

一 但州生野正福寺弟子諸国順拜ニ罷出候所大庭郡下湯原村ニ而歩行不相叶院庄江送り来候旨郡代より通用有之候ニ付例之通大年寄江申付置候処夜中新田村ハ送り来安岡町ハ林田村江送り届候段大年寄ハ相届ル

一 左之もの共入牢申付候間立会差出候様郡代ハ申来源蔵入牢取計候段申出ル尤手形も郡代ハ相廻候ニ付認直し候而相渡ス

同村十兵衛 龜藏

太田村 丈八

同村十兵衛 龜藏

同村十兵衛 龜藏

十一月廿六日 晴嵐

一 生蠟五拾貫五百目但し筵包大小四箇右<sup>著</sup> 御用ニ付川下取計候ニ付裏書取計候様安田広治山本与平次令手形相廻候ニ付則裏書調印取計相廻ス

一 明日九半時呼出もの致候ニ付例之通出役有之候様大年寄并小頭<sup>江</sup>申達置ク<sup>茂</sup>

十一月廿七日 晴

一 京都錦小路烏丸西へ入所近江屋勘吉手代嘉助<sup>与</sup>申もの老人例歳之通呉服太物売<sup>ニ</sup>昨日参り候ニ付逗留為致度新職人町松野屋十右衛門宿切手差出ス十二月十四日帰届

一 今日九ツ半時より左之もの呼出吟味之上口書印形取計之

伏見屋茂七下人

牢舎

八兵衛

福渡町浜崎屋

安兵衛

同町

惣五郎

右立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番和右衛門源藏

大年寄源五兵衛 諸吟味役喜左衛門

一 久山勘八義二ノ宮村大庄屋立石広助娘かよ当丑十六才此度養女ニ引請申度町内人別入願書差出伺之上十二月三日聞届達ス

一 安岡町取付屋佐助義備前和氣郡弓削村菊三郎弟八十吉儀当丑廿七

才此度養子ニ引受申度住宅之義願出尤向方旦那寺并村役人今も別昏差越候旨願書差出候ニ付伺之上聞届申達ス十二月四日住宅証文出ス

一 坪井町沢野屋伝六儀借屋ニ居申候金屋喜兵衛去ル八月不斗罷出行衛不相知候ニ付其段届出百日尋申付置候処最早百日余ニも相成候得共一向行方相知不申候ニ付人別除願書差出候ニ付伺之上聞届達ス

一 小性町作人茂兵衛義所持之家屋敷表口壹間半裏行十七間御役半役右之家屋敷代銀札百五拾目ニ相究京町作人安之丞<sup>江</sup>壳渡申度願書差出候ニ付承届ル同廿八日壳券状差出ス

一 吹屋町備前屋甚平儀所持之家屋敷表口五間裏行拾七間五尺御役口歩五厘右之家屋敷此度代銀札六百目ニ相究同町木屋喜助へ壳渡申度願書差出候ニ付承届十二月十七日壳券状出ス

一 吹屋町釜屋市郎右衛門義御領分東北条郡川崎村瀬助娘ちせ当丑十六才此度甥伊太郎妻ニ引請申度町内人別入願書差出承届ル

一 安岡町三原屋八藏義所持之家屋敷去ル子十一月相願同町松島屋清吉取次<sup>ニ</sup>而質物ニ書入置候処此度元利相済返済之旨届書を以届出承置

一 右同町同人義所持之家屋敷表口貳間裏行十七間御役式歩五厘右之家屋敷同町松島屋清吉取次<sup>ニ</sup>而質物ニ書入銀札四百目借受申度旨願書差出承届ル同廿九日質入証文差出ス

十一月廿八日 昼後雨

一御用日ニ付登城

一於御用所御用番御年寄左之通御申渡大目付出席

(他領小中原村ニ而博奕参会いたし 桑原村

不届ニ付五十敲之上帰村 植蔵

右之通被仰出候ニ付郡代申談之上来月三日敲候間立合之義大目

付頼母江申達御用所江も及御沙汰

一外町盜賊締り方之義取調候而今日御用所江伺書差出置

一林田村高福寺来春開帳願濟ニ付両大橋江建札之義寺社取次方通達

有之大年寄江「」置ク

一西寺町大円寺振鬮来ル朔日興行之旨当寺方案内有之

一魚住藏人義昨夜花屋権兵衛方へ例年之通罷越候ニ付逗留留為仕候

旨権兵衛方届出候

一戸河町打穴屋伊兵衛儀式町目小倉屋友吉持来候古道具屋株此度讓

り請商売仕度坪井町沢野屋伝六受入ニ相立候旨名面書替等之願書

差出候ニ付承届ル

十一月廿九日 晴雪少

一久世手附安藤利八郎方御廻米船頭町今津屋孫十郎方ニ而河岸出申

付出役致候間非常之手当取計呉候様申来候ニ付則相応及返書右手

当之儀大年寄江申付ル

一押入村政吉呼出候間牢屋立合之義郡代より申来候ニ付其段申達和

四郎罷出出入取計「」届出ル

一組幸治儀不快引込ニ付大目付中江加人之義申達候而使組三森八十

吉今日分助ニ罷越ス

一牢舎円宗寺村助治不快ニ付服薬之義相願候旨牢番方申出候ニ付其  
段大年寄江申達中村益庵へ療治申付候段相届候

十一月三十日 曇

一例月之通番賃銀相渡ス

一撰州大坂農人橋東詰網屋清次郎申もの老入例年之通灯笼張替ニ

昨日参り候ニ付逗留為仕度中之町津田屋伝助宿切手差出ス十二月

十五日帰届

一元魚町油屋与三兵衛義同苗与一郎相願因州鳥取本町塗師岩松と申

もの当年中留置塗師細工為仕度願置候処病氣ニ付国元江差返し申

度断書を以届出承置ク

一京町綿屋源七義去ル子六月相願所持之古道具屋株坪井町角屋孫兵

衛口入ニ而同町金屋喜兵衛江貸置候処右喜兵衛出奔致候ニ付取戻

候段届書を以届出承置ク

一配当場城喜美義次目官致候ニ付城美代与改号仕候旨届書を以届出

承置ク

一阿州板野郡成瀬村曾右衛門申もの老入例年之通藍玉壳ニ昨日参

り候ニ付逗留為仕度船頭町今岡屋熊吉宿切手差出ス寅五月九日帰

ル

一阿州名西郡高原村平左衛門申もの老入例年之通藍玉壳ニ昨日参

り候ニ付逗留為仕度右同町右同人宿切手差出ス同五月九日帰ル

一阿州板野郡高房村新兵衛申もの老入例年之通藍玉壳ニ昨日参り

候ニ付逗留為仕度右同町右同人宿切手差出ス同五月九日帰ル

十二月己丑小

御家老 山田主膳殿

御年寄 黒田要人殿

大目付 平井半平

大年寄 玉置源五兵衛

諸吟味 宮田喜左衛門

十二月庚辰旦 快晴

一昨夜久原甫雲宅江盜賊入込刀壹腰脇指壹腰被盜候段触流取計候様

大御目付江申来候趣郡代江も申通候様申来候ニ付申達又且先頃兵

右衛門殿被盜もの之節触流同様取計候様申来同十一日無之段相届

一右之段甫雲江も馬場牛之助を以為相知候旨申来江「小頭江申達

目明江申付ル

一宋總大円寺振闊無滞相濟候段昼廻り源藏和右衛門より届出ル

一宋總京町花屋権兵衛方ニ止宿致居候魚住藏人扇子箱持参寒中為見廻罷

越候段玄関江申置候旨当番申出ル同十五日帰ル届

十二月二日 晴

一宋總伊勢内宮藤波神主名代河合金右衛門与申御師忝人例年之通且那廻

りニ昨日参り候ニ付逗留仕ら七度新職人町松野屋重右衛門宿切手

差出又同廿一日帰ル

一宋總伊勢山田御炊太夫名代西藤兵衛与申御師上下式人例年之通且那廻

りニ罷越候ニ付逗留為仕度右同人宿切手差出又寅正月晦日帰届

一中之町作人与左衛門義備前和氣郡田上村惣太夫。弟直右衛門当丑三拾八才同人

妻しな三拾五才口式人此度養子ニ引請申度住宅之義願出尤向方且

那寺并村役人よりも別昏差越候願書差出伺之上江「申達同八日住

宅証文差出ス

一京町阿波屋龜吉儀備前岡山上出石町備中屋三四郎悴丈八当丑四拾

二歳同人妻きく三十式江「

引請住宅為仕度処此度勝手ニ付親元江差戻し申度当所支配相離口

内人別差除候様願書差出候ニ付伺之上聞届申達ス

一石名平太兵衛長屋住京藏与申もの兼々風聞不宜ものニ付今日出番

嘉七和四郎差向平太兵衛江吟味之義有之候ニ付被相渡候様申遣召

捕候而罷帰ル

一右之もの吟味之義有之候ニ付請人差添役筋江相渡候様御申達有之

候様御用番御年寄要人殿江申遣候処承知之旨返答申来

右京藏請人

下紺屋町 為八

福渡町 民治

右立会之面々左之通

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番嘉七和四郎

一右京藏義吟味中牢番預ケ申付候ニ付其段御用番要人殿大目付半平

へ相届ル

一中之町茶屋孫三郎所持之家屋敷表口三間裏行拾七間御役半役也右

者 寛政十一年未ノ六月相願同町大笹屋新兵衛取次ニ而 質物ニ書入

銀札四百目借受候処此度元利相払受返し候ニ付右之段届書を以届出承置ク

十二月三日 快晴

一 御用日ニ付登城

一 船頭町瓜生原屋弥吉義持舟林田川岸ニ而半下荷積受候間改受可申

一 榎野屋茂一郎罷越候而相改候処米四拾五六俵積其外荒荷小麦等積

合有之候而送り手形と致相違候而出船差留置候而弥吉相札候処不

快ニ而船頭共江任置候而甚不念之旨申口之由ニ候得共猶又大年寄

宅ニ而去ル三十日之夕弥吉為相札口書差出候ニ付今日左之通咎之

義伺書を以伺置ク

追込七日

船頭町瓜生原屋弥吉

同 三日

右同町田原屋定太郎

右舟肝煎相勤候ニ付船割等嚴重ニ取計可申処近来等

閑ニ付

御藏元

同 五日

熊野屋文五郎

姫路屋甚右衛門

右<sup>者</sup>役前船持共江定法嚴敷可申付候処閑之義ニも相

聞且亦役不相応之身勝手之事共有之趣ニ相聞候ニ付

舟方吟味役

急度叱

榎野屋茂市郎

右不埒之義も有之候ハ、早々可届出之処其儀無之候

ニ付尤已来船「風義不宜義も有之候ハ、早々申出

候様申付御藏元追込中御藏元助可申付

十二月四日 曇

一 牢舎太田村丈八義夜前分腹痛仕候ニ付服薬之義願出候ニ付即刻牢

番団助を以右之段大年寄へ申遣候処中村益庵へ申付難捨置旨申出

候ニ付療治申付候段届出ル

一 内山下内夜廻り今夕より中間兩人夜半後両度ツ、相廻候様被仰付

候旨為心得通用有之候段大目付半平より申来

一 久原甫雲罷越候而此間被盜もの之内猶又見出候処銀之かんさし并

薬ヒ忝本被盜取候間右之趣心得置候様通用有之大目付も通用有

之

十二月五日 曇

一 左之もの共出牢帰村申付候間立合差出候様郡代分申来尤手形相廻

候ニ付認直し候而番源藏罷出出牢取計候段届

出牢帰村

太田村 丈八

同村 亀藏

一 今日広戸ニ而富興行有之候ニ付郷中目明も罷出候ニ付目明頭初五

郎罷出候様申付候段小頭分申出候

一 使組八十吉助ニ罷出居申候処不快引込ニ付左惣次代り罷出候旨届

出ル

十二月六日 曇

一 昨日広戸富ニ付目明頭罷出候所別条無之段相届ル尤左之もの贖札

取扱候ニ付及吟味候処当人贖札師之旨候仍而召捕罷帰候旨初五郎

届出候段小頭分相届ル

野介代村四郎兵衛悱

忠郎治

一右<sup>ニ</sup>付郡代所<sup>江</sup>引渡可申及懸合候処請取可申段申来候<sup>ニ</sup>付番藤四郎勇藏差添当人<sup>江</sup>者手鎖懸ケ「差添郡代所<sup>江</sup>差遣引渡相濟候段出番兩人<sup>ハ</sup>相届ル

一此間何書差出置候左之面々咎之義伺之通被仰出候段要人殿<sup>ハ</sup>申来

船頭町 瓜生原屋弥吉

同町 田原屋定太郎

御藏元 姫路屋甚右衛門

同 熊野屋文五郎

船方吟味役樫野屋

茂一郎

一右之面々今日大年寄宅<sup>ニ</sup>而小頭部屋目付立合申渡書を以大年寄申渡ス尤申渡相濟「御用番并大目付へ相届ル

一野介代村四郎兵衛悱忠郎次入牢申付候間立合差出候様郡代<sup>ハ</sup>申来候<sup>ニ</sup>付立合勇藏罷出候<sup>ニ</sup>付入牢手形相認相渡候処入牢取計候段届出ル

十二月七日 小雨

一備中小坂部水谷弥之助殿<sup>ハ</sup>中島幸右衛門近藤武左衛門より書面を以相場付相廻候為挨拶例年之通釜敷紙式束相送り返書<sup>者</sup>追<sup>而</sup>差遣可申候事

一当所竹木川下シ之義<sup>者</sup>兼<sup>而</sup>御停止<sup>ニ</sup>有之候処他領<sup>ハ</sup>買取候<sup>而</sup>川下致候義は前々<sup>ハ</sup>致来候<sup>而</sup>当所之もの買<sup>口</sup>候ハ、其段運上奉行<sup>江</sup>相

願聞届之上舟壹艘<sup>ニ</sup>付運上四匁五分差出候<sup>而</sup>川下致候義<sup>ニ</sup>候処右願書差出候<sup>而</sup>も彼是手間取荷主甚難義之趣<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>近來押測村武助な

と手形送り差出候<sup>而</sup>当所<sup>江</sup>一向不願出仍<sup>而</sup>後年いか様<sup>ニ</sup>舟積等取計候義も難計当所之難渋<sup>ニ</sup>も相成候由<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>御藏元并吟味役願書差出以来両番所月々大切手<sup>ニ</sup>而<sup>而</sup>川下仕度尤運上も壹艘壹匁<sup>ニ</sup>被仰付

被下候様右願書差出候<sup>ニ</sup>付藏合孫左衛門弁書差添指出又

一安岡町福輪屋伊助義所持之家屋敷表口式間半裏行拾四間半但御役半役右之家屋敷同町糊屋伊兵衛へ質物<sup>ニ</sup>書入来寅十一月切利式割<sup>ニ</sup>定メ銀札百六拾目借受申度願書差出承り届同十二日質入証文差出ス

一戸川町年寄喜兵衛儀数年年寄役相勤候処近來病身<sup>ニ</sup>相成難義<sup>ニ</sup>付病氣差支之砌<sup>者</sup>悱喜平次名代役相勤させ申度願書差出承届

一福渡町福渡屋義助儀所持之家屋敷表口八間裏行拾七間御役式軒役右家屋敷之内西ノ方表口式間裏行十七間御役半役相添候<sup>而</sup>代銀札百匁<sup>ニ</sup>相究町内作人林藏<sup>江</sup>壳渡申度願書差出承届同九日売券状差出ス

一西今町直屋孫兵衛義年寄役相勤罷在候所近來病身<sup>ニ</sup>相成候<sup>ニ</sup>付役義難相勤退役願書差出候<sup>ニ</sup>付承届尤跡役坪屋藤十郎<sup>江</sup>申付候<sup>而</sup>可然旨大年寄<sup>ハ</sup>申出候<sup>ニ</sup>付其段取計候様申達置ク

十二月八日 晴風夜雪

一御用日<sup>ニ</sup>付登城

一外町盜賊締り方先頃何書差出置候処今日何之通被仰出候<sup>ニ</sup>付町々<sup>江</sup>書付を以申渡候様大年寄<sup>江</sup>申付ル

(宋總)

一播州網干新在家村加賀屋善七手代善兵衛与申もの忝人例年之通小間物おろし売ニ昨日參候ニ付逗留為仕度西新町山家屋利右衛門宿切手差出ス同廿九日帰届

(宋總)

一備州津宇郡妹尾村小判屋太郎兵衛与申もの忝人例年之通疊表おろし売昨日參候ニ付逗留為仕度右同町同人宿切手差出ス同廿九日差帰候届

一暮割帳面大年寄差出候ニ付一応及披見差戻辻高左之通

都合三貫三百四拾八匁五分八厘

内

五百八拾八匁八分五厘 三步銀之利引之

残而式貫七百五拾九匁七分三厘

此分式拾六貫式百五拾匁ニ割

忝貫文ニ付

百五匁壹分三厘式毛六

(宋總)

一播州網干余子浜菊屋弥七郎手代兵助安兵衛与申もの忝人例年之通小間物おろし売昨日參り候ニ付逗留為仕度中之町甲屋幸助宿切手

差出寅二月十日帰届

(宋總)

一播州網干新在家伊部屋清六与申もの忝人例年之通塩もの鱈節卸売ニ昨日參候ニ付逗留仕度右同人宿切手差出寅二月十日帰届

(宋總)

一備中妹尾表屋甚四郎弟勘吉武兵衛与申もの忝人例年之通疊表合葉売ニ昨日參候ニ付逗留為仕度右同人宿切手差出ス寅二月十日帰届

一野介代村豊次牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代より申来候ニ付

立合和四郎罷出候処入牢取計候段届ル

一林田町鍵屋茂助義吟味之義有之候間明九日九つ時町役組合差添差出候様大年寄江申付ル

一船頭町船煎田原屋定太郎追込明朝差免候様大年寄江申付ル

十二月九日 晴風

一舟頭町田原屋定太郎追込差免候ニ付申渡取計候段大年寄江届出候

ニ付御用番并大御目付へ相届ル

一今九つ時今林田町鍵屋茂助呼出し及吟味

小瀬村久五郎を相頼候而船車故障之義久世 林田町鍵屋

役所ニ相歎セ候義相聞候ニ付及吟味吟味中 茂助

入牢申付水車稼差留ル

右立会左之面々

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番源藏和右衛門

大年寄源五兵衛 諸吟味喜左衛門

一小性町塩屋長太郎義鍵屋茂助一件ニ付申合之もの之由茂助申口ニ

付是亦呼出一応及吟味候得共茂助申口与致相違候ニ付先組合預ケ

申付置ケ

一牢舎忠郎次豊治呼出候間立合差出候様郡代ハ申来源藏罷出候而出

入取計候段相届ル

一唯今左之通之先触到着之旨大年寄より写差出ス

覚

一御用琉球包壺 但人足忝人懸り

一輕尻質伝馬

忝疋

右<sup>者</sup>今般於隱岐国別府村獄門ニ掛候男首壹つ為宰領水野若狹守組同心古市丈左衛門佐久間備後守組同心佐川甚左衛門罷越候ニ付明六日大坂出立いたし候間於宿々人馬無滞可差出候泊宿<sup>ニ</sup>宿<sup>ケ</sup>所可明置候為滞無之如此候已上

水野若狹守組同心

古市丈左衛門

千本宿より出ス

一右追触到来ニ付取扱振左之通相伺候処伺之通被仰出候

水野若狹守組与力

一保頭先立 但し御用荷物

工藤伊織

一同心組兩人見え隠れ警衛夜中出張

寺西文左衛門

一町年寄旅宿<sup>江</sup>為挨拶罷出ル

金井塚与四郎

一前後両町夜廻り

田坂市太郎

一不寝番有之候ハ、式步中買壹人人足壹人

従大坂隱岐国迄

一穢多人足兩人程用意郡代<sup>江</sup>申遣ス

宿々間屋中

一出火之節町年寄善心得最寄宜所<sup>江</sup>案内

宿割

右之通伺相済

十二月六日西ノ宮昼休 同兵庫泊 同九日土居泊 勝間田昼

同夕坪井泊

一御用宿順番ニ付式町目尾高屋善七<sup>江</sup>申付候旨大年寄申出ル

一右先触之処尚亦追触致到来左之通

一右罪人首は穢多五人<sup>ニ</sup>持之候由ニ付若又急ニ穢多人足等入用も可有之哉と兩人用意致問屋共分申出候<sup>而</sup>相伺郡代<sup>江</sup>申遣

此度我等儀隱岐国御用有之罷越候ニ付去ル五日触書差出候処短

一右持夫之穢多右御用宿庭<sup>ニ</sup>も差置候積懸合可申夫共土間<sup>ニ</sup>不

日<sup>ニ</sup>泊夜<sup>ニ</sup>入候<sup>ニ</sup>付殊<sup>ニ</sup>山中<sup>ニ</sup>道割悪敷有之候故左之通割

相成義<sup>ニ</sup>候ハ、「」板間<sup>ニ</sup>ても差置可申尤賄等も右尾高屋分為致可申旨伺出候ニ付其通取計候様申付ル

替罷越候津山分松江迄宿々左之通相心得昼泊支度并人足無滞様

一左之通大目付廻状到来相組<sup>江</sup>も申達ス

可差出候已上

一貫抜内外とも夜半後無挑灯<sup>ニ</sup>荷物持致往来候ものも有之節<sup>者</sup>

但役人村々者共同様<sup>ニ</sup>候事

夜廻り「」の分名面等承札候義も可有之候間為心得及演達候

十日泊津山 十一日昼坪井 十一日泊久世

佐久間備後守組同心

大目付

佐川甚五左衛門

一左之通御奏者廻状到来

先達<sup>而</sup>相触候御礼式之内御在国年正月二日之処大役人已上之嫡

子之面々登城「」様申達候処小従人已上之嫡子之面々五つ時揃

登城可有之候

御奏者四人

右立合左之面々

牢舎

源六

七太郎

一東新町江戸庄事鍛冶屋宇兵衛郷中博奕差口之ものニ付相札候様十

郎左衛門分申来候ニ付今夜廻り差向候<sup>而</sup>手鎖等申付候所今朝分罷

出在宿不仕所々心懸り之為候尋候得共行方相知不申仍<sup>而</sup>組合共へ

嚴敷尋申付置引取候段夜廻り藤四郎平左衛門分届出候

十二月十日 晴

十二月十一日 雪ちらく

一今夕当所止宿之御用荷物左之もの共<sup>江</sup>宿申付候旨大年寄分相届

罪人首

式町目尾高屋

一当所止宿之御用荷物今朝無滞致出立候旨藤四郎勇藏より届出候尤

大年寄并問屋目付より相届ル

穢多五人

善七

一御藏元兩人昨日迄追込五日ニ相成候ニ付今朝追込差免候旨大年寄

坪井町羽織屋

江 申達候処今朝申渡取計候段相届候ニ付右兩条共御用番并大御目

宰領同心上下共

九一右衛門

一材木町正木屋甚右衛門義借屋ニ居申候友治今般勝手ニ付同人親類

一穢多人足式人申立郡代<sup>江</sup>も懸合置候所前宿聞合候所罪人首<sup>者</sup>人足

ニ為持候様申義ニ付猶又増穢多人足四人申立候ニ付猶又郡代<sup>江</sup>懸

合御用番中<sup>江</sup>も及御沙汰候

一西新町飯綱屋万藏義三ヶ年已前享和三亥十二月相願家屋敷表口三

一今日見え隠れ警衛ニ罷出候組左之通

嘉七 左惣次

間裏行十七間土藏式ヶ所共質物ニ書入東新町並屋忠兵衛取次<sup>ニ</sup>而

一御用荷物着之節并夜九つ時迄相詰

藤四郎 勇藏

銀札六百五拾目借請候処今般元利共相濟請戻し候段相届承□ク

一夜九つ時より出立之節警衛

嘉七 左惣次

一右同人義所持之家屋敷表口三間裏行拾七間土藏式ヶ所御役六歩役

一牢舎助次丈八兩人共全快ニ付今日今休葉為致候旨中村益庵相届候

旨大年寄より届出ル尤右之段牢番分も届ル

一左之もの共呼出及吟味

十二月十二日 晴

小性町塩屋

一阿州名西郡桑島村平次兵衛手代庄助<sup>与</sup>申もの老入例年之通藍玉売

一 昨日參候ニ付逗留為仕度京町今出ヤ半兵衛宿切手差出ス寅九月廿七日歸ル

一 阿州板野郡中留村兵助手代平兵衛与申もの忝人例年之通藍玉壳ニ昨日參候ニ付宿仕度右同人宿切手出ス寅九月廿七日歸ル

一 牢舎千切屋勤兵衛義咽喉痛候而食事給兼候ニ付療治申付候様牢番共願出候ニ付其段大年寄江申付候処岩佐孝順へ申付候段届出候

一 牢舎盗人与之助円淨致吟味候間立合差出候様郡代分申来差出候節者昼廻り嘉七取計之差返候節者和四郎取計候旨相届ル

一 深信院様四時御供揃ニ而泰安寺御參詣被成候ニ付御先弘和四郎林平罷出無滞相濟候段届出ル

一 伏見屋茂七下人八兵衛儀盗一件ニ付御裁許相伺置候処右八兵衛請人有之候哉御用番御尋ニ付猶又茂七為相糺候処与請人も不取置勿論請状等も無之候旨申出候ニ付「趣旁不埒ニ付追込五日

之所七日ニ被仰付候而可然旨相伺候事尤明日差出候上右不調法之趣恐入候旨を以差扣「相伺可申候事

十二月十三日 快晴

一 御用日ニ付登城

一 同心組川端幸治義病氣ニ付番代願差出候ニ付承届候段御用所并大目付江及御沙汰

一 船頭町瓜生原屋弥吉義追込昨日迄七日ニ相成候ニ付今朝追込差免候段大年寄江申達候所右申渡取計届出候ニ付其段御用番中并大御目付江も相届ル

一 御用所ニ而左之通被仰渡大目付出席

博突致參会逃去り不埒至極ニ付五十敲 押入村 政吉  
婦村之処人情不宜候ニ付敲之上勸農所

江差遣

同村和七悴帳外

右同断ニ付五十敲申付ル

幸吉

一 右之通御裁許被仰出候ニ付郡代申談候而来十六日敲取計候段御用所并大目付へ相届ル

一 上高倉村万助与申もの牢番預ケ申付候間立合差出候様郡代分申来和右衛門罷出取計候段届出

一 山西村佐助被盜物五品代ニメ四拾八匁位右者例之通触流取計候様大目付分申来候ニ付町触差出ス同廿一日無之段届出ル

一 先月林田土手腰石垣上之芝付土取候ニ付大目付分察度有之早々已来急度不取様申付候所猶又□度吹屋町土手際石垣之土同様取候段

大目付分申来候ニ付右之段と申付候様申付尤土手筋之町々江相達置候様大年寄へ申付ル

一 鍛冶町金具屋権四郎与申もの昨夜小兒を抱キ候而貫乳ニ罷出候処罷婦不申候ニ付所々相尋候得共行方不相知然ル処書置有之候而千

ヶ寺へ罷出候ニ付相尋不申候様書置候得共甚怪敷親類組合所々相尋候処小桁村之内川中ニ溺死人有之趣ニ付見改候処右権四郎ニ相

違無之旨弟豊治分届書を以届出候ニ付郡代江申談候処向方へも村方分届出候指出ニ而明十四日五つ時立合見分差出可申談候而右町

役組合親類も右之刻右之場所江差出候様大年寄へ申付ル  
一 林田町辰野屋先達而被盜物之義ニ付盗人与之助申口と致相違候ニ

付明日四つ時頃右辰のヤ郡代所へ差出候様申来候ニ付其段大年寄へ申付ル

十二月十四日 快晴夜雪

一 鍛冶町金具屋権四郎溺死届書差出候ニ付立合見分差出候旨御用番要人殿大目付半平へ紙面ニ而相届ル

一 牢番盗人円浄与之助呼出候間立合差出候様郡代より申来源藏罷出ル

一 今九半時今牢屋敷ニ而鍵屋茂助吟味立合左之面々

下役彦左衛門 小頭利右衛門 出番源藏和四郎

昼廻りと右衛門平左衛門

一 尾州和田郡島崎之内寺元村陰陽師高橋伊豆上下式人例年之通且那廻リニ昨日参候ニ付宿仕度新魚町三沢屋与八郎宿切手差出

一 阿州板野郡鶴島村藍屋喜右衛門手代利兵衛甚藏申もの式人例年之通藍玉壳ニ昨日参候ニ付逗留為仕度吹屋町沢屋惣左衛門宿切手差出ス

一 鍛冶町金具屋源四郎流死ニ付今朝郡代所申談之上立合見分差出候

所今晚罷婦部屋目附藤四郎届出候者流死ニ相違も無之右小児を抱キ候而水中ニ相果居申候而段々遂見分け町役村役一札并権四郎親類吟味書等差出候ニ付右書類御用番中江差出葬之義相伺候処無程

勝手次第葬取計候様可申付旨御用番中今申来候ニ付大年寄へ申付

尤右之段大目付江も手昏ニ而相届

十二月十五日

(一・天候記帳無シ)

一 鍵屋茂助申口彼是区々之義ニ付当人も相認候ハ、聡と相分り候様

相成候哉之旨申之候ニ付番藤四郎勇藏牢屋敷へ差向候而相認させ候様申付候処手振候而相認候事も難相成候而藤四郎申口相認候而差出ス

十二月十六日 快晴

一 今朝左之もの共敲取計

押入村 政吉

同村和七伴

幸吉

右立会之面々

御徒目付山田喜七 下目付老入

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番嘉七

右取計相済候段御用番要人殿大目付半平江相届ル

一 昨夜生野正福寺弟子林田村分送戻之義郡代分申来大年寄江申達候所及深更林田村分送り来候ニ付新田村江送り達候旨届出ル

一 今九つ半時より牢屋敷江罷出候而左之もの共遂吟味大体筋立候

林田町鍵屋茂助

小性町塩屋七太郎

右立合 下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎

出番嘉七左惣次

十二月十七日 雪

一 二階町岡屋長八儀脇坂中務太輔殿御預所当国之内英田郡倉敷村才兵衛当丑十六才同人母ふき四拾七才ニ罷成申候右式人引請申度当地住宅之義願出尤向方旦那寺并村役人分も別昏差越候旨願書差出

候ニ付明日何之上聞届申達ス同廿六日住宅証文差出ス

一上紺屋町今尾屋栄藏義備前国赤坂郡二堀村長吉娘とよ当丑式拾五才此度借屋ニ居申候神田屋清吉妻ニ引受申度住宅之義願出尤向方旦那寺并村役人分も別紙差越候旨願書差出伺之上聞届同廿四日住宅証文出ス

一福渡町杉山屋文左衛門義雲州神門郡知井宮村文兵衛娘さち当丑三拾壹歳此度借屋ニ居申候白木屋庄助妻ニ引請申度住宅之義願出尤向方旦那寺并役人分も別紙差越候旨願書差出伺之上聞届同廿壹日住宅証文差出ス

一福渡町阿賀屋助五郎家守忠助義借屋ニ居申候りき当丑八拾式才ニ罷成候然ル処此度脇坂中務太輔殿御領分久米南条郡川口村縁家虎之助へ為引越申度当所支配相離町内人別差除候様願書差出伺之上承届

一中之町久屋安右衛門儀私兄民治当丑四十四才然ル所先達ニ使組相勤十一ヶ年已前番代三好民藏長屋ニ居申候処此度引受申度町内人別入願書差出承届ル

十二月十八日 雪ちらく

一御用日ニ付登城

一筑前国糟屋野郡橋村伝右衛門申もの四国西国ニ罷出勝南郡岡村ニ而歩行不相叶送り出川部村へ送引来候ニ付村継承届候旨郡代分通用有之候ニ付大年寄へ申付置候所晩刻送引来新田村へ送り届候旨相届ル

一御用所ニ而左之通申渡候様被仰渡大目付侍座

下御屋敷御用相勤候ニ付三人扶持被下之 高畠生齋

家業致出精候ニ付式人扶持被下之 野上玄養

出精相勤候ニ付御目見札元次席 宮田喜左衛門

旅帯刀御免被成候

御用向出精相勤候ニ付式人扶持被下之 塗師勘平

綿実油方出精相勤候ニ付御合印御免 久米屋鶴藏

被成候

御作事御用出精相勤候ニ付壹貫文被下之 鍛冶頭市郎右衛門

船積日々悴助右衛門兩人ニ而引請 桎野屋茂一郎

致出精候ニ付米五俵被下之

御作事御用致出精米式俵ツ、 瓦屋根葺師棟梁

被下之 嘉兵衛

町大工棟梁

式人

右之もの共今日晩景ニも相成候ニ付来ル廿一日申渡取計可申郡

代ニ而も同様申渡有之候ニ付申談置ク

一今八つ時分左之もの共呼出左之通取計

口書取極印形取之町役組合一同印形取之 鍵屋茂助

口書取極印形取之受人兩人同断 元飯塚弥代

牢番預ケ申付遂吟味候処疑敷義も無之 石名平太兵衛

質物申分ケ相立候ニ付主人平太兵衛方 長屋住 京藏

へ差戻ス

口書取極町役組合一同印形取之

塩屋七太郎

右立会

下役彦左衛門 小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番源藏林平

町人三郎者

大年寄諸吟味立合

一右京藏義先疑敷義も無之候ニ付主人方へ差戻候段御用番中大御目付江も前以及御沙汰候而右之通取計平太兵衛江も使を以申達ス

一御用所ニ御用番要人殿左之通御申渡大目付半平侍座

御本陣詰代人ニ罷出候節香炉盜取大切 元伏見屋茂七下人

之場所をも不弁旁不届ニ付五十敲之上

八兵衛

御領分追払

一右八兵衛一件ニ付伺之通左之通被仰出候

不慥成者代人ニ差出耽与いたし候受人

式町目伏見屋

等も不取置不埒ニ付追込七日

茂七

福渡町浜崎屋

無願数日逗留為致候ニ付追込同断

安兵衛

一去ル十二日夕妙願寺被盜物左之通町触差出ス

一輪灯四つ 一花瓶式つ 一しやはりかね沓つ

右者同廿八日無之段届出ル

十二月十九日 天氣

一鍵屋茂助一件ニ付久世役所江茂助口書簡を以懸合申度右口書并書通下案認御用番中へ差出候処随分懸合候而可然旨宜取計候様ニ要

人殿分申来

一郡代十郎左衛門届等失念之義有之候而恐入候間差扣伺呉候様申来

大目付半平宅へ罷越候而相伺置候処無程差扣不及伺出候旨同人分申来即刻十郎左衛門江及通達

一江州多賀成就院使僧源隆と申僧上下式人例年之通且那廻リニ罷越候ニ付逗留為仕度新職人町松野屋十右衛門宿切手差出ス寅四月六日帰ル届

日帰ル届

一今八つ時御供揃ニ深信院様泰安寺妙法寺御參詣ニ付御先弘和右衛門佐惣次無滞相済候段相届候

十二月廿日 雪

一鍵屋茂助一件ニ付久世役所江懸合之書状口書簡等書役相認候ニ付明日出ニ差遣候ニ付飛脚之義勘者へ申達兼大目付江及噲置

候ニ付勘者江達有之

一 大坂重田又兵衛殿手代星野慎平榎本宗八飯沼才次郎分錢相場書相廻シ呉候様申来早春取調置候之間取ニ差越候様及返書

一 十八日被仰渡有之候支配之もの御扶持被下并御褒美被下等明日中渡候ニ付奉書并切昏等差遣ス

十二月廿一日 晴

一今朝左之もの敲取計相済

御本陣詰代人ニ差出候節唐金香炉盜取候

元伏見屋茂七下人

ニ付五十敲之上御領分追払

八兵衛

右立会之面々

御徒目付 下目付沓人

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番和四郎林平

大年寄宅におゐて八兵衛懸り合之もの共左之通

一 大年寄宅におゐて八兵衛懸り合之もの共左之通

御本陣詰之節下人八兵衛代人ニ差出候所 式町目伏見屋  
唐金香炉盜取右体不慥成者代人ニ差出且 茂七

又受人も不取置旁不埒ニ付追込申付但日数七日

茂七下人八兵衛馴染之由ニ無願数日逗留 福渡町浜崎屋

留為致右同人盜取候香炉右逗留中隱置候 安兵衛

而尋出候ハ、早々届出可申候処無其儀旁

不埒ニ付追込但日数右同断

右安兵衛弟

右一件ニ付禁足申付置候処今日差免ス 利兵衛

右八兵衛より使ニ差遣右香炉取寄候由ニ 福渡町

付吟味中組合預ケ申付置候処携無之候ニ 惣五郎

付組合預差免

右兩人追込申渡之節小頭部屋目付立合差出ス

一右取計相済候段御用番中并大目付江相届ル

一昨晚奉書ニ而呼出之もの并切紙ニ而呼出もの左之面々小頭部屋目

付大年寄諸吟味等立合申渡ス

下御屋敷御用相勤候ニ付三人扶持被下之 高島生齋

出精相勤候ニ付 諸吟味

御目見之節札元之次席旅帯刀御免 宮田喜左衛門

以下諸吟味部屋目付立合

家業出精いたし候ニ付式人扶持被下之 野上玄養

出精相勤候ニ付式人扶持被下之 塗師勘平

綿実油方致出精候ニ付御合印御免 久米屋鶴藏

自他船積改忰助右衛門同様日々致出精  
候ニ付米五俵被下之

御作事御用相勤致出精候ニ付

鳥目壹貫文被下之

右同断ニ付米式俵ツ、被下之 屋根葦棟梁

但右棟梁共ハ大年寄宅ニ申渡之事

右申渡取計候段御用番中大御目付へ相届ル 町大工棟梁

一伏見屋茂七追込五日与相伺候処請人之義御用番中御尋ニ付猶又相 嘉兵衛

糺処駢<sup>与</sup>いたし候受人も不取置八兵衛召抱候旨申出候ニ付旁不埒

趣を以追込七日与再考相伺候何之通被仰出候仍<sup>而</sup>右一件取計今

日相済候ニ付右不調法恐入候段類役十郎左衛門を以差扣相伺候処

無程不及伺出候旨被仰出候段十郎左衛門今申来

一鍵屋茂助一件ニ付今朝立ニ而久世役所飛脚差立萩野勘十郎久世<sup>江</sup>

罷越候処夜ニ入罷帰返書<sup>者</sup>向方今可差出候ニ付受取相渡候由差出

ス

一戸川町中屋庄兵衛儀備前より金次郎金之助浅四郎惣吉四人之もの

去十二月より逗留願置候用事相済候ニ付差返候旨届書を以届出承

置ク

一元魚町延屋三治義所持之家屋敷表口四間半裏行拾七間御役本役右

之家屋敷裏借屋<sup>立物</sup>とも残書人二文字屋清次郎取次ニ而質物ニ書

入銀札壹貫式百目借受<sup>書</sup>月壹歩半ツ、之利足ニ而来寅十一月返

濟致度旨願書差出承届同廿七日質入証文差出ス辰正月元利皆濟受返候段届書出ス

一高倉村万助呼出候間立合差出候様郡代令申来候ニ付牢屋立合和四郎罷出出入取計候段届出ル

十二月廿二日 晴昼後曇

一綿口錢取集割渡之義先例を以夫々割付候ニ付存寄も無之候ハ、今夕割渡可申之旨源五兵衛申出候ニ付其通取計候様申付ル

一茅町広原屋善助義借屋ニ居申候まさ兄仲之助申もの去ル亥年五月相願候ニ付土井大炊頭殿御領分久米南条郡種村忠助方へ養子ニ差遣候所此度離縁仕妹まさ方へ罷帰候ニ付町内人別人之義願書差出候ニ付伺之上聞届申達ス

一宮脇町松井屋伊助義倅万吉去ル亥九月相願候ニ付三浦志摩守殿領分真島郡勝山河内屋嘉兵衛方へ出職為致当十月迄ニ年限相濟候処

細工請合多候ニ付来寅十二月迄出職為致申度願書差出承置ク寅十二月届届

一西今町庭瀬屋佐助儀御領分東北条郡成安村源吉役介とも当丑十六才右之もの去ル三月願借屋者内田屋兵藏養女ニ引請居申候処今度

離縁ニ源吉方へ差戻し申度町内人別除願書差出承届

十二月廿三日 雨

一御用日ニ付登城  
一御用所ニ御用番要人殿御申渡大目付半平侍座

所々ニ博突参会いたし不埒ニ付 上高倉村四郎兵衛倅  
五十敲之上聞勸農所ニ差遣ス 万助

右之段被仰出候ニ付郡代申談候ニ来ル廿五日敲取計可申御用番并大目付へ相届ル

一播州網干唐納屋佐七郎申もの壹人例年之通小間もの反物売ニ昨日参り候ニ付逗留為仕度林田町福吉屋安右衛門宿切手差出寅二月六日届届

一播州網干平松屋宗七郎申もの小間物并晒蠟売ニ昨日参候ニ付逗留為仕度右同人宿切手差出ス

一播州網干天満屋義兵衛申もの例年之通反物卸売ニ昨日参候ニ付逗留為仕度右同人宿切手差出ス

一播州網干丸尾屋六三郎申もの壹人例年之通荒物并塩もの卸売ニ昨日参候ニ付逗留為仕度右同人宿切手出ス寅二月六日届届

一樞野屋茂市郎野々口屋七郎右衛門家作世話役いたし候ニ付酒代として拾匁ツ、差遣し申度大年寄申出候ニ付宜取計候之様申付ル

一操綿口錢割渡し之義夫々呼出相達候旨大年寄より相届ル

十二月廿四日 晴風  
一目明助左之もの共江「」段部屋目付立合相達候旨届出ル

不快中ニ今日者不相達候由 材木町いなり山 源吉  
河原町 宗藏

一明廿五日敲取計候間右取計置候様小頭江申達置

一船方之もの共他領竹木買取候ニ川下ケ相願願濟之上壹艘ニ付銀札四匁五分ツ、差出候処壹艘ニ売匁之運上ニ荒荷物同様一ヶ月切之大切手ニ而役筋裏印を以川下ケ取計申度願書并藏合孫左衛門弁

書を以願書差出候ニ付伺置候処今日伺之通承届候様御用番中より

申来ル

一右ニ付龍野役所<sup>江</sup>吉ヶ原御番所一ヶ月限大切手相廻置通船度毎小  
手形<sup>ニ</sup>而無滞仮相通段右御番所へ通達有之候之様可申遣旨下案を  
以御用番中へ相伺候処何之御存寄無之候ニ付明後廿六日飛脚差立  
龍野へ申遣候事

一明日円宗寺村助次出牢申付勸農所へ差遣候旨郡代より申来盗人与  
之助呼出候立合之儀申来候ニ付明日出番<sup>江</sup>申付置

十二月廿五日 快晴

一今朝左之もの敲取計候ニ付出役之面々左之通

所々にて博突致参会候ニ付

上高倉村四郎兵衛悴

五十敲之上勸農所<sup>江</sup>差遣ス

万助

右立会

御徒目付山田喜七 下目付彦人

小頭利右衛門 部屋目付藤四郎 出番嘉七

一右取計相濟候段届出候ニ付御用番中并大目付<sup>江</sup>相届ル

一牢舎円宗寺村助治出牢取計盗人与之助出入取計候段出番嘉七より  
相届ル

一久世御代官所御城米積切相濟候段船頭町今津屋孫十郎より相届ル

一先達<sup>而</sup>右御廻米通船ニ付船車故障ニ相成候段久世役所今申来候節

右御廻米中舟車稼差留置候ニ付御廻米相濟候ニ付舟車稼相始させ

可申哉之旨御用番中<sup>江</sup>相伺候処何之御存寄も無之宜取計候様御差

図<sup>ニ</sup>付大年寄<sup>江</sup>申付尤井堰等取繕候<sup>而</sup>相稼候義<sup>者</sup>不相成候段急度

申渡候様申達ス

一例月之番賃銀并正月分共相渡ス

十二月廿六日 快晴

一坪井大竹宗十郎歳末之為祝儀飛札を以鯉節二連<sup>廿</sup>相送り候ニ付及  
即答

一明後廿八日五半時麻上下着用致登城候様尤御目見相濟候部屋住迄  
罷出候様大目付廻状到来

一今朝出立<sup>ニ</sup>而龍野御役人<sup>江</sup>吉ヶ原御番所川下ヶ竹木志ヶ月限大切  
手<sup>ニ</sup>而以来積下候間引合候<sup>而</sup>無滞通達取計候之様申遣右飛脚村上

吉右衛門<sup>江</sup>書状相渡尤飛脚<sup>ニ</sup>罷越候もの河野伊右工門罷越候旨届  
有之

一東新町岩屋文蔵義借屋<sup>ニ</sup>居申候倉敷屋才右衛門去ル閏八月相願往  
来百日計之逗留<sup>ニ</sup>而二十四拜参詣為仕度処道中<sup>ニ</sup>而足痛致候<sup>ニ</sup>付  
今五十日計日延之儀願出承届ル

十二月廿七日 晴風

一伏見屋茂七浜崎屋安兵衛追込今日迄七日迄相成候ニ付明朝差免候  
様大年寄へ申付置ク

一伏見町江田立齋組合共去ル三月相願候<sup>而</sup>京都下立売小川通荒川  
周左衛門方へ医道修行罷越当年迄<sup>ニ</sup>而年限相濟候処今一ヶ年修行  
仕度旨申越候ニ付来年迄追願差出承届

一安岡町小倉屋七右衛門義所持之自国請酒株去ル亥十二月卯十二  
月迄坪井町万屋佐助へ貸置候所此度勝手ニ付取戻候段届書を以届  
出承置ク

一右同人義所持之自国請酒株此度坪井町万屋佐助へ相讓申度願書差

出承届

一元魚町龜屋弥七儀中之町秋田屋宗兵衛諸事自国請酒株当閏八月相願借り受商売仕度所限月来候ニ付猶又来寅正月今十二月迄借受商売仕度願書差出承届

一坪井町鶴屋和兵衛義二町目福永屋藤助所持之他国請酒株来ル寅正月今辰十二月迄丸三年之間借請商売仕度願書差出承届文化五辰十二月受戻し断書出ス

十二月廿八日 曇

一惣出仕ニ付五半時登城

一大目付役所ニ而月番半平左之通差心得候様申達ス

大守様益御機嫌能被成御座十六日被叙四品御名越後守様（定出）御

改被成度段御伺之通被仰出候仍而恐悅申上有之并赤飯吸物御

酒被下之候旨被申達候

一御鷹之雁御料理之御下夕被下之候旨右同人申達之

一組之もの共へ割錫御酒被下之候旨右同人申達ス

一於七間廊下例之通御叙位御官名御改被遊候恐悅申上畢而歳末之御祝儀も御小性頭代大目付半平へ申上ル（定出）蕙心院様（江）も同様謁「」

一御用所松之間并大目付役所（江）も三奉行一同罷出江戸表恐悅申上畢

而御用所（江）歳末之御祝儀も申述

一御用所坊主役所前（江）而三奉行一同御鷹雁御下并今日之御祝儀御赤

飯吸もの御酒御肴二種頂戴之右相濟七間廊下（江）而例之通頂戴物御

礼御小性頭代大目付（江）申上ル

一高雄屋藤助義舟方吟味役定助ニ申付度相伺置候処伺之通被仰出候

ニ付今日左之通書付を以申渡候様大年寄へ申付

其方儀舟方吟味役定助申付候本役同様

高雄屋藤助

入念可相動候

一伏見屋茂七浜崎屋安兵衛追込免之義申渡候段大年寄へ届出御所へ相届ル

一福渡町浜崎屋喜兵衛所持之家屋敷表口式間半裏行拾三間半御役三

歩五厘役右之家屋敷今度戸川町吉田屋甚右衛門取次（江）而質物ニ書

入銀札式百五拾目借受申度願書差出承届同廿九日質入証文出ス文

化六年巳七月六日受戻し届出ス

一牢屋入用役所今五拾目払立候余百七匁三分八厘証文差出例之通奥

印取計之

一貫拔番所取繕并南新座からたち摘込入用百七拾四匁九分五厘証文

差出印形取計之

十二月廿九日 寒風

一牢舎鍵屋茂助義腹痛仕候ニ付服薬之義相願候旨牢番団助今申出候

ニ付直ニ同人大年寄（江）差遣順番医師牢屋（江）差出候様申付候所原亭

運（江）申付診察為致候処難捨置容躰ニ付則治療申付候段相届ル

一郡代十郎左衛門今左之品々盗人与之助盗取候品ニ付取上ケ引渡候

旨送り書を以相廻受取置未請取書不相廻追而相廻候事

一脇指（江）腰（江）但（江）身（江） 一同（江）腰（江）但（江）力（江）拵（江） 一扇（江）本（江）

右（江）者（江）西今町古金屋（江）而盗取候分

一白木綿三反 一小倉帯地八筋 一染地小もん共拾五切レ

一銀札五匁 一芋綱（江）筋（江）

右<sup>著</sup> 林田町辰野屋<sup>ニ</sup> 盗取候分

一 公儀<sup>ニ</sup> 先達<sup>而</sup> 姫君様御誕生被成候所御弘は無之候得共<sup>ハル</sup> 晴姫君様

与<sup>奉</sup> 奉唱候旨右御名<sup>ニ</sup> 差合候名面相改候様被仰出候旨大目付廻状到來組中并町触等例之通差出ス

一 歳末<sup>ニ</sup> 付相組共不残罷出ル

一 龍野役人今尾三郎兵衛平野七郎兵衛<sup>江</sup> 川下切手之義懸合書状差遣

候所今日返書委細承知之旨併口留番人引受之場所故早々申達若差支之義も有之候ハ、猶又可申遣由申来ル

津山郷土博物館紀要第二十九号

津山松平藩町奉行日記二十三

平成二十九年三月三十一日発行

編集  
発行 津山郷土博物館 ©

岡山県津山市山下九二番地

印刷 株式会社 廣陽本社

岡山県津山市田町二二